

二級河川安原川 広域河川改修事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

白山市・野々市市

二日市イシバチ遺跡2

三日市 A 遺跡 2

2020

石川 県 教 育 委 員 会

(公財)石川県埋蔵文化財センター

ふつ かいち
二日市イシバチ遺跡2
みつ か いち
三日市 A 遺跡 2

2020

石川 県 教 育 委 員 会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は二日市イシバチ遺跡・三日市A遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県白山市横江町地内、野々市市二日市町・二日市1丁目・三日市町地内である。
- 3 調査原因は、二級河川安原川 広域河川改修事業であり、同事業を所管する石川県土木部河川課(安原・高橋川工事事務所)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センター(平成25(2013)年度より公益財団法人石川県埋蔵文化財センター)が石川県教育委員会から委託を受けて、平成24(2012)年度から令和元(2019)年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、石川県土木部河川課(安原・高橋川工事事務所)が負担した。
- 6 現地調査は平成24、26(2014)、27(2015)年度に実施した。期間・面積・担当グループ・担当者は下記のとおりである。

(平成24年度)

期 間 平成24年11月1日～同年12月14日

面 積 二日市イシバチ遺跡 620㎡

担当グループ 調査部特定事業調査グループ

担当者 北川晴夫(主幹)、山 晶裕(専門員)、中泉絵美子(嘱託調査員)

(平成26年度)

期 間 平成26年4月23日～同年11月18日

面 積 二日市イシバチ遺跡 3,620㎡

担当グループ 調査部特定事業調査グループ

担当者 水田 勝(専門員)、岩瀬由美(専門員)

(平成27年度)

期 間 平成27年4月21日～同年11月9日

面 積 二日市イシバチ遺跡 1,270㎡、三日市A遺跡 1,800㎡

担当グループ 調査部特定事業調査グループ

担当者 岩瀬由美(専門員)、関 晃史(嘱託調査員)

- 7 出土品整理は平成25、27、28(2016)年度に実施し、公益財団法人石川県埋蔵文化財センター調査部特定事業調査グループが担当した。
- 8 報告書の原稿作成・刊行は平成27、29(2017)、令和元年度に実施し、調査部特定事業調査グループが担当した。執筆は第1章 北川晴夫・岩瀬由美、第2章 北川晴夫・水田 勝、その他を岩瀬、編集は岩瀬(調査部県関係調査グループ主幹)が行った。
- 9 調査には下記の機関・個人の協力を得た(五十音順、敬略)。
石川県土木部河川課、野々市市教育委員会、田村昌弘、西村慈子
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P. (東京湾平均海面標高)による。
 - (3) 出土遺物番号は挿図と写真、観察表で対応する。
 - (4) 遺構の名称は、下記の略記号に番号(算用数字)を付して表記した。
SB：掘立柱建物、SI：竪穴建物、SA：柵列・柱列、SK：土坑、SD：溝、P：柱穴・小穴、SX：その他(不明確遺構等)

目 次

第1章 経 過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 発掘作業の経過	3
第3節 整理等作業の経過	5
第2章 遺跡の位置と環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 二日市イシバチ遺跡	10
第1節 調査の方法	10
第2節 層 序	11
第3節 遺構と遺物	11
第4章 三日市A遺跡	102
第1節 調査の方法と層序	102
第2節 遺構と遺物	102
第5章 総 括	123

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	調査区位置図	1	第43図	H26D区土坑遺構図1	58
第2図	H24年度調査区位置関係図	2	第44図	H26D区土坑遺構図2	59
第3図	遺跡の位置	6	第45図	H26D区土坑遺構図3	60
第4図	周辺の遺跡分布図	8	第46図	H26D区土坑・溝遺構図	61
第5図	グリッド配置図1	20	第47図	H26D区溝・下層遺構図	62
第6図	グリッド配置図2	21	第48図	H27立ち合い調査区遺構図	63
第7図	二日市イシバチ遺跡全体図1	22	第49図	H27E区遺構配置図1	64
第8図	二日市イシバチ遺跡全体図2	23	第50図	H27E区遺構配置図2	65
第9図	H24、H26A・B区遺構配置図1	24	第51図	H27E区遺構配置図3	66
第10図	H24、H26A・B区遺構配置図2	25	第52図	SB22遺構図	67
第11図	H24、H26A・B区遺構配置図3	26	第53図	SB23・24遺構図	68
第12図	H24、H26A・B区遺構配置図4	27	第54図	SA11、H27E区柱穴遺構図	69
第13図	H24、H26A・B区遺構配置図5	28	第55図	H27E区柱穴遺構図	70
第14図	H24・26年度基本土層図	29	第56図	H27E区柱穴・土坑遺構図	71
第15図	24SI1、24・26BSI2遺構図	30	第57図	H27E区土坑遺構図	72
第16図	24・26BSI2遺構図	31	第58図	H27E区溝遺構図1	73
第17図	SB1・2遺構図	32	第59図	H27E区溝遺構図2	74
第18図	SB2～4遺構図	33	第60図	H27E区溝遺構図3	75
第19図	SB5・8遺構図	34	第61図	H27E区溝遺構図4	76
第20図	SB6・14遺構図	35	第62図	H27E区溝遺構図5	77
第21図	SB7・13遺構図	36	第63図	H24、H26A・B区遺物実測図1	81
第22図	SB9遺構図	37	第64図	H24、H26A・B区遺物実測図2	82
第23図	SB10、柱穴遺構図	38	第65図	H24、H26A・B区遺物実測図3	83
第24図	SB11・12遺構図	39	第66図	H24、H26A・B区遺物実測図4	84
第25図	SB15、SA1・2遺構図	40	第67図	H24、H26A・B区遺物実測図5	85
第26図	SA3～6遺構図	41	第68図	H24、H26A・B区遺物実測図6	86
第27図	H24、H26A・B土坑遺構図	42	第69図	H24、H26A・B区遺物実測図7	87
第28図	H26B区土坑遺構図	43	第70図	H24、H26A～C区遺物実測図	88
第29図	H24、H26A・B区溝遺構図	44	第71図	H26C・D区遺物実測図	89
第30図	H26B区溝遺構図	45	第72図	H26D区遺物実測図1	90
第31図	24・26ASX1遺構図	46	第73図	H26D区遺物実測図2	91
第32図	26B区土器溜まり実測図	47	第74図	H26D・H27E区遺物実測図	92
第33図	H26C区遺構配置図	48	第75図	H27E区遺物実測図1	93
第34図	H26C区遺構図1	49	第76図	H27E区遺物実測図2	94
第35図	H26C区遺構図2	50	第77図	三日市A遺跡全体図	104
第36図	H26D区上層遺構配置図1	51	第78図	三日市A遺跡遺構配置図1	105
第37図	H26D区上層遺構配置図2	52	第79図	三日市A遺跡遺構配置図2	106
第38図	H26D区上層遺構配置図3	53	第80図	三日市A遺跡遺構配置図3	107
第39図	H26D区下層遺構配置図	54	第81図	三日市A遺跡遺構配置図4	108
第40図	SB17・18・21遺構図	55	第82図	三日市A遺跡遺構図1	109
第41図	SB19・20遺構図	56	第83図	三日市A遺跡遺構図2	110
第42図	SA7・8、H26D区柱穴・土坑遺構図	57	第84図	三日市A遺跡遺構図3	111

第85図	三日市A遺跡遺構図4	112	第92図	三日市A遺跡遺物実測図1	120
第86図	三日市A遺跡遺構図5	113	第93図	三日市A遺跡遺物実測図2	121
第87図	三日市A遺跡遺構図6	114	第94図	二日市イシバチ遺跡全体図 (弥生～古墳時代)	124
第88図	三日市A遺跡遺構図7	115	第95図	二日市イシバチ遺跡全体図(中世)	126
第89図	三日市A遺跡遺構図8	116	第96図	三日市A遺跡全体図	128
第90図	三日市A遺跡遺構図9	117			
第91図	三日市A遺跡遺構図10	118			

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧表	9	第10表	遺物観察表5	99
第2表	遺構法量表1	78	第11表	遺物観察表6	100
第3表	遺構法量表2	78	第12表	遺物観察表7	101
第4表	遺構法量表3	79	第13表	三日市A遺跡遺構法量表	119
第5表	遺構法量表4	80	第14表	三日市A遺跡 遺物観察表1	122
第6表	遺物観察表1	95	第15表	三日市A遺跡 遺物観察表2	122
第7表	遺物観察表2	96	第16表	二日市イシバチ遺跡・ 三日市A遺跡 骨同定表	122
第8表	遺物観察表3	97			
第9表	遺物観察表4	98			

図版目次

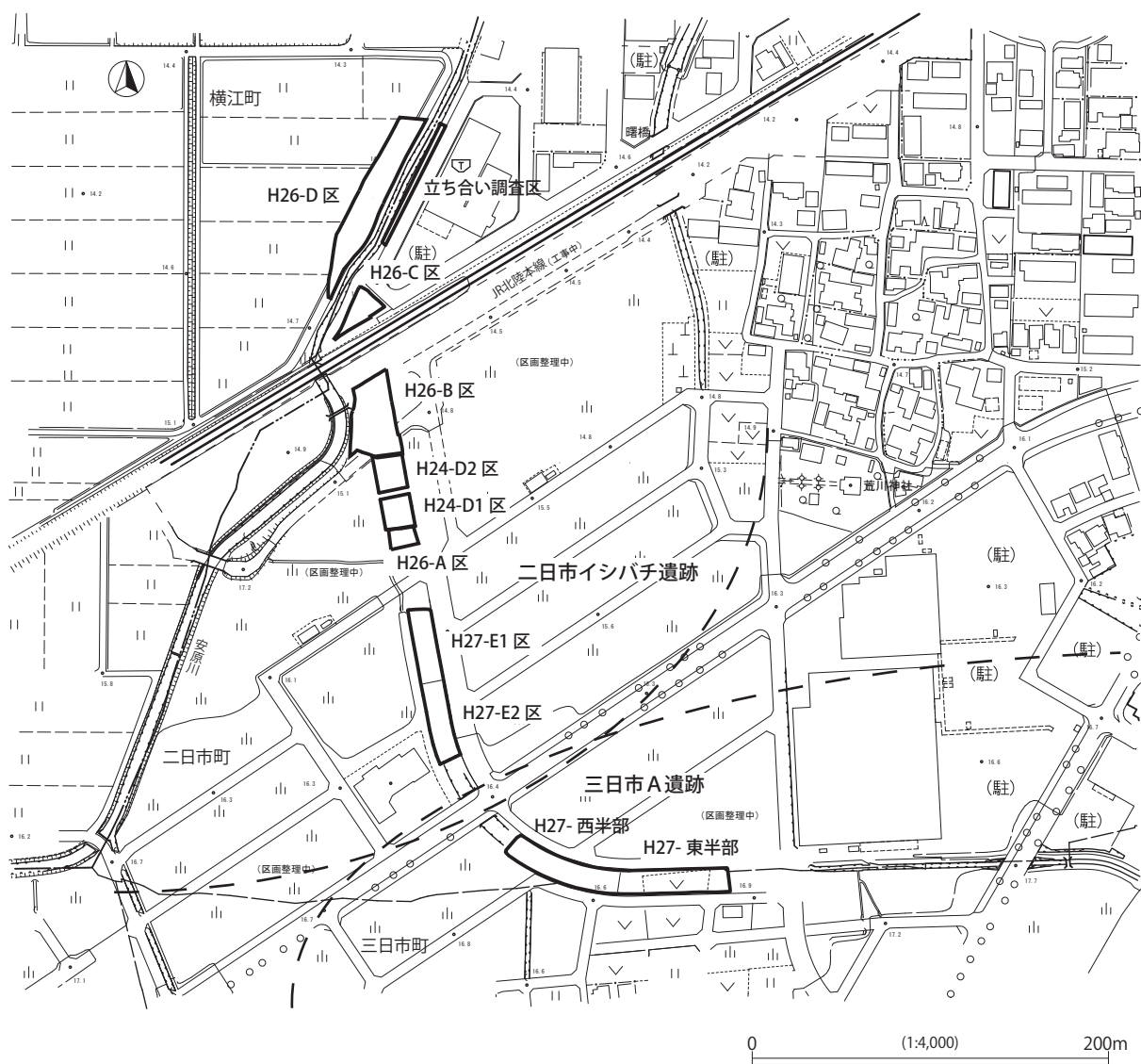
図版1	二日市イシバチ遺跡 遺構1	図版14	二日市イシバチ遺跡 H27年度遺構1
図版2	二日市イシバチ遺跡 遺構2	図版15	二日市イシバチ遺跡 H27年度遺構2
図版3	二日市イシバチ遺跡 H24年度遺構1	図版16	二日市イシバチ遺跡 H27年度遺構3
図版4	二日市イシバチ遺跡 H24年度遺構2	図版17	二日市イシバチ遺跡 H27年度遺構4
図版5	二日市イシバチ遺跡 H26年度A・B区遺構	図版18	二日市イシバチ遺跡 遺物1
図版6	二日市イシバチ遺跡 H26年度A区遺構	図版19	二日市イシバチ遺跡 遺物2
図版7	二日市イシバチ遺跡 H26年度B区遺構1	図版20	二日市イシバチ遺跡 遺物3
図版8	二日市イシバチ遺跡 H26年度B区遺構2	図版21	二日市イシバチ遺跡 遺物4
図版9	二日市イシバチ遺跡 H26年度B区遺構3	図版22	二日市イシバチ遺跡 遺物5
図版10	二日市イシバチ遺跡 H26年度C区遺構	図版23	三日市A遺跡 遺構1
図版11	二日市イシバチ遺跡 H26年度D区遺構1	図版24	三日市A遺跡 遺構2
図版12	二日市イシバチ遺跡 H26年度D区遺構2	図版25	三日市A遺跡 遺構3
図版13	二日市イシバチ遺跡 H26年度D区遺構3	図版26	三日市A遺跡 遺物

第1章 経 過

第1節 調査の経緯

平成24、26、27(2012、2014、2015)年度の二日市イシバチ遺跡・三日市A遺跡の発掘調査は二級河川安原川広域河川改修事業を調査原因とする。本事業はJR北陸本線より下流側は現行河川の拡幅工事、上流側は野々市市北西部土地区画整理事業地内(以下、区画整理事業地内)で馬場川の放水路となる新規河道掘削工事を行うもので、平成18(2006)年1月30日、石川県の「平成18年度埋蔵文化財発掘調査等に関する協議会」で開発部局への照会により知られたものである。

区画整理事業地内では、以前から遺跡の存在が確認されていた。野々市町教育委員会(平成23(2011)年11月11日より野々市市教育委員会。以下、それ以前は町教委、以後は市教委)は平成11(1999)年9月27日～同年10月19日に事業地内64.4haの分布調査を実施し、これにより二日市イシバチ遺跡など5



第1図 調査区位置図(S=1/4,000)

遺跡の範囲が確定した。町教委は道路工事建設範囲と十分な保護層が確保できない範囲について、平成13(2001)年度から発掘調査を開始している。

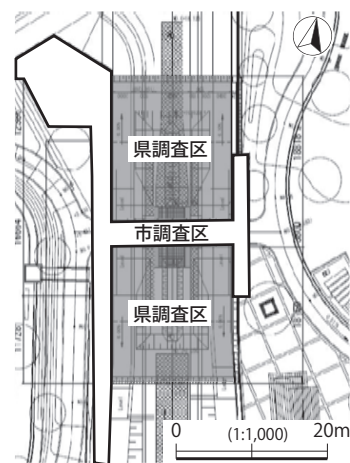
区画整理事業地内での二級河川安原川広域河川改修事業に係る発掘調査に関し、石川県教育委員会文化財課(以下、県文化財課)は、区画整理事業に関する発掘調査をすでに町教委が実施しており、合理性や埋蔵文化財の活用などから、町教委が発掘調査を実施することが望ましいと考えていた。一方、町教委と土地区画整理組合は河川事業が県事業であることから、発掘調査は県が実施すると考えていた。平成18年1月31日に遺跡の取り扱いについて話し合いがもたれ、町教委は区画整理などに伴う発掘調査が多く、県事業にかかる発掘調査は困難であるとの旨を示し、協議の結果、石川県教育委員会(以下、県教委)が実施することとなった。

二級河川安原川広域河川改修事業に係る発掘調査は、平成19(2007)・20(2008)年度は、石川県土木部河川課から依頼を受けた県教委が財団法人石川県埋蔵文化財センター(平成25(2013)年度からは公益財団法人石川県埋蔵文化財センター 以下、県埋文センター)に委託し、平成22(2010)年度は、町教委が実施した。これは、区画整理事業地内の安原川・C-1号路線・函渠工事の完了時期が平成22年度中に計画されていたが、県埋文センターは当該年度の全体計画が決定しており、上記工事における発掘調査を実施することができなかったからである。

平成24年度は、石川県安原・高橋川事務所(以下、県安高事務所)から平成24年3月28日に、文化財保護法第94条第1項に基づく発掘通知が県教委に提出され、同年3月29日、県教委は県安高事務所に発掘調査を必要とする旨を通知した。県教委から委託を受けた県埋文センターは同年10月3日付けで県教委宛に発掘調査届けを提出し、同年10月4日付けで通知を受け、発掘調査を実施した。4月当初の依頼面積は、野々市市施工の橋工事部分を含む820㎡であったが、調査着手時期が11月に計画されたことにより市内部の精算手続きに遅延が生じる不都合が予想されたため、市教委側で実施したいとの申し出があったことから、平成24年6月11日付けで橋部分を差し引いた620㎡に変更となった。

平成26年度は、平成26年2月18日付けで県安高事務所から文化財保護法第94条第1項に基づく発掘通知が提出され、同日付で県教委から県安高事務所へ発掘調査が必要である旨、通知された。県教委から委託を受けた県埋文センターは同年4月16日付けで県教委宛に発掘調査届けを提出し、同年4月22日付けで県教委から通知を受けて、発掘調査を実施した。調査依頼面積は当初3,100㎡であったが、調査区の一部で上下二面の遺構面を確認したことから同年10月31日付けで3,620㎡に変更となった。

平成27年度は平成27年3月6日付けで県安高事務所から文化財保護法第94条第1項に基づく発掘通知が提出され、同年3月16日付けで県教委から県安高事務所へ発掘調査が必要である旨、通知された。県教委から委託を受けた県埋文センターは同年4月22日付けで県教委宛に発掘調査届けを提出し、同日付けで県教委から通知を受けて、発掘調査を実施した。調査面積は当初二日市イシバチ遺跡1,420㎡、三日市A遺跡1,500㎡であったが、同年7月17日付けでそれぞれ1,270㎡、1,800㎡に変更となった。



第2図 H24年度調査区位置関係図 (S=1/1,000)

第2節 発掘作業の経過

平成24年の二日市イシバチ遺跡発掘調査は、平成24年11月～12月にかけて実施した。10月9日に県安高事務所、県文化財課、市教委、県埋文センターの四者で現地協議を実施し、調査区の範囲、事務所の設置位置、排土置き場、駐車場の場所、水道の設置などについて協議を行った。その際、隣接して調査を行っていた市教委が県調査区側に約1m程度迫り出して調査していることが判明し、その減少分50㎡相当を上流側と下流側に調査区を延長することで、調査面積に変更が生じないように、対応することとなった。11月1日から重機による表土除去作業を開始し、8日から遺構の検出・掘削を実施した。12月8日にラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を実施し、12、13日に埋め戻し作業を行った。14日には現地にて県安高事務所、県文化財課、県埋文センターで調査状況などを確認して現地を引き渡し、現地調査の全作業を終了した。

平成26年度の二日市イシバチ遺跡発掘調査は、平成26年4月～11月にかけて行った。調査に先立つ4月23日に県安高事務所、県文化財課、野々市市都市計画課、区画整理事業地の工事施工業者、県埋文センターが調査方法等について現地協議を行った。平成26年度の調査予定地はJR北陸本線の南北4カ所(第1図A～D区)に分かれており、調査はJR北陸本線の南側から着手すること、調査区A・Bへの進入には工事中の区画整理事業地の仮設道を使用するため、大型車の通行にあたっては施工業者と調整が必要であることなどが確認された。また、JR北陸本線北側のC区については公園跡地であったために柵で囲まれており、線路側と河川側は安全のために柵を残して調査することを申し合わせた。

調査はB区から着手した。5月8日から表土除去を行ったが、平成24年度の調査時とは異なり、盛土が厚く、土量が多かったため予定していた排土置き場に全て置くのは困難と判明し、南側半分のみ留めた。途中、110㎡強の範囲で遺構面が攪乱を受けて破壊されていることが明らかとなり、県文化財課が12日に現地を確認した上で土木部に問い合わせたが、調査前に遺跡範囲が掘削された経緯は判明しなかった。15日から作業員を投入して包含層掘り下げ・遺構検出作業を開始したところ、部分的に中世面と弥生・古墳時代面の上下二面の遺構面を確認したが、範囲が狭かったため上層遺構の周りをドーナツ状に残して下層面まで掘り下げた。遺構の切り合い関係を確認しつつ掘削を進め、6月17日にラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を実施した。19、20日にB区北側とA区の表土掘削を実施した。週明けとなる23日朝、現場確認に赴いたところ、ベルトコンベアーに使用するキャプタイヤーケーブル、及びコードリールが盗難被害に遭っていることが判明し、警察に届け出を行った。次の調査に向けて1カ所にまとめて置いてあったことから、持ち去りやすかったとみられ、以後は使用しない期間はキャプタイヤーケーブル、コードリールとも必ず器材小屋に片付けることで防犯対策とした。代替りの機材が届いた同日午後から本格的な遺構検出作業を開始し、7月9日にラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を実施した。調査期間中には6月25日にキャリア体験として金沢市立内川中学校2年生2名が発掘作業を体験し、7月3日にはインターンシップ事業として石川県立向陽高等学校の2年生が現場見学に訪れた。7月16～22日に埋め戻しを行い、A・B区を先行して相手方に引き渡した。

JR北陸本線の北側、C・D区の着手にあたっては、プレハブ設置、駐車場用地の整備から改めて行い、7月22日からD区南側半分について表土除去作業を開始した。D区については、試掘調査の結果から、弥生・古墳時代の遺構面1面と想定されていたが、表土除去の状況からは上層に中世面が広がっていることが確認されたことから、上層面の調査後に下層面の調査を行うことで、県文化財課と協議した。

7月31日から作業員による遺構検出作業を行い、中世の区画溝や竪穴状遺構などを検出した。作業が休みの8月17日朝5～7時に大雨が降り、現場の確認に行くと安原川が溢れて調査区に水が流入し、駐車場まで冠水してしまっていた。ポンプで排水して大きな被害なく済んだが、現場より下流側では平成23年8月25日にも溢水して下流の浸水被害を引き起こした一般県道宮永横川町線の県道橋が冠水被害を受けており、安原川の河川改修が早期に行われるべきであることを実感した。その後作業は順調に進み、9月3日にラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を行った後、17日から人力で包含層を掘り下げて下層面の調査を行ったが、遺構密度は非常に低く、平面図は手実測にて行った。

D区南側の調査と併行してC区の調査にも着手した。C区はJR営業線近接区域を含むため、事前にJR金沢保線区、県安高事務所、県文化財課が対応について協議しており、重機による掘削範囲が狭小で短時間であること、敷地境に公園の防護策があるため作業員が線路に飛び出す恐れが低いことなどを理由に、通常の営業線近接の調査のように列車見張り員等の配置は不要であり、重機掘削時にJR社員による立ち会いにて対応することとなった。従って、営業線近接に当たる箇所を重機掘削した8月19日のみJR職員が立ち会い、電車の通過に合わせて重機の稼働が制約を受けた。9月3日から遺構検出作業を行い、18日にポール撮影による空中写真測量を実施した。その後、竪穴建物の貼り床の掘り下げ作業等を行った後、26日から埋め戻し作業を行い、29日に相手方に現地を引き渡した。

9月29日から残るD区北側の表土除去に着手し、10月1日から上層の遺構検出作業を開始した。D区南側で検出した東西方向の区画溝と対になると想定される区画溝が北端近くで確認されたが、区画溝よりも北側で遺構が検出され、調査区より更に北に遺跡が延びる可能性があったため、県文化財課に連絡し、17日に県文化財課が試掘調査を実施した。その結果、遺構の延びは確認されず、当初の予定通りの調査範囲でよいとの結論が下された。30日にラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を実施した。D区南側の下層遺構が非常に散発的であったことから、北側については下層遺構が延びているかどうか見極めるために測量の翌日に確認トレンチを掘削した。結果、包含層から少量の土器は出土したものの、遺構が確認されなかったため、全面を掘削しての調査は不要であるとの県文化財課の判断を受け、掘削を終了して埋め戻しを行った。11月10日に現地を引き渡し、プレハブ、鉄板の撤収等を行い、18日に現地作業を全て終了した。

平成27年度の発掘調査は二日市イシバチ遺跡、三日市A遺跡の2遺跡を対象として平成27年4月～11月にかけて実施した。調査に先立つ4月21日に県安高事務所、県文化財課、県埋文センターが調査方法等について現地協議を行った。調査は二日市イシバチ遺跡から行い、二日市イシバチ遺跡の重機掘削排土は三日市A遺跡の調査区に、三日市A遺跡の重機掘削排土は二日市イシバチ遺跡の調査区に仮置きすること、住宅街のため安全面を考慮して調査区周辺にフェンスを設置することなどを確認した。特に二日市イシバチ遺跡の調査区西隣には保育園や児童館があり、施設側と相談の上で粉塵の飛散防止、遊具等が調査区に入るのを防ぐため等の理由で2mのフェンスを設置することとなった。人力掘削土の置き場確保のため2遺跡とも南北、または東西に分割して調査することとし、5月18日から二日市イシバチ遺跡E区北半(E1区)の表土掘削作業を開始し、5月22日から遺構検出作業を開始した。6月22日にラジオコントロールヘリコプターにより第1回目の空中写真測量を実施した後、埋め戻すとともに南半のE2区の表土掘削作業に着手した。6月30日から遺構検出作業にかかり、畝溝や区画溝等を確認した。7月13日に空中写真測量を実施し、16日から埋め戻しを行った。この間、6月10日には金沢大学の留学生6名が引率教官とともに現場見学に訪れた。

7月21日からは三日市A遺跡東半部の表土掘削作業に着手した。調査区周辺は区画整理工事によっ

て旧地表から50cm以上嵩上げされているのだが、掘削初日に区画整理工事の際にそのまま埋められた旧道と橋梁が姿を現した。橋梁は頑丈なコンクリート製であったことと、一帯は旧河川による削平のため遺構が遺存していなかったことから撤去せずそのまま調査を行うこととした。28日から遺構検出作業を開始し、旧流路を含む溝を中心とした遺構を確認した。8月19日に空中写真測量を実施し、26日から西半部の表土掘削作業に取りかかった。9月3日から遺構検出作業を開始し、道路状遺構などを調査した。10月7日に空中写真測量を行い21日から埋め戻しを行った。11月4日に機材の片付けが終了し、9日に現地を引き渡して全ての現地作業が完了した。調査期間中の7月30日に金沢市立犀生中学校2年生4名が職場体験の一環で発掘調査を経験し、8月2日にはインターンシップの金沢学院大学の学生が県文化財課職員とともに現場見学に訪れた。

第3節 整理等作業の経過

出土品の整理作業は県教委から県埋文センターへの委託事業として行われ、調査部特定事業調査グループが担当した。平成24、26、27年度は出土品の洗浄作業、平成25、27、28年度は遺物の記名・分類・接合、遺物の実測・トレース、遺構図のトレースを行った。報告書の刊行については、平成27、29年度に調査部特定事業調査グループが担当して報告書原稿の作成を行い、令和元年度は調査部県関係調査グループの担当で報告書の原稿作成・編集・刊行作業を行った。

調査・整理体制

調査・整理年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	令和元年度
調査・整理主体	(財)石川県埋蔵文化財センター 理事長 木下公司(平成24年4月1日～平成25年3月31日) (公財)石川県埋蔵文化財センター 理事長 木下公司(平成25年4月1日～平成28年3月31日) 理事長 田中新太郎(平成28年4月1日～)						
総括	岡田義彦 (専務理事)	橋本定則 (専務理事)	小崎隆司 (専務理事)	柴田政秋 (専務理事)	柴田政秋 (専務理事)	柴田政秋 (専務理事)	紺野欽一 (専務理事)
事務	栗山正文 (事務局長)	栗山正文 (事務局長)	栗山正文 (事務局長)	釜親利雄 (事務局長)	釜親利雄 (事務局長)	釜親利雄 (事務局長)	釜親利雄 (事務局長)
総務	山口 登 (総務GL)	山口 登 (総務GL)	山口 登 (総務GL)	長嶋 誠 (総務GL)	長嶋 誠 (総務GL)	横山謙一 (総務GL)	伊藤 直 (総務GL)
調査・整理	三浦純夫 (所長)	福島正実 (所長)	福島正実 (所長)	福島正実 (所長)	福島正実 (所長)	藤田邦雄 (所長)	垣内光次郎 (所長)
	福島正実 (調査部長)	藤田邦雄 (調査部長)	藤田邦雄 (調査部長)	藤田邦雄 (調査部長)	藤田邦雄 (調査部長)	垣内光次郎 (調査部長)	伊藤雅文 (調査部長)
	浜崎悟司 (特定事業調査GL)	土屋宣雄 (特定事業調査GL)	川畑 誠 (特定事業調査GL)	川畑 誠 (特定事業調査GL)	川畑 誠 (特定事業調査GL)	松山和彦 (特定事業調査GL)	久田正弘 (県関係調査GL)
担当	北川晴夫 (特定事業調査G主幹)	特定事業調査G	水田 勝 (特定事業調査G専門員)	岩瀬由美 (特定事業調査G専門員)	特定事業調査G	特定事業調査G	県関係調査G
	山 晶裕 (特定事業調査G専門員)		岩瀬由美 (特定事業調査G専門員)	関 晃史 (特定事業調査G嘱託調査員)			
	中泉絵美子 (特定事業調査G嘱託調査員)						

GL：グループリーダー、G：グループ

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

二日市イシバチ遺跡・三日市A遺跡は、白山市北部、及び野々市市北西部で展開されている土地区画整理事業用地の一画に所在する。野々市市はかつての野々市町が平成23年11月1日に市制に移行し、県内で11番目の市として誕生した。野々市市は、北東部の金沢市と南西部の白山市に挟まれ、県内最小の面積(13.56km²)の市町であるが、総人口は55,099人(2015年10月1日現在の国勢調査)となっており、1km²当たり4千人を超え、県内でも突出して高い人口密度となっている。近年では宅地開発が進展し、金沢市のベッドタウン化が顕著である。「住みよさランキング」でも2015年版から6位、4位、5位、18位、3位と常に全国の上位を占めており(東洋経済新報社『都市データパック』より)、特に「安心度」や「利便性」が高く評価されている。この遺跡の周辺はJR野々市駅や国道8号線に隣接し、交通の便がよく、かつ近隣に大型商業施設も立地している。さらに、小規模な都市にも拘わらず、工業系とバイオ系の二大学が存在し、学生の街との意味合いも併せもっている。このことは、住民の平均年齢が40.71歳(2015年総務省統計局「国勢調査報告」より)、1世帯当たりの人員も2.24人(2019年1月1日現在「住民基本台帳」より)と、いずれの数値も県内最小レベルになっていることから想像できよう。

今回の発掘調査域は、二級河川安原川(この付近の流路は野々市市と白山市の市境になっている)の河川改修工事に伴うものであるから、その一部は白山市にも跨っている。

野々市の市域は、手取川扇状地の扇央部から氾濫平野にあたり、ここを北流する高橋川と安原川の両水系に位置している。この水系は、七ヶ用水の富樫用水と郷用水に一致し、かつての手取川の流路の一つと考えられている。

手取川扇状地の地形は、手取川が運搬する土砂の堆積作用によって形成された。本流や支流の洪水によって網状流と化し、かつての流路一帯に微高地と微低地といった緩やかに起伏のある地形をつくり出した。野々市市は標高の高いところで50m、最も低いところでも10m程度で、たいへん緩やかな斜面となる地勢をみせ、同市の北西部に所在する二日市イシバチ遺跡や三日市A遺跡は、標高約15mの微高地上に立地している。

第2節 歴史的環境

野々市の由来は、古くから金沢平野の地に発生した市場集落であった。本遺跡の二日市・三日市の



第3図 遺跡の位置

名称もこの機能に起因するものであろう。中世においても、この地は、加賀における政治・経済の中心地であった。富樫氏の守護所が置かれ、北陸道と白山大道(大野荘湊から白山本宮に至る道)が交差する北加賀内陸の流通路の要衝だった。本遺跡の周辺を中心として、時代別に概観していきたい。

縄文時代 本遺跡一帯は、氾濫平野の湧水帯にあたり、縄文時代後期から晩期の集落遺跡が多く見られる。代表的なものとしては、本遺跡の北東部の大集落跡であった御経塚遺跡(23)や環状木柱列で有名な金沢市新保本町チカモリ遺跡(79)がよく知られている。特に御経塚遺跡は、縄文時代後期中頃から弥生時代前期後半までの長期間存続し、広場を取り囲むような住居配置や規模の大きさからみても代表的な拠点集落だったと言えよう。近隣の新保本町チカモリ遺跡や中屋サワ遺跡(60)は出村的存在と考えられる。

弥生時代 弥生時代前期・中期の遺跡数は少ない。御経塚遺跡、乾遺跡(43)から前期の柴山出村式土器が出土しているが、この時期は縄文文化の影響が残っている。弥生時代後期になると集落数が増加し、二日市イシバチ遺跡(1)も含め、三日市A遺跡(2)、三日市ヒガシタンボ遺跡(3)、郷クボタ遺跡(4)、五歩市遺跡(49)などの集落遺跡が確認されている。これは鉄器の普及などにより生産性が増して人口過多となり、これを解消するために新たな農耕地を求め、広い範囲にわたって集落が形成されていったと考えられる。

古墳時代 古墳時代に入ると遺跡数は激減するが、前期は、野々市市教育委員会(以下市教委)が調査した二日市イシバチ遺跡地区で、一辺が約18m規模を主体とした方墳5基、御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群(22)で、弥生集落廃絶後に15基の前方後方墳、方墳からなる古墳群が確認されている。本遺跡では、弥生時代終末期から古墳時代前期初頭まで存続している。後期には、手取川支流の扇状地扇央部で末松古墳や横穴石室をもつ上林古墳が築造されている。このことは扇状地扇央部の開発が行われていることを示している。

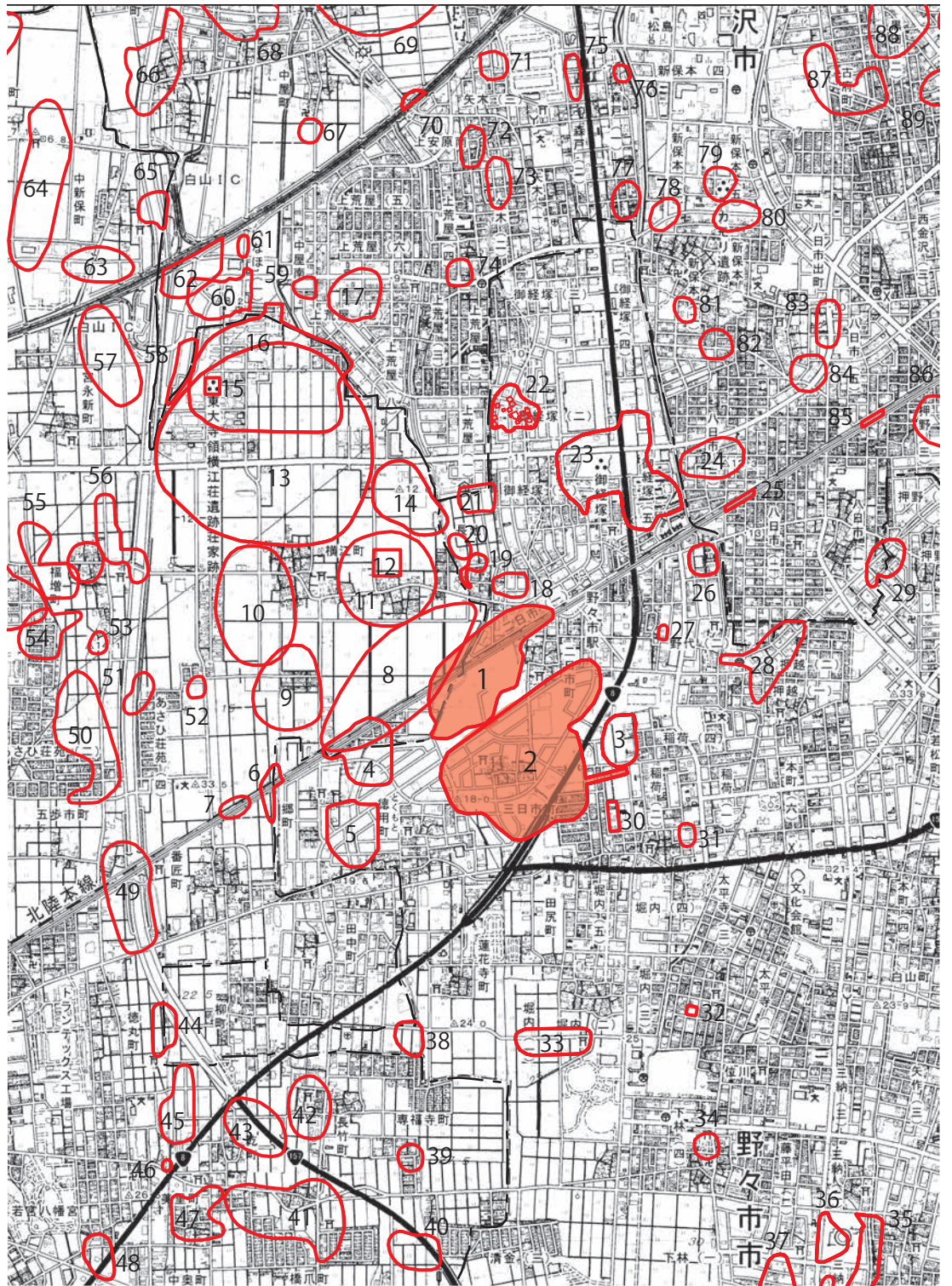
古代 第4図の図幅から外れるが、野々市市南西端には「末松廃寺」がある。この寺院は7世紀後半に手取川扇状地の扇央部に建立された古代寺院であり、西に金堂、東に塔をもつ法起寺式の伽藍配置を採用している。このような寺院の存在から、この地を支配した、政治的・経済的な基盤を築いた権力者の存在が想像できる。

本遺跡の北西部で検出された、8世紀の白山市の横江荘々家跡(15)や横江荘遺跡(16)、金沢市の上荒屋遺跡(17)では、東大寺領荘園の管理施設や回廊型の大型区画施設、さらに運河や船着場の遺構も確認されており、荘園管理の実体を探る重要な資料であるとみられている。

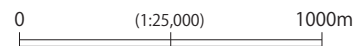
10世紀代の集落遺跡の徳用クヤダ遺跡(5)から瓦塔が出土し、公的施設の存在が考えられている。三日市A遺跡では、古代北陸道と考えられる道路状遺構が検出されている。両側に幅約1mの側溝を備えた路面幅約8mの道路で、この交通路は、「延喜式」「和名抄」によると海岸寄りの能美郡比楽駅(現白山市美川)から山麓寄りの加賀郡田上駅(現金沢市)に至る駅路と思われる。

中世 在地領主の林氏と富樫氏が手取川扇状地の開発に乗り出して台頭するが、承久の乱(1221年)後は富樫氏が台頭し、富樫高家が建武2(1335)年加賀守護職に就任し富樫館跡を構えた。この頃から野々市市において中世の遺跡が認められる。本遺跡では、遺跡全体の様相は不明であるが、区画溝や掘立柱建物を確認している。市教委が調査した二日市イシバチ遺跡区域、三日市ヒガシタンボ遺跡などでは、溝で囲まれた中に建物などが配置される孤立荘宅のような様相を呈する集落であるが、15世紀以降になると、集落遺跡の長池キタノハシ遺跡(18)や三日市A遺跡などのように、掘立柱建物、竪穴状遺構などの重要遺構が密集した集落となり、その形態は大きく変化していった。

近世 平成20(2008)年に当センターが行った二日市イシバチ遺跡区域では溝、井戸などを検出し、遺



国土地理院発行2万5千分の1地形図「松任」(平成27年版)を複製し利用



第4図 周辺の遺跡分布図(S=1/25,000)

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	県遺跡番号	名称	種別	代表時代	番号	県遺跡番号	名称	種別	代表時代	
1	1201700	936100	二日市イシバチ遺跡	集落	弥生、中世	45	915000	乾町三月田遺跡	集落	中世
2	1202000		三日市A遺跡	集落	古代、中世	46	934800	乾九千寺田遺跡	集落	古代
3	1202100		三日市ヒガシタンボ遺跡	集落	弥生	47	915100	中奥・長竹遺跡	集落	中世
4	1201800	936200	郷クボタ遺跡	集落	古代、中世	48	903700	幸明経塚	経塚	中世
5	1201900		徳用クヤダ遺跡	集落	中世		903800	西方寺跡(幸明経塚と複合)	社寺	中世
6	1207000	934900	番匠鎌田遺跡	集落	古代、中世	49	911100	五歩市遺跡	集落	弥生
7	935100		番匠遺跡	集落	古代	50	911200	あさひ荘遺跡	散布地	古代
8	914100		横江D遺跡	集落	弥生	51	935800	福増ジュッカク遺跡	集落	弥生
9	913600		横江ゴクラク寺遺跡	散布地	中世	52	937500	番匠ニシウラ遺跡	散布地	中世
10	914000		横江C遺跡	散布地	古墳	53	911400	寝上市左工衛門館跡	城館	中世
11	913900		横江B遺跡	集落	古代	54	911800	宮永市松原遺跡	集落	古代
12	913700		横江館跡	館跡	中世	55	911500	福増東川遺跡	集落	中世
13	913800	121400	横江A遺跡	集落	弥生	56	911300	福増遺跡(白山市)	集落	弥生
14	1206900	914200	横江古屋敷遺跡	集落	弥生	57	913300	下福増遺跡	集落	弥生
15	913400		横江荘々家跡	荘園	古代	58	120900	福増カワラケダ遺跡	集落	古代
16	913500	121500	横江荘遺跡	荘園	古代	59	121300	中屋東遺跡	集落	古代
17	121600		上荒屋遺跡	荘園	古代	60	121100	中屋サワ遺跡	集落	縄文
18	1200700		長池キタノハシ遺跡	集落	中世	61	121200	中屋B遺跡	集落	縄文
19	1200600		長池ニシタンボ遺跡	集落	弥生	62	121000	下福増B遺跡	集落	弥生
20	1206800		長池カチヅリ遺跡	集落	弥生	63	913100	八田中アレチ遺跡	散布地	縄文
21	1200500	121800	御経塚オツ遺跡	集落	弥生	64	913000	八田中ヒエモンダ遺跡	集落	縄文
22	1200100		御経塚シンデン遺跡	集落	弥生	65	913200	中新保遺跡	集落	中世
22	1200200		御経塚シンデン古墳群	古墳	古墳	66	120800	福増遺跡(金沢市)	集落	古代
22	1200300		御経塚経塚	経塚	不詳	67	122000	中屋遺跡	集落	縄文
23	1200400		御経塚遺跡	集落	縄文	68	122100	中屋ヘシタ遺跡	集落	弥生
24	125300		八日市B遺跡	集落	古代	69	122900	上安原遺跡	集落	古代
25	125100		八日市C遺跡	集落	古代	70	122400	上安原陸橋遺跡	散布地	弥生
26	121900	1200900	野代遺跡	散布地	縄文	71	122500	矢木ジワリ遺跡	集落	弥生
27	1200900		野代オバナヤシキ遺跡	散布地	その他	72	122300	矢木ヒガシウラ遺跡	散布地	古墳
28	1201000		押越ヨウカイチザカイ遺跡	集落	弥生	73	122200	矢木マツノキダ遺跡	集落	弥生
29	125000	1201100	上宮寺遺跡	社寺	中世	74	121700	上荒屋住宅遺跡	散布地	弥生
30	1202200		稲荷シマ遺跡	散布地	その他	75	122600	森戸バイパス遺跡	散布地	古墳
31	1202300		稲荷マタベエタ遺跡	散布地	その他	76	122700	森戸本町遺跡	散布地	縄文
32	1203700		太平寺イドノタカ遺跡	集落	古代	77	122800	森戸住宅遺跡	散布地	縄文
33	1203600		堀内館跡	城館	中世	78	125600	新保本町西遺跡	集落	古墳
34	1203800		三林館跡	城館	中世	79	125700	新保本町チカモリ遺跡	集落	縄文
35	1204100		三納アラミヤ遺跡	集落	古代	80	125800	新保本町東遺跡	集落	弥生
36	1204000		三納トヘイダゴシ遺跡	集落	中世	81	125900	新保本町ツカダ遺跡	散布地	弥生
37	1203900		藤平田ナカシンギジ遺跡	集落	古代	82	126000	新保本町南遺跡	散布地	中世
38	904800	1203500	田中ノダ遺跡	集落	弥生	83	125500	八日市ヤスマル遺跡	集落	弥生
39	904700		高田遺跡	散布地	縄文	84	125400	八日市サカイマツ遺跡	集落	古代
40	904300		橋爪遺跡	集落	縄文	85	125200	八日市D遺跡	集落	古代
41	904400		長竹遺跡	集落	縄文	86	126100	押野西遺跡	集落	弥生
42	904600		専福寺遺跡	社寺	中世	87	126600	古府遺跡	集落	縄文
43	904500		乾遺跡	集落	縄文	88	126900	黒田町遺跡	集落	古代
44	936300	1203400	徳丸ジョウジャダ遺跡	集落	古墳	89	126700	黒田B遺跡	集落	古代

※行政区界を跨いでいる遺跡は、それぞれの遺跡番号を併記。

構は現集落の初源期のものと考えられている。乾遺跡や三日市A遺跡では、当該期の墓地跡が確認されている。

引用・参考文献

野々市町史編纂専門委員会 2006 『野々市町史 通史編』

野々市町史編纂専門委員会 2005 『図説 野々市町の歴史』

田村昌宏 2012 『二日市イシバチ遺跡2』野々市市教育委員会

端 猛 2013 『五歩市遺跡』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター

第3章 二日市イシバチ遺跡

第1節 調査の方法（第5・6図）

平成24年度の調査区は、南北の中央に野々市市教育委員会(以下市教委)の幅約6m、長さ約15mの調査区域が設定されていたため2箇所に分断されている。市教委は調査区を3か所にわけて、それぞれA区、B区、C区と呼称していたことから、隣接する本調査区をD区と呼称し、安原川上流側をD1区、下流側をD2区とした。調査区の区割りは市教委に合わせて日本測地系に基づいた公共座標を基準に10mグリッドを設け、南北軸を南から北方向にアルファベット、東西軸を西から東方向にアラビア数字を振り、これを組み合わせて表した。D1区から遺構の検出・掘削を行い、遺物は遺構検出時のものは各調査区・グリッド毎に、遺構から出土した遺物は、竪穴建物(SI)、掘立柱建物(SB)、土坑(SK)、小穴(P)、溝(SD)、性格不明遺構(SX)の各調査区の種類別に番号を付して取り上げた。遺構は整理段階に通し番号に振り直し、それに伴い、遺物番号も修正した。なお、遺構の形状や延びを確認するため、境界付近の市教委調査区の遺構も平面図には部分的に組み込んでいる。

平成26年度の調査区は4箇所にて点在しており、南から北へ順にA～D区の名称を付した。南北に分けて調査したB・D区についてはB区北、B区南などと呼称した。また、上下2面を調査したD区は、更にD区南上、D区南下と呼称している。グリッドは、世界測地系に基づいた公共座標に則った10mグリッドを設定し、杭番号は座標の小数点以下2桁の数値で表した。グリッド名称は北東杭の番号を当てた。遺構番号はA～D区それぞれで、南北・上下は関係なく通し番号を付した。A・B区については、平成24年度の壁面土層断面図から、遺構掘削面が2面存在することが想定されたため、上層の遺構面となる黒色系包含層の上面で遺構がないか確認しながら慎重に表土掘削を行った。上面の遺構が確認された箇所、及び遺物の包含が多く確認された箇所については包含層をなるべく残し、それに当たらない箇所については下層遺構の検出面近くまで掘り下げた。中世の遺構覆土は褐灰色系土や黄色系土であり、この時代の基盤層である黒褐色土上面で比較的検出は容易であったが、下層まで下げた段階で検出されたものもいくつかある。それらは、黒褐色系の覆土をもつ下層遺構とは明らかに異なる覆土を持つことから抽出可能であり、覆土の特徴から上層遺構と判断された下層検出遺構に関しては、上層遺構として報告している。遺物の取り上げは平成24年度と同様である。遺構番号は隣接する平成24年度調査区と同一の遺構と判断されるものについては可能な限り同一の番号を付した。

平成27年度は二日市イシバチ遺跡の調査区を南北に分けてE1・2区とし、グリッドの設定や杭の名称は平成26年度を踏襲した。遺構番号はE1・2区で通し番号を付している。平成27年10月26、28、30日に平成26年度D区の対岸を県文化財課が立ち会い調査を行っており、その成果も合わせて所収した。

以下の本文中では、同じ番号を持つ遺構の年度、調査区の混同を避けるため遺構番号の頭に調査年度や区名を付して、平成24年度は「24SK1」、平成26年度は「26ASD1」、「26DSD1」、平成27年度は「27ESD1」のように呼称する。ただし、年度や調査区を付さなくても分かる場合は単に「SD1」などと表記する。なお、掘立柱建物や柵列・柱列に関しては報告書の作成段階で番号を付したため、年度・調査区に関わらず通し番号で報告する。

第2節 層 序(第14図)

平成24年度調査区と平成26年度調査A、B区は隣接するため基本層序は共通する。異なるのは、平成24年度にはなかった盛土が平成26年度には大量に堆積していることである。盛土を除くと大別して5層みられる。盛土下の暗褐色粘質土は耕作土、その下は床土である。床土の下に堆積する褐灰色土が中世の包含層であるが、遺物は殆ど含まない。厚さ約10～15cmを測る。その下が弥生～古墳時代の包含層で、黒褐色粘質土である。場所にもよるが、比較的遺物を多く含む。基盤層は黄褐色シルトである。弥生～古墳時代の包含層上面が中世の遺構検出面、同包含層と基盤層の間に確認される漸移層の上面が下層遺構検出面である。平成24年度の調査では、上層遺構も下層遺構も基盤層まで下げた段階で遺構検出していることから、総じて遺構本来の深さよりも浅くなっている。この層序は概ね平成26年度のC・D区にも共通する。盛土の下に耕作土、床土が堆積し、その下に中世包含層、弥生～古墳時代包含層、漸移層、基盤層と続く。基盤層の標高は平26年度A区で14.35m前後、B区で13.95m前後、C区で13.70m前後、D区北端で13.00m前後を測り、南から北方向に向かって緩やかに下がる地形となる。扇状地地形を反映したものである。平成27年度の二日市イシバチ遺跡E区は平成26年度A区の南方至近であることから基本土層もそれに準じる。

第3節 遺構と遺物

1. 平成24年度D1・2区、平成26年度A・B区

① 竪穴建物(第15・16・63図)

24SI1 東側半分以上が調査区外に延びるため法量等は確定できないが、平面形状は隅丸方形を呈すると想定される。壁際には壁溝が巡る。柱穴は1基確認した。その位置から4本主柱と推定される。遺物は1、2を図示した。1は図上復元した。共に弥生時代終末期の製品である。

24・26BSI2 東側半分近くが調査区外に延びるため全体像は不明確であるが、その形状から多角形と判断され、柱穴配置から六角形の平面形態が想定される。柱穴は24P46・47と、24P48に切られたピットの3基が確認できた。24SK5は屋内土坑とみられる。24SD9・12、24・26BSD13は周溝を構成し、周堤部の幅は240～330cmを測る。26BSD13からは土器が潰れた状態で出土した。遺物は竪穴内から3～5、周溝から6～13が出土した。概ね弥生時代後期後半の遺物である。

② 掘立柱建物、柱列・柵列、ピット(第17～26・63図)

SB1 1×2間の布掘り建物である。大半が市教委の調査区であり、南東部の24P19を調査したのみである。24P19から14の甕小片が出土したことから、古墳時代前期の建物と推定する。

SB2 26BSD3・4から成る1×3間の布掘り建物である。SD4に比してSD3の幅が広いことから建て替えが想定される。遺物は15を図示した。

SB3 26BSK7として調査した土坑である。市教委による隣接地の調査成果から、1×3間の布掘り建物の北東端の柱穴と判断できる。

SB4 1×2間の側柱建物である。柱穴径は60cm前後を測り、他の掘立柱建物より大きめである。

SB5 やや柱筋は不揃いながら2×3間で独立棟持ち柱を持つ側柱建物として復元した。北側の梁間

中央の柱穴24P48がSI2の柱穴を切り込んでいる。或いは、それぞれの梁間の外側に平行する3基の柱穴列が存在することから、SB15と同様の四隅に柱を持たない建物との想定も可能である。図示した16は弥生時代後期後半の遺物であり、SI2からの混入であろう。建物は古墳時代前期と推定する。

SB6 1×5間の側柱建物である。市教委調査区にまたがっており、調査した柱穴は北西2基と南東2基だけである。中世の総柱建物と報告された建物(田村2015b-SB23)の東半部に当たるが、総柱とするには柱穴が足りないことから側柱と判断した。中世の区画溝と軸が異なり、重複するSB1と同軸であることから古墳時代の建物と考える。24P26から17が出土したが混入であろう。

SB7 市教委調査区にまたがっており、北側の梁間2基は市教委調査区となる。図示したものより北側に1間分延びるため1×5間の側柱建物となる。一部SB6と同じ柱穴を復元に使用している。SB6とほぼ同軸で規模も近似していることから建て替えとみる。新旧は不明。

SB8 2×2間の側柱建物を抽出したが、桁行西側列は延長線上に小ピットがあり、深さも他の柱穴に近似することからもう1間北側に延びる可能性が高い。出土遺物は図示していないが古墳時代以前の土器小片が出土した。

SB9 1×3間の側柱建物である。柱穴径は30~40cmを主体とし、深さは70cm前後と深い。26BP33から18が出土した。古墳時代前期の建物とみられる。

SB10 1×4間の側柱建物と想定した。北東角の柱穴は調査区外となるため存在の有無を確認できない。SB9と同様に柱穴径が小さい割に深い。主軸も同じであることから同時期の建物と判断する。26BP71から19が出土した。

SB11 1×3間まで確認できる側柱建物である。上層遺構に切られているため下層に帰属する可能性が高い。南側桁列の西側3基はSB15の復元にも使用している。

SB12 2×4間まで確認した総柱建物である。各柱穴の出土遺物は下層遺物であるが、下層包含層の上面で検出した柱穴が大半を占めることから中世の建物と判断される。調査区東側に続く。

SB13 2×2間まで確認した総柱建物である。各柱穴の出土遺物は下層遺物であるが、下層包含層の上面で検出した柱穴を含むことから中世の建物と判断した。西側柱列は東側に比して柱間寸法も径も小さいことから庇の可能性もある。

SB14 1×2間の建物として報告するが、西側柱列は非常に浅い。下層包含層上面で検出し、覆土が灰色を呈していたことから近世の簡易的な小屋のようなものを想定している。すぐ西側を南北に走る26BSD12が近世の遺構であることから関連を想起する。

SB15 2×4間で四隅の柱穴がないタイプの掘立柱建物と想定した。東側柱列は中間の柱穴2基が未検出で、北側柱列の3基はSB11の復元にも使用している。そのため、当初は西側柱列及び南側柱列を独立した柱列と想定したが、掘立柱建物の可能性を示しておきたい。26BP17から20、21が出土した。21は弥生時代後期後半の遺物であり混入であろう。古墳時代前期の建物と推定する。

SA1 4間分を検出した。

SA2 5間の柱列で、比較的深い柱穴が多い。対となる柱列がないため建物ではなく柱列として報告する。22の高杯脚を図示した。

SA3・4 至近で平行する柱列である。SA4は7間であるが、南側1間の寸法が長く、柱穴が26BSD2に切られていると想定すれば共に8間となる。造り替えの可能性を持つが、重複箇所との切り合い関係に齟齬をきたしており、検討の余地がある。なお、SA1~4は全て主軸が同じである。

SA5 4間の柱列である。柱間寸法は不揃いである。

SA6 SI2に重複した3間の柱列である。新旧関係は不明。

③土坑(第27・28・64図)

24SK1～4 いずれも不整形の浅い土坑でその性格は不明。覆土から判断してSK1～3は上層遺構、SK4は下層遺構であろう。SK4から25の装飾器台片が出土した。

26ASK1 長円形を呈す土坑で、26ASD3に軸が沿うものの、覆土から下層遺構と判断する。

26ASK2・3 共に浅い。SK3からはやや多くの遺物が出土した。遺物は26～28を図示した。古墳時代前期の遺構である。

26BSK1 南西部を大攪乱に切られており全体像は不明であるが不整形の浅い土坑である。遺物は浅い割にやや多く出土しており29、30を図示した。30は混入であろう。古墳時代前期の遺構である。

26BSK2 不整形の浅い土坑である。擬凹線を持つ甕が出土した。下層遺構。

26BSK3・4 切り合い関係にある土坑でSK3が新しい。下層遺構。

26BSK5 土坑と想定して掘り進めたが、堆積土の状況から風倒木であると判断されたため底まで完掘していない。縄文土器が出土した。

26BSK6 24SI2の周溝を構成するSD13の断片とも捉えうるが、やや位置がずれていることから単独の遺構と判断した。下層遺構。遺物は31が出土した。

26BSK8・9 いずれも浅い下層遺構。26BSK9からは土器がやや多く出土した。32は高杯の口縁部と脚端部である。円筒状の長い脚が付くタイプである。34、35はなで肩の甕で、肩部にキザミや波状文を持つ。弥生時代後期後半の製品である。

26BSK10 南東部は調査区外となり全形は不明。下層遺構。

26BSK12 東部が調査区外となり、北側がSD9・10に切られているが、方形又は長方形のプランと推定される。底面に壁溝を持つものの柱穴が確認できないこと、75cmもの深さを有することから貯蔵穴の可能性を考えるが、過年度の調査区では貯蔵穴が確認されていないことを鑑みると、26SK13のような小型の竪穴建物とみたほうがよいかもしれない。下層遺構。

26BSK13 上面をSD9・10に切られている。底面には壁溝が巡り、短辺の南北両辺の壁溝中央に柱穴とみられる小ピットが各1基検出されたことから、小型ながら竪穴建物と判断する。長辺の壁溝内にもピットが数基確認されることから、壁材を支える杭などの痕跡とみられる。貼り床や床面の硬化は確認されなかった。下層遺構。遺物は土師器又は弥生土器の小片が出土した。

26BSK14 東側が調査区外に延びる。36の縄文時代晩期後半の条痕文土器が出土した。下層遺構。

④溝(第29・30・65図)

24SD1 中世の区画溝である。

24・26ASD2 中世の区画溝である。

24SD3 中世の溝。性格不明。

24・26ASD4 24・26ASD2、26ASD3に切られる中世の細い区画溝。37を図示したが混入である。

24・26BSD5 B区で鋭角に曲がる中世の溝である。24・26BSD11、26BSD2を切っている。下層を含め全体的に粘土が堆積している点から滞水していたことが窺われる。形状や堆積土からは他の同時期の溝とは異なる用途が想定される。図示した遺物38・39は混入である。39は12世紀前後のロクロ土師器皿であるが、この時期に帰属する遺構は本調査区内では確認していない。

24SD6・7 SD6はSD11から南へ分岐する溝。分岐箇所の形状から切り合いがあると想定され、本溝が新しい。SD7はSD6とほぼ平行し、規模も類似することから関連遺構とみられる。中世遺構。

24SD8 SD5に切られる溝で、上下いずれに帰属するか不明である。

24・26BSD11、26BSD2 北西-南東に走る細い溝で平行関係にあることから道路側溝と推定する。路面幅は溝の内側で430～520cm程度を測り、南東に行くにつれ幅が広がっている。遺物は41を図示したが混入品である。中世遺構。

26ASD3 南北方向に近い中世の区画溝。壁面に小ピットが多く検出された。市教委調査の同一溝でも同様に報告されており(田村2013a)、溝に伴う何らかの構造物の痕跡と判断される。24・26ASD2とはほぼ平行関係にあり、24・26ASD4より新しいことでも共通するが、道路側溝とするには溝幅の差が大きいように思う。珠洲焼の片口鉢片などが出土した。

26BSD1 重複する全ての遺構に切られる下層遺構の溝である。弥生土器片が出土した。

26BSD6 26BSD11を切る浅い溝である。土器溜まりの上面に位置したため出土遺物は土器溜まりからの混入品が多い。上層遺構。

26BSD8 ほぼ東西方向に走る浅い溝である。SB9より新しい。

26BSD9・10 中世の区画溝。SD9はSD10の南辺に沿って上面を走る細い溝で、西側はSD10とややラインがずれるが、SD10を縮小して掘削された溝とみられる。SD10廃絶後は黒褐色粘土によって埋められている。遺物は珠洲焼片口鉢43を図示した。かすかに卸目が観察される。

26BSD12 北は調査区外へ延びる。調査区北壁で土層堆積を観察し、ほぼ全て砂で埋まっていることを確認した。上層は細砂、下層は中粒砂であることから洪水土砂で埋まった可能性を想定する。遺物は44・45を図示した。共に18世紀代の製品であり、それ以降の溝と判断される。

⑤その他(第31・32・65～70図)

24・26ASX1 略方形で、南東辺を除く三辺で段掘りとなる。2カ年にまたがって調査したため適正な箇所での土層断面図の記録がないが、概ね床面に近い機能時の堆積と、黒褐色シルトで埋められた状況は共通する。底面で部分的に貼り床のような堆積土を確認したことから竪穴建物の可能性も想定されるが、壁溝や柱穴が確認できないことから不明遺構とした。遺物は小壺や甕など46～51を図示した。古墳時代前期の遺構である。

26BSX2・3 浅い溝状の落ち込みである。やや湾曲していることから竪穴建物や平地建物の周溝とも捉えうるが、内部にはそれに相当する遺構は確認できなかった。下層遺構とみられる。

土器溜まり B区南西部で検出した。概ね南北に3.5m、東西に1.5mの範囲に土器片が密集していた。バラバラになった破片がほとんどであったため、鞍部に投棄された遺物と判断される。出土遺物は52～102を図示した。甕を中心とし、器台、高杯、鉢、壺などを含む。古墳時代前期のまとまった遺物であり、75～77は混入であろう。甕にはくの字甕も定量みられるが、半数以上を布留系甕が占める。その口縁形態にはバリエーションがあり、口縁端面内面の肥厚がほぼ目立たない92・94、肥厚が小さい95・97、肥厚が丸い89・90、口縁端面が内傾する98・101などがある。

その他 包含層や遺構検出面出土の遺物103～129を図示した。弥生時代後期後半～古墳時代前期の遺物が主体を成す。明確な遺構は確認されなかったが、103・104など縄文時代晩期の遺物も少量出土した。105は把手付鉢で、口縁部に鋸歯状の文様を刻む。115～117は装飾器台の断片である。

2. 平成26年度C区

① 竪穴建物(第34・70図)

26CSI1 方形の竪穴建物で、南東部が調査区外へ延びるため全形は不明である。北東辺と北西辺の底面に壁溝が巡る。主柱穴は浅いものを含めて2基想定した。床面には貼り床と想定される部分的に硬化した薄層を確認し、それを掘り下げると床下にピットを検出した。遺物は130・131を図示した。古墳時代の竪穴建物である。

② 掘立柱建物(第35図)

SB16 1×2間の主屋南側に庇がつく建物を想定した。桁行西側の柱間寸法が東側に比べて長く、梁間の柱間寸法とほぼ同じであることから1×1間の主屋の東側と南側に庇が付く可能性もある。また、柱筋からややずれるが、梁間に小ピットがいくつか存在し、それらを含めて建物を構成するとみることにもできる。26CP16から中世土師器皿が出土したことから中世の建物と判断する。

③ 土坑(第34・35・70・71図)

26CSK1 不整形な浅い土坑である。132の甕が出土した。

26CSK2 円筒形の土坑である。土層堆積の状況から幾度も壁面の崩落が生じたことが観察された。基盤層が軟弱で崩落のおそれがあったことから人力掘削は地表下約110cmで留め、埋め戻しの際に重機で底面を確認した。それによれば底面まで約200cmの深さであり、形状、及び深さから井戸であると判断された。井戸側の痕跡はなかったが、基盤層の強度を考えると何らかの側が存在していたとみられる。遺物は図示した133～137の他に炉縁石や越前焼が出土した。13世紀後半以降の遺構である。

26CSK3 北東は調査区外へ続くことと壁面崩落を防ぐため半分しか調査しておらず、26CSK2と同様の理由で地表下165cmまでしか掘削していない。形状と法量から井戸と推定される。井戸側の痕跡は観察されなかったが、壁面の崩落を繰り返しながら埋没したことが観察されるため、使用時には当然何らかの井戸側が存在したと想定する。堆積土のうち、垂直に堆積する第8層のみ締まりがなく異質であった。細砂を含むこの層は、息抜きの竹などの有機物が腐朽したものではない。本遺跡では地下水位が低く、かなり深く掘らなければ湧水しなかったとみられるが、壁面が崩落した後、或いは崩落以前から、節を抜いた竹筒を湧水点まで突き刺し、圧力差の関係で自噴する水を得ていたのではないかと推定する。時期は近代以降に降るが金沢市二ツ寺遺跡で調査事例があり、細砂を含む堆積土が共通する(浜崎2016)。遺物は138・139を図示した。

④ その他(第71図)

調査区の北西端で溝を1条検出した。出土遺物はないが、覆土が黄褐色系であったため中世に帰属すると判断した。第14図C区西壁基本土層図4・5層としても観察できる。遺物は遺構検出で出土した縄文時代晩期の土器を4点図示した。該期の遺構は確認していないが、性格不明のSD1などがそれに当たる可能性がある。

3. 平成26年度D区

①掘立柱建物、柵列・柱列、ピット(第40～42図)

SB17 2×2間の主屋西側に庇がつく建物として復元した。26DSK3が屋内にすっぽりと収まることからその覆い屋の可能性を持つ。26DP42から中世土師器皿が出土した。

SB18 1×2間の主屋に庇がつく建物と想定するが、北東隅の柱はなく検討を要する。南西隅の柱穴はSD2に切られているとみられる。26DP36から中世土師器皿が出土した。

SB19 2×3間とみられるが、南側の柱列は間が抜けている。北側桁列がSB20の南側桁列に重複し、主軸もほぼ同じことから建て替えとみられる。26DSK14が内部に収まる。

SB20 東側が河川跡により損壊を受けているが、2×5間の側柱建物とみられる。2×4間の主屋東に庇がつくとの理解もできるが、建物に付随するとみられる26DSK9内部に柱がきってしまうことから2×5間の主屋と考えた。SK9上面ではこの柱穴は検出されなかったことから、2×4間の主屋を5間に拡張した後にSK9を掘削した可能性がある。建物の東寄りに土坑を内包する点、SB19に類似する。いくつかの柱穴から中世土師器皿が出土した。

SB21 西側2間と北側3間分を検出した。北側柱列の東側柱間寸法が短い、26DSK1を包括する建物とみられることから庇ではないと想定する。中世遺構である。

SA7 4間の浅い柱列でピットが2基ずつ重複しており造り替えが窺われる。26DP17から古瀬戸の卸皿が出土した。

SA8 3間の柱列である。深さが一定でなく同一の柱列かはやや疑問が残るが、SA7と軸や柱間寸法に近似性がある。26DP14から中世土師器皿が出土した。

②土坑(第43～47・71・72図)

26DSK1 南東から北東にかけて攪乱を受けているが隅丸形状の土坑と推定する。SB21内に設置された竪穴状遺構とみられる。

26DSK2 西側と北側に浅い段を持つ大型の竪穴状遺構で、東側が調査区外に延びるが、あと50cm程で収束すると推定される。底面は比較的平坦である。26DSD1・6との切り合いの有無は不明である。遺物は144の他、古瀬戸平碗、加賀焼や越前焼の甕などが出土した。14世紀後葉頃の遺構であろうか。

26DSK3 26DSK1と軸を揃えて東西に並ぶ。SB17に付随する竪穴状遺構である。中世土師器皿が出土した。

26DSK4 東側を26DSD6に切られているが、ほぼ全形を窺える。東側は方形なのに対し西側が円形に近い浅い竪穴状遺構である。遺物は145の他に中世土師器皿が出土した。145は加賀焼甕の小片で、割れ口に自然釉が掛かっていることから焼成段階ですでにひび割れていたことが分かる。

26DSK5 南東部が調査区外となる。円筒形を呈し、第8層以下は壁面崩落土で埋まっている。基盤層が軟弱であったことから人力掘削は170cm程度で留めた。後に重機で掘り下げて検出面から約330cmの深さで底面を確認した。湧水はなかったが、形状と深さから井戸と判断される。遺物は146～149を図示した。147は珠洲焼鉢底部片である。内面全体及び割れ口の一部に赤色顔料が付着していることから破損後に再利用されたものと推定される。13世紀後半以降の遺物を主体とする。

26DSK6 26DSK5と同様の理由で検出面から160cm程度しか掘削していないが、井戸と判断される。下層は壁面の崩落土で埋まっていた。遺物は囲炉裏の縁石とみられる150を図示した。図の上面と右

側面上半がよく焼けている。他に古瀬戸天目茶碗や中世土師器皿が出土した。

26DSK7・8 下層で検出した遺構である。性格は不明である。

26DSK9 北東及び南西に段を持つ長方形の竪穴状遺構である。中央のピットはSB20に帰属し、土層観察からピットが古いことが分かる。南東部が細い溝状に開口しており、その先は河川跡に切られているため追えないが、水などを排出するための構造であったと推定する。151～155は中世土師器皿で、153・154の大皿は腰部を強くナデている。図示した以外に古瀬戸香炉、白磁、行火、仕上げ砥石などが出土した。14世紀前半の遺物が主体である。

26DSK10 比較的均質な土で埋まっていた土坑で、珠洲焼158と砥石157が出土した。26DSD8以北で確実に中世に帰属する遺構は本土坑のみである。

26DSK12 土層堆積は26DSK5・6に類似し、それらと同様の理由から人力掘削は175cm程で留め、後に重機で掘り下げて検出面から約300cmで底面を確認した。同じく湧水はないがその深さから井戸と判断される。遺物は159・160以外に古瀬戸平碗や盤、炉縁石などが出土した。160は混入であろう。

26DSK13 東側が河川跡により少し損壊するがほぼ全形を窺える。図示した161以外に古瀬戸製品が出土した。

26DSK14 非常に浅い土坑で、SB19内に収まるため建物内に敷設された構造物の一部とみられる。

③溝(第46・47・72・73図)

26DSD1 26DSD8と内側で55mの距離、つまり約半町の間隔でほぼ平行することから、計画的に配された中世の区画溝と想定される。本遺構より南側には上層遺構は確認されなかった。東側で26DSK2と連結し、その連結部に26DSD2が切り込んでいることから切り合いの有無は詳細には観察できなかったが、切り合いはないように見受けられた。遺物は加賀焼片が出土した。

26DSD2 全ての遺構を切り込む直線的な溝で、部分的に溝に直行する方向の細い掘り込みが底面に確認された。仕切り板のような物の痕跡であろうか。近世に降る遺構であろう。

26DSD3 26DSD1に平行する短い溝で、珠洲焼162を図示したが、覆土から近世の遺構とみられる。

26DSD4 26DSK3に切られているため全形は不明。浅い溝状遺構で163の須恵器杯蓋が出土した。古代の遺構の可能性はある。

26DSD5 26DSK4に切られる。時期不明。

26DSD6 26DSK2との切り合いは確認されなかった。26DSD1に対してやや鋭角な位置関係になるが、屋敷地内の小区画溝の可能性を想定する。珠洲焼鉢や中世土師器皿が出土した。

26DSD7 26DSK3に切られる短い溝であるが、同遺構と軸が揃っていることから関連するものかもしれない。

26DSD8 26DSD1とほぼ半町の間隔で平行することから対になる中世の区画溝と想定される。検出した当初は幅広い1条の溝に見えたが、掘り下げると2基の竪穴状遺構と細溝に分離した。本来ならばここで土坑番号を付すべきであったが、それぞれSD8西端部・中央部・東端部として遺物は取り上げた。中央の竪穴状遺構は東側に砂礫層を掘り抜いた落ち込みがあり、堆積土最下層が粘土であったことから滞水した時期があったことが窺われた。西端部の竪穴状遺構北側は3段の段掘りで階段状にも見える。2基の竪穴状遺構の間は浅くなっており、長軸に直交するような細溝がいくつか検出された。屋敷地への出入りの通路と見受けられる。なお、②の土層断面を見ると中央部と東端は機能した時期に差があることが想定される。東端付近の細溝は攪乱によって上面が削平されていたために本来の溝幅は不明だが、底部は中央が細くなる構造で底面にいくつかピットが検出された。遺物は164～

173を図示した。166、168、169が中央部、167、170～172が西端部出土である。166・167の珠洲焼片口鉢は復元径がやや異なるため別個体として図示したが、胎土がよく似ていることから同一個体の可能性もある。168は珠洲焼壺で、通常の平行タタキに陽刻の斜線が入る。170・171は行火で、170はかすかに脚を造り出している。外面が強く被熱する。

26DSD9 調査区東壁で検出した。26DSD6と方向軸が類似するため中世の区画溝の可能性はある。

26DSD10・11 いずれも浅い溝状の落ち込みで、SD10が古い。性格不明。

④その他(第73・74図)

河川跡 河川の流路痕跡であり、砂で埋没していた。完掘していないが出土遺物から近世初頭の安原川流路と判断される。内底部に砂目の残る肥前系陶器皿174が出土した。

26SX1 26DSD1以南の下層で検出した。条痕文土器が出土した。

26DSX3～5 26DSD8以北にある浅い落ち込みである。いずれも下層遺物片が出土しているが性格不明である。

下層トレンチ D区北半の西壁よりで農道に平行する下層トレンチを掘削して下層遺構の確認を行った。上層遺構の基盤となっていた下層包含層の黒褐色シルトを20～25cm掘り下げると下層の基盤層である暗褐色シルトに到達する。包含層から散発的に土器の出土を見たが、遺構は確認されなかった。遺物の出土量からみても、下層となる弥生時代～古墳時代の集落は調査区外に主体的に展開するものと判断された。

包含層 175～178を図示した。この中で176と177が下層包含層出土である。須恵器の出土は少ない。

4. 立ち合い調査区(第48図)

安原川を挟んでD区の対岸に位置する。土坑2基と溝1条を検出した。覆土から判断すると全て中世以降の遺構とみられる。狭小な調査区であり遺構の性格は不明であるが、SD1の方向は26DSD1・8に類似する。安原川の流路が中世の段階でどこに存在したのか不明ながら、近世以降のようにD区との間になれば、立ち合い調査区も一体的な屋敷地だった可能性がある。遺物は図示していないが白磁と青磁片が出土した。

5. 平成27年度E区

①掘立柱建物・柵列・柱列・柱穴(第52～56・74図)

SB22 27ESD6・9からなる1×3間の布掘り建物で、南西部の柱穴1基は調査区外となる。27ESD6に比して27ESD9の幅が広いのは、建て替えによって柱穴が2基ずつ重複しているからである。唯一横断面を観察したSD9-P1では新旧が確認できなかったが、柱穴部のみ東側に突出している様を見ると外側の柱列が新しいように思われる。SD9-P4底部で検出した柱痕底部は内側の方が新しく見えたためそのように図化しているが、SD6の柱穴に柱痕跡が確認されるのに対しSD9の縦断面ではその痕跡がないことから、やはり柱根を抜き取って外側に建て替えたのではないかと推定する。遺物は179・180の弥生土器甕を図示した。弥生時代後期後半の建物とみられる。

SB23 梁間の中間柱がやや小さく東側に寄っているため東柱かもしれないが、他の柱穴と変わらない程度の深さを有することから2×2間の建物と想定した。181の越前焼鉢が出土した。13世紀後半の製品でありそれ以降の建物である。

SB24 1×2間の建物と想定したが、西側柱列がやや浅い。182の中世土師器皿が出土した。口縁端部を面取りする。13世紀代の製品であろう。

SA9 3間の柱列で、SB23・24と主軸が近い。SB24とは位置が近すぎることからSB23に付随するものと判断される。183の中世土師器小皿が出土した。

ピット 柱穴の可能性のあるピットを図示した。27EP36は底面が硬化しており、柱の当たりと推定された。27EP56・57は460cmの距離はあるものの類似する法量を持ち、同じ建物を構成する柱穴と推定するが、他の柱穴が確認できなかった。P56から184の小型の蓋が出土した。

②土坑(第56・57・74図)

27ESK1 不整形で底部に小ピットが多く検出された。185・186が出土した。185は小型の壺で、外面に赤彩が施されている。弥生時代後期後半の遺構である。

27ESK2 中世の竪穴状遺構である。周辺に柱穴らしいピットが多く検出されたが、覆い屋になるような掘立柱建物は確認できなかった。187・188が出土した。188は越前焼の甕で、口縁部以外の破片も出土している。187は混入である。

27ESK4 西側が調査区外に延びる。189が出土した。

27ESK5～8 近接して南北方向に並ぶ。配置はきれいな弧を描かないが、市教委第1次調査のSI8が西側に位置しており、その外側3～4m程の位置に土坑・溝が点在することから、本土坑群を含めてSI8の周溝の断片であろうと推定する。遺物は190～192を図示した。

なお、市教委SI8は弥生時代終末期の遺構と報告されており、土坑出土遺物よりやや新しい。

27ESK9 西側が調査区外となる。遺物は出土していないが、SK5～8に覆土が類似することから同時期の遺構と推定する。

③溝(第58～62・75図)

27ESD1 壁面は段掘り状で、東半部の壁面には小ピットが、西半部の壁面にはそれよりも大きいピットが多く検出された。本調査区東西の市教委調査区で確認された溝の続きでも同様の状況であり、前述した26ASD3にも共通する。溝に付随する何らかの構造物の痕跡である。193・194・195を図示したが、前二者は混入である。

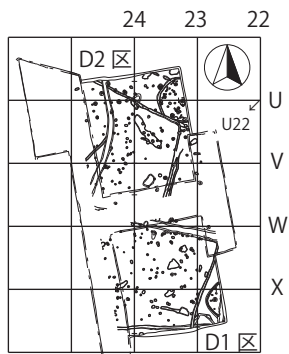
27ESD3 やや湾曲し、北東部から続く細い部分と南西部へ抜ける幅広の部分とがある。細い部分は27ESD8にぶつかる前に軸がややずれていることから、別溝である可能性があり、27ESD4・5と幅も方位も類似することから関連遺構の可能性もある。

27ESD4・5 平行する細溝である。法量は畝溝に類似するが、畝溝とするには本数が少ない。

27ESD7 南端の27ESD11との合流箇所を鋭角に東へ曲がる。27ESD12との切り合いの有無は不明だが、SD11には切られている。北半の壁面には小ピットが多く検出された。これは27ESD1に類似している。市教委調査区ではSD1とSD7は直角につながっていることから同時期に同じ用途で存在した溝と言える。196・197の中世土師器皿を図示した。196は口縁端部をわずかながら面取りしている。

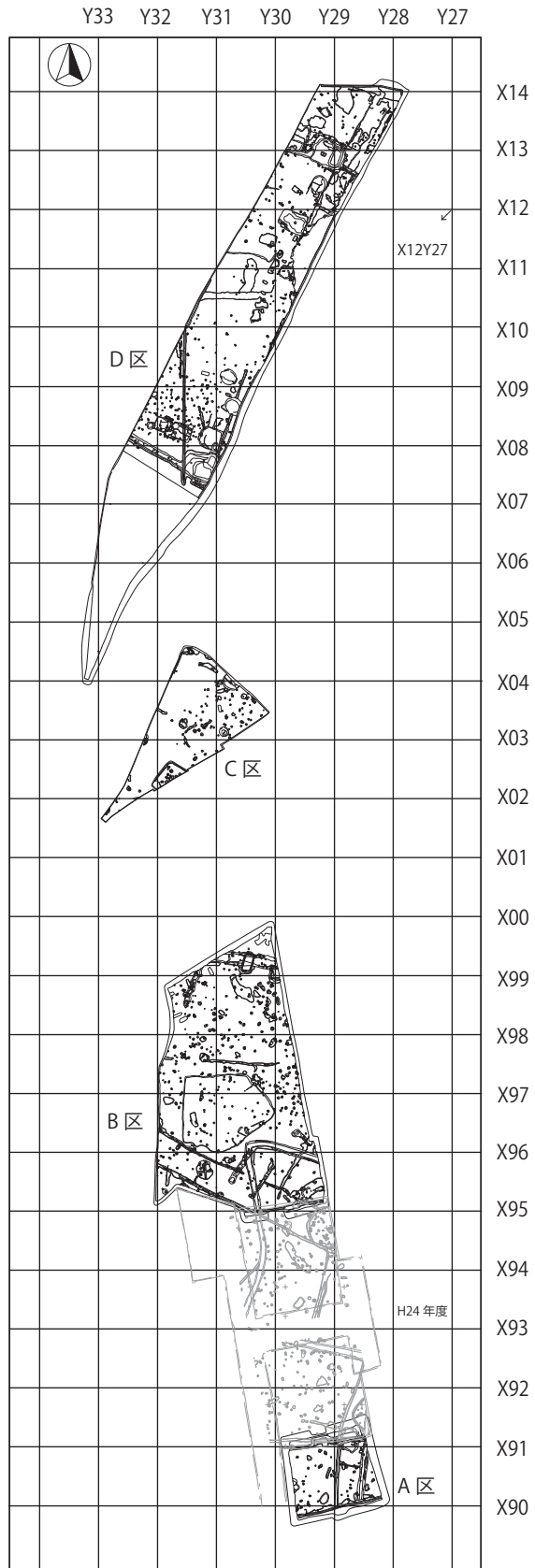
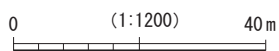
27ESD8 東西方向に走る溝で、東側は27ESD7に切られて終わる。27ESD10同様に底面で工具痕とみられる三日月状の掘削痕を確認した。西半は幅広くなっていると同時に一段落ち込んでおり、そこから土師器皿を中心とした遺物が多く出土した。198～203を図示したが、203は混入である。198～202は中世土師器皿で小皿と大皿がみられる。大皿の法量が10.9cm、11.3cm、12.8cmとやや小さいが、口縁端部を丁寧に面取りしていることから13世紀中葉前後と考えておきたい。

二日市イシバチ遺跡



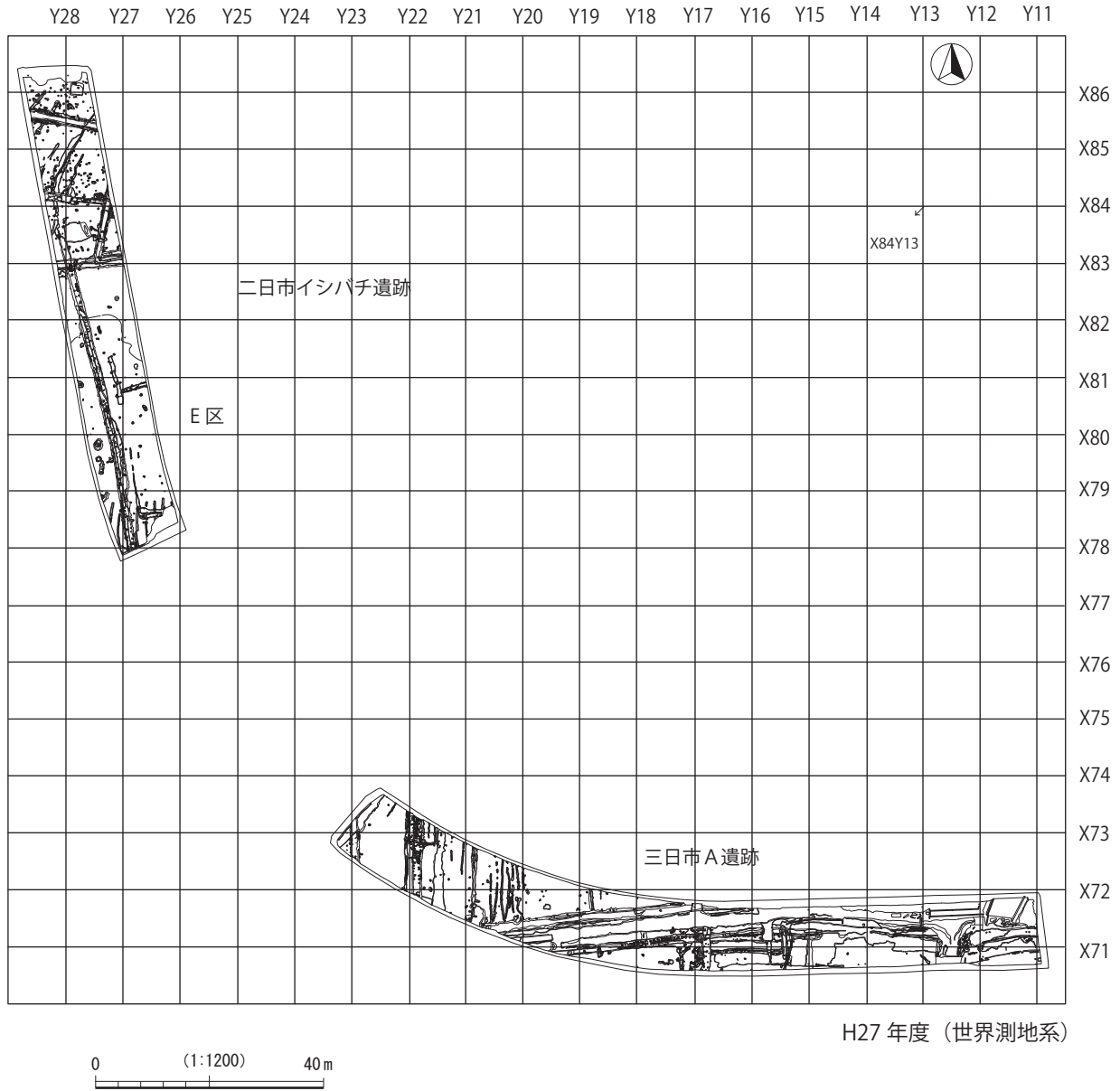
野々市市教委調査区

H24年度 (日本測地系)



H26年度 (世界測地系)

第5図 グリッド配置図1 (S=1/1,200)



第6図 グリッド配置図2 (S=1/1,200)

27ESD10 本調査区で最も長い溝である。土層断面から何度か掘り直された形跡が確認される。古い段階の底面で半月状の小さい落ち込みを多数検出した。それは連続しており、形態や検出状況から溝掘削時の工具痕と推定された。本溝内からは馬の歯(第16表)が数地点から出土した。図示した204と205は混入品である。出土遺物の大半は下層遺物であったが、上面から白磁Ⅱ類及びⅤ類が出土した。

27ESD11 東西方向に走り、重複する複数の溝の中では最も新しい。上面では多量の礫が出土した。遺物は206を図示した。

27ESD12 27ESD7に合流する東西溝である。新旧関係の有無は確認できなかった。

27ESD13・15・16・18～20 やや湾曲した平行する細溝群で、畝溝と推定される。下層包含層を掘り込んで掘削されている。

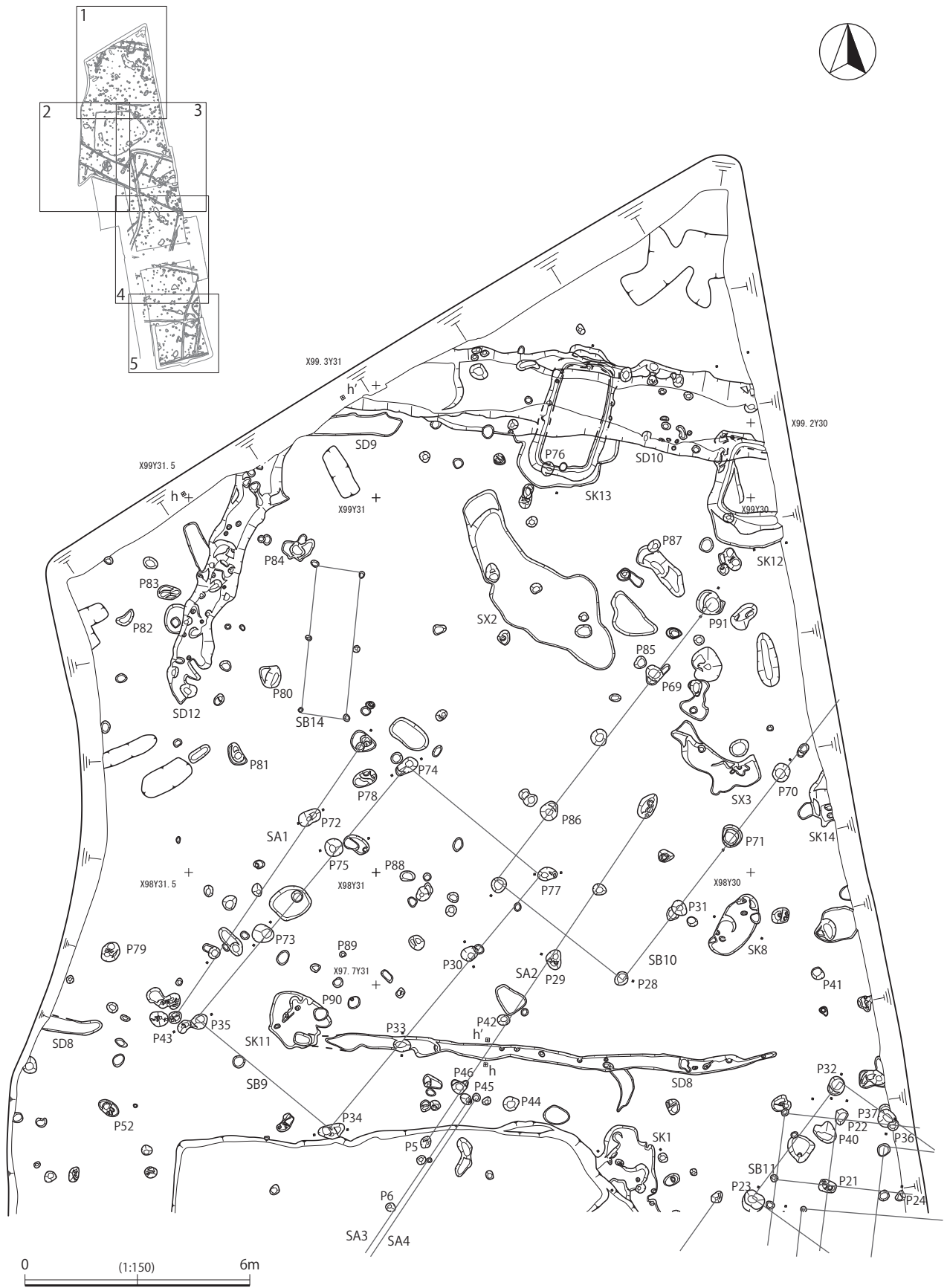
27ESD14 矩形を呈するが、南北方向に延びる箇所が畝溝群に類似することから、東西方向に延びる部分も合わせて畝溝関連遺構と推定される。



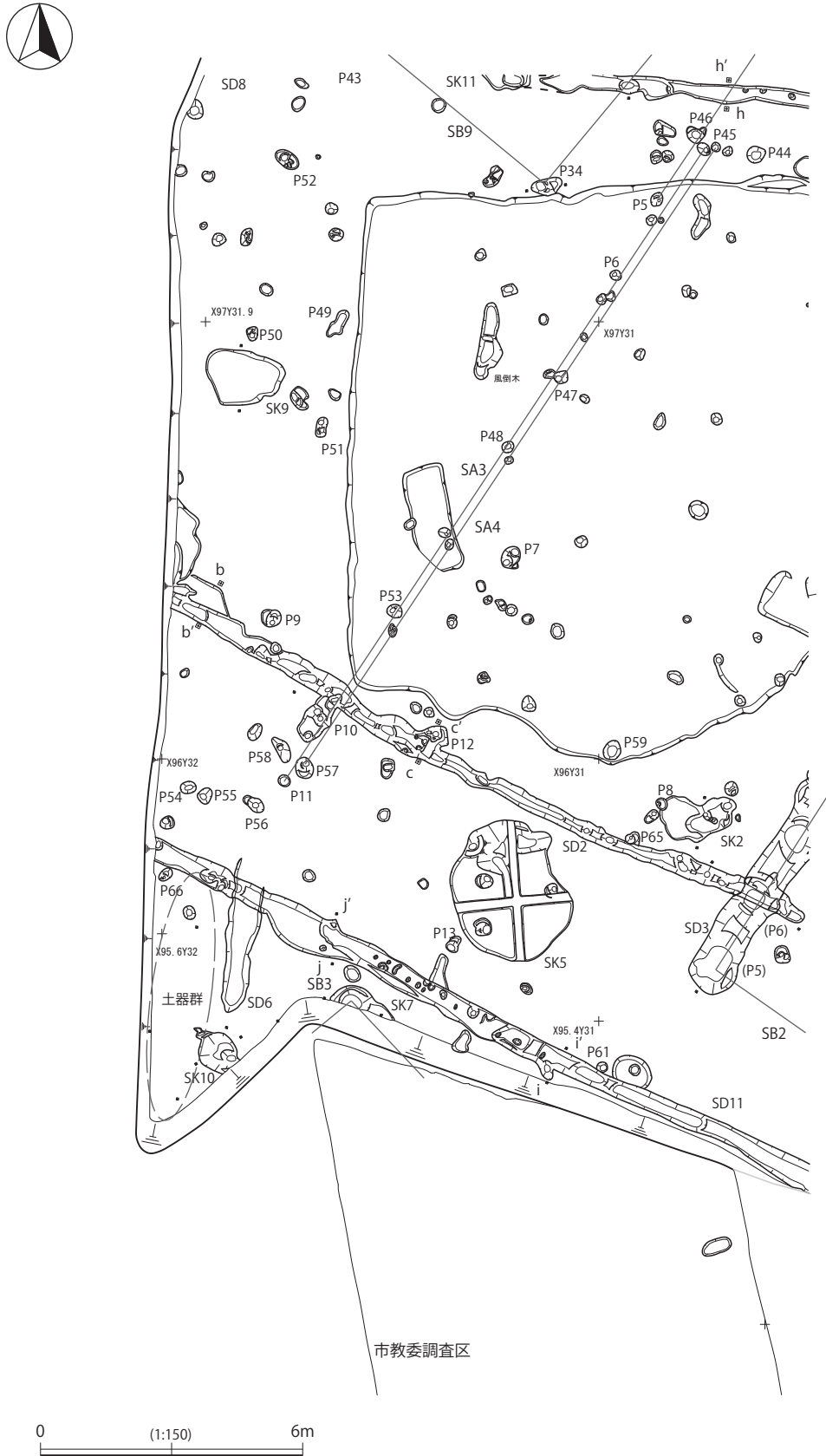
第7図 二日市イシバチ遺跡全体図1 (S=1/500)



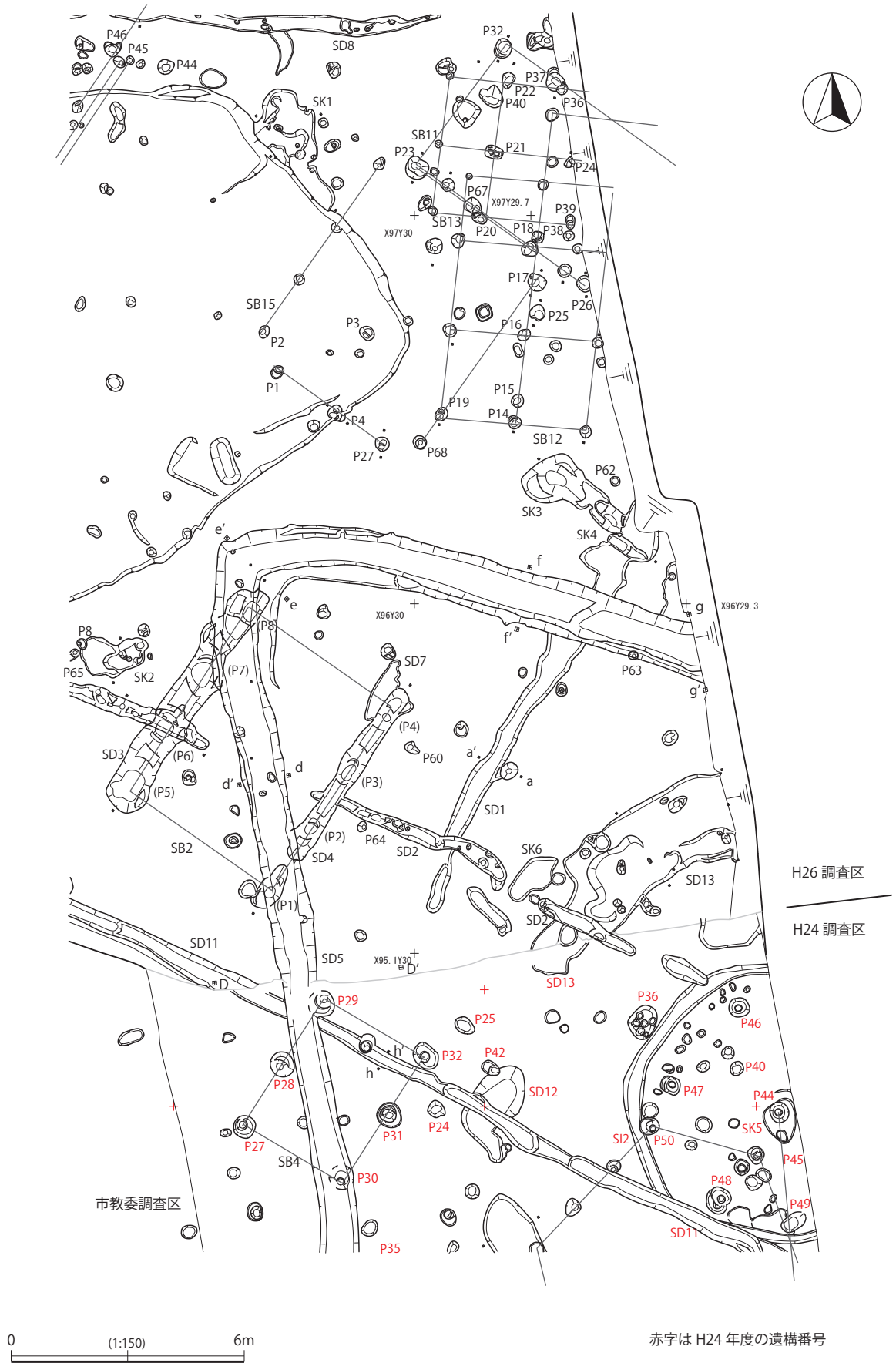
第8図 二日市イシバチ遺跡全体図2 (S=1/500)



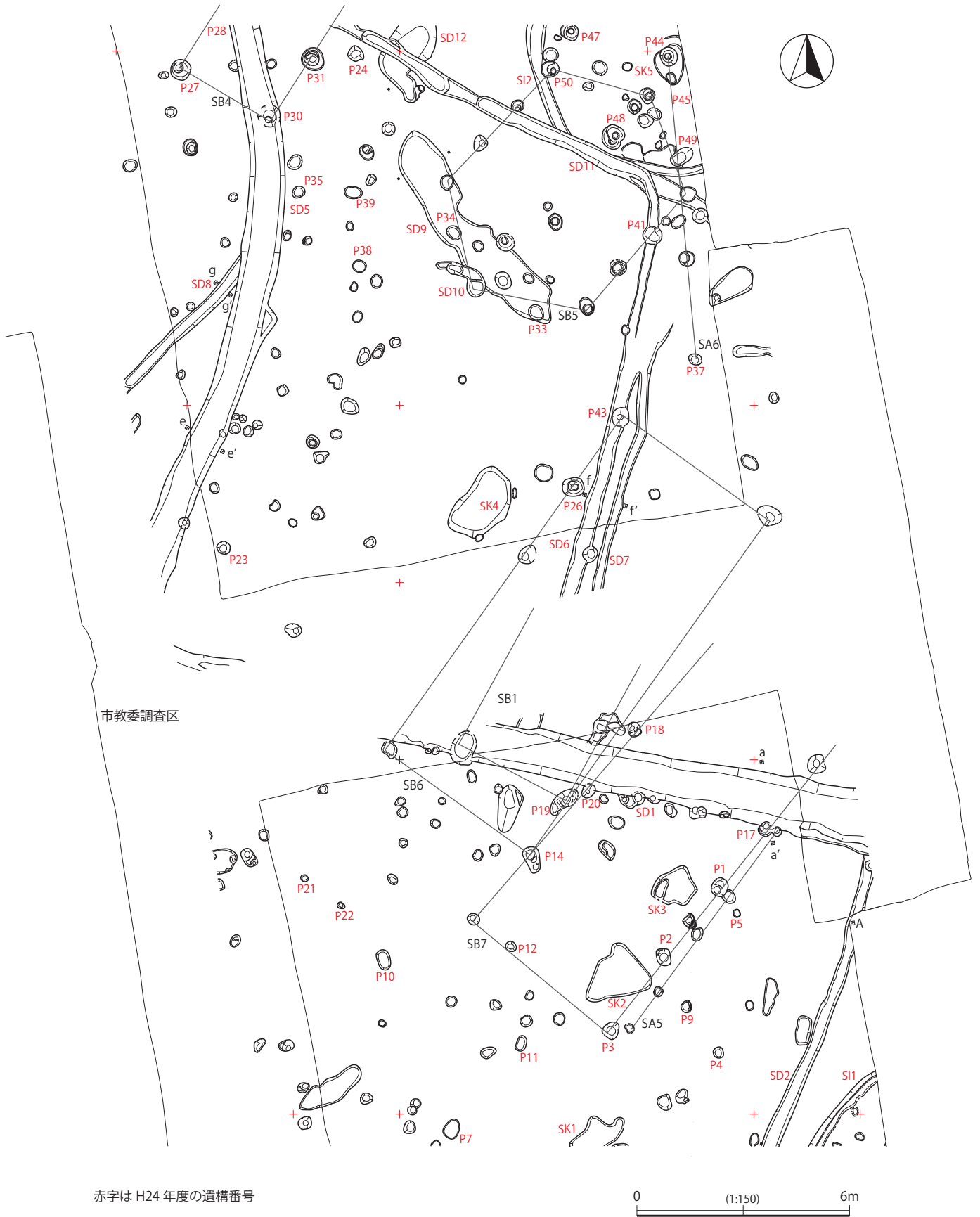
第9図 H24、H26A・B区遺構配置図1 (S=1/150)



第10図 H24、H26A・B区遺構配置図2 (S=1/150)

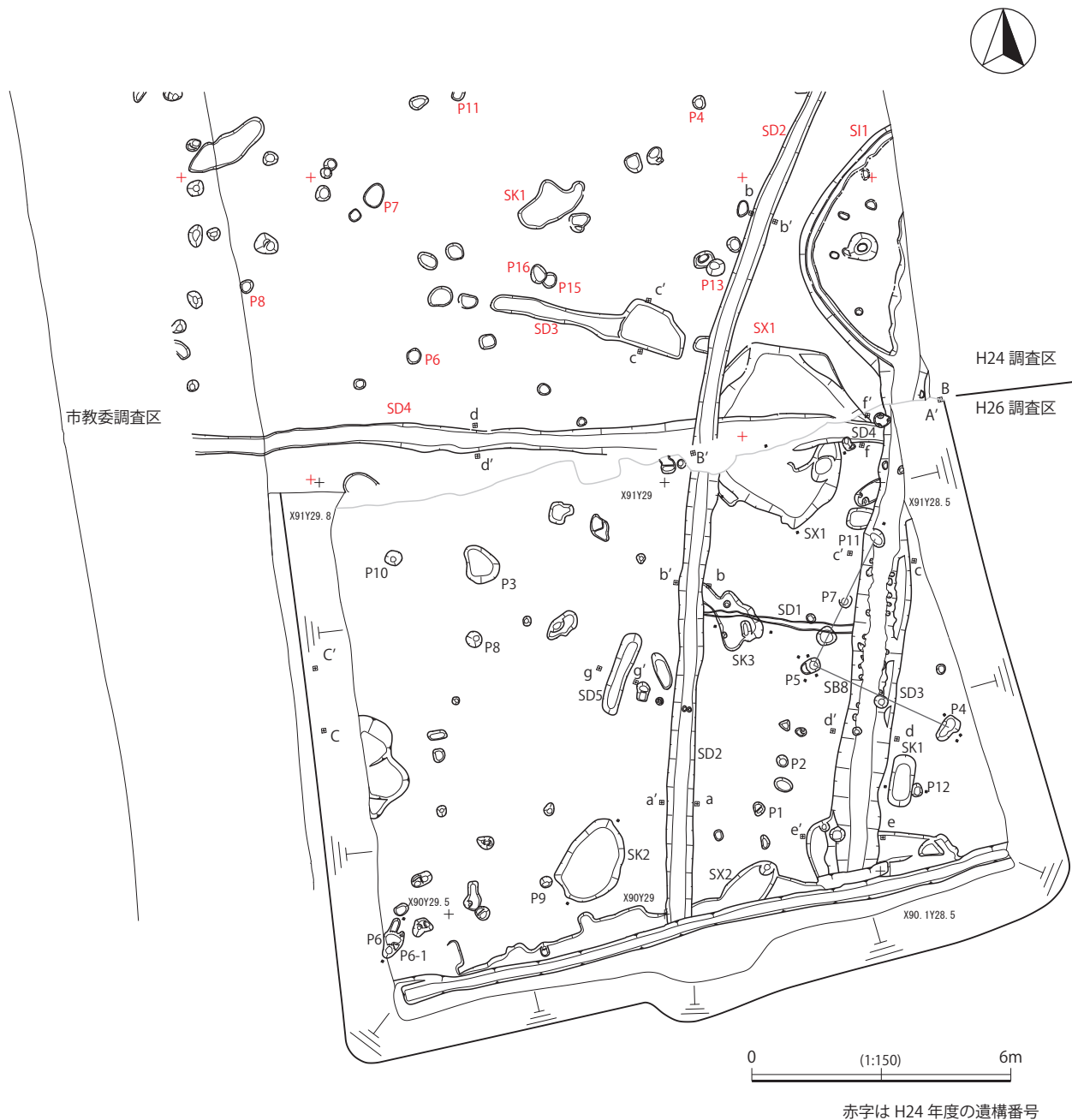


第11図 H24、H26A・B区遺構配置図3 (S=1/150)



赤字は H24 年度の遺構番号

第12図 H24、H26A・B区遺構配置図4 (S=1/150)



第13図 H24、H26A・B区遺構配置図5 (S=1/150)

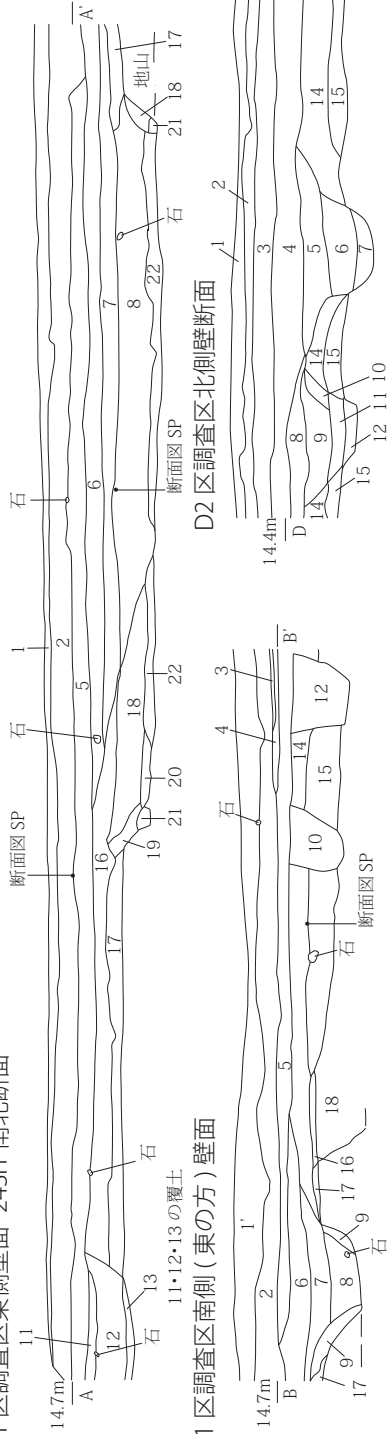
27ESD17 矩形を呈し、畝溝群と切り合う。27ESD10と平行することから何らかの区画溝であろう。幅は異なるが、北側の延長線上に27ESD21が存在する。

27ESD21・22 直行する位置関係にある溝であるが重複せず、27ESD22は27ESD21の寸前で終わっている。区画溝であろう。

④その他(第75・76図)

包含層・遺構検出面から出土した207～219を図示した。208～210は装飾器台で208は涙型の透かしが復元される。212～217は全て弥生時代終末期の甕である。本調査区は他の調査区に比して弥生時代終末期の遺物が多い。

D1区調査区東側壁面・24S11 南北断面



D1区東側～南側(東の方) 壁面・24S11 南北断面 共通

- 1 現在の地表土
- 1' 地表土を重機で動かした厚くなる(カクラン)
- 2 褐灰色土(2.5Y5/1) やや砂質
- 3 にぶい黄色土(2.5Y6/3) やや砂質
- 4 オリーブ褐色粘質土(2.5Y4/4)
- 5 褐灰色土(10YR5/1) 中世包含層
- 6 褐灰色粘質土(10YR4/1) 暗褐色土少し入る
- 7 褐灰色粘質土(10YR4/1) 6より暗褐色土多く入り暗く見える
- 8 黒褐色粘質土(2.5Y3/1)
- 9 8層の土に地山の土が数ミリの○(丸) 状に少し入る
- 6～9層はSD14の覆土
- 10 暗褐色粘質土(10YR3/3) 中世の遺構か
- 11 黒褐色粘質土(10YR2/2)と黄褐色土(2.5Y5/4、地山の土?) 半々に入る
- 12 黒褐色粘質土(10YR3/1) 地山の土(少し) 入る
- 13 黒褐色粘質土(10YR3/1) 地山の土入る
- 11～13層はSD2の覆土
- 14 黒褐色粘質土(10YR3/1)
- 15 灰黄褐色シルト～粘質土(10YR4/2) SD4 覆土
- 16 黒褐色粘質土(10YR3/1) 弥生終末～古墳初頭の包含層
- 17 黒褐色粘質土(10YR3/1) 地山の土(少し) 入る
- 18 黒褐色粘質土(10YR2/1) ..堅六状遺構の覆土
- 19 黒褐色粘質土(10YR3/1) 地山の土入る
- 20 暗褐色粘質土(10YR3/3) 地山の土入る
- 21 暗褐色粘質土(10YR3/3) 壁溝の覆土
- 22 黄褐色シルト(2.5Y5/4)と約10cm以下の石の混ざった層 ...貼り床
- 18～21層はS11の覆土
- 18層はS11とSX1の共通覆土で同時期の遺構と考える

D1区調査区南側(東の方) 壁面

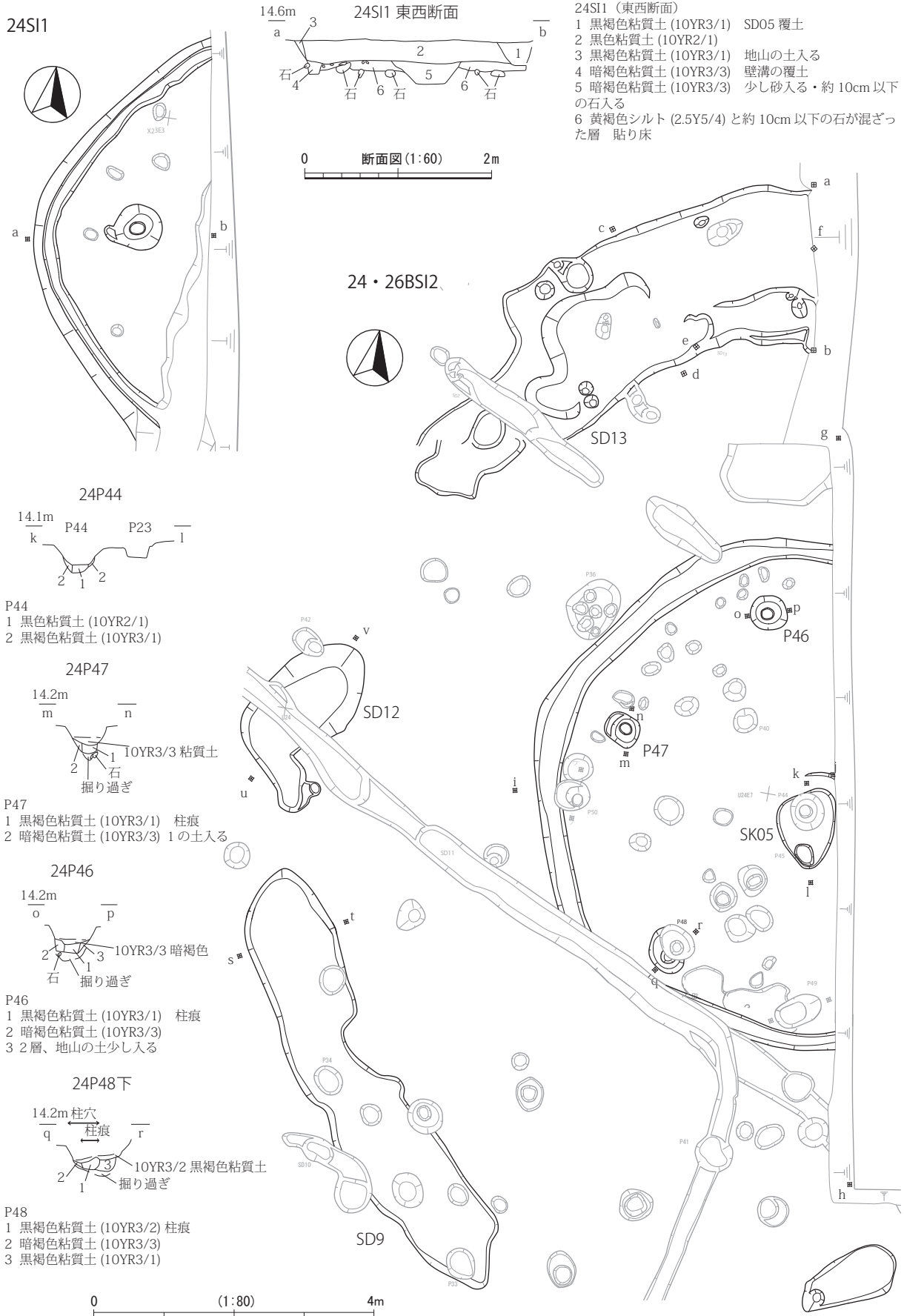
D2区調査区北側壁断面

- 1 表土 コンクリート、石が入る(カクラン)
- 2 褐灰色土(2.5Y5/1) D2区東側壁面3層
- 3 灰黄褐色土(10YR2/2) 4層
- 4 褐灰色土(10YR5/1) やや粘質 5層
- 5 褐灰色粘質土(10YR4/1)
- 6 褐灰色粘質土(10YR4/1) 5層よりやや明るい
- 7 褐灰色粘質土(10YR4/1) 地山の土が少し入る
- 4～7層はSD5の覆土
- 8 黒褐色粘質土(10YR3/1) 褐灰色粘質土(10YR4/1) 入る
- 9 暗褐色粘質土(10YR3/3) 黒褐色粘質土・黄褐色土(地山土?) 少し入る D2区東側壁面7層
- 10 黒褐色粘質土(10YR3/1) 9層が少し入る
- 11 黒褐色粘質土(10YR2/2) " " D2区東側壁面8層
- 9～12層はSD11の覆土 " " 9層
- 12 黒褐色粘質土(10YR2/1) 地山の土少し入る D2区東側壁面10層
- 13 黒褐色粘質土(10YR3/1) 褐色粘質土少し入る " " 11層
- 14 黒褐色粘質土(10YR2/2) 褐色粘質土少し入る " " 13層
- 15 黒褐色粘質土(10YR3/1) 地山の土少し入る

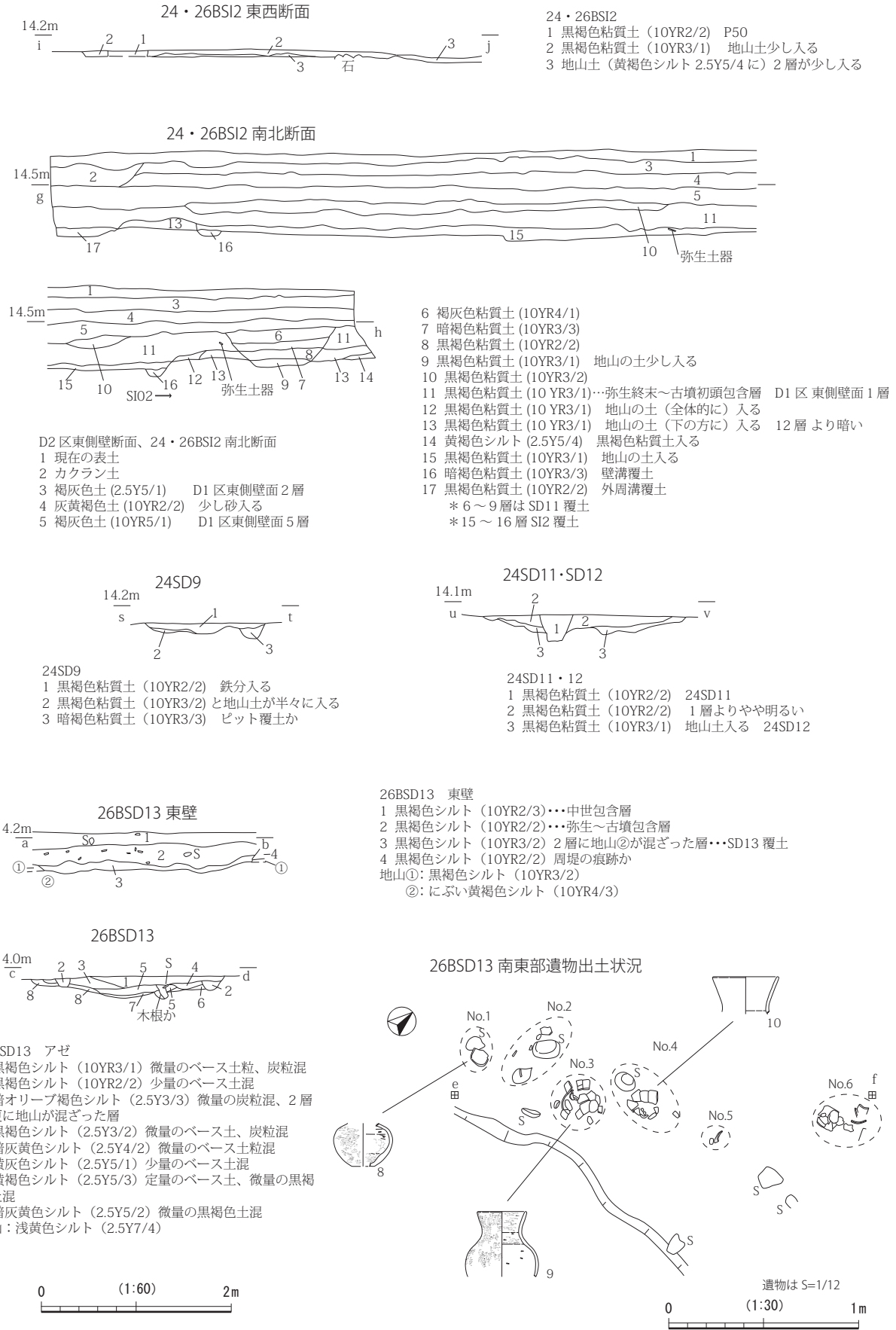
C区西壁基本土層・中世溝

- 1 褐色シルト(10YR4/4)
 - 2 暗褐色シルト(10YR3/3)
 - 3 黒褐色シルト(10YR3/2)
 - 4 褐色シルト(10YR4/4)
 - 5 黒褐色シルト(10YR2/3)
- C区西壁 基本土層・中世溝
- 1 褐色シルト(10YR4/4)
 - 2 暗褐色シルト(10YR3/3)
 - 3 黒褐色シルト(10YR3/2)
 - 4 褐色シルト(10YR4/4)
 - 5 黒褐色シルト(10YR2/3)
- 地山：黒褐色シルト(10YR3/4) 暗褐色シルト(10YR2/2) 暗褐色土(10YR3/4) 帯状に混
1層は20～30cm程の堆積で、その上はバラス
4・5層は東西方向にあった中世溝
7・8層は南北方向の中世溝
9・11層は同一層か.....弥生・古墳の包含層

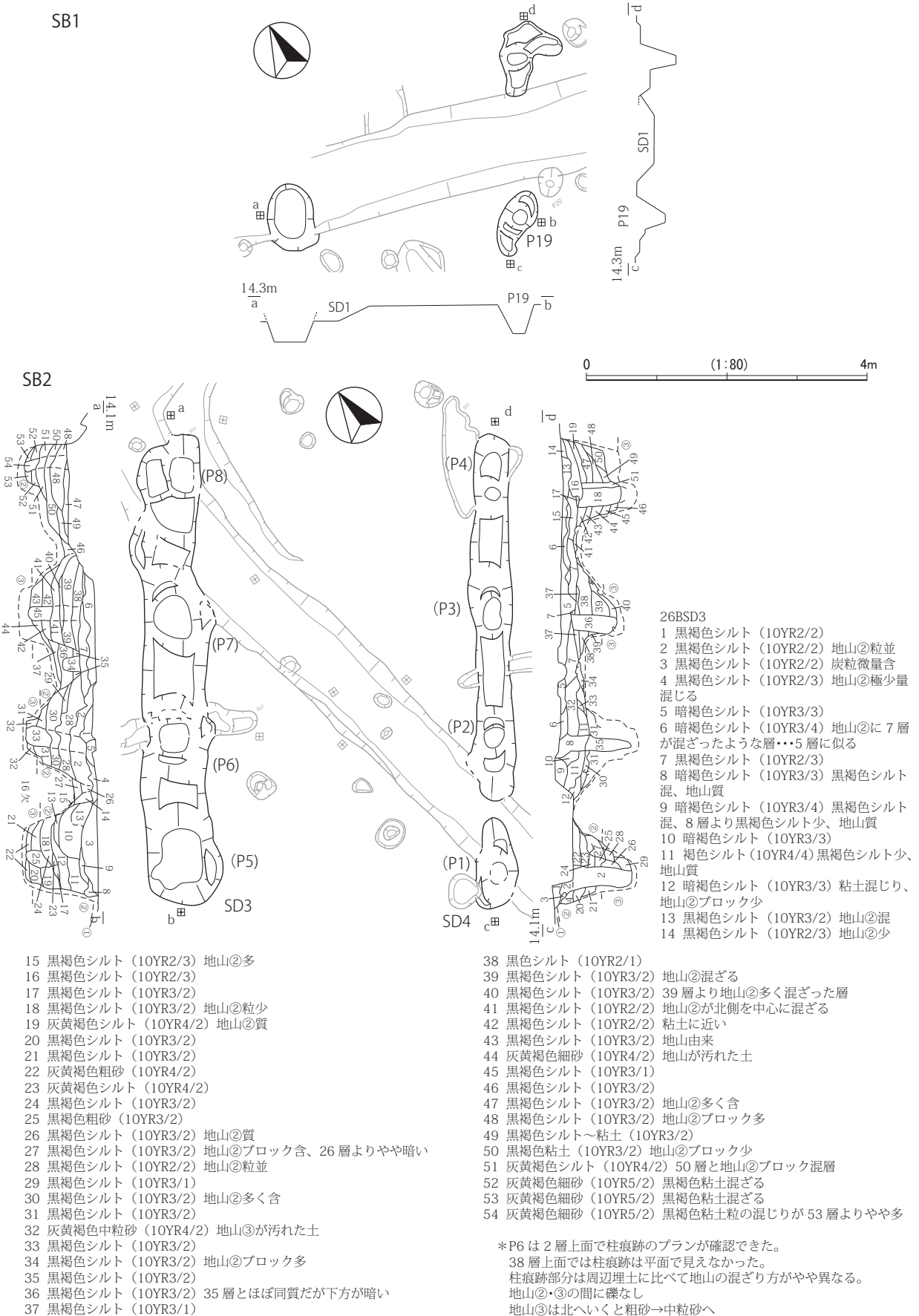
第14図 H24・26年度基本土層図(S=1/60)



第15図 24SI1、24・26BSI2 遺構図 (S=1/60、1/80)



第16図 24・26BSI2 遺構図(S=1/30、1/60)



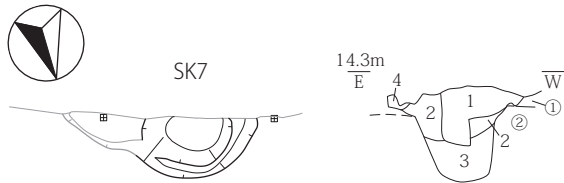
第17図 SB1・2遺構図(S=1/80)

26BSD4

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3)
- 2 黒褐色シルト (10YR2/3) 地山②粒少
- 3 褐色シルト (10YR4/4) 地山①の崩落土か
- 4 黒褐色シルト (10YR2/2)
- 5 黒褐色シルト (10YR2/3)
- 6 明黄褐色シルト (10YR6/6) 黒褐色シルト混、地山質
- 7 黒色粘土 (10YR2/1) シルト混
- 8 黒褐色シルト (10YR2/3) 粘土混
- 9 黒褐色シルト (10YR2/3) 地山粒少
- 10 褐色シルト (10YR4/4) 6層に似る
- 11 黒色粘土 (10YR2/1) シルト混
- 12 黒褐色粘土 (10YR2/2) シルト混
- 13 黒褐色シルト (10YR2/3) 粘土混
- 14 黒褐色シルト (10YR2/2) 地山②粒下層を中心に入る
- 15 黒褐色シルト (10YR2/2)
- 16 黒褐色粘土～シルト (10YR2/2) 15層より暗い
- 17 黒褐色粘土 (10YR2/3)
- 18 黒褐色粘土 (10YR2/2) 16層に似る
- 19 黒褐色粘土 (10YR2/3) 地山②粒多
- 20 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山②粒並
- 21 暗褐色粘土～シルト (10YR3/3)
- 22 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山②粒やや多
- 23 黒褐色シルト (10YR2/3) 地山②粒やや多
- 24 黒褐色シルト (10YR2/3) 地山②粒少
- 25 黒褐色粘土～シルト (10YR3/1)
- 26 黒褐色粘土～シルト (10YR3/2) 地山②多

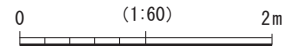
- 27 黒褐色粘土～シルト (10YR2/2)
 - 28 黒褐色粘土～シルト (10YR3/2)
 - 29 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 地山③混多
 - 30 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山②少
 - 31 黒褐色粘土 (10YR3/1) 礫多
 - 32 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山粒少
 - 33 黒褐色シルト (10YR2/2)
 - 34 黒褐色粗砂 (10YR3/2) 地山③が汚れた層・・・柱穴掘削時に掘り上げた土
 - 35 黒褐色粘土 (10YR3/1) 礫少
 - 36 黒褐色粘土 (10YR2/2) 柱痕跡
 - 37 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山②混、粘土に近い
 - 38 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘土に近い
 - 39 黒褐色粘土 (10YR2/2)
 - 40 黒褐色粗砂 (10YR2/3) 粘土混じり・・・地山③が汚れた土
 - 41 黒褐色粗砂 (10YR3/2) 地山③由来、礫多
 - 42 黒褐色シルト (10YR2/2)
 - 43 黒褐色シルト (10YR3/2) 42層に地山③が混ざった層、粗砂含
 - 44 黒褐色粘土 (10YR2/2) 地山②少混
 - 45 黒褐色粘土 (10YR2/2)
 - 46 黒褐色シルト (10YR3/2)
 - 47 黒褐色シルト (10YR3/1) 地山②少混
 - 48 黒色粘土 (10YR2/1)
 - 49 黒褐色粘土 (10YR3/1) 地山③少
 - 50 黒褐色粗砂 (10YR3/2) 礫多
 - 51 黒褐色粘土 (10YR3/1)
- 地山③: 灰黄褐色粗砂 (10YR4/2)

SB3

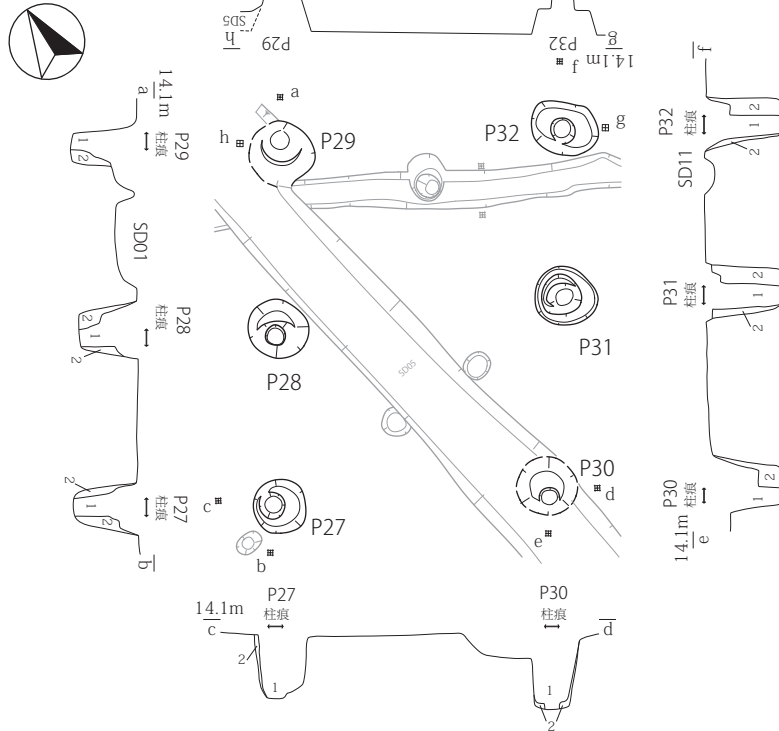


26BSK7

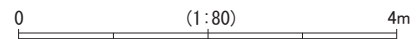
- 1 黒褐色シルト (10YR2/2) 地山②ブロック少・・・柱根抜き取り痕か
 - 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 地山含まない
 - 3 黒褐色シルト (10YR2/2) 地山②ブロック並
 - 4 黒褐色シルト (10YR2/2) 少し灰色味がある・・・工事埋土？
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR3/2)
 ②: 褐色細砂 (10YR4/4)



SB4

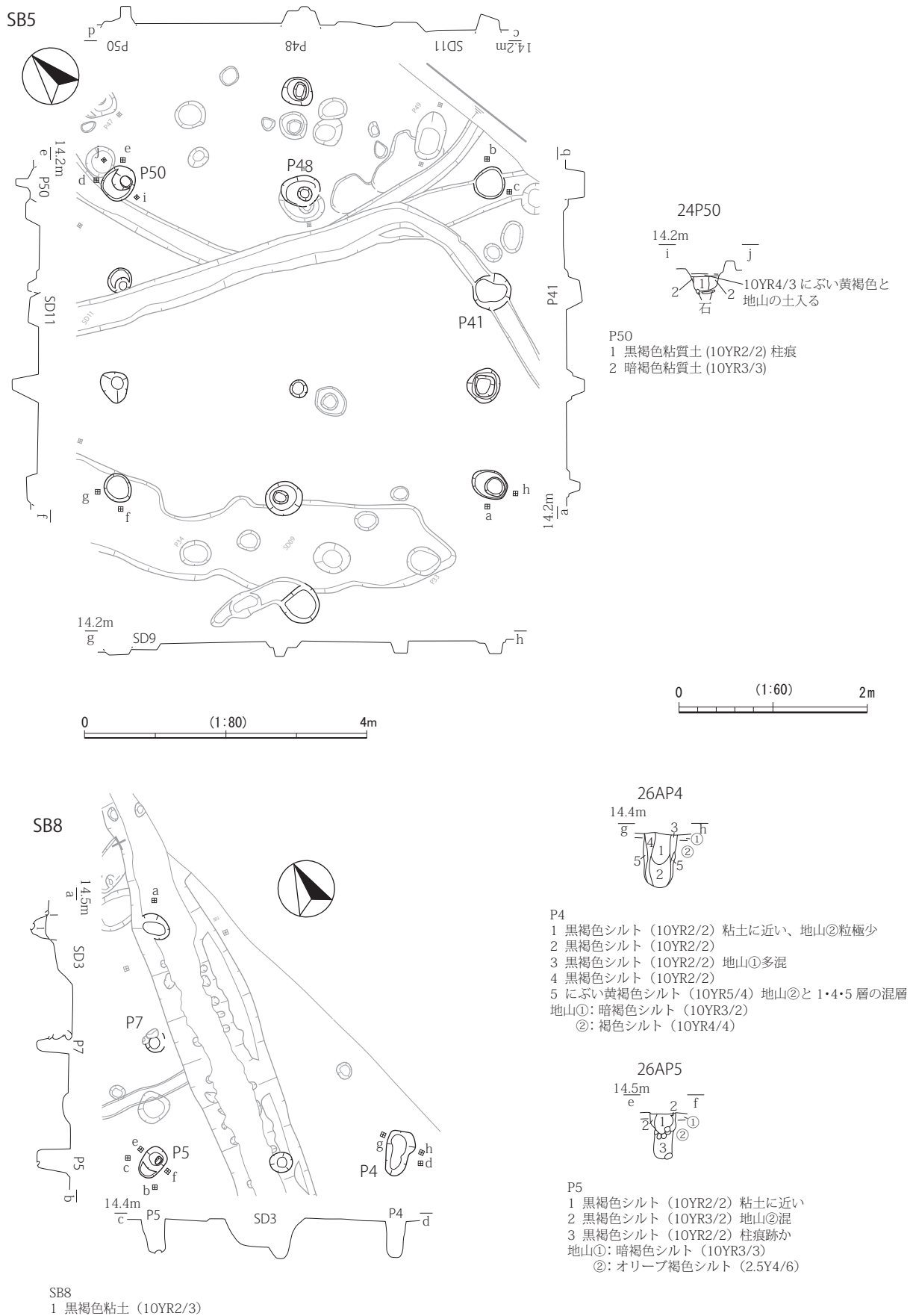


- SB4- P27・28・29・30・31・32 共通
- 1 黒褐色粘質土 (10YR2/2)
 - 2 黒褐色粘質土 (10YR3/1-3/2) 地山の土に入る

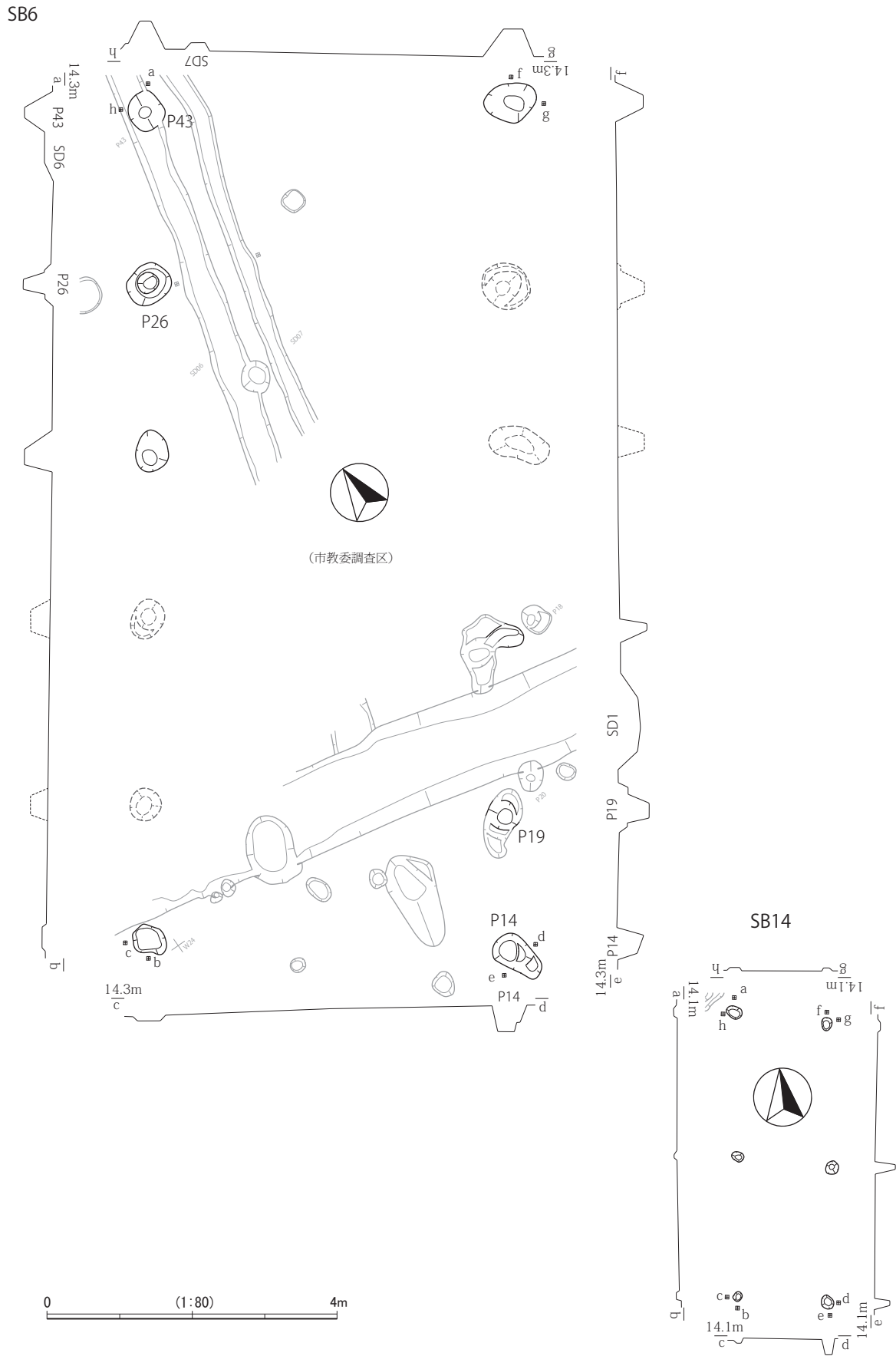


第18図 SB2～4遺構図(S=1/60, 1/80)

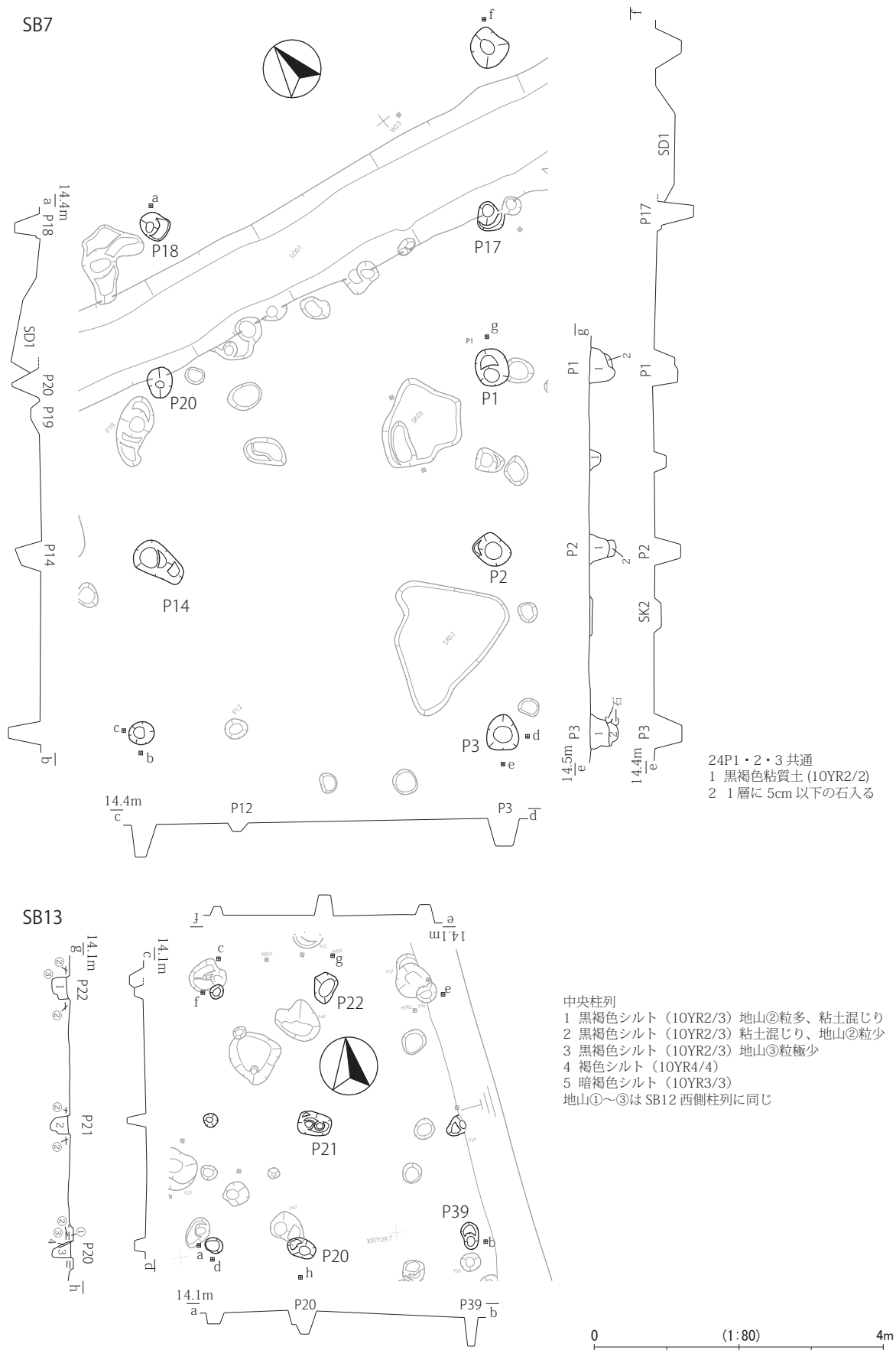
第3節 遺構と遺物



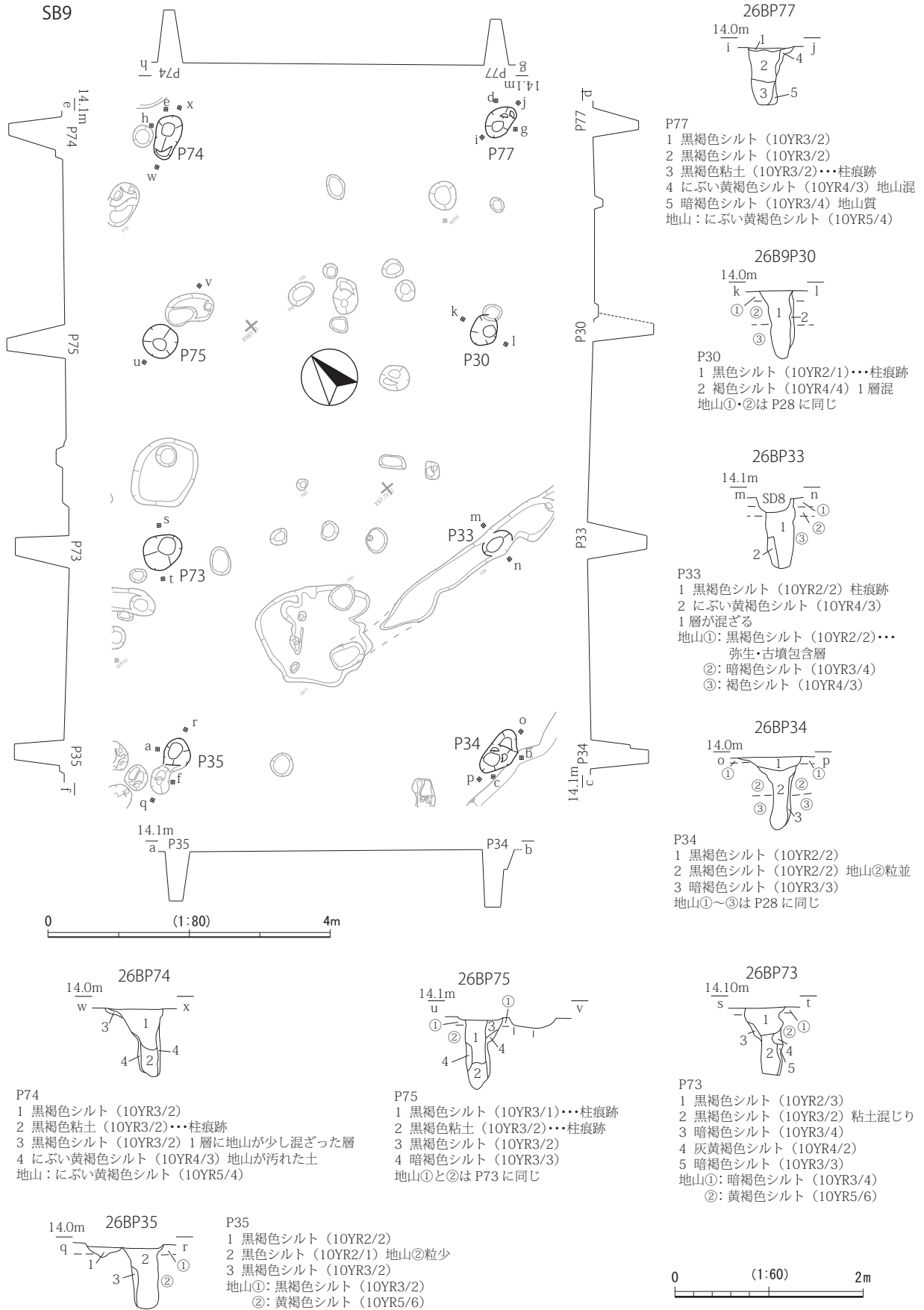
第19図 SB5・8遺構図(S=1/60、1/80)



第20図 SB6・14遺構図(S=1/80)

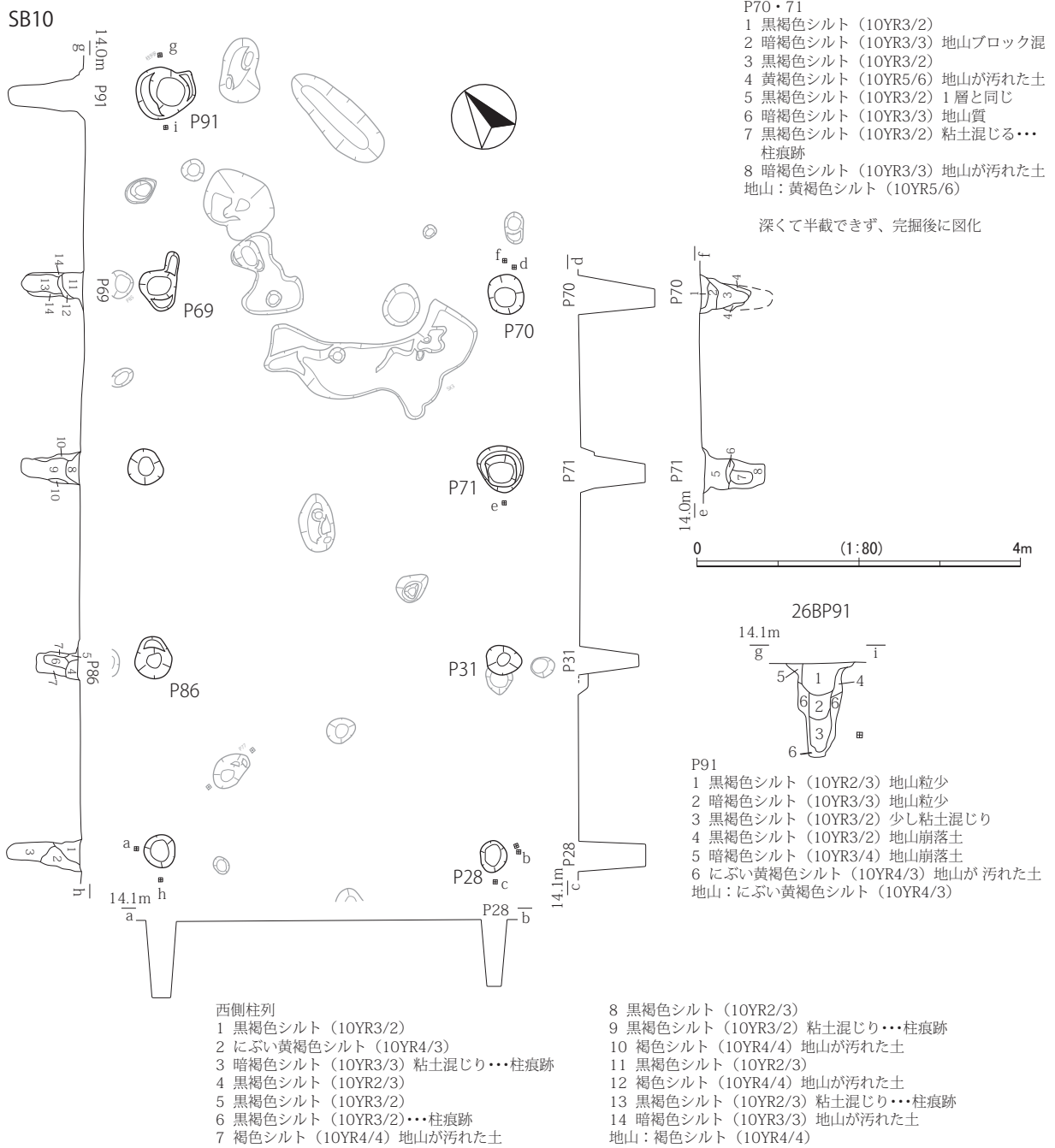


第21図 SB7・13遺構図(S=1/80)

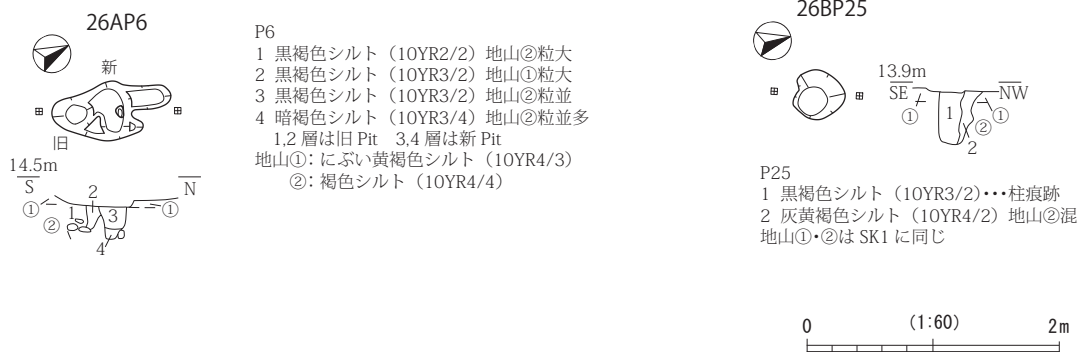


第22図 SB9 遺構図(S=1/60、1/80)

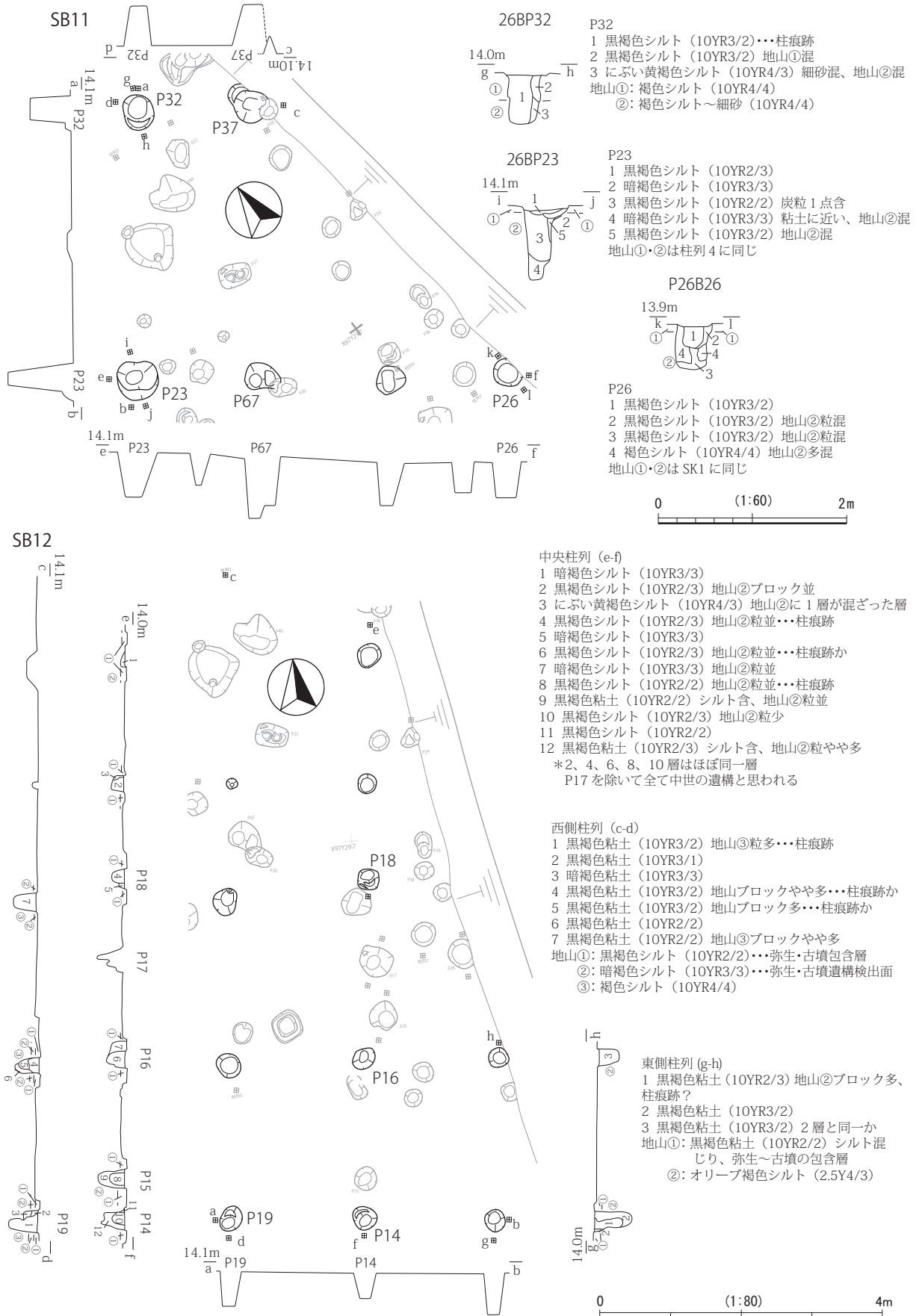
第3節 遺構と遺物



その他柱穴

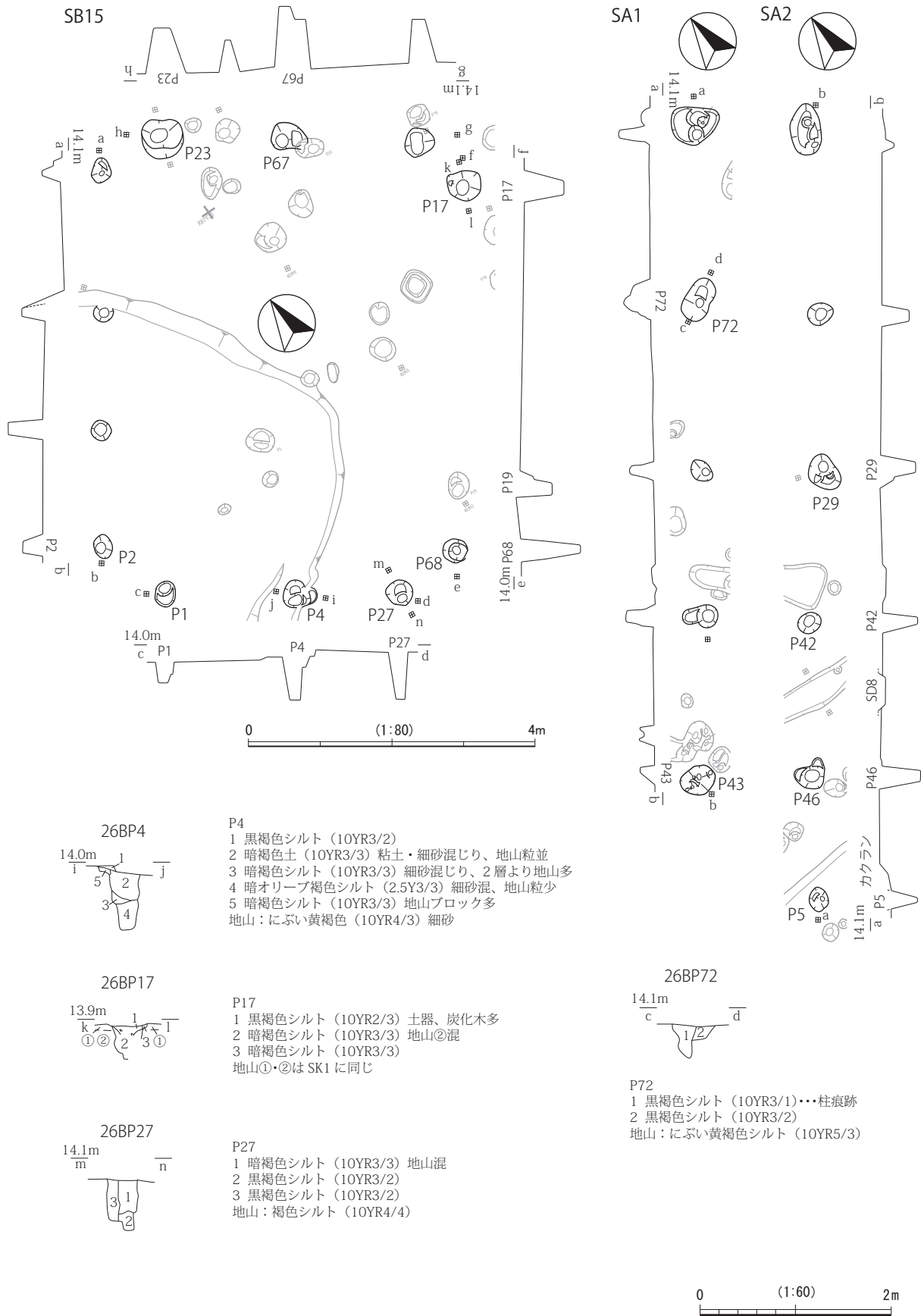


第23図 SB10、柱穴遺構図(S=1/60、1/80)

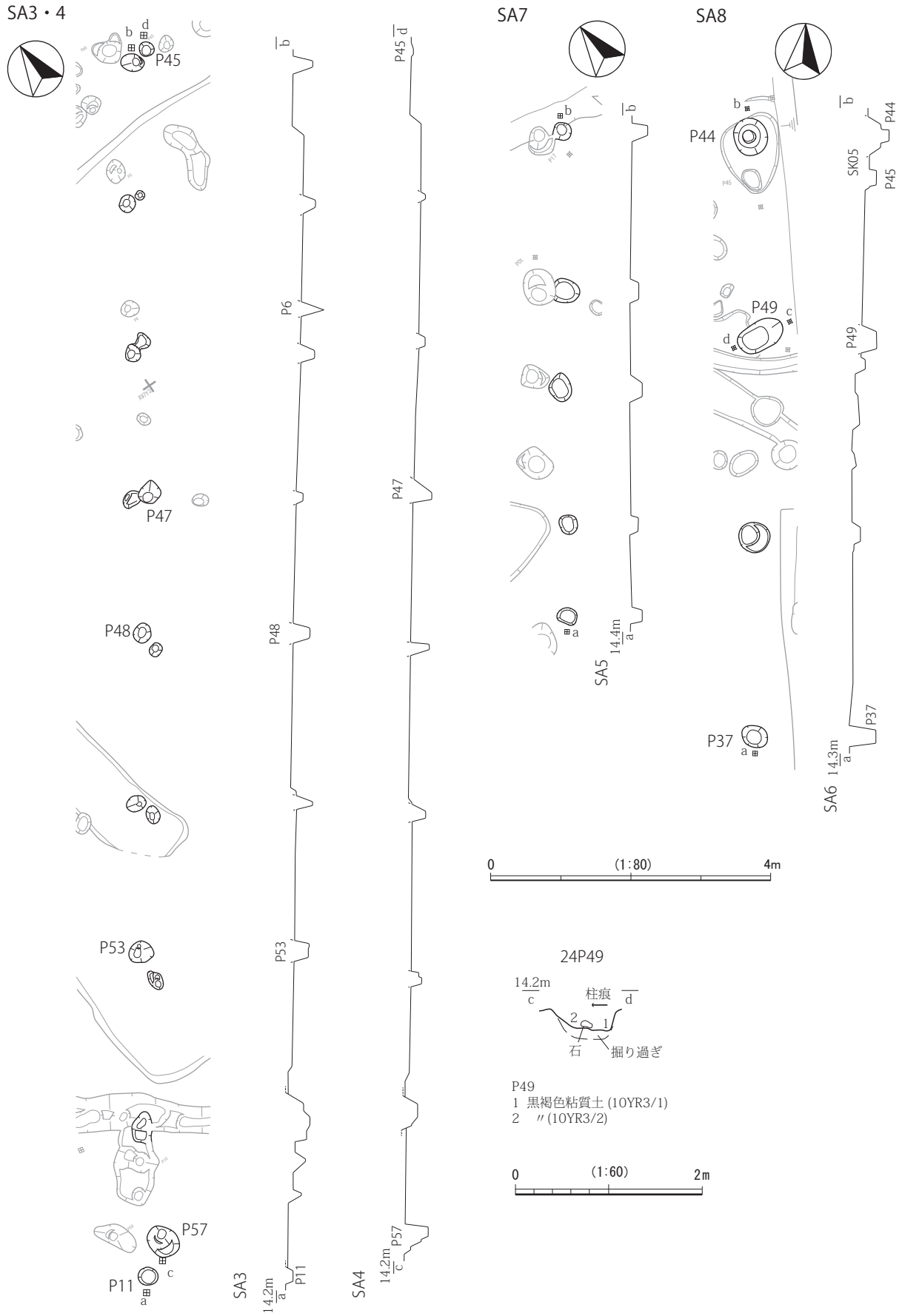


第24図 SB11・12遺構図(S=1/60, 1/80)

第3節 遺構と遺物

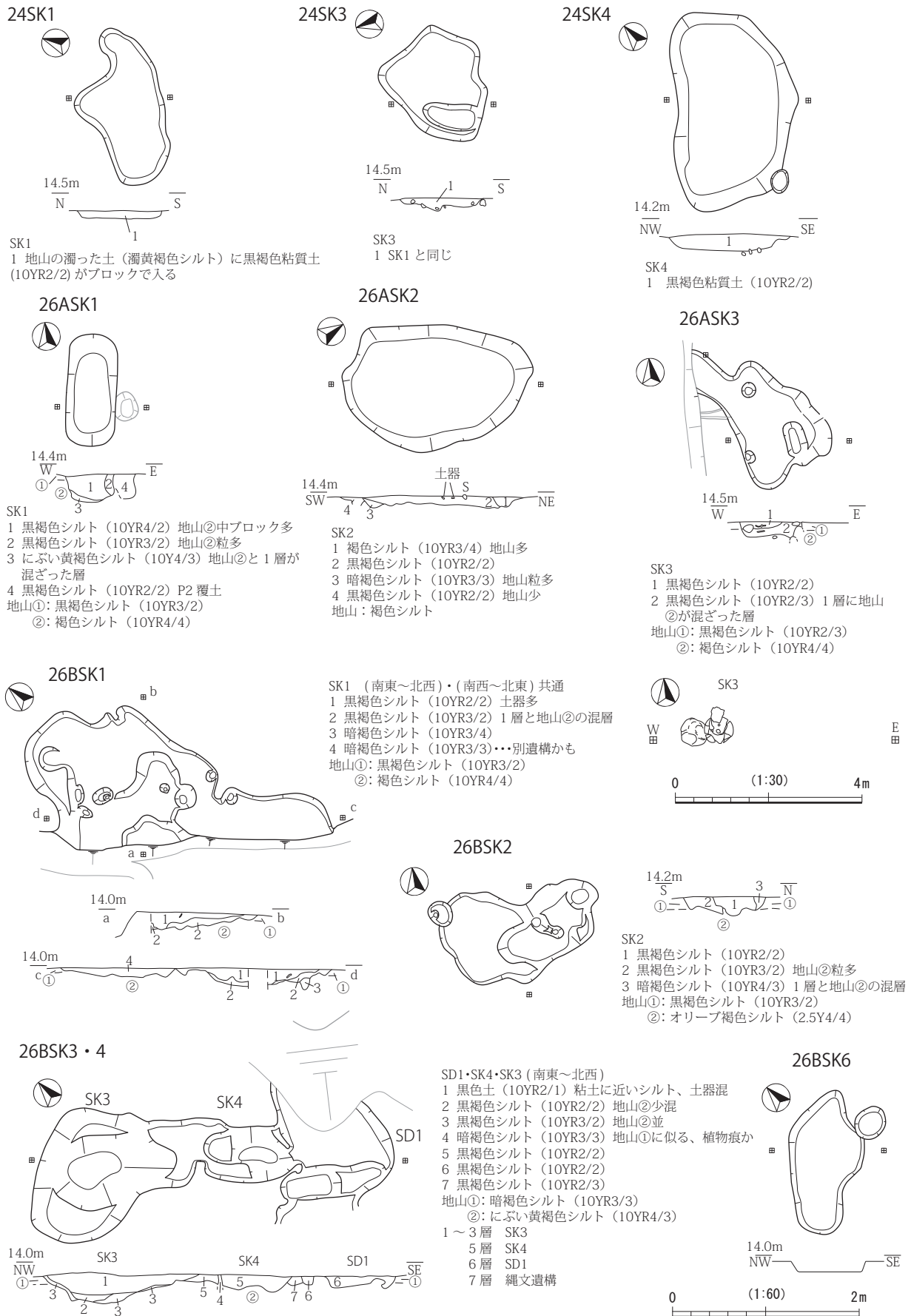


第25図 SB15、SA1・2遺構図(S=1/60、1/80)

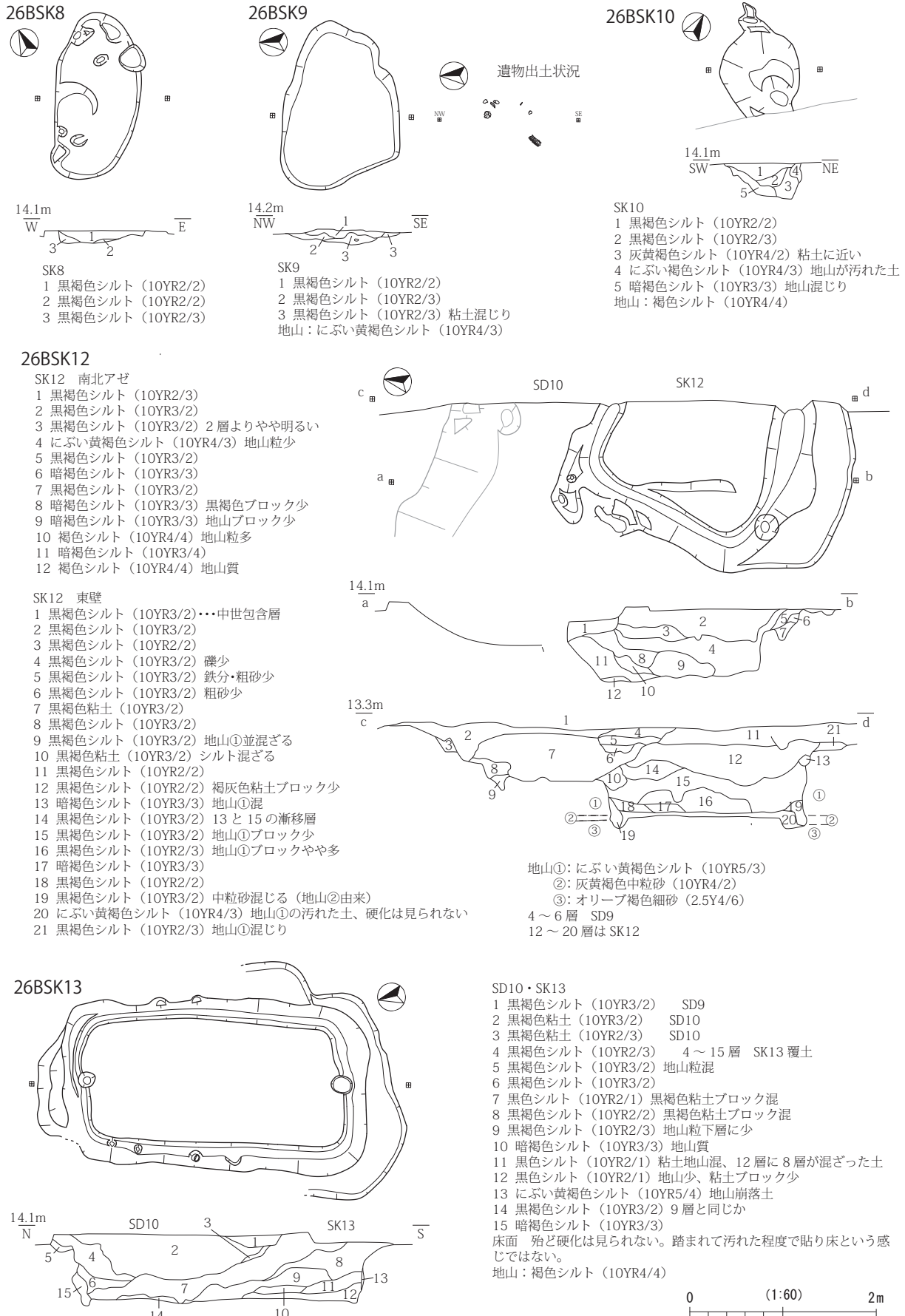


第26図 SA3～6遺構図(S=1/60、1/80)

第3節 遺構と遺物

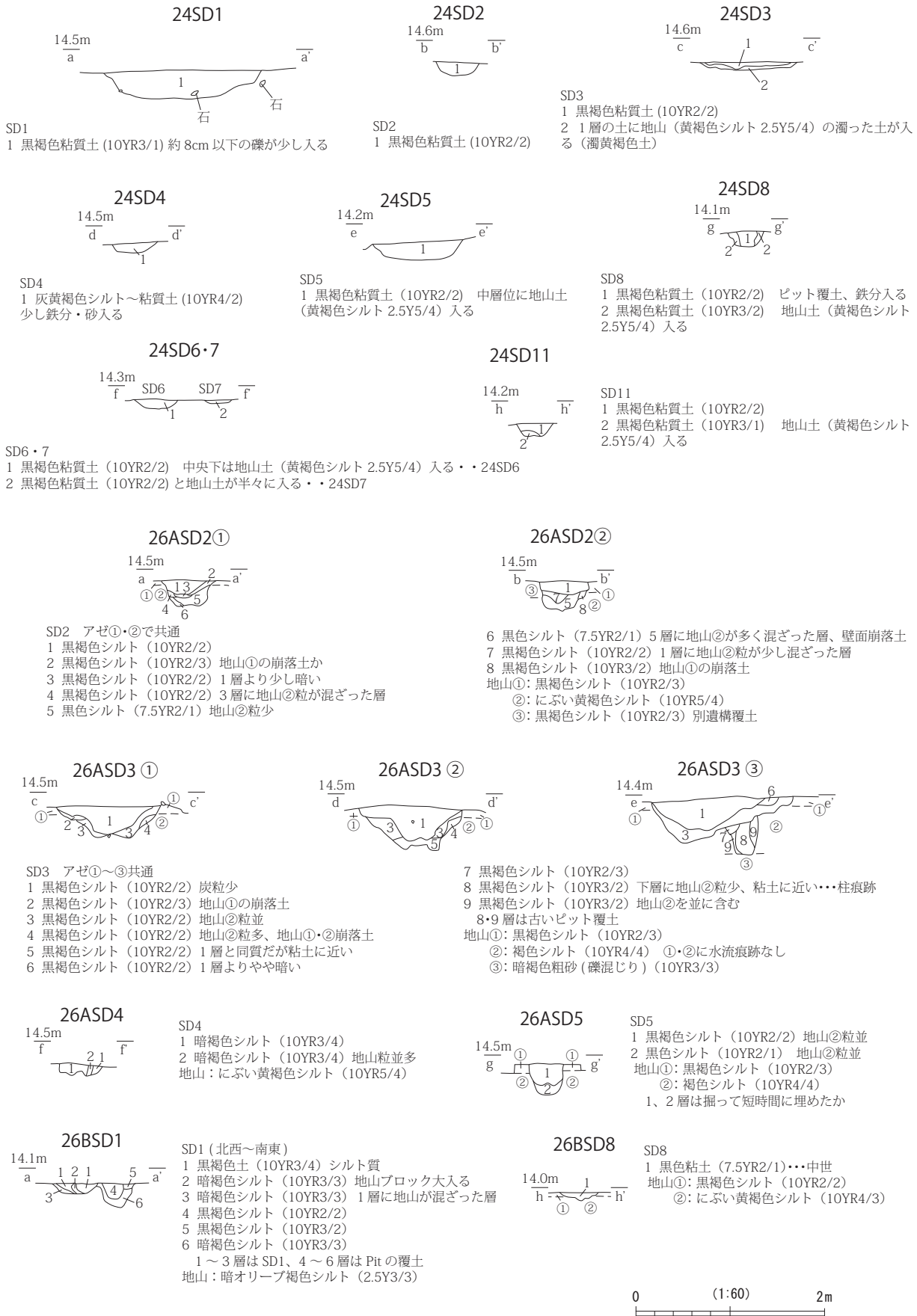


第27図 H24、H26A・B土坑遺構図(S=1/30、1/60)



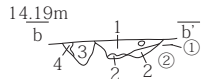
第28図 H26B区土坑遺構図(S=1/60)

第3節 遺構と遺物



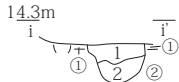
第29図 H24、H26A・B区溝遺構図(S=1/60)

26BSD2①



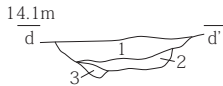
- SD2①
 1 黒褐色シルト (10YR2/2)
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山②多混
 3 黒褐色シルト (10YR2/3)
 4 黒褐色シルト (10YR2/3) 粘土少混ざる、地山②混
 地山①: 暗褐色シルト (10YR3/3)
 ②: 褐色シルト (10YR4/4)
 1~2層 SD2、3・4層 別 Pit

26BSD11①



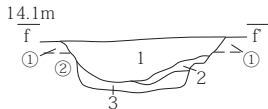
- SD11①
 1 黒褐色シルト (10YR2/2)
 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 地山大ブロック多
 地山①: 暗褐色シルト~細砂
 ②: 褐色シルト~細砂 (10YR4/4)

26BSD5①



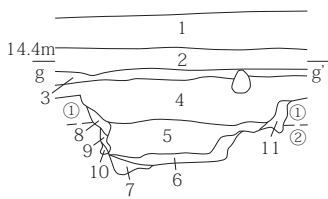
- SD5①
 1 褐灰色粘土 (10YR4/1) 地山粒少
 2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 地山粒並、灰白色粘土粒並
 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 地山粒、2層含
 地山: にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト

26BSD5③



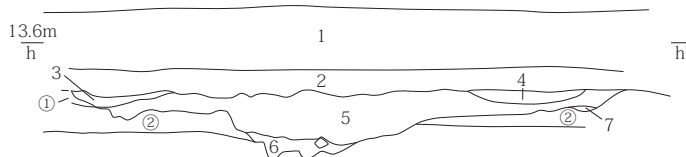
- SD5③
 1 断面①-1層
 2 黒褐色粘土 (10YR2/2) 地山粒少
 3 断面①-2層
 4 黒褐色粘土 (10YR3/1) 地山粒、2層含
 地山①: 黒褐色土 (10YR3/1) 粘土とシルトの混層...弥生~古墳の包含層
 ②: にぶい黄褐色シルト (10YR5/4)

26BSD5④



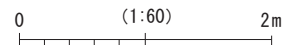
- SD5④
 1 耕土
 2 床土 鉄分沈着
 3 旧耕土か
 4 褐灰色粘土 (10YR4/1)...中世包含層
 5 断面①-1層
 6 断面①-2層
 7 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 地山②と6層が混ざった層
 8 黒褐色土 (10YR2/2) 地山①と4層が混ざった層
 9 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 地山②と5層が混ざった層
 10 褐灰色粘土 (10YR4/1) 5層と同一層
 11 黒褐色土 (10YR2/2) 地山①と4層が混ざった層
 8・11層は壁の崩落土
 地山①: 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土とシルトの混層...弥生~古墳の包含層
 ②: オリーブ褐色シルト~細砂 (2.5Y4/4)

26BSD12



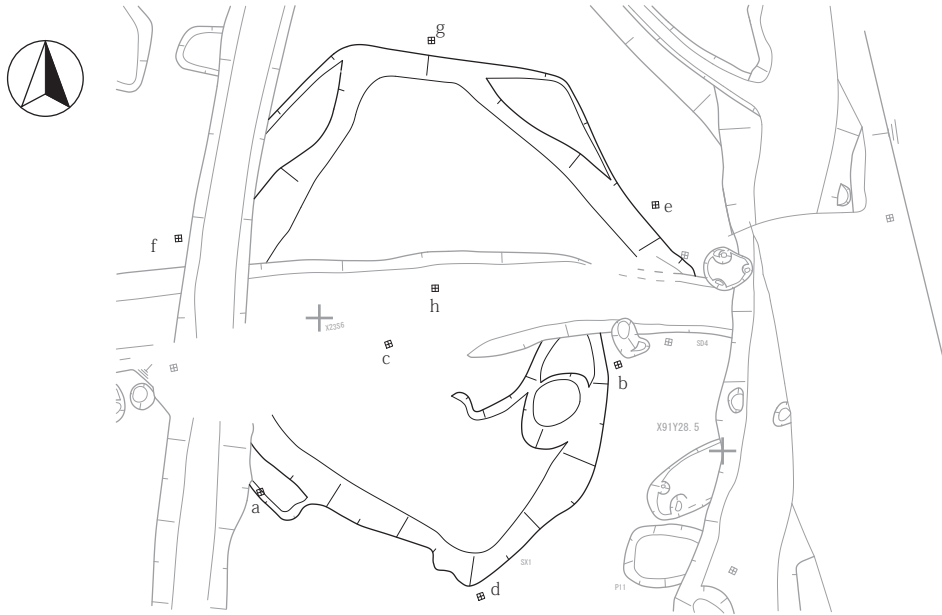
- SD12 北壁
 1 バラス層 新幹線工事のために敷設
 2 1層敷設前の盛土
 3 盛土
 4 暗灰黄色細砂 (2.5Y4/2)
 5 暗灰黄色細砂 (2.5Y4/2) 褐色中粒砂 (10YR4/4) 混ざる

- 6 褐色中粒砂 (10YR4/4) に地山②の混ざった層
 7 褐色中粒砂 (10YR4/4) に地山が混ざった層
 地山①: 黒褐色シルト (10YR3/2)...中世包含層
 ②: 黒色シルト (10YR2/1)...弥生~古墳包含層

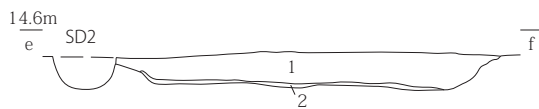


第30図 H26B区溝遺構図 (S=1/60)

24・26ASX1



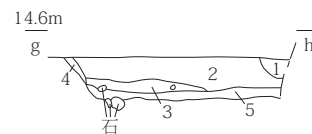
24SX1 東西断面



SX1(東西断面)

- 1 黒褐色粘質土 (10YR2/2)
- 2 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 地山の土少し入る

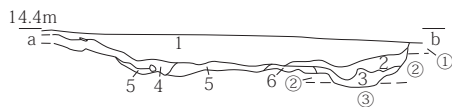
24SX1 南北断面



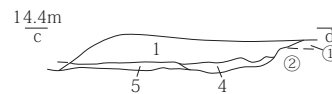
SX1(南北断面)

- 1 SD4 覆土
- 2 黒褐色粘質土 (10YR2/2)
- 3 黒褐色粘質土 (10YR3/2)
- 4 地山の土に黒褐色粘質土 (10YR3/1) が入る
- 5 黄褐色シルト (2.5Y5/4) と約 10cm 以下の石が混ざった層 貼り床

26ASX1 東西断面

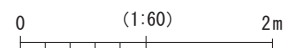


26ASX1 南北断面



SX1 東西・南北アゼで共通

- 1 黒褐色シルト (10YR2/3)
- 2 黒褐色シルト (10YR2/3) 礫少、1層に地山が混ざって少し明るい
- 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 礫少、2層に更に地山が混ざった層
- 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 1層に地山①が多く混ざった層、礫層
- 5 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山②の汚れた土
- 6 黄褐色シルト (10YR5/6) 地山②が硬化している、貼り床風だがこの部分のみ
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR3/2)
- ②: 黄褐色シルト (10YR5/6)
- ③: 黒褐色シルト (10YR3/2)+礫



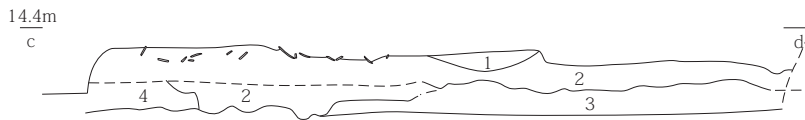
第31図 24・26ASX1 遺構図(S=1/60)

26B 土器溜まり

d
田

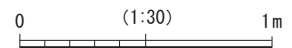


26B 土器溜まり

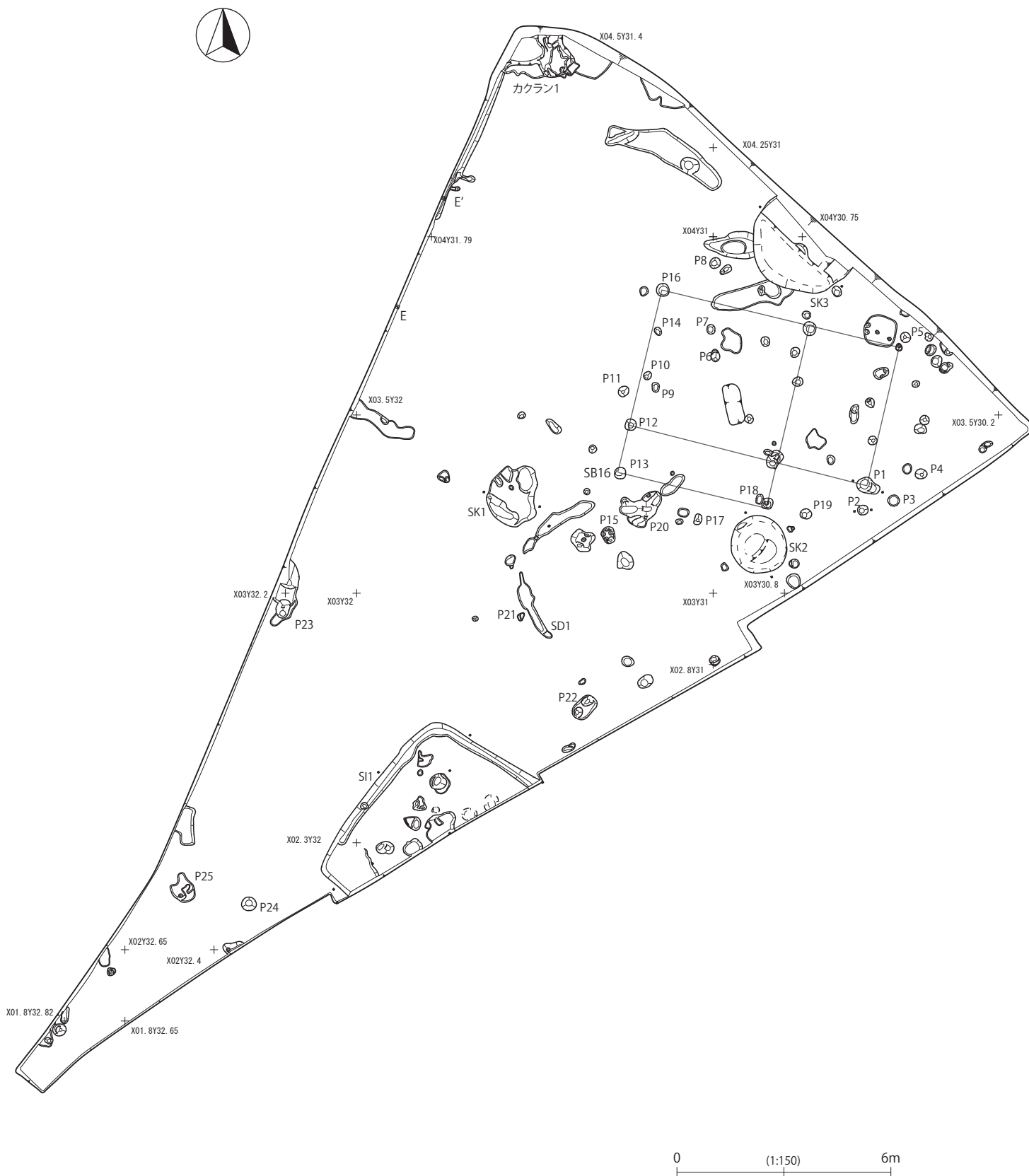


土器溜まり 東西断面

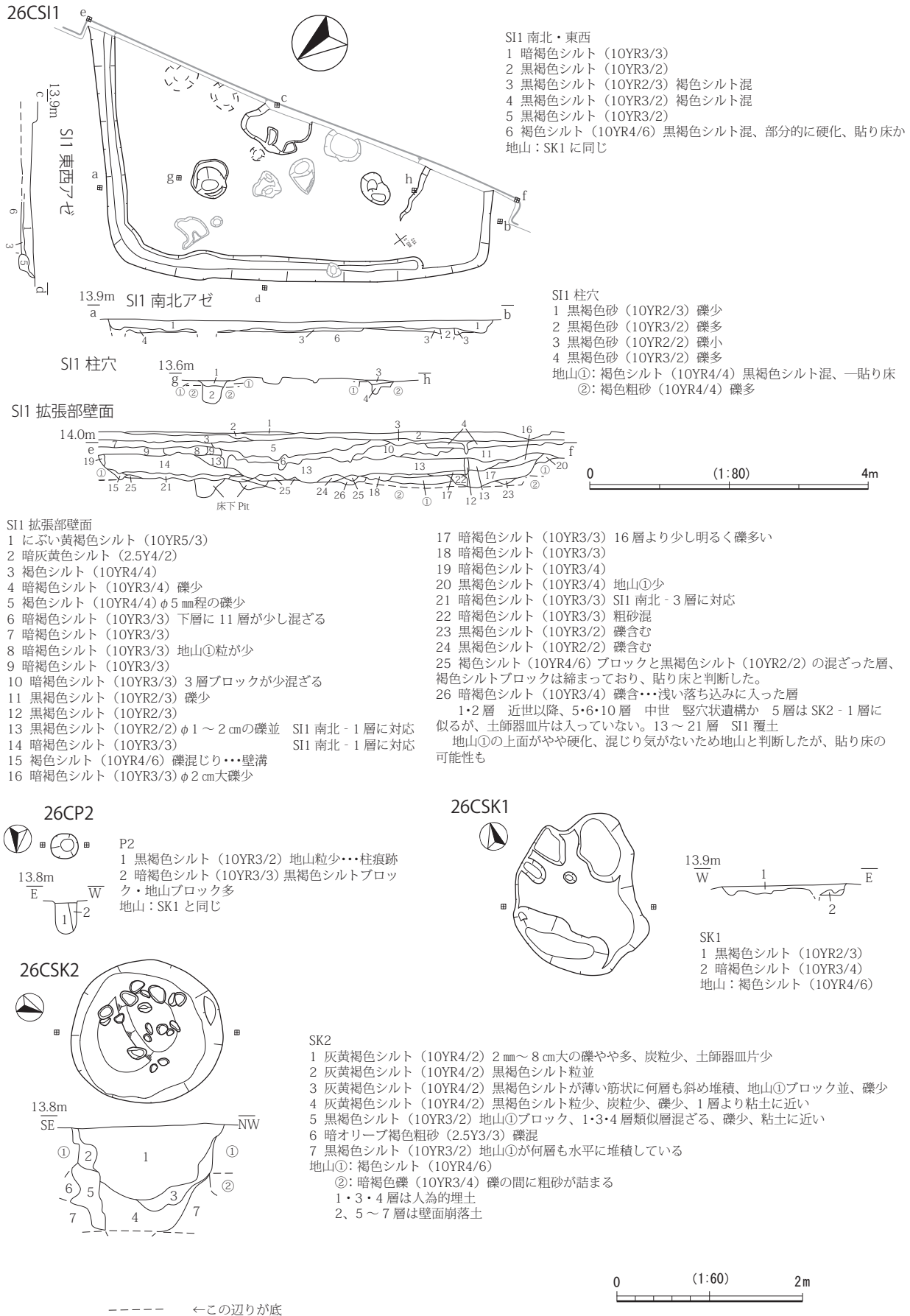
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 褐灰色粘土ブロック斑に入る、中世溝覆土
 - 2 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土とシルト混じり、弥生・古墳の包含層と同じか
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山によく似る
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2)
- 地山：褐色粘土 (10YR4/4) 黒褐色土混、弥生・古墳の包含層



第32図 26B区土器溜まり実測図(S=1/30)

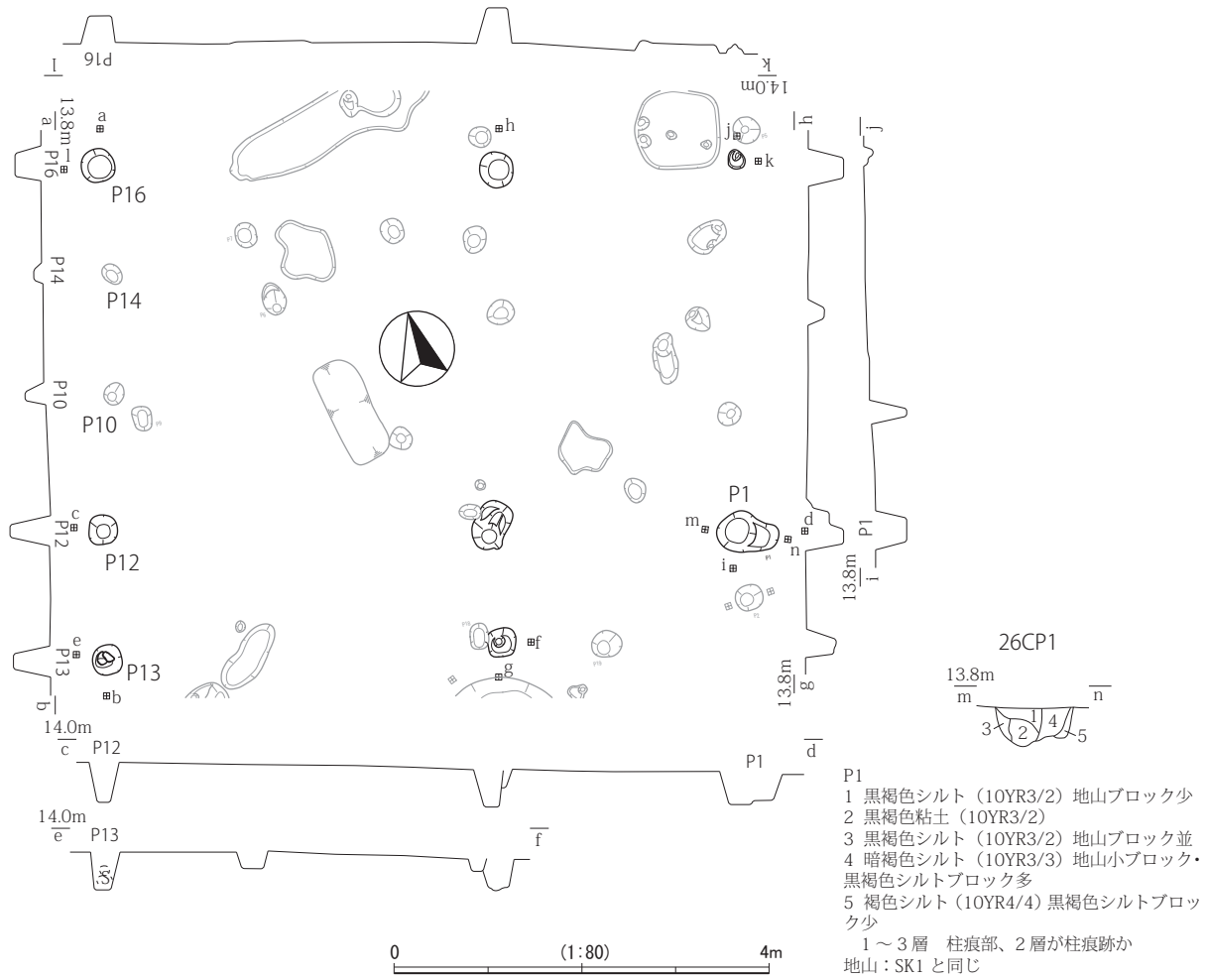


第33図 H26C区遺構配置図(S= 1 /150)

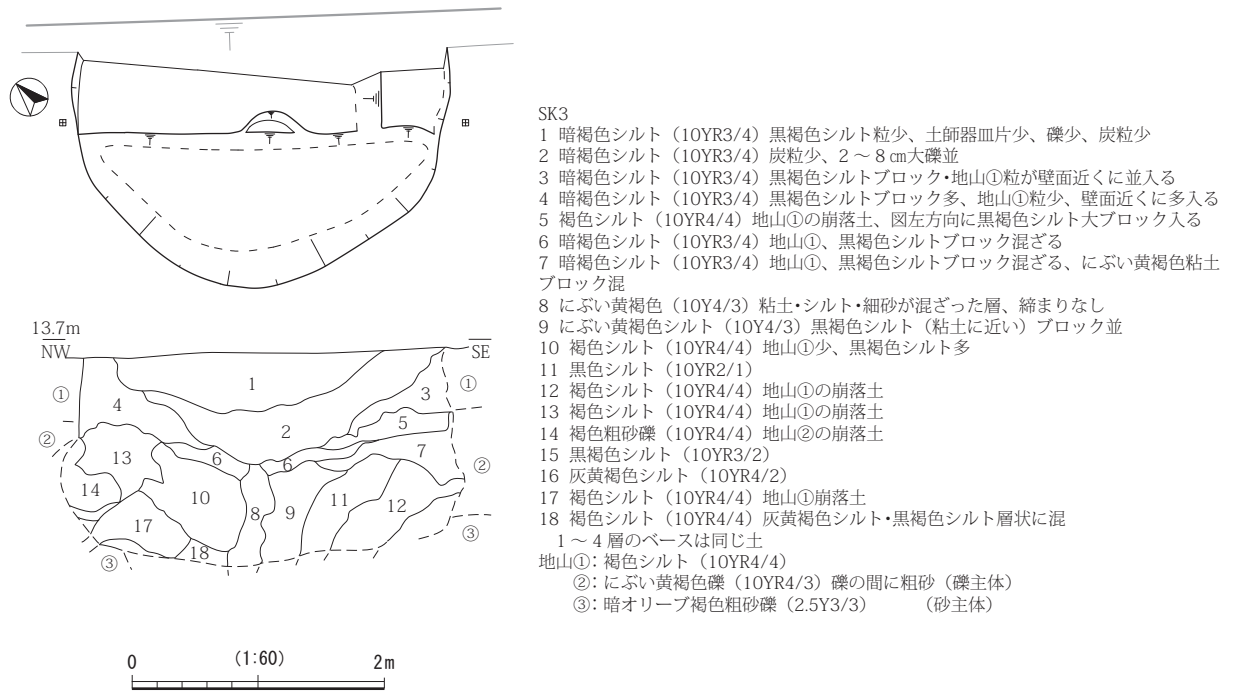


第34図 H26C区遺構1 (S=1/60, 1/80)

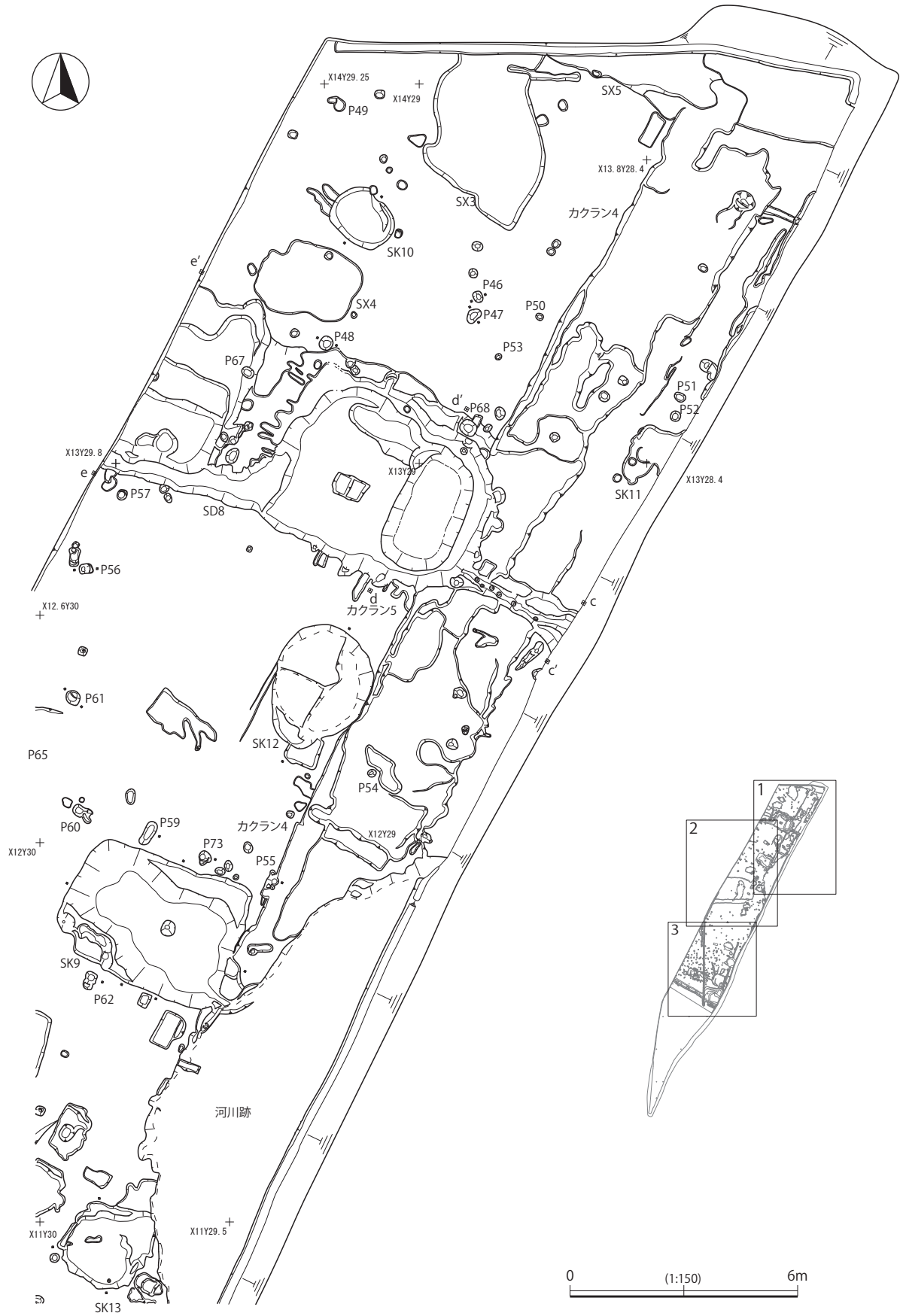
SB16



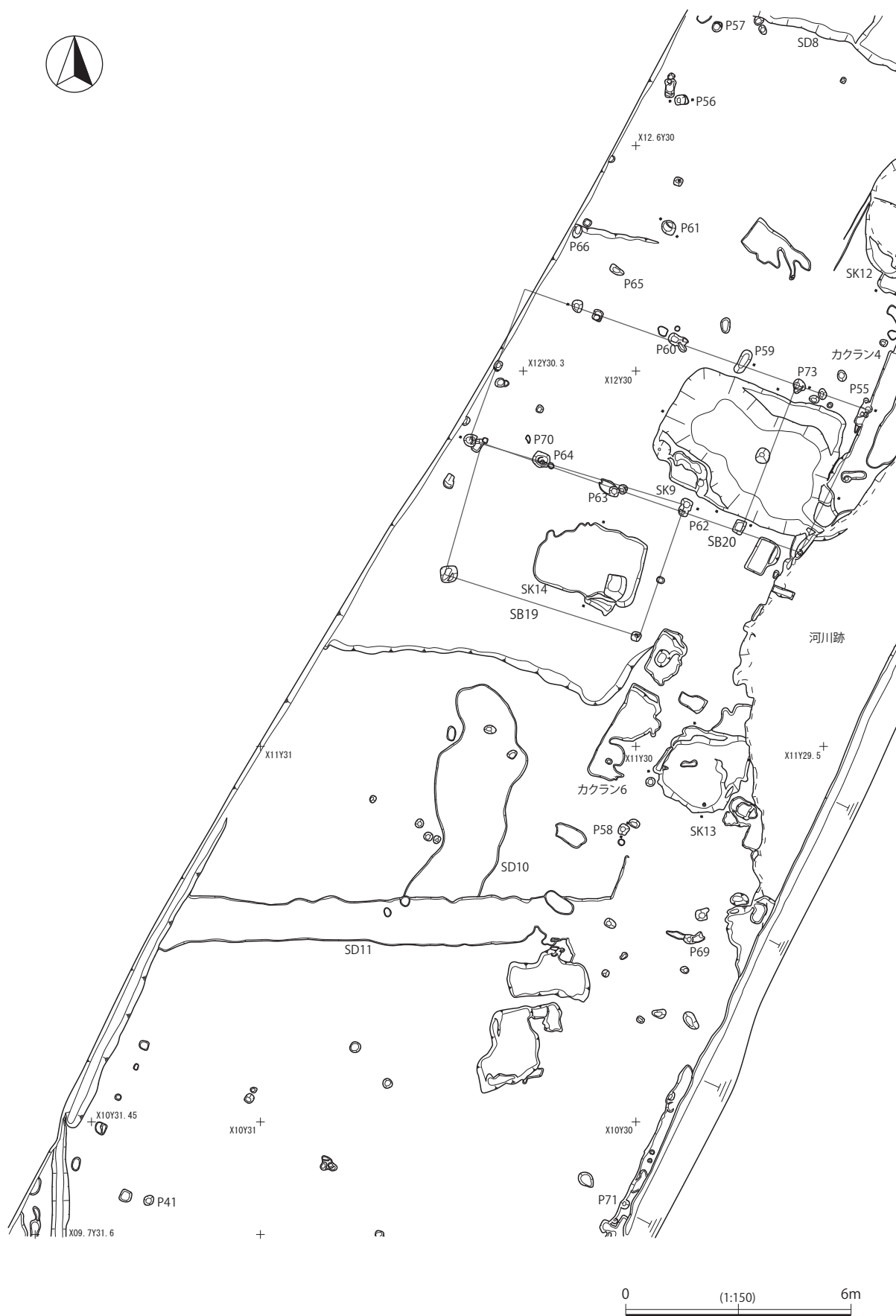
26CSK3



第35図 H26C区遺構図2 (S=1/60)



第36図 H26D区上層遺構配置図1 (S=1/150)



第37図 H26D区上層遺構配置図2 (S=1/150)

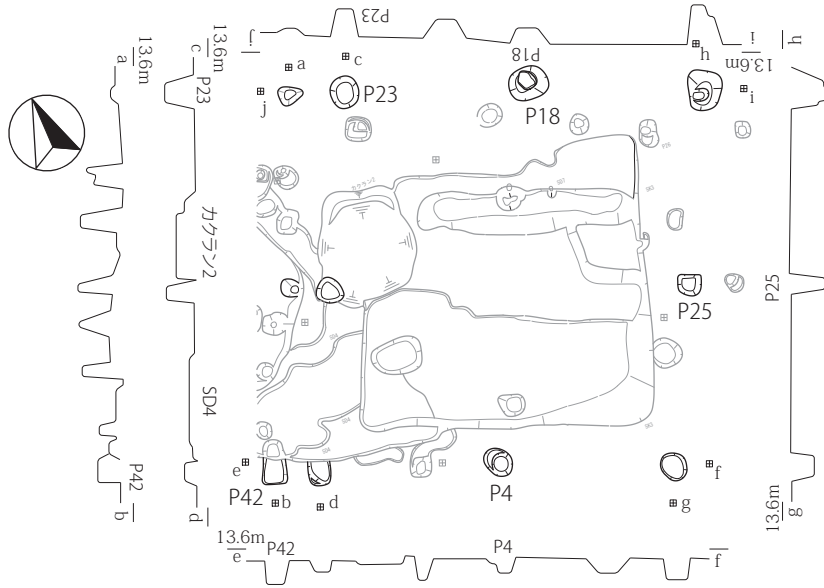


第38図 H26D区上層遺構配置図3 (S=1/150)

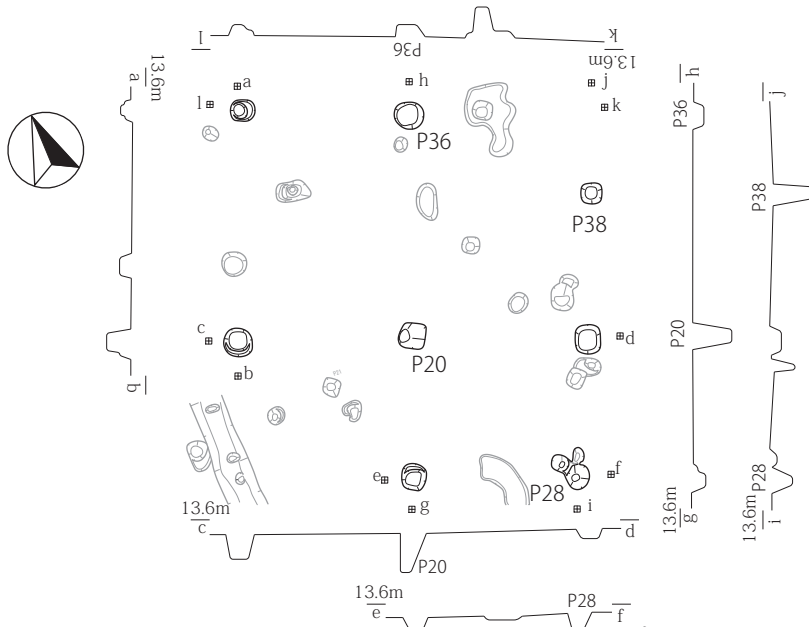


第39図 H26D区下層遺構配置図(S=1/250)

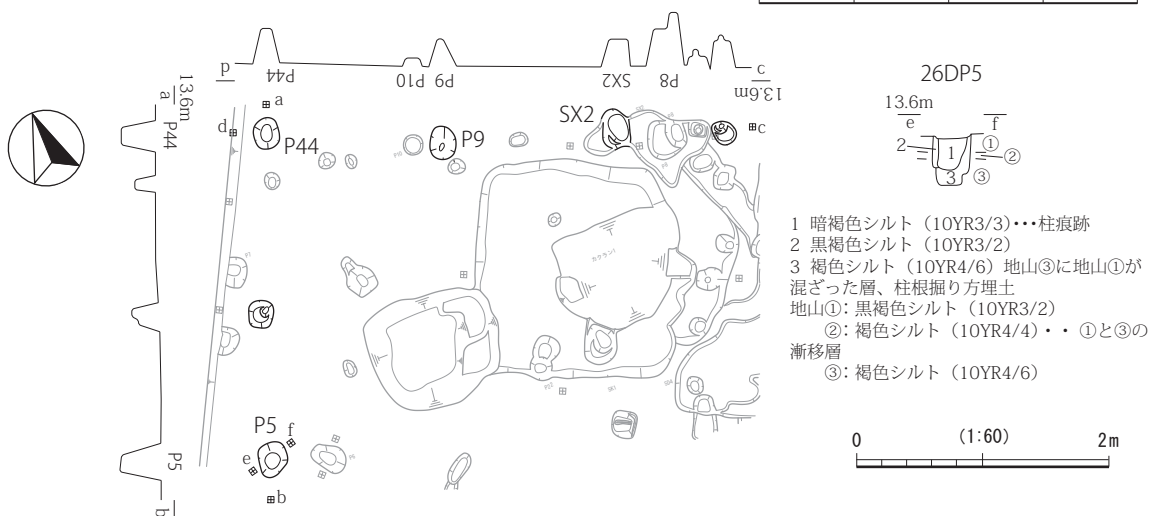
SB17



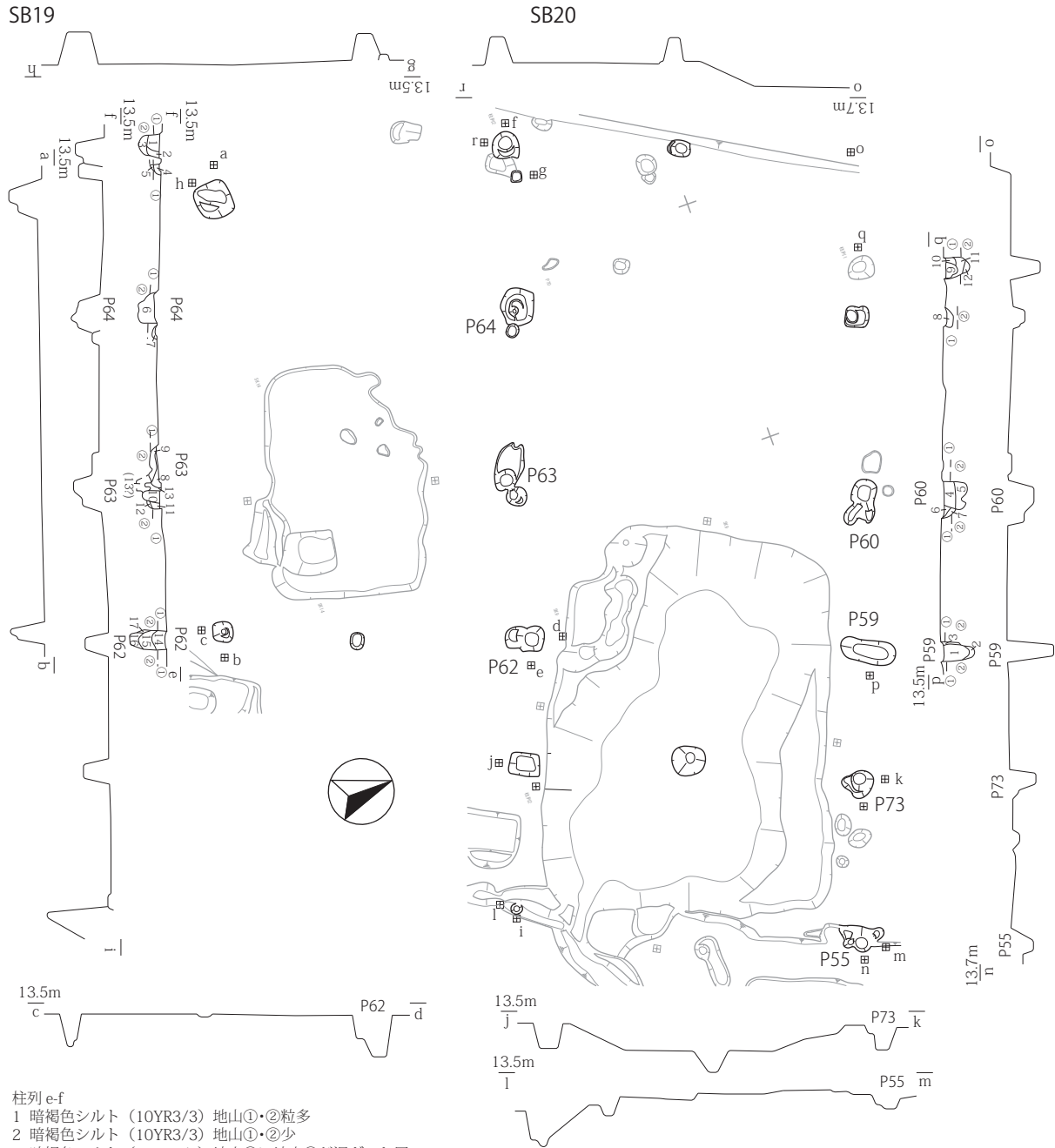
SB18



SB21

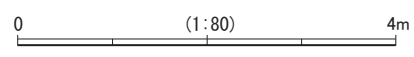


第40図 SB17・18・21遺構図(S=1/60)



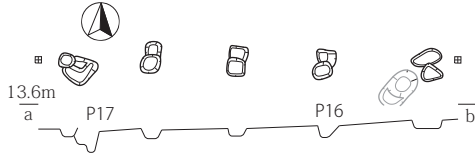
- 柱列 e-f
- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒多
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②少
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山②に地山①が混ざった層
 - 4 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒並
 - 5 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 6 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒並、1層に似る
 - 7 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒並
 - 8 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①、黄褐色ブロック混
 - 9 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①粒少
 - 10 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒並・・・柱痕跡
 - 11 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 12 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒並
 - 13 黒褐色シルト (10YR3/2)
 - 14 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒多
 - 15 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②少
 - 16 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山②が汚れた土
 - 17 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山②の崩落土
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR2/3) 河川跡に向かって地山①は薄くなる
 地山②: 褐色シルト (10YR4/6)
- 6層 P64、8・9層 P63、10・12層 別 Pit、13層 別 Pit か

- 柱列 p-q
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 炭粒、黒褐色・黄褐色土粒少・・・柱痕跡
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山②が汚れた土・・・柱痕跡
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 黒褐色・黄褐色土粒少
 - 4 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山①粒、黄褐色土粒並
 - 5 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒少
 - 6 暗褐色シルト (10YR3/4) 4層によく似るがやや明るい
 - 7 黒褐色シルト (10YR2/3) 地山①の崩落土
 - 8 暗褐色シルト (10YR3/3) カクラン土
 - 9 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒やや多
 - 10 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②粒やや多、9層よりやや明るい
 - 11 黒褐色シルト (10YR3/2)
 - 12 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘土に近い、地山②混ざる
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR2/3) 河川跡に向かって地山①は薄くなる
 地山②: 褐色シルト (10YR4/6)

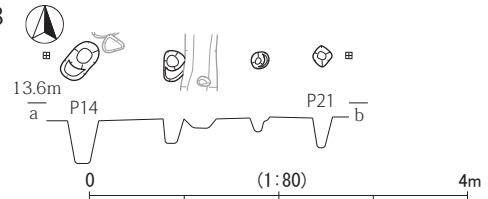


第41図 SB19・20遺構図(S=1/80)

SA7



SA8



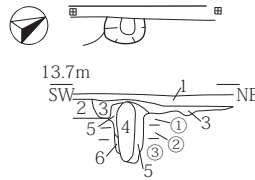
26DP6



P6

- 1 黄褐色シルト (10YR5/6) 地山①中ブロック多
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山③多く混ざる
- 地山①~③: P5に同じ

26DP7



P7

- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2)・・・床土
 - 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山①小ブロック多・・・中世包含層?
 - 3 褐色細砂 (10YR4/4)・・・洪水砂?
 - 4 暗褐色シルト (10YR3/3)・・・柱痕跡、P5-1層と同じ
 - 5 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山①小ブロック並、2層と同質
 - 6 黒褐色シルト (10YR2/2)
- P7 南側にある Pit は 2層上面から切り込んでいる。
地山①~③: P5に同じ

26DP8



P8

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 砂少混ざる・・・柱痕跡
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山③ブロック他・・・掘り方埋土
 - 3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3)
- 地山①~③: P5に同じ

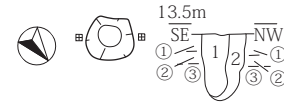
26DP33



P33

- 1 暗褐色シルト (10YR3/4)
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/3)・・・柱痕跡
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山③小ブロック混
 - 4 褐色シルト (10YR4/4) 地山③多・・・柱痕跡
- 地山①~③: P5に同じ

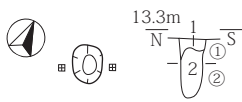
26DP37



P37

- 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山③ブロック多、地山②少・・・柱痕跡
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山②・③混ざる
- 地山①~③: P5に同じ

26DP46



P46

- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 小礫少、地山①・②ブロック少
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/3)
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR2/3)
②: 褐色シルト (10YR4/4)

26DP47



P47

- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 小礫少、地山①・②ブロック少
 - 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粗砂少
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/3)
- 地山①・②は P46に同じ

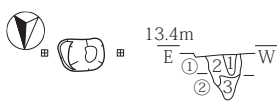
26DP48



P48

- 1 黒褐色シルト (10YR2/3)
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 砂少
 - 3 黒色シルト (7.5Y2/1) 粘土に近い、地山②ブロック混
 - 4 褐色シルト (10YR4/4) 粘土に近い、地山②が汚れた土
- 地山①・②は P46に同じ

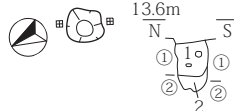
26DP56



P56

- 1 暗褐色シルト (10YR3/4)
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①小ブロック混
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘土に近い
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR2/3)
②: 褐色シルト (10YR4/6)

26DP58



P58

- 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 砂少、地山②ブロック上層に並入る
 - 2 褐色シルト (10YR4/4) 粘土に近い
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR2/2)
②: 黄褐色シルト (10YR5/6)

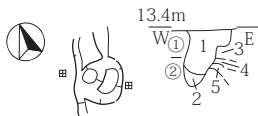
26DP61



P61

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①中ブロック、地山②大ブロック多・・・柱痕跡か
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘土に近い、地山①と②の混層・・・柱痕跡か
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・②の崩落層
 - 4 褐色シルト (10YR4/6) 地山②の汚れた層
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR2/3) 河川跡に向かって地山①は薄くなる
②: 褐色シルト (10YR4/6)

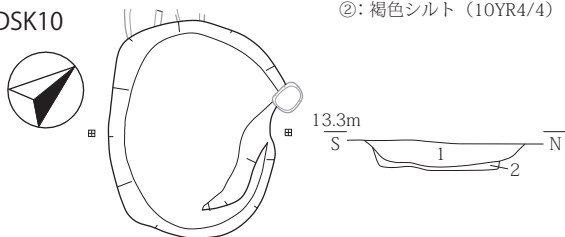
26DP72・SD9



P72・SD9

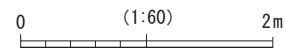
- 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山①少
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山②の汚れた土
 - 3 暗褐色シルト (10YR3/4)
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘土に近い
 - 5 褐色シルト (10YR4/4)
- 1・2層 P72、3~5層 SD9
地山①: 黒褐色シルト (10YR3/2)
②: 褐色シルト (10YR4/4)

26DSK10



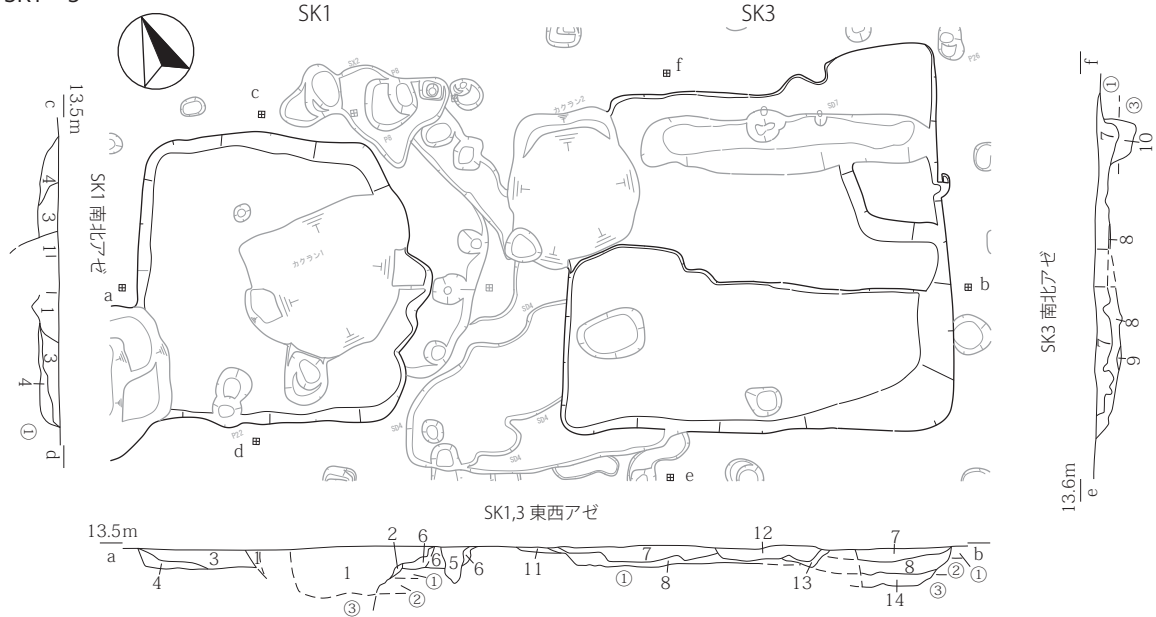
SK10

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 黄褐色ブロック少、砂混じり
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 黄褐色小ブロック少
- 地山: 黒褐色シルト (10YR2/3)・・・弥生・古墳包含層



第42図 SA7・8、H26D区柱穴・土坑遺構図(S=1/60、1/80)

26DSK1・3

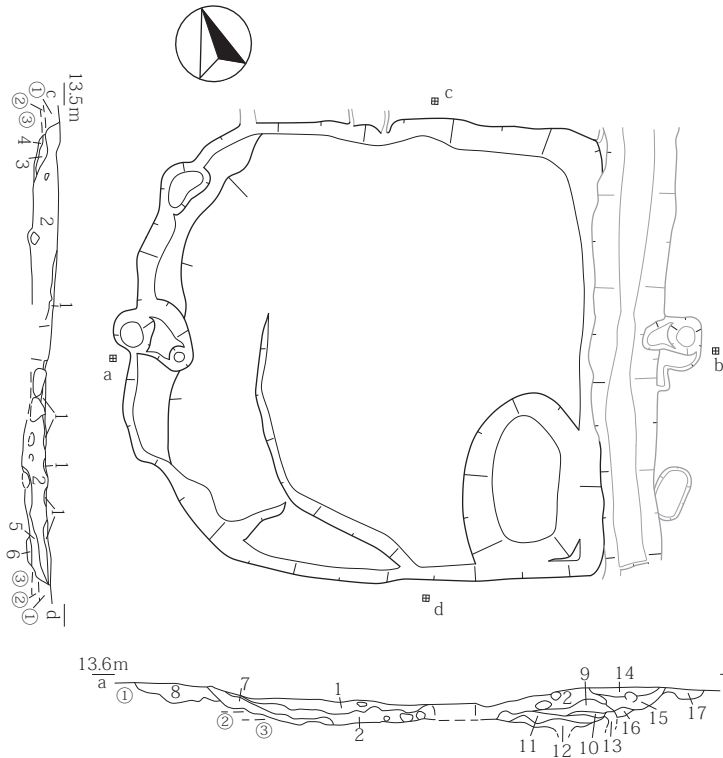


SK1・3 共通 (東西・南北アゼ共通)

- 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 地山①・②・③大ブロック混
- 2 暗褐色シルト (10YR3/4)
- 3 にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) 地山②・③中ブロックやや多
- 4 褐色シルト (10YR4/4)
- 5 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山②・③小ブロック並
- 6 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山①・②混、焼土塊少
- 7 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山①～③ブロックやや多…3層と同質
- 8 褐色シルト (10YR3/3) 地山①～③ブロックやや多
- 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①と同質
- 10 褐色シルト (10YR4/6) 地山①・③ブロック並、炭粒少

- 11 黒褐色シルト (10YR3/2) 8層少混ざる
 - 12 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 地山①・③ブロック多
 - 13 褐色シルト (10YR4/6) 浅黄橙色細砂層ラミナ状に入る
 - 14 暗褐色シルト (10YR3/4)
- | | |
|--------------|---------------|
| 1・2層 カクラン | 7～9・14層 SK3覆土 |
| 3・4層 SK1覆土 | 10層 別遺構覆土、SD7 |
| 5層 Pit覆土…柱痕跡 | 12層 カクラン |
| 6層 別遺構覆土 | 13層 SD2 |
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR3/2)
 ②: 褐色シルト (10YR4/4)
 ③: 明黄褐色シルト (10YR6/6)

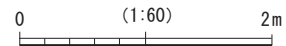
26DSK4



SK4 (東西・南北アゼ共通)

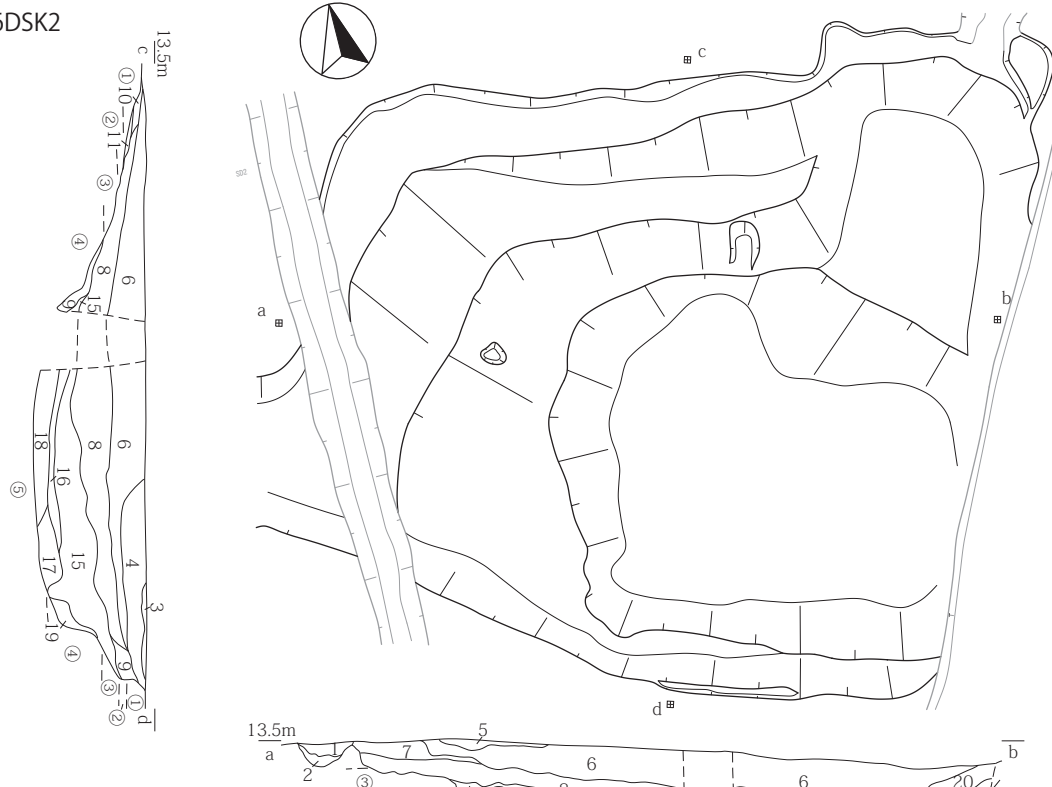
- 1 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3)
- 2 暗褐色シルト (10YR3/4) 炭粒少、地山①中ブロック・地山③小ブロック並、鉄分上面に沈着
- 3 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山③多
- 4 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山②の崩落土
- 5 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山③多、3層と同質
- 6 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山②の崩落土、4層と同質
- 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①に地山③の大ブロックが混在した層
- 8 褐色シルト (10YR4/6) 地山③ブロック並
- 9 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山①大ブロック1個混
- 10 暗褐色シルト (10YR3/3)
- 11 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山③と12層の混層、炭粒少
- 12 褐色シルト (10YR4/4) 地山③小ブロック少
- 13 暗褐色シルト (10YR3/4)
- 14 褐色シルト (10YR4/4) 地山①小ブロック少
- 15 褐色シルト (10YR4/4)
- 16 褐色シルト (10YR4/4) 地山③小ブロック少
- 17 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山①小ブロック少…2層に類似

- 1層 カクラン、2～12層 SK4、14～16層 SD、
- 13層 木根等、17層 別遺構
- 地山①～③: SK1・3に同じ



第43図 H26D区土坑遺構図1 (S=1/60)

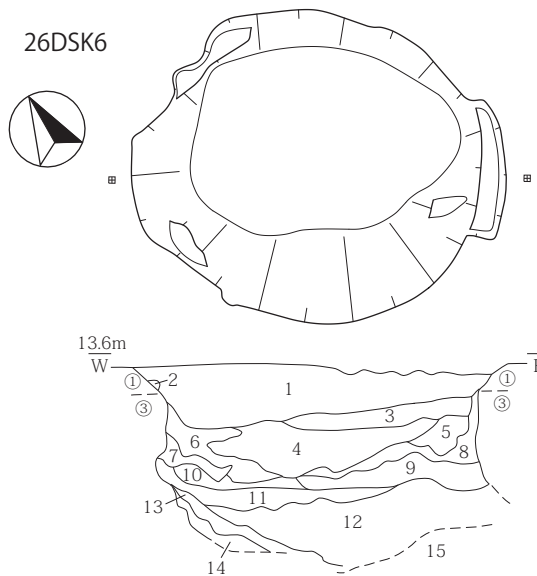
26DSK2



SK2 (東西・南北アゼ共通)

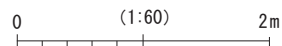
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3)
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/4) 浅黄橙色系細砂層底部付近にラミナ状に入る...水流痕か
 - 3 褐灰色シルト (10YR4/1)
 - 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 2mm~3cm大の礫並
 - 5 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 細砂層ラミナ状に入る
 - 6 暗褐色シルト (10YR3/3) 2mm~5cm大の礫並
 - 7 暗褐色シルト (10YR3/3) 灰白色シルト~細砂小ブロック少
 - 8 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘土に近い
 - 9 暗褐色シルト (10YR3/4)
 - 10 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①小ブロック少
 - 11 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①に10層が混ざった土
 - 12 黒褐色シルト (10YR3/2) 8層と地山①が混ざったような層、西肩部に近い程地山①の混じり多、地山③粒並
 - 13 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 14 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・③小ブロック少
 - 15 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘土混じり、地山①~③小~中ブロック多、特に南壁肩側に多
 - 16 暗褐色シルト (10YR3/3) 中粒砂少混
 - 17 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 中粒砂少混、地山①~③ブロック南肩側に多
 - 18 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山④ブロック少
 - 19 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘土少混じる
 - 20 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘土少、地山②・③小ブロック少
 - 21 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山⑤小ブロック多...木根等か
 - 22 暗褐色シルト (10YR3/4)
- 1・2層 SD2、3・4層 カ克蘭土、5~22層 SK2 覆土、12・15層はよく似た層、同一層か?
 地山①~③: 他遺構に同じ
 ④: 褐色粗砂 (7.5Y4/4)
 ⑤: 明黄褐色土 (10YR6/6)

26DSK6



SK6 (東西アゼ)

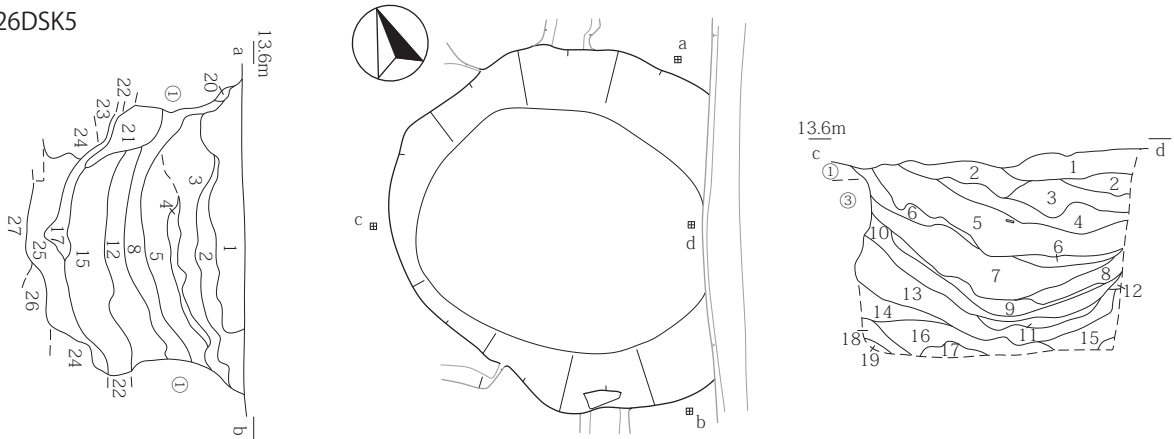
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山③小・中ブロック、中礫並...人為的な埋土か
- 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 地山①崩落土
- 3 暗褐色シルト (10YR3/4) 小・中礫やや多
- 4 暗褐色粗砂 (10YR3/4) 小・中礫多
- 5 暗褐色粗砂 (10YR3/4) 小・中礫少
- 6 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山①③中ブロック並、中礫少...崩落土か
- 7 黒褐色シルト (10YR2/2) 地山③中ブロック並 ...崩落土か
- 8 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山④中ブロック、粗砂、中礫少 ...崩落土か
- 9 暗褐色粗砂 (10YR3/4) 小・中礫、シルト混じり
- 10 暗褐色シルト (10YR3/4)
- 11 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山⑤少混
- 12 にぶい黄褐色粗砂 (10YR4/3) 小・中礫やや多
- 13 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 中礫少
- 14 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山③、中礫混
- 15 黒褐色シルト (10YR2/2) 地山③小粒並、灰白色粗砂少
アゼ下60cmまで確認 15層の下には地山③の崩落土
地山: 他遺構に同じ



第44図 H26D区土坑遺構図2 (S=1/60)

第3節 遺構と遺物

26DSK5

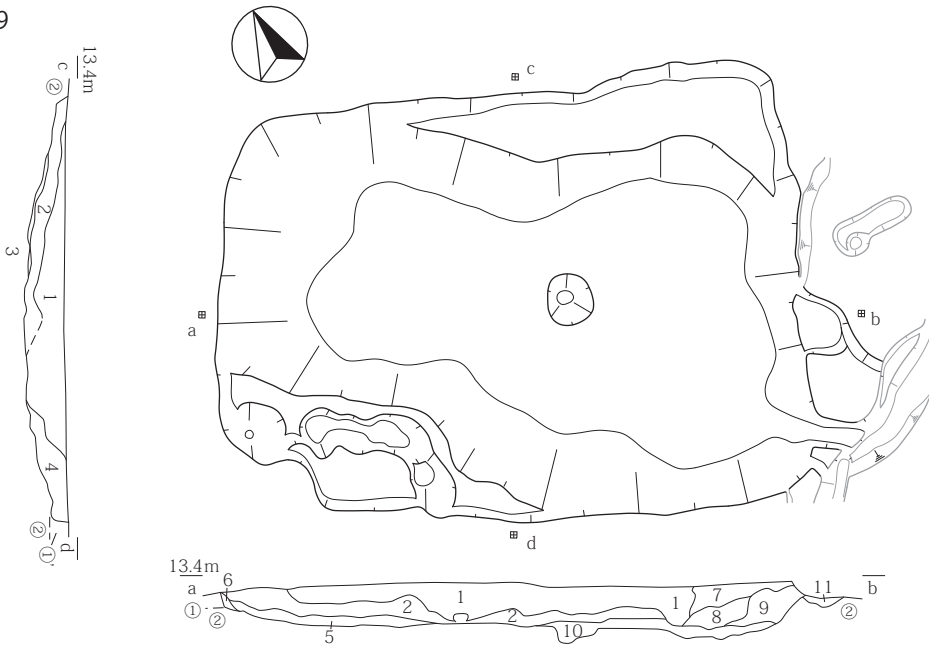


SK5 (東西・南北アゼ共通)

- 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 小・中礫少
- 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 小・中礫少、地山③ブロック多、遺物含
- 3 暗褐色シルト (10YR3/4) 小・中礫少、地山③ブロック少、遺物含
- 4 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 小・中礫少、地山③大ブロック多
- 5 暗褐色シルト (10YR3/4) 中・大礫やや多、遺物含
- 6 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山③大ブロック多、炭粒少
- 7 暗褐色シルト (10YR3/4) 中礫やや多、地山③ブロック少
- 8 黒褐色シルト (粘土に近い、10YR3/2) と褐色シルト (10YR4/4) が混ざった層
- 9 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 中礫少
- 10 褐色シルト (10YR4/4) に灰黄褐色粘土 (10YR5/2、9層と同質) が混ざった層
- 11 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 中礫、地山③少混
- 12 黒褐色粘土 (10YR3/2) と褐色シルト (10YR4/4) が複数の互層堆積
- 13 黒褐色粘土 (10YR3/2)、灰黄褐色粘土 (10YR5/2)、地山③が細かいブロック状に混ざった層
- 14 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山③に灰黄褐色粘土が混ざった層
- 15 褐色シルト (10YR4/4、粘土に近い) と地山③の互層堆積
- 16 灰黄褐色粘土 (10YR5/2) 黒褐色粘土小ブロック少

- 17 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘土に近い、炭粒少
 - 18 灰黄褐色シルト (10YR5/2) 地山③少
 - 19 明黄褐色シルト (10YR6/6) と灰黄褐色シルト (10YR5/2) の互層堆積
 - 20 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 21 黒褐色粘土 (10YR3/2) と褐色シルト (10YR4/4)、地山③の複数互層堆積
 - 22 暗褐色砂礫 (10YR3/4) 礫 2～8 cm大
 - 23 褐色粗砂 (10YR4/6)
 - 24 暗褐色砂礫 (10YR3/3) 礫 2～10 cm大
 - 25 黒褐色粘土 (10YR3/2)、褐色シルト (10YR4/4)、地山①が混ざった層
 - 26 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3)
 - 27 26層、地山①に黒褐色粘土ブロックが少量混ざった層、礫含
- 3・5層 南北アゼでは分かれなかった
 8層以下はホロホロと崩落して堆積した土層
 3～5cm 中礫、5cm～ 大礫 とした。
 地山：他遺構に同じ

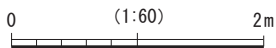
26DSK9



SK9 (東西・南北アゼ共通)

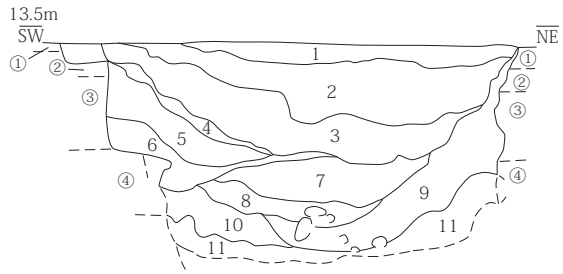
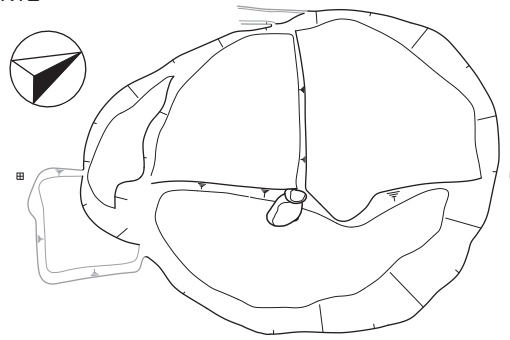
- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 黒褐色・黄褐色シルトブロック多
- 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 黄褐色ブロック少、礫少
- 3 暗褐色シルト (10YR3/4) 砂に近い
- 4 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山②ブロック並
- 5 黒褐色シルト (10YR2/3) 黒褐色・黄褐色ブロック多
- 6 黒褐色シルト (10YR2/3)

- 7 暗褐色シルト (10YR3/3) 黄褐色ブロック多
- 8 暗褐色シルト (10YR3/3) 黄褐色ブロック少
- 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①と黄褐色土の大ブロックが入った層
- 10 暗褐色シルト (10YR3/3)
- 11 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山①・②: SD8-①に同じ



第45図 H26D区土坑遺構図3 (S= 1/60)

26DSK12

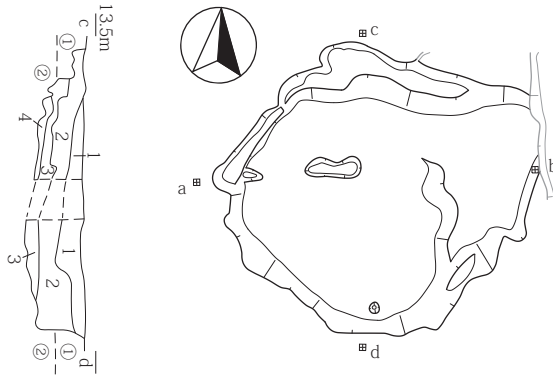


SK12

- 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 礫 (φ2~5 cm) 少、地山②・③少混
- 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 礫 (φ3~10 cm) やや多、地山②小ブロック並
- 3 暗褐色シルト (10YR3/3) 礫 (φ2~20 cm) 中央部上層に入る、地山①少、地山③中ブロック並
- 4 暗褐色シルト (10YR3/3) 礫少
- 5 暗褐色シルト (10YR3/3) と地山①・③が混ざった壁面崩落層
- 6 黒褐色シルト (10YR2/3) 粘土に近い、地山①由来、地山②・③ブロック多、壁面崩落層
- 7 黄褐色シルト (10YR5/6) 地山③の崩落層、地山①中ブロックやや多
- 8 黒褐色シルト (10YR2/3) 地山①・③、暗褐色シルトが混ざった層

- 9 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山③少、大礫含
- 10 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 同色で粘土に近いブロック混、地山①大ブロック並
- 11 黄褐色シルト (10YR5/6) 礫 (φ5~10 cm) 含、地山①・暗褐色シルトブロック並
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR2/3)
- ②: 褐色シルト (10YR4/4)
- ③: 黄褐色シルト (10YR5/6)
- ④: 暗褐色砂礫層 (10YR3/4)

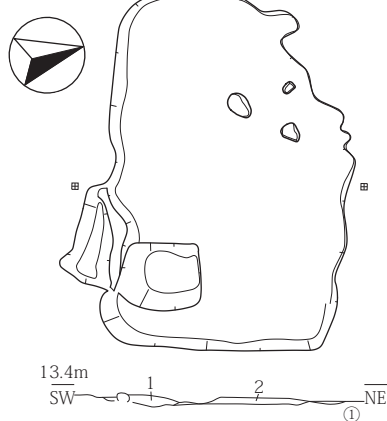
26DSK13



SK13 (東西・南北アゼ共通)

- 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 炭粒少
- 2 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山①小ブロック少、地山②中ブロック並
- 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①由来
- 4 褐色シルト (10YR4/6)
- 5 黄褐色シルト (10YR5/6)
- 6 褐色シルト (10YR4/4) 粘土に近い
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR2/3)
- ②: 褐色シルト (10YR4/6)

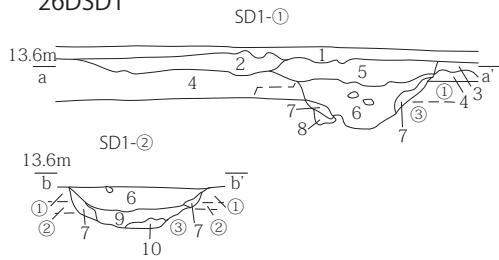
26DSK14



SK14 (南北アゼ)

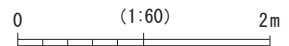
- 1 暗褐色シルト (10YR3/4) 黄褐色ブロック多…カクラン土
- 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 炭化物少
- 地山①: 他遺構に同じ

26DSD1



SD1 ①・②共通

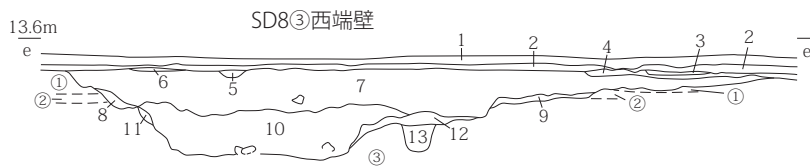
- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2)…床土
- 2 褐色シルト (10YR4/4)
- 3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3)
- 4 黒褐色シルト (10YR3/2)…地山①
- 5 暗褐色シルト (10YR3/3)
- 6 暗褐色シルト (10YR3/3) 鉄分沈着、SD1-②では下層に粗砂が少入る
- 7 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①が混ざる…壁崩落土
- 8 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘土に近い、地山③少
- 9 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山③が下層に混ざる
- 10 褐色シルト (10YR4/4) 地山③に9層が少し混ざった層
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR3/2)
- ②: 褐色シルト (10YR4/4) ①と③の漸移層
- ③: 褐色シルト (10YR4/6)



第46図 H26D区土坑・溝遺構図 (S=1/60)

第3節 遺構と遺物

26DSD8



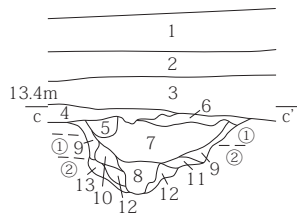
SD8③(西端壁)

- 1 新農道盛土
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 床土
- 3 褐色シルト (10YR4/4)
- 4 暗褐色シルト (10YR3/4) 5層に鉄分が沈着した土
- 5 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/4) 近世以降の溝、SD8①-5層と同一
- 6 暗褐色シルト (10YR3/4) 黄褐色ブロック多
- 7 暗褐色シルト (10YR3/4) 礫少、SD8②-14層と同じ
- 8 暗褐色シルト (10YR3/3) 7層に地山①が少し混ざった層

9 褐色シルト (10YR4/6)

- 10 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山①・③中ブロック、黄褐色土ブロック並、最下層に礫が多く出土し、焼け石も少量含まれた
 - 11 黄褐色シルト (10YR5/6) 地山③が汚れた土
 - 12 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山③ブロック多、崩落土
 - 13 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘土に近い...Pit
- SD8③ではSD8②-16層に対応する層は確認できなかった。
地山①~③: SD8②に同じ

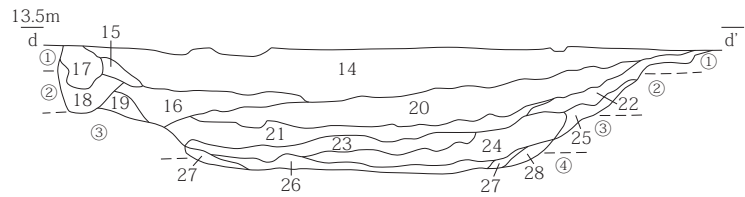
SD8①東端壁



SD8①

- 1 炭灰層
 - 2 明褐色シルト (7.5YR5/6)
 - 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2)
 - 4 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 礫混
 - 5 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3)
 - 6 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 7 暗褐色シルト (10YR3/3) 礫並
 - 8 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘土に近い
 - 9 黒褐色シルト (10YR3/2) オリーブ褐色シルト粒混、壁面崩落土
 - 10 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 11 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山②混
 - 12 褐色シルト (10YR4/6) 地山②が汚れた土
 - 13 暗褐色シルト (10YR3/4) 粘土に近い
 - 1~4層 農道敷設時の盛土
 - 5層 近世以降の溝
 - 6~13層 SD8覆土
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR3/2)
②: 褐色シルト (10YR4/6)

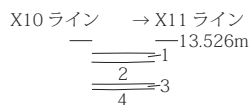
SD8②



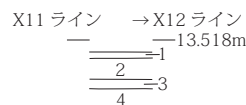
SD8②

- 14 暗褐色シルト (10YR3/3) 礫少、SD8①-7層に対応か
 - 15 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①ブロック少
 - 16 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘土に近い、SD8①-8層に対応か、礫少
 - 17 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①・②ブロックやや多
 - 18 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山②混ざる
 - 19 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山②が汚れた土
 - 20 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①中ブロック多、礫 (φ3~10cm) 並
 - 21 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①~③の小ブロック多
 - 22 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①・②ブロック並、壁崩落土
 - 23 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山①・③中ブロック多、22層より地山混入率高
 - 24 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山①・③中ブロック並、26層混ざる
 - 25 暗褐色シルト (10YR3/3) 地山③少、壁崩落土
 - 26 灰黄褐色粘土 (10YR4/2)
 - 27 灰黄褐色砂 (10YR4/2) 26層少混じる
 - 28 灰黄褐色砂 (10YR4/2) 地山③の崩落土
- 20~24層は人為的な埋め土か
26層が粘土であり、滞水していたか
- 地山①: 黒褐色シルト (10YR3/2)
②: 褐色シルト (10YR4/4)
③: 褐色細砂 (10YR4/6)
④: 暗褐色粗砂礫層 (7.5YR3/3)

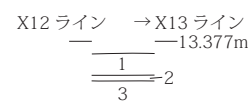
下層トレンチ X10 ライン



下層トレンチ X11 ライン



下層トレンチ X12 ライン



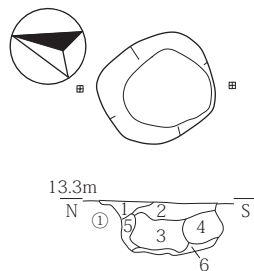
下層トレンチ X10ライン 略測図・X11ライン 略測図ともに共通

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) X10・11ラインでは、この上面が中世の遺構面
- 2 黒褐色シルト (10YR2/3) 弥生・古墳の包含層、土器少
- 3 暗褐色シルト (10YR3/4) 2層と4層の漸移層←弥生・古墳の遺構面
- 4 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3)

下層トレンチ X12ライン 略測図

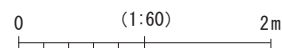
- 1 黒褐色シルト (10YR2/2) 弥生・古墳の包含層、土器少、X10・11ラインの2層と同一層、中世遺構面
- 2 暗褐色シルト (10YR3/3) X10・11ラインの3層と同じ
- 3 褐色シルト (10YR4/4) X10・11ラインの4層と同一

26DSK7

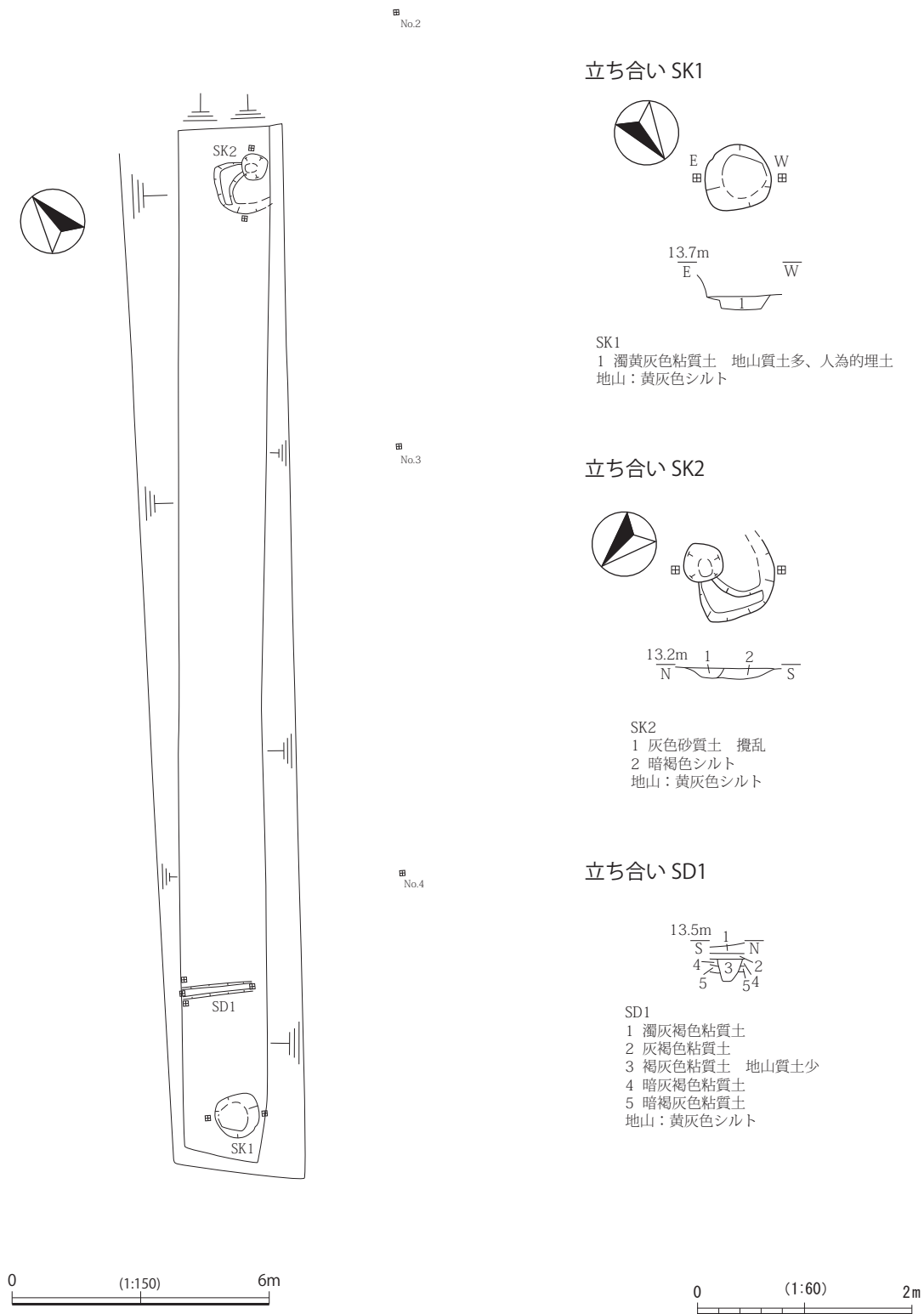


SK7 (下層)

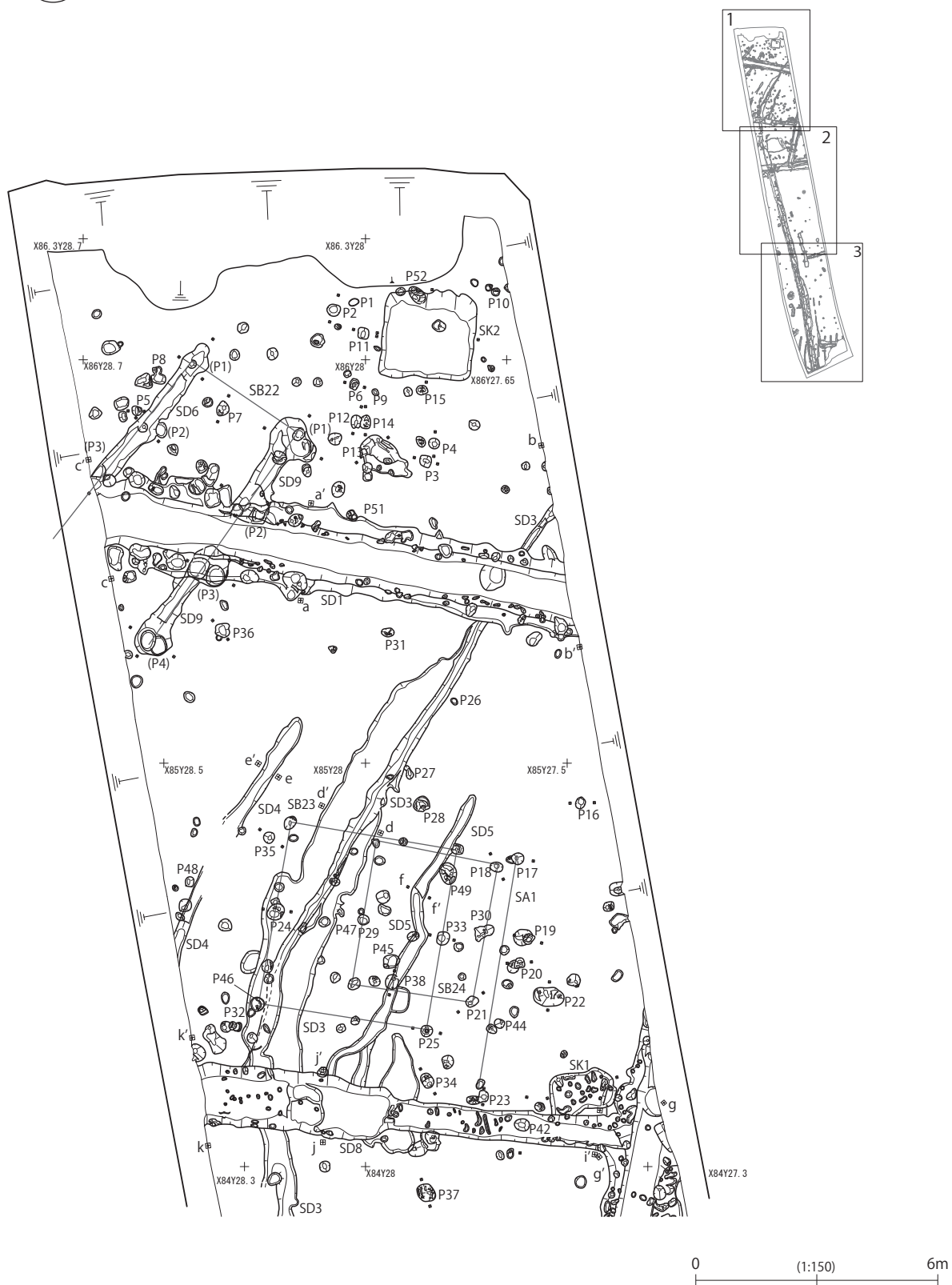
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 地山①ブロック少
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2)
 - 4 暗褐色シルト (10YR3/4)
 - 5 暗褐色シルト (10YR3/3)
 - 6 暗褐色シルト (10YR3/4) 地山ブロックが並に入る
- 地山: 他遺構に同じ



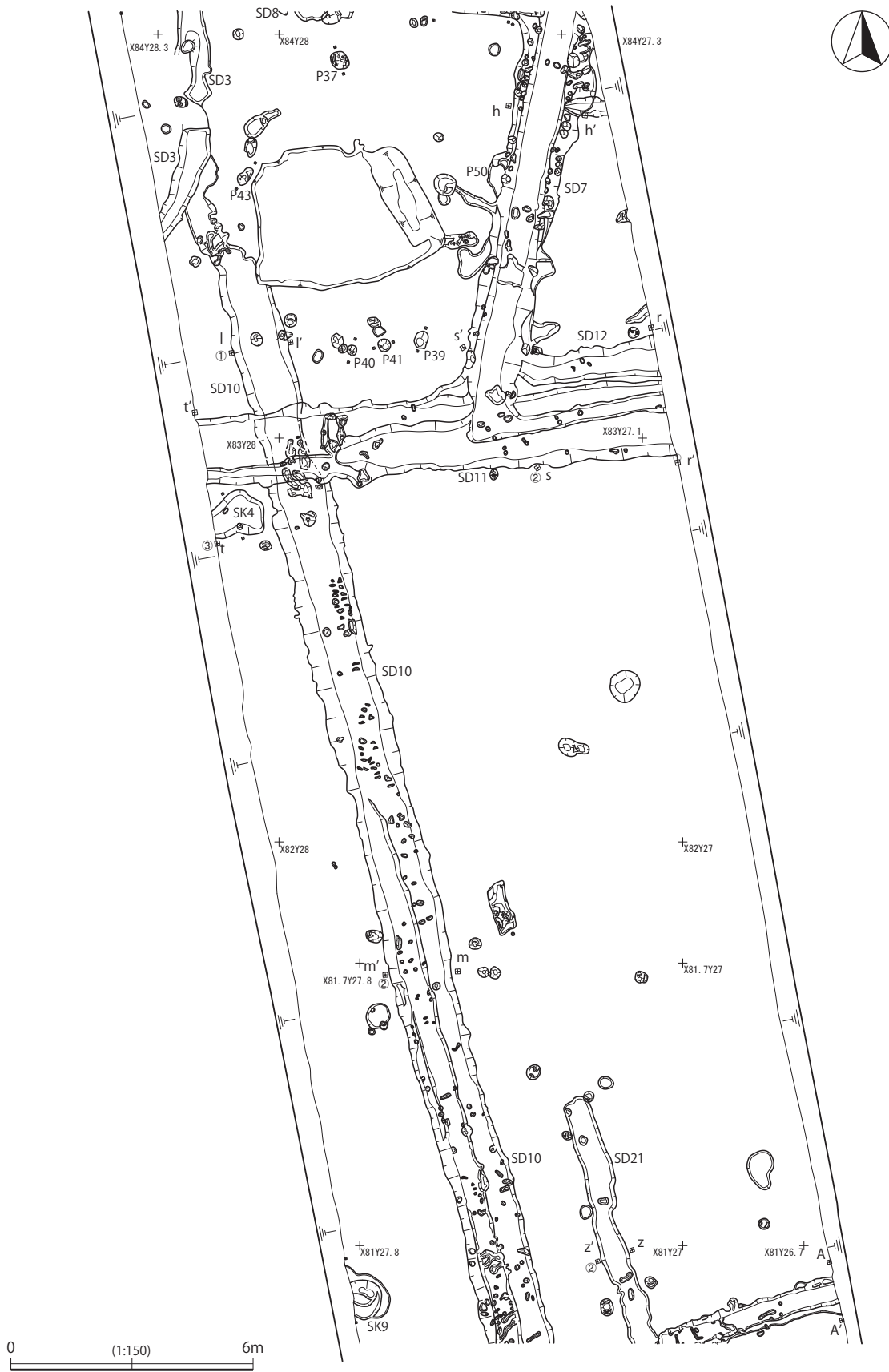
第47図 H26D区溝・下層遺構図(S=1/60)



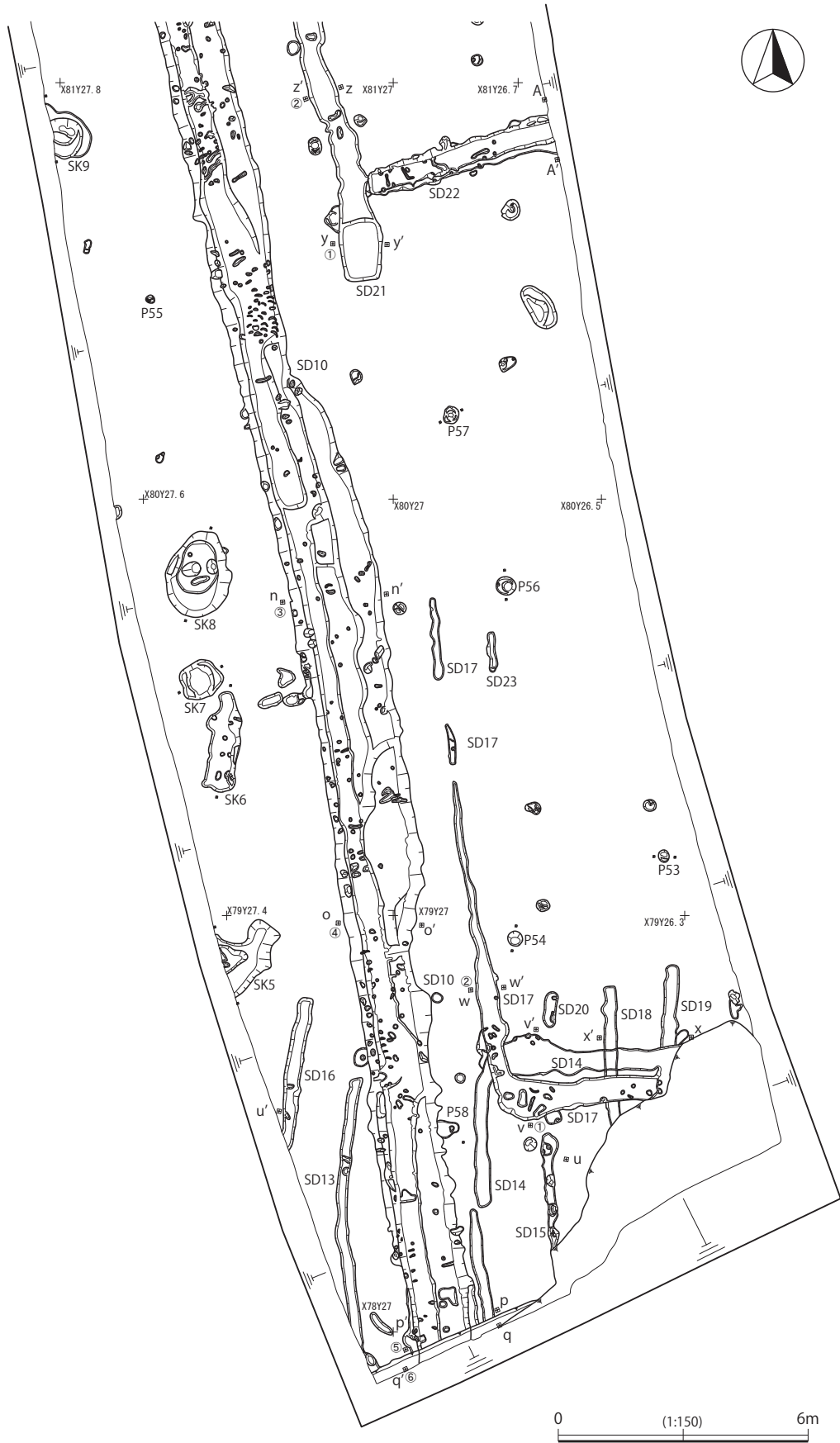
第48図 H27立ち会い調査区遺構図(S=1/60・1/150)



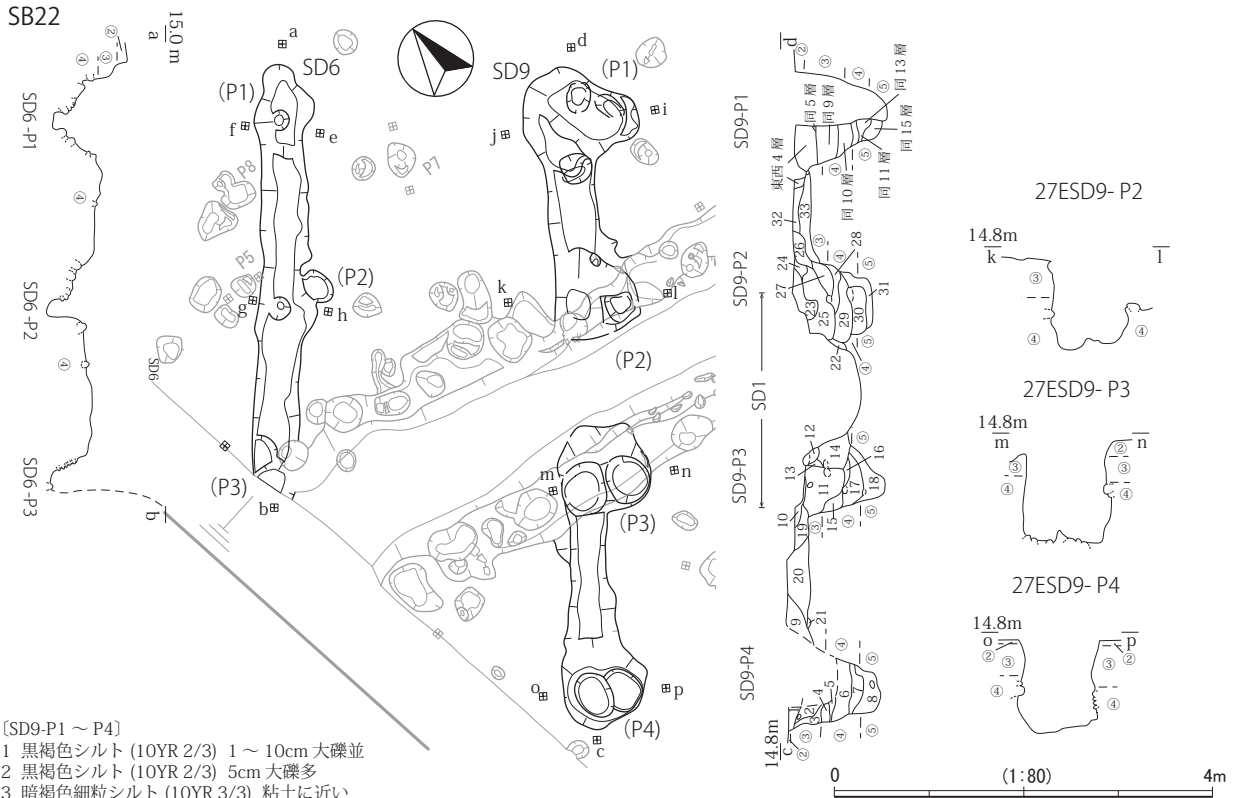
第49図 H27E区遺構配置図1 (S=1/150)



第50図 H27E区遺構配置図2 (S=1/150)



第51図 H27E区遺構配置図3 (S=1/150)

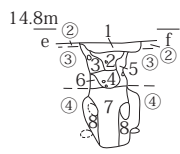


[SD9-P1 ~ P4]

- 1 黒褐色シルト (10YR 2/3) 1 ~ 10cm 大礫並
 - 2 黒褐色シルト (10YR 2/3) 5cm 大礫多
 - 3 暗褐色細粒シルト (10YR 3/3) 粘土に近い
 - 4 黒褐色シルト (10YR 2/3) 粗砂少
 - 5 暗褐色細粒シルト (10YR 3/3) 粘土に近い、粗砂少
 - 6 黒色細粒シルト (10YR 2/1) 粘土に近い、5cm 大礫並
 - 7 黒褐色シルト (10YR 2/2) 粗砂・小礫並、5cm 大礫極少
 - 8 黒色細粒シルト (10YR 2/1) 粘土に近い、粗砂・小礫少、5cm ~ 大礫極少
 - 9 黒褐色シルト (10YR 2/2) 2 ~ 3cm 礫少
 - 10 黒褐色シルト (10YR 2/3)
 - 11 黒褐色シルト (10YR 2/2) 1 ~ 5cm 大礫極少、地山③粒極少
 - 12 黒褐色シルト (10YR 2/2)
 - 13 暗褐色シルト (10YR 3/3)
 - 14 暗褐色粗砂礫 (10YR 3/3) シルト混ざる
 - 15 黒褐色シルト (10YR 3/2) 粘土に近い
 - 16 暗褐色細粒シルト (10YR 3/3) 粗砂混ざる
 - 17 暗褐色シルト (10YR 3/4) 5cm 大礫極少、地山③に礫が入った層、柱の埋め土か
 - 18 黒色細粒シルト (10YR 2/1) 粘土に近い・・・8層と同質層
 - 19 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒並
 - 20 暗褐色シルト (10YR 3/3) 粗砂・礫多・・・柱穴を掘り上げた際の土
 - 21 暗褐色シルト (10YR 3/4)
 - 22 黒褐色シルト (10YR 2/3) 1 ~ 3cm 大礫・地山③粒少・・・SD1 覆土か?
 - 23 黒褐色シルト (10YR 2/2) 5cm 大礫極少、地山③粒並、地山①に似る
 - 24 暗褐色シルト (10YR 3/3)
 - 25 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3) 地山③を掘って埋めた土
 - 26 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山②に似る
 - 27 暗褐色シルト (10YR 3/3) 0.5 ~ 3cm 大礫少
 - 28 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山③少
 - 29 暗褐色粗砂礫 (10YR 3/3) 1 ~ 10cm 大礫やや多
 - 30 黒褐色細粒シルト (10YR 3/2)
 - 31 黒色細粒シルト (10YR 2/1) ...8層と同質
 - 32 褐色シルト (10YR 4/4) 3 ~ 5cm 礫並
 - 33 黒褐色粗砂礫 (10YR 3/2) 20層と同質
- ※P2 ~ P4の柱痕跡はもっと東寄りで確認した(図面なし)

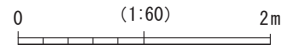
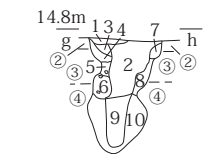
[SD6-P1]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、縮まり強、鉄分沈着、地山①ブロック 1 ~ 5mm 10% 程含
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、縮まり強、鉄分沈着顕著、礫含
 - 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、縮まり強、鉄分沈着顕著、礫・細砂混、炭化物少、SD6・P2の4、8層に似るが黒みが強い、地山③と1又は2層が混ざった土か
 - 4 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性中、縮まり中、鉄分少、礫含
 - 5 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、縮まり強、礫、細砂含、地山③と1又は2層が混ざった土か
 - 6 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、縮まり強、3、5層に似るが地山③の混ざりが少ない、細砂含
 - 7 黒褐色粘土 (10YR2/2) 粘性強、縮まり中、細砂、礫多
 - 8 黒褐色粘土 (10YR2/2) 粘性強、縮まり中、砂・礫多、7層と地山④が混ざった層
- ※7層：柱痕跡、8層：裏込め土



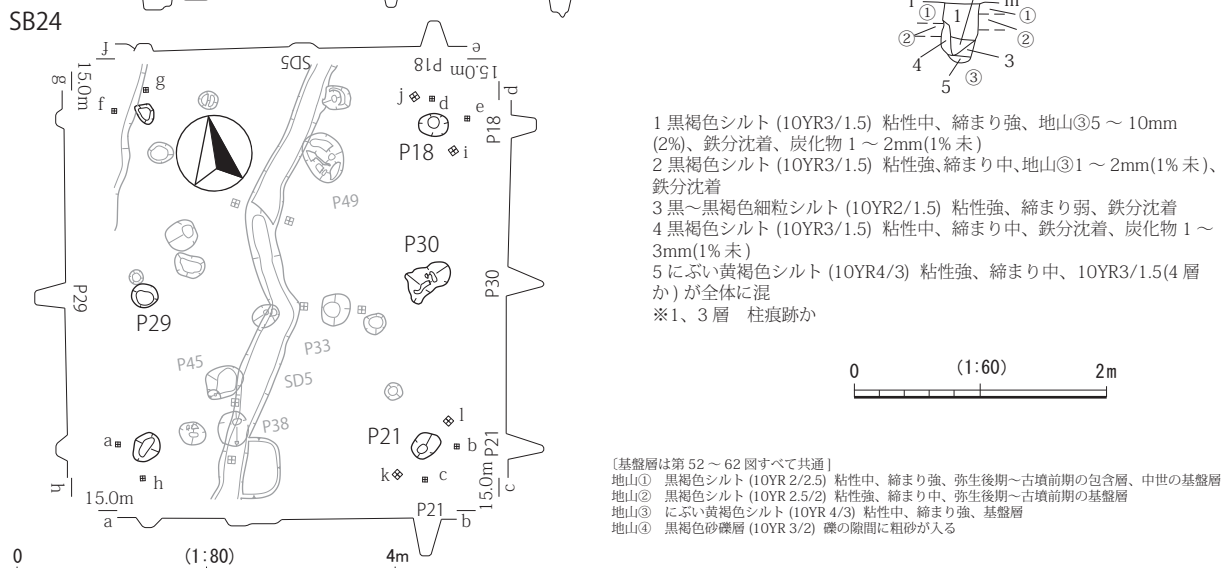
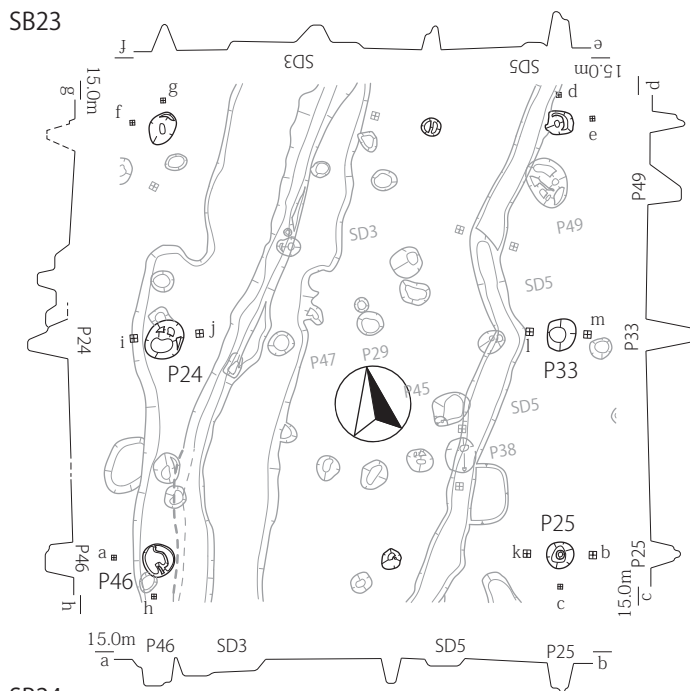
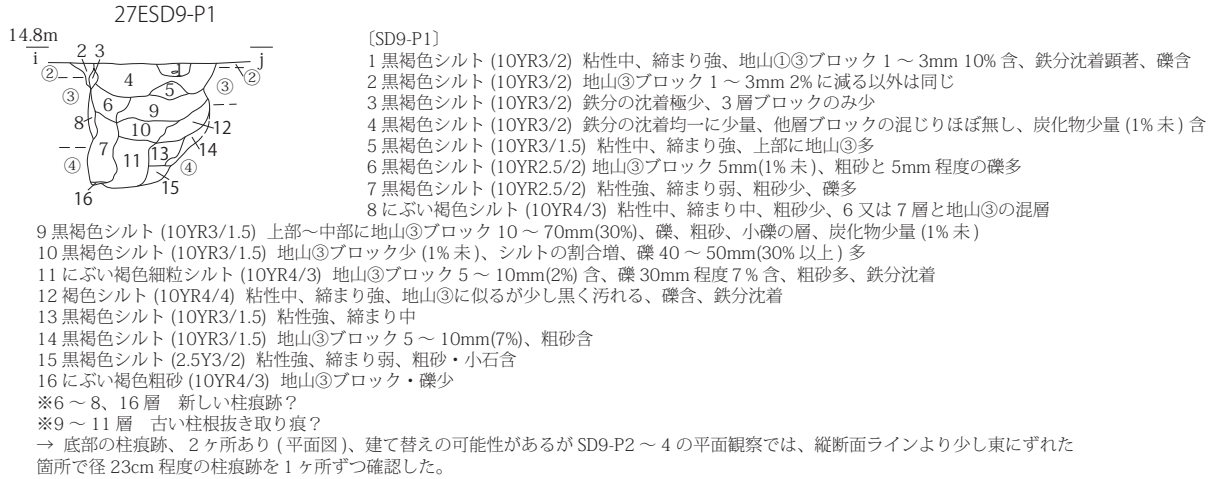
[SD6-P2]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、縮まり強、鉄分沈着、炭化物極少
 - 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性強、縮まり中、炭化物・地山③小ブロック極少、鉄分少
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、縮まり中、土色は1層に似る、地山③小ブロック (1 ~ 3mm) 1% 含、鉄分沈着
 - 4 にぶい褐色シルト (10YR4/3) 粘性強、縮まり中、炭化物極少量、3層と地山③が混ざった様な土、鉄分沈着
 - 5 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性強、縮まり中、地山③ブロック 1cm 2%、礫含
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、縮まり中、鉄分沈着少、細砂含
 - 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、縮まり中、地山③ブロック 2cm 含、3層に対応か
 - 8 にぶい褐色シルト (10YR3/3) 粘性強、縮まり中、4層に対応か、7層と地山③が混ざった様な土
 - 9 黒褐色粘土 (10YR2/2) 粘性強、縮まり弱、土色は2層に似るが少し黒みが強い
 - 10 黒褐色粘土 (10YR2/2) 粘性強、縮まり弱、砂、礫多、9層と地山④が混ざった層、P1の8層と対応
- ※2、9層：柱痕跡、10層：裏込め土

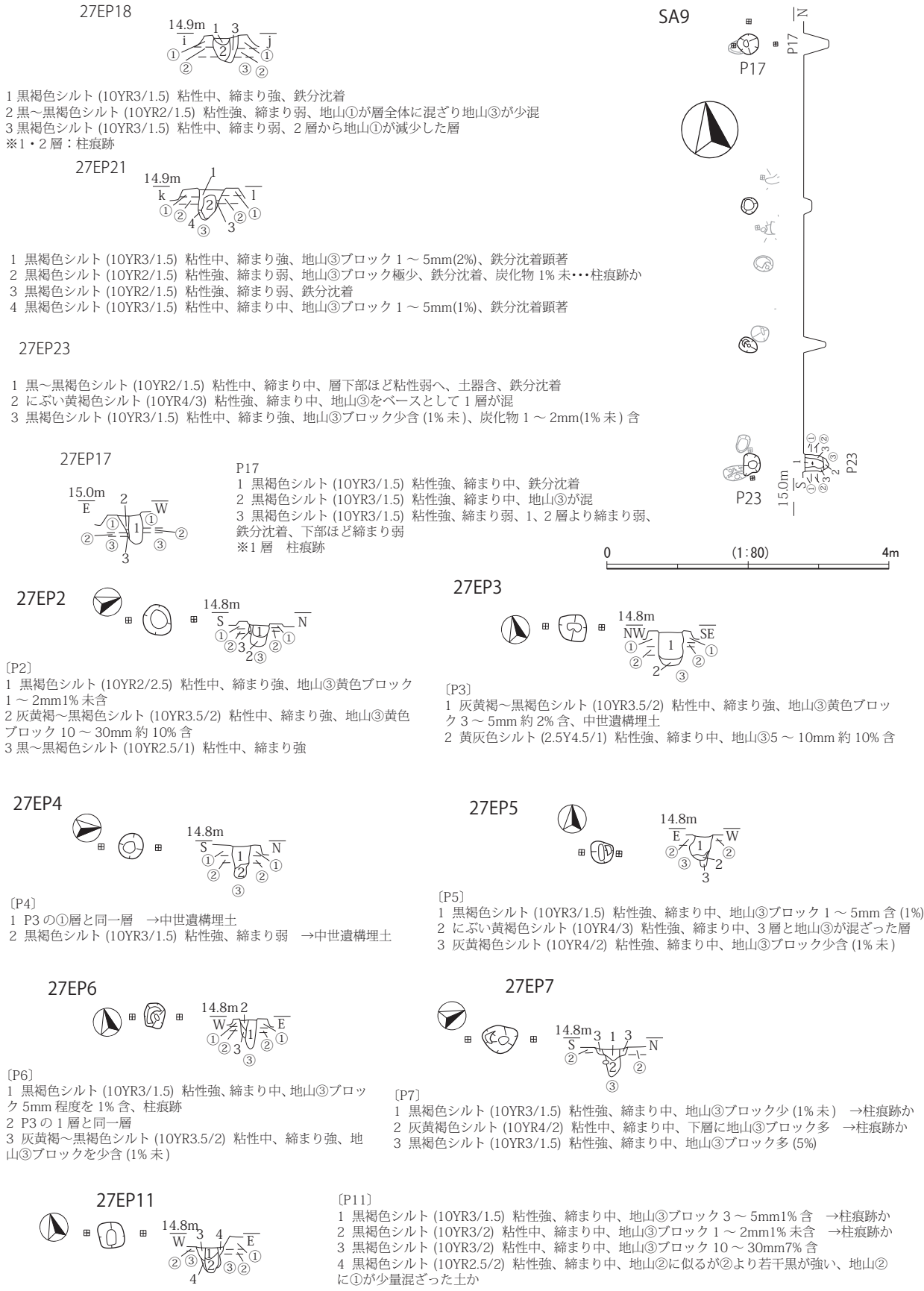


第52図 SB22遺構図(S=1/60・1/80)

第3節 遺構と遺物



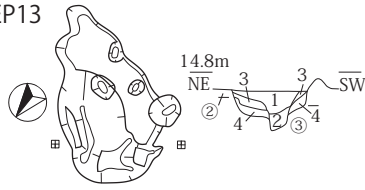
第53図 SB23・24遺構図(S=1/60・1/80)



第54図 SA11、H27E区柱穴遺構図(S=1/60、1/80)

第3節 遺構と遺物

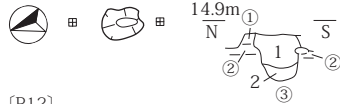
27EP13



[P13]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロックを極少含 (1% 未)
- 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③が全体に混、地山③と3又は4層の混ざった土か
- 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中
- 4 灰黄褐～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性強、締まり中、3層に似るが若干明るい色を呈す

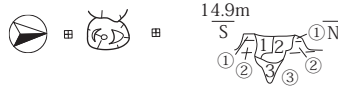
27EP12



[P12]

- 1 黒褐色シルト (10YR2/2.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック5～10mm5%含
- 2 灰黄褐～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック10～20mm5%含

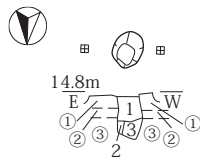
27EP14



[P14]

- 1 黒褐色シルト (10YR2/2.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック10～30mm10%含
- 2 黒褐色シルト (10YR2/2.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック5～10mm1%含
- 3 灰黄褐～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性中、締まり中

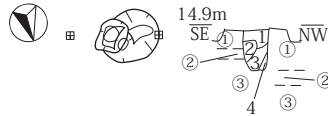
27EP16



[P16]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック5～20mm(20%)
- 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり弱
- 3 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック5～30mm(30%)

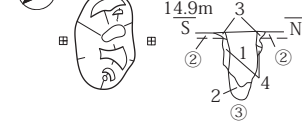
27EP19



[P19]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、地山①混、地山③5mmブロック(1% 未)、炭化物少量(1% 未)
- 2 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり中、層下部に地山③が多混
- 3 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり弱、他層の混ざり無し、2層より黒み強い
- 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、地山③が多混

27EP22



[P22] 下層遺構

- 1 黒色シルト (10YR2/1) 粘性強、締まり中、層下部ほど締まり弱い、炭化物1～2mm微量(1% 未)、地山③ブロック5mm(1% 未)含→1、2層 柱痕跡
- 2 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり弱、炭化物1～2mm(1% 未)、地山③ブロック混→1、2層 柱痕跡
- 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、炭化物1～3mm(1% 未)、地山③ブロック極少(1% 未)含
- 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロック1～5mm(2%)含

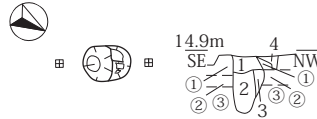
27EP20



[P20]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着
- 2 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり弱、層上部に地山③ブロック1～2mm少含(1% 未)

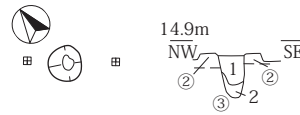
27EP34



[P34]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着顕著、炭化物1～3mm(1% 未)、地山①ブロック少含
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分少量沈着、炭化物1～6mm(1% 未)
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、地山①③が混
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着顕著、地山①ブロック少量混
- ※2層：柱痕跡、4層：別遺構

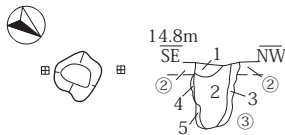
27EP35



[P35]

- 1 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性中、締まり中、地山③ブロック1～5mm(1% 未)→柱痕跡
- 2 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり弱、地山③ブロック3～10mm(2%)→柱痕跡

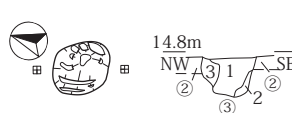
27EP36



[P36] 下層遺構

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、炭化物1～2mm(1% 未)、鉄分沈着顕著、地山③ブロック1～3mm(1% 未)含
 - 2 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり中、炭化物1～3mm(1% 未)、地山③ブロック10～20mm(1% 未)含→柱痕跡
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、2層と地山③が混ざった土か
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、3層に似るが地山③の割合多
 - 5 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、4層より更に地山③の割合多く地山③主体の土
- ※硬化しており、柱の当たりと推定される

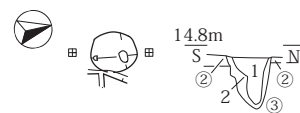
27EP37



[P37] 下層遺構

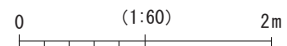
- 1 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロック1～5mm(1% 未)、鉄分沈着、柱痕跡
- 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、地山③を主体として1層が少し混ざった様な土、3層よりは少し明るい
- 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、2層より1層の割合増し、上部ほど1層が多混

27EP38

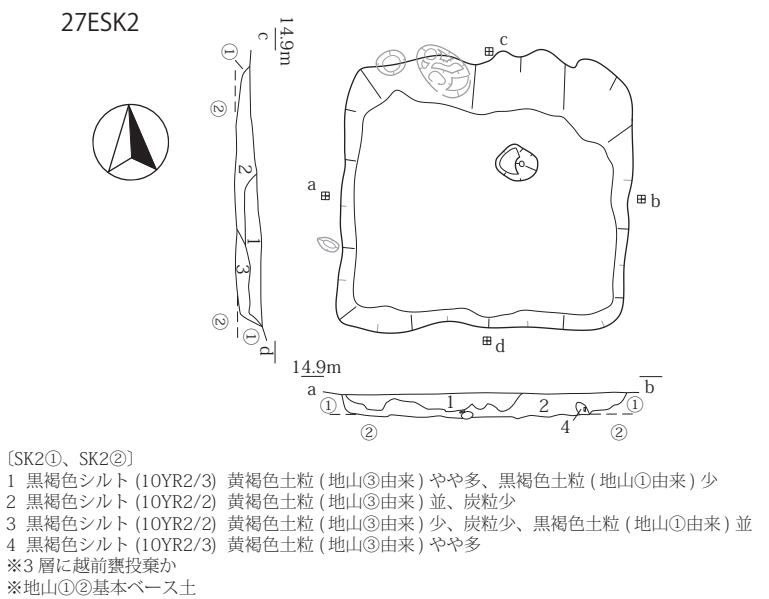
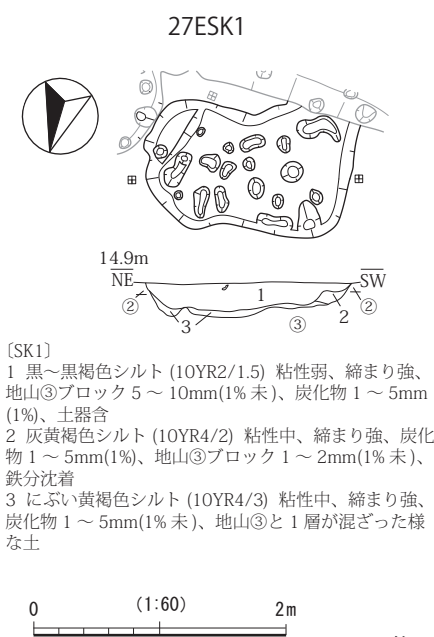
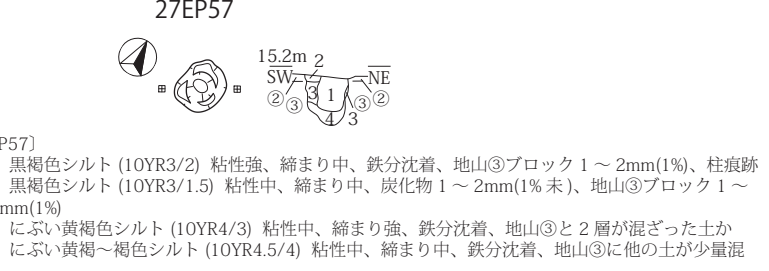
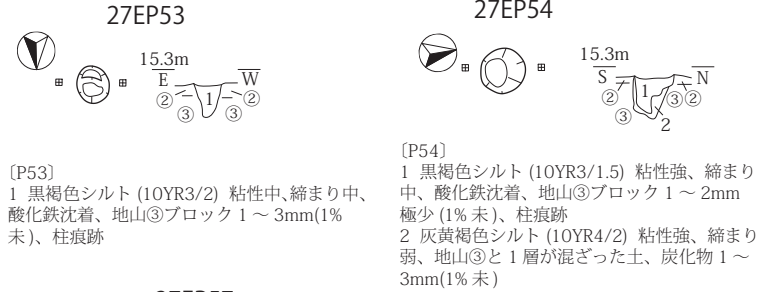
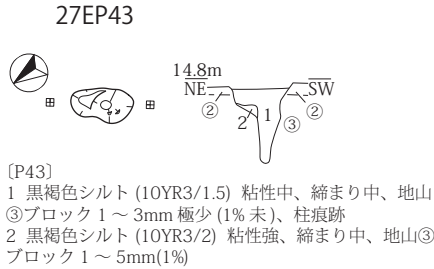
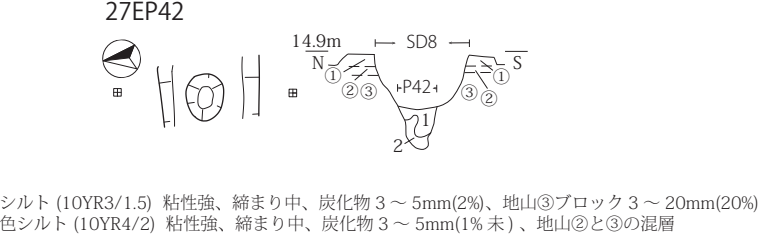
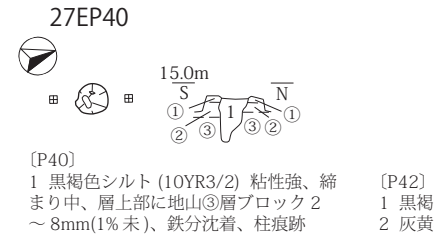
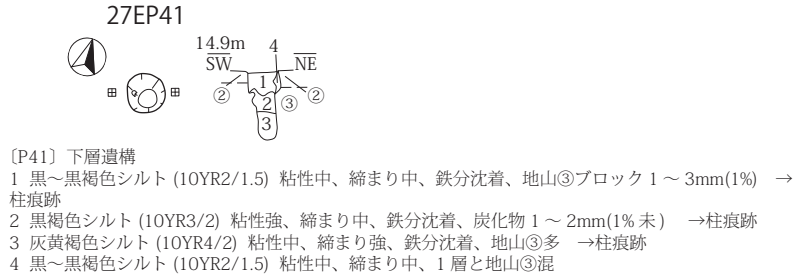
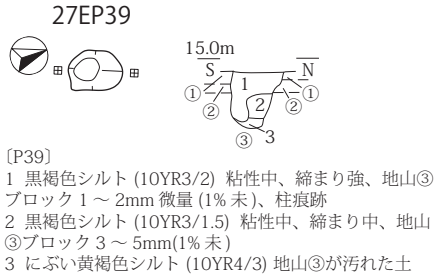


[P38] 下層遺構

- 1 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、柱痕跡
- 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック3～5mm(5%)



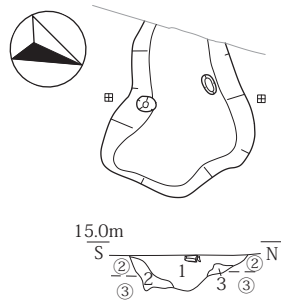
第55図 H27E区柱穴遺構図(S=1/60)



第56図 H2E区柱穴・土坑遺構図(S=1/60)

第3節 遺構と遺物

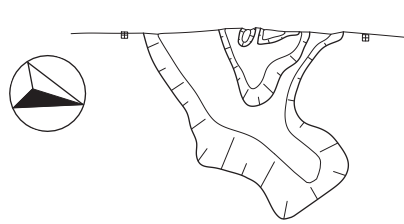
27ESK4



[SK4]

- 1 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 2～5mm(2%)
- 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、炭化物 1～3mm (1% 未)、鉄分沈着、下部に地山③ブロック 5% 含
- 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、炭化物 1～3mm (1% 未)、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(1% 未)

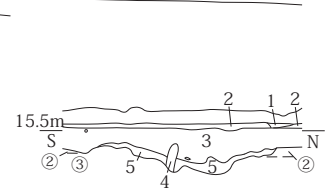
27ESK5



[SK5]

- 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着顕著
- 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着顕著
- 3 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～5mm(1%)、酸化鉄少量沈着、土器含
- 4 灰黄～黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性強、締まり弱、層下部に地山③ブロック 3～5mm 含、植物痕か
- 5 黒褐～灰黄褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性強、締まり中、地山③と 3 層が混ざった層か

SK5+西壁



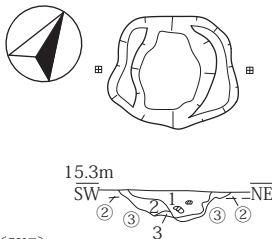
27ESK6



[SK6]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 2～5mm(1% 未)、酸化鉄沈着
- 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山①ブロック 1～3mm(1%)、地山③ブロック 10～20mm(5%)、酸化鉄沈着
- 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着顕著、炭化物 1～3mm(1%)、土器含、2層より黒みが弱い
- 4 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、酸化鉄少量沈着、炭化物 1～3mm(1%)、地山③ブロック 1～5mm(1% 未)
- 5 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性中、締まり中、酸化鉄沈着、地山③と 4 層が混ざった土か
- 6 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、層下部に地山③ブロック 1～5mm 含、炭化物 1～3mm(1%)
- 7 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、層下部に地山③ブロック 3～10mm 含、炭化物 1～5mm(1%)、6層とほぼ同一層
- 8 黒褐～灰黄褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性中、締まり中、酸化鉄沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)、地山③ブロック 1～5mm(1%)
- 9 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、締まり中、酸化鉄少量沈着

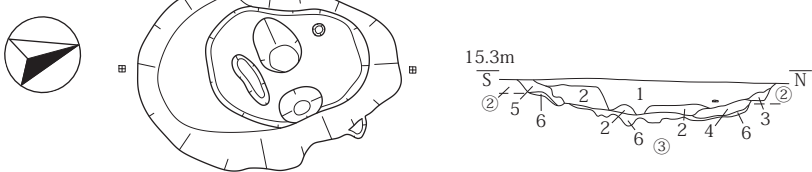
27ESK7



[SK7]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり強、地山③ブロック 2～5mm(1% 未)
- 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～15mm(15%)、酸化鉄沈着
- 3 灰黄褐～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～20mm(10%)

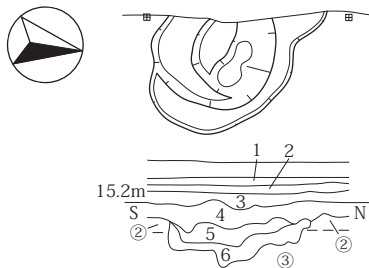
27ESK8



[SK8]

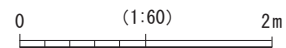
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着顕著、層下部に地山③ブロック 1～10mm が下層に少量散在、土器含
 - 2 1層より少し黒み強いシルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、酸化鉄沈着、地山③ブロック 1～3mm(2%)
 - 3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着、地山③を主体として 1 又は 2 層が混ざった土か
 - 4 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～10mm(2%)、酸化鉄沈着
 - 5 灰黄褐～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性中、締まり中、酸化鉄沈着、地山③と 1 又は 2 層が混ざった様な土、層下部ほど地山③の割合増
 - 6 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着、地山③と 1 又は 2 層が混ざった土か、3層より 1 又は 2 層の割合多い
- ※写真を撮って取り上げた土器は 2 層の出土か

27ESK9



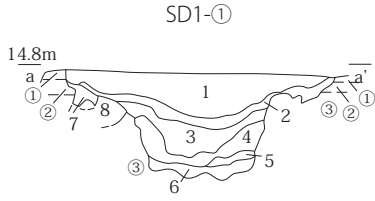
[SK9]

- 1 黄灰～暗灰黄色シルト (2.5YR 4/1.5) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着顕著、炭化物 1～10mm (2%)、床土
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着顕著
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着
 - 4 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり中、酸化鉄少量沈着
 - 5 10YR 3.5/2(灰黄灰～黒褐色シルト) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～5mm(1% 未)、地山③と 4 層の混ざった土か
 - 6 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性強、締まり中、5層より地山③の割合が増す黒褐色ブロック 1～3mm(1% 未)
- ※5・6層：SK9 覆土



第57図 H27E区土坑遺構図(S=1/60)

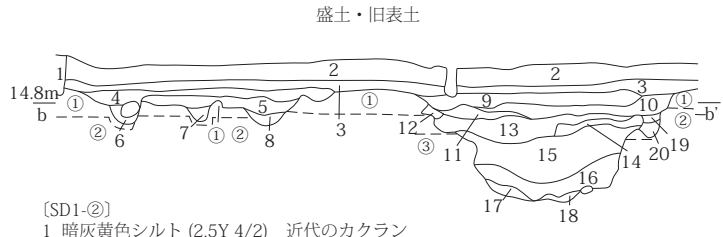
27ESD1



[SD1-①]

- 1 黒褐色シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒 (地山③)・炭粒・小礫少
 - 2 黒褐色シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒 (地山③) 多くブロック状に混、黒褐色土塊 (地山①) 少
 - 3 黒褐色シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒 (地山③) 極少、1層に近似するが1層より粘土に近い
 - 4 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒 (地山③) 多、粘土に近い (下層にいく程粘土に近い)
 - 5 黒色細粒シルト (10YR 2/1) 黄褐色シルト粒 (地山③) 少、粘土に近い
 - 6 にぶい黄褐色シルト (10YR 5/4) 黒褐色 (5層) 粒少…地山が汚れた土
 - 7 黒褐色シルト (10YR 2/2)
 - 8 黒色シルト (10YR 2/1) 地山③大ブロック混
- ※1～6層：SD1覆土、7～8層：壁際のPitか
4～5層から滞水していた可能性が考えられる
遺物は主に1、2層から出土 (弥生～古墳の混入遺物多)

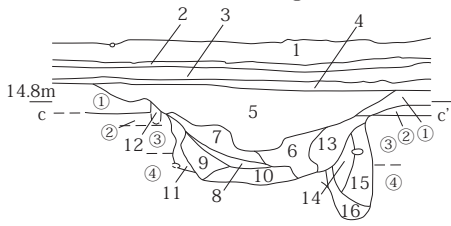
SD1-②



[SD1-②]

- 1 暗灰黄色シルト (2.5Y 4/2) 近代のカクラン
 - 2 暗灰黄色シルト (2.5Y 4/2) 床土か
 - 3 暗褐色シルト (10YR 3/3) 鉄分多…中世包含層
 - 4 褐色細砂 (10YR 4/4)
 - 5 褐色細砂 (10YR 4/4) 粗砂、地山①粒並
 - 6 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山①粒やや多
 - 7 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山①粒やや多 (6層と同一層か)
 - 8 黒色シルト (7.5YR 2/1) 地山②粒並
 - 9 黒褐色シルト (10YR 2/3) …3層に質が似る
 - 10 黒褐色シルト (10YR 2/2)
 - 11 黒褐色シルト (10YR 2/2) 黒褐色ブロック (地山①) 並
 - 12 黒褐色シルト (10YR 2/2)
 - 13 黒褐色シルト (10YR 2/2) 黄灰色粒 (地山③) 少…①-1層に対応
 - 14 黒褐色シルト (10YR 2/2) 黄灰色粒 (地山③) 少、13層よりも黄灰色粒多い
 - 15 黒褐色細粒シルト (7.5YR 3/1) 黒褐色粒 (地山①)・黄灰色粒 (地山③) 並、①-3層に対応、粘土に近い
 - 16 黒褐色細粒シルト (10YR 3/1) 黒褐色粒 (地山①) 少、黄灰色粒 (地山③) 壁際に並、粘土に近い、①-4層に対応
 - 17 黒褐色細粒シルト (10YR 3/1) 黒褐色粒 (地山①)・黄灰色粒多、粘土に近い
 - 18 褐色シルト (10YR 4/4) 16層が少し混
 - 19 黒褐色シルト (10YR 2/2)
 - 20 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山②並
- ※4～8層：SD3覆土、9～18層：SD1覆土、19、20層：SD1に付随する構造物関連か?

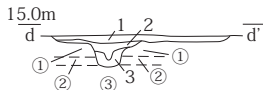
SD1-③



[SD1-③(SD6)]

- 1 黄灰色シルト (2.5Y 4/1) …旧耕土
 - 2 暗灰黄色シルト (2.5Y 4/2) 鉄分沈着、床土、②-2層
 - 3 暗灰黄色シルト (2.5Y 4/2) 床土、②-2層
 - 4 暗褐色シルト (10YR 3/3) 鉄分多、②-3層
 - 5 黒褐色シルト (10YR 2/2) 炭粒・黄褐色シルト粒 (地山③)・礫少、①-1層
 - 6 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒 (地山) 極少、礫少、粘土に近い、①-3層に対応か
 - 7 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒 (地山) 多、炭粒・礫少、粘土に近い
 - 8 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 礫並、粘土に近い
 - 9 黒褐色シルト (10YR 2/2) 小礫少、黄褐色シルト粒 (地山③) 壁際に入る
 - 10 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 礫少、粘土に近い…①-4層、②-16層に対応
 - 11 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3) 黒褐色シルトやや多…壁面崩落土
 - 12 黒褐色シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト (地山③) 粒多
 - 13 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒 (地山③) が均一に混
 - 14 黒褐色シルト (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒 (地山③) が上層を中心に多く入る、礫多…SD6-P3の柱痕跡の隅がかかっている
 - 15 暗褐色シルト (10YR 3/3) 礫並
 - 16 暗褐色細粒シルト (10YR 3/3) 粘土に近い、礫並
- ※5～10層：SD1覆土、13～16層：SD6覆土

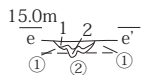
27ESD3



[SD3]

- 1 褐色細砂 (10YR4/4) 粘性弱、締まり強、地山①ブロック1～5mm 2%含、鉄分の沈着全体に有
- 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性強、締まり中、1層のブロック少、全体に鉄分の沈着多
- 3 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性強、締まり中、地山②と2層が混ざった様な層、鉄分の沈着2層より少
- 4 褐色細砂 (10YR4/4) 粘性弱、締まり強、1層に似るが黒みが少し強い、鉄分沈着1層より多

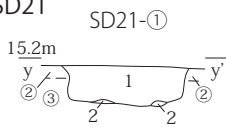
27ESD4



[SD4]

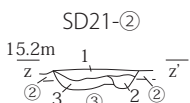
- 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性強、締まり中、地山①ブロック5%混、鉄分沈着
- 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり強、地山②20%混、鉄分少量沈着

27ESD21



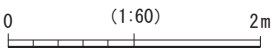
[SD21-①]

- 1 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分少量沈着、地山③ブロック1～80mm(25%)
- 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性中、締まり中、地山③を主体として1層が混



[SD21-②]

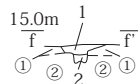
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③ブロック1～5mm(2%)
- 2 灰黄褐～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック1～5mm(10%)、地山③と1層が混ざった土が下層部ほど1層の割合が多
- 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、地山③を主体として1層が少量混ざった土



第58図 H27E区溝遺構図1 (S=1/60)

第3節 遺構と遺物

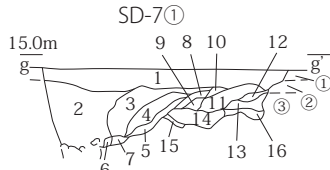
27ESD5



[SD5]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、鉄分全体に沈着、炭化物少 (1%未)、細砂極少
- 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性強、締まり中、鉄分全体に沈着

27ESD7



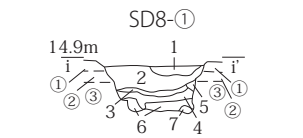
[SD7-①]

- 1 黒褐色シルト (10YR 3/2) 小礫極少
- 2 黒褐色細粒シルト (10YR 3/2) 5～20cm 大の礫含み、下層に多く入る、地山③粒少、やや粘土に近い
- 3 黒褐色シルト (10YR 3/2) 1cm 大の礫極少、炭粒少、地山③粒少だが 1 層よりは多い
- 4 黒褐色シルト (10YR 2/2) 2cm 大の礫極少、地山③ブロック少…3、5 層の混ざった層
- 5 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 地山③ブロック並
- 6 黒褐色細粒シルト (10YR 3/2) 地山③ブロック並、粘土に近い
- 7 黒褐色シルト (10YR 3/2)
- 8 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒少
- 9 黒褐色シルト (10YR 3/2)
- 10 黒褐色シルト (10YR 3/2)
- 11 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒極少、炭粒極少
- 12 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒極少
- 13 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③ブロック並
- 14 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 地山③粒ブロック下層を中心に入る
- 15 褐色シルト (10YR 4/4) 地山③と 14 層が混ざった層
- 16 褐色シルト (10YR 4/4) 地山③と 14 層が混ざった層 (15 層と同一層か) ※8 層もしくは 10 層西端で平面的に切り合いが確認されたため、SD8 より SD7 が新しいと判断された

[SD7-②]

- 1 黒褐色シルト (10YR 3/2) 小礫極少、炭粒少、地山③大ブロック 1 個混、①-1 層に対応
- 2 黒褐色シルト (10YR 3/2) 3cm と 10cm 超大礫 1 個ずつ混、地山③粒少
- 3 褐色シルト (10YR 4/4) 地山③に 2 層が少し混ざった層
- 4 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山③粒並
- 5 黒褐色シルト (10YR 3/2)
- 6 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒多…壁際に点在する Pit に入っている土
- 7 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 地山①、③粒・小ブロック並、①-5 層に対応、粘土に近い
- 8 黒褐色シルト (10YR 3/2)
- 9 褐色シルト (10YR 4/4) 地山③が少し汚れた土

27ESD8



[SD8-①]

- 1 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒少…SD7①-1 層に対応
- 2 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山①ブロック並、地山③粒少…SD7①-11 層に対応か (少し異なる)
- 3 黒褐色シルト (10YR 3/2) …SD7①-12 層に対応
- 4 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒極少…SD7①-13 層に対応
- 5 褐色シルト (10YR 4/4) 地山②③崩落土
- 6 褐色シルト (10YR 4/4) 地山②に地山③粒が多量に入ったような層…SD7①-15、16 層に対応
- 7 にぶい黄褐色シルト (10YR 5/4) 地山③が汚れた土

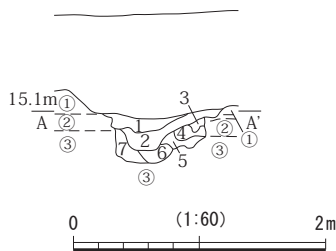
[SD8-②]

- 1 黒褐色シルト (10YR 3/2) 炭粒少、地山③粒少…SD8①-1 層に対応か
- 2 黒褐色シルト (10YR 2/2) 炭化物並、地山③粒少
- 3 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒
- 4 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3) 地山③が汚れた土、地山③の崩落土
- 5 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山②崩落土
- 6 黒褐色シルト (10YR 2/2) 炭化物 1 個含、地山③粒少
- 7 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3) 地山③が汚れた土、地山③の崩落土、4 層と同質
- 8 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒少
- 9 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 炭化物並、地山粒やや多、粘土に近い、土師器皿多く出土
- 10 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3) 黒褐色シルト多、炭化物並

[SD8-③]

- 1 暗灰黄色シルト (2.5Y 4/2) 旧耕作土
- 2 黒褐色シルト (10YR 3/2) 暗灰黄色シルトブロック他、中世包含層
- 3 黒褐色シルト (10YR 2/2) 暗灰黄色シルト粒並、地山③粒少
- 4 黒褐色シルト (10YR 2/2) 暗灰黄色シルト粒少、地山①③粒並
- 5 黒褐色シルト (10YR 3/2) 暗灰黄色シルト粒少、地山①粒・ブロック少、地山③粒少、4cm 大礫 1 個、SD8②-1 層に対応
- 6 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山①③粒、北壁際を中心に入る、SD8②-2 層に対応か
- 7 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山①③粒少、6 層と同質だが地山①③の混ざり具合が異なる、SD8②-2 層に対応か
- 8 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒多、地山①粒並、SD8②-9 層に対応するが土師器皿はなし
- 9 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/4) 地山③が汚れた土

27ESD22

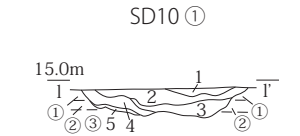


[SD22 東壁]

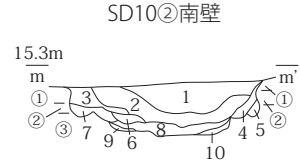
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着顕著、地山③ブロック 1～2mm(1%)
- 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着顕著、地山③ブロック 1～5mm(3%)
- 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～5mm(15%)
- 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③を主体として 10YR3/2(3 層) が混
- 5 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～5mm(30%) 層下部では多混、ブロック状を呈さない
- 6 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、3、4 層より締まり弱、鉄分沈着顕著、地山③ブロック 1～10mm(10%)
- 7 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～20mm(20%)

第59図 H27E区溝遺構図 2 (S=1/60)

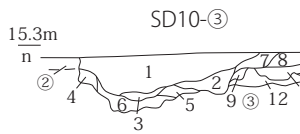
27ESD10



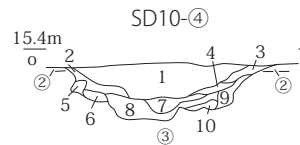
- [SD10-①]
 1 黒褐色シルト (10YR 2/3) 地山①粒少
 2 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山①粒少
 3 暗褐色シルト (10YR 3/3) 小礫・地山①小ブロック少
 4 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山①②が混ざった層
 5 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山③が汚れた土



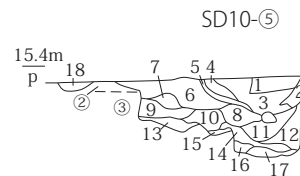
- [SD10-② 南壁]
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1%)、断面③-1層に対応
 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1%)、炭化物 1～3mm(1%未)、断面③-3・5層に対応
 3 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、細砂が混、鉄分沈着、断面③-7層に対応
 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～5mm(2%)、炭化物 1～3mm(1%未)、鉄分沈着
 5 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、4層と地山③が混ざった層
 6 暗灰黄色細砂 (2.5Y4/2) 地山③ブロック 2～10mm(1%未)、炭化物 1～3mm(1%未)、断面③-8層に対応
 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～10mm(1%)
 8 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まりやや弱、地山③ブロック 3～30mm(15%)、断面③-7層に対応
 9 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり中、鉄分少量沈着
 10 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり中、9層と似るが地山③10～40mmブロックが多い(40%)



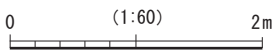
- [SD10-③]
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～3mm(1%)、酸化鉄沈着顕著、断面④-1層に対応
 2 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 10%、酸化鉄沈着顕著、断面④-9層に対応
 3 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、酸化鉄沈着顕著、断面④-7層に対応か
 4 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、酸化鉄沈着、地山③ブロック 1～10mm(5%)、断面④-2、3層に対応
 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、酸化鉄沈着、層下部に地山③ブロックと小石含、断面④-7層に対応か
 6 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まりやや弱、酸化鉄沈着、層下部に地山③ブロックと小石含、断面④-8層に対応
 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、層下部ほど 8層の細砂が多混
 8 暗灰黄色細砂 (2.5Y4/2) 炭化物 1～10mm少量(1%未)、地山③ブロック 1～5mm(1%)、シルトも少量混、断面④-6層に似る
 9 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～10mm(7%)、10YR3/1シルト混(10%)
 10 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、10YR3/1シルトが多混(20%)、上層部には 8層の細砂が少量混
 11 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まりやや弱、10YR3.5/2が全体に混、酸化鉄沈着顕著
 12 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性中、締まり強、酸化鉄沈着、10YR3/1をブロック 1～20mm(5%)、地山③をベースに 11層が混土



- [SD10-④]
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～5mm(1%)、酸化鉄沈着顕著、炭化物極少量(1%未)
 2 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、地山③10%含、酸化鉄沈着、炭化物 2～3mm(1%未)
 3 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～3mm(2%)、酸化鉄沈着顕著
 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり 1層より少し弱、酸化鉄沈着顕著
 5 褐色シルト (10YR4/4) 粘性中、締まり中、4層が多混(30%)
 6 暗灰黄色細砂 (10YR4/2) 炭化物 1～5mm(1%)
 7 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～10mm(1%未)、酸化鉄沈着顕著、炭化物 1～3mm(1%未)
 8 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり 7層より弱い、層下部に地山③ブロック 1～10mm多含(5%)、酸化鉄沈着
 9 黒～黒褐色シルト (10YR2/1.5) 粘性強、締まりやや弱、地山③ブロック 1～3mm(1%未)、酸化鉄沈着顕著
 10 褐色シルト (10YR4/4) 粘性中、締まり強、10YR4/2(6層と同質)細砂をブロック 30mm(10%程)、地山③と 6層の混ざった土か
 ※2、3層は同一層か

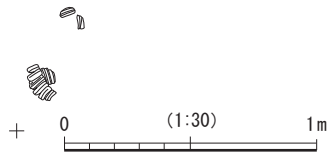


- [SD10-⑤]
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性弱、締まり強、地山③ブロック 1～10mm(5%)、鉄分沈着
 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着
 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～10mm(10%)、鉄分少量沈着
 4 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(15%)
 5 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(2%)、4層より少し黒が強い
 6 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1%未)
 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1mm(1%未)、6層より少し黒が強い
 8 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(2%)
 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(10%)
 10 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～30mm(10%)、炭化物 1～2mm(1%未)
 11 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1%未)
 12 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～10mm(10%)
 13 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③を主体として 10YR3/2が 30%程混
 14 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、地山③が 15%程混
 15 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③を主体として 10YR3/1が少量混
 16 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まりやや弱、地山③ブロック 1～5mm(5%)、炭化物 1～3mm(1%)
 17 暗灰黄色細砂 (10YR4/2) 鉄分沈着、炭化物 1～5mm(3%未)、細砂を主体としてシルト混
 18 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1mm(1%)、鉄分沈着 →別溝

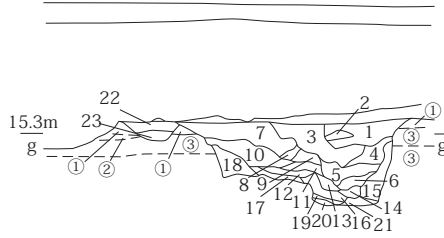


第60図 H27E区溝遺構図3 (S=1/60)

27ESD10 馬歯出土状況



SD10-⑥



[SD10-⑥]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性弱、締まり強、地山③ブロック 1～10mm(1% 未)、鉄分沈着
 - 2 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1mm(1%)、3層に似るが地山③ブロック少ない
 - 3 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～5mm(15%)、鉄分少量沈着
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～3mm(2%)
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり弱、地山③ブロック 5～7mm(1% 未) 極少、鉄分沈着、5層より少し黒が強い
 - 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1% 未)
 - 8 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1%)
 - 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(1% 未)、7層と同
 - 10 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(2%)、炭化物 1～5mm 極少 (1% 未)
 - 11 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(2%)
 - 12 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、11層よりやや黒みが弱い、鉄分沈着、11層に地山③が少量混ざった土か
 - 13 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、地山③が層下部に多混
 - 14 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(2%)
 - 15 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、層中～上部にかけて地山③ブロック 1～10mm が多く (10%)
 - 16 灰黄褐色～黒褐色細砂 (10YR3.5/2) 粘性中、締まりやや弱、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(30%)、シルト混
 - 17 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～30mm(30%)、炭化物 1～5mm(1% 未)
 - 18 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～20mm(20%) 層下部ほど大ブロック
 - 19 暗灰黄色細砂 (2.5Y4/2) 鉄分沈着、シルトを少含
 - 20 灰黄褐色～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(10%)
 - 21 灰黄褐色～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 地山③ブロック 1～10mm(10% 含)、細砂並含
 - 22 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～2mm(1% 未)
 - 23 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1mm(1%)、鉄分沈着
- ※古代か？ 弥生末～古墳の包含層を切って中世溝に切り込まれる
 ※1～6層が溝の最終形態か。何度か掘り直し泥のかき上げが行われている
 ※15・18層：壁面崩落土、22・23層：別溝埋土：SD10に切られる畝溝(断面⑤にも23層のみ有)

27ESD13～SD16

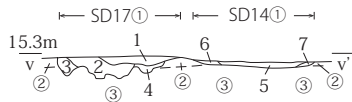


[SD13-SD16]

- 1 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1mm(1% 未)、酸化鉄沈着 →SD15
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～5mm(3%)、酸化鉄沈着 →SD14②
 - 3 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～5mm(2%)、酸化鉄沈着、炭化物 1～2mm(1% 未) →SD13
 - 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、締まり中、酸化鉄少量沈着、3層が少混 →SD13
 - 5 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり強、酸化鉄少量沈着 →SD16
 - 6 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～5mm(3%) →SD16
 - 7 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性強、締まり中、地山③をベースに6層が混土 →SD16
- ※1層：SD15、2層：SD14②、3・4層：SD13、5-7層：SD16

27ESD17

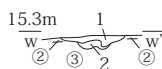
SD17-①、SD14-①



[SD17-①、SD14-①]

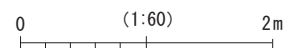
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 3～5mm(1% 未)、酸化鉄沈着
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、1層より締まりやや弱い、地山③多む (15%)、酸化鉄沈着
 - 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、締まり中、酸化鉄沈着、地山③と2層が混ざり合った層
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③多含 (25%)、酸化鉄沈着
 - 5 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、10YR3/2 土多 (40%)、酸化鉄沈着
 - 6 黒褐～灰黄褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性強、締まり中、5層と10YR3/2が混ざり合った層か
 - 7 黒褐～灰黄褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性強、締まり中、5層と10YR3/2(黒褐色)が混ざり合った層か、鉄分沈着、地山③ブロック (1% 未)
- ※1～4層：SD17①、5～7層：SD14①

SD17-②



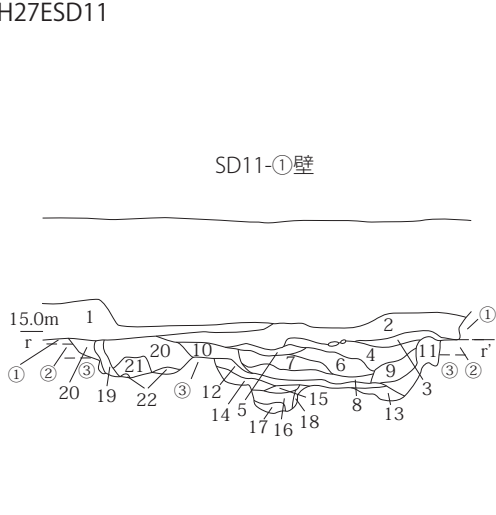
[SD17-②]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 3～5mm(1%)、酸化鉄沈着、断面①-1層に対応
- 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、1層より締まりやや弱、地山③多 (20%)、断面①-2層に対応



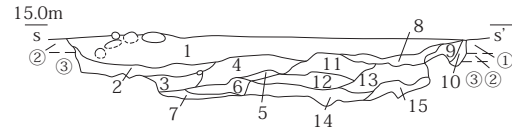
第61図 H27E区溝遺構図4 (S=1/60)

H27ESD11



- [SD11-①壁]
- 1 灰黄褐色シルト (10YR 4/2) 旧耕土か近世の盛土
 - 2 黒褐色シルト (10YR 2/2) 鉄分沈着
 - 3 暗褐色シルト (10YR 2/3) 地山③粒極少
 - 4 黒褐色シルト (10YR 2/2) 5cm 大礫入る、礫で埋められていた (写真)
 - 5 暗褐色シルト (10YR 2/3) 3cm 大礫 1 個、3 層に似る
 - 6 黒褐色シルト (10YR 2/2) 炭粒極少、地山②粒少
 - 7 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒・ブロック少
 - 8 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③ブロック並、3cm 大礫 1 個
 - 9 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③ブロック並、5cm 大礫 1 個、粘土に近い
 - 10 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒少
 - 11 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③ブロック多
 - 12 黒褐色細粒シルト (2.5Y 3/1) 粘土に近い・・・ある時期の溝底か、滞水していたか
 - 13 褐色シルト (10YR 4/4) 地山③が汚れた土
 - 14 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 地山③ブロック多
 - 15 黒褐色細砂 (10YR 2/2) シルト混
 - 16 黒色粘土 (10YR 2/1) 地山③粒少
 - 17 にぶい黄褐色シルト (10YR 5/4) 地山③が汚れた土
 - 18 にぶい黄褐色シルト (10YR 5/4) 地山③が汚れた土
 - 19 黒褐色粘土 (10YR 3/2) 木根か
 - 20 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 締まり強、粘土に近い、地山③少
 - 21 黒褐色粘土 (10YR 3/2) 締まり強
 - 22 にぶい黄褐色シルト (10YR 5/4) 地山③が汚れた土
- ※2～13層：SD11、14～18層：SD7、20～22層：SD12

SD11-②(SD12・7 合流部)

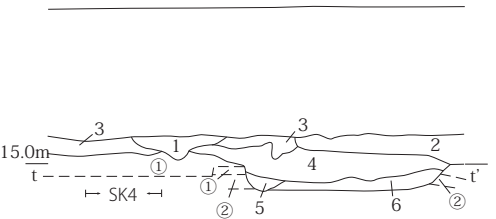


- 5 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③ブロック並
- 6 黒褐色シルト (10YR 3/2) 細砂極少
- 7 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 地山③粒少、①-14 層に似る
- 8 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒少
- 9 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒多
- 10 黒褐色シルト (10YR 2/2)
- 11 黒褐色シルト (10YR 2/2)
- 12 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒少
- 13 黒褐色シルト (10YR 2/2) 下層に極少量の砂混
- 14 黒褐色シルト (10YR 3/1) 砂少・地山③ブロック少
- 15 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 粘土に近い、地山③粒少

[SD11-②]

- 1 黒褐色シルト (10YR 2/3) 上層を中心に5～20cm 大礫多、鉄分沈着、①の2～4層、写真、幅 50cm 程の所に溝状に礫が多量に入っていたので、凹みに投棄されたものとみられる
- 2 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒並
- 3 黒褐色細粒シルト (10YR 2/2) 地山③粒少、粘土に近い
- 4 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒極少

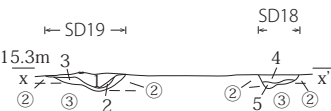
SD11-③西壁



[SD11-③ 西壁]

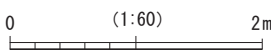
- 1 灰黄褐色シルト (10YR 4/2)
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR 4/2) 下層に小～中礫多
 - 3 黒褐色シルト (10YR 3/2) 中世包含層
 - 4 黒褐色シルト (10YR 2/2) 5cm 大礫 1 個、②-1 層に相当
 - 5 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒並
 - 6 黒色シルト (10YR 2/1) 黒色シルト大ブロックと地山③が混ざった層
- ※1層：近世以降の遺構、2層：盛土、4、5層：SD11、6層は SD11 下層以外にも広がっており、基盤層の可能性あり

H27ESD18・19



[SD18・19]

- 1 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 2～5mm(1% 未)、酸化鉄沈着、土器含
 - 2 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 5～10mm(10%)、酸化鉄沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～3mm(1% 未)
 - 4 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 3～5mm(1% 未)、酸化鉄沈着、1層とほぼ同質
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～5mm(1%)、酸化鉄沈着、3層とほぼ同質
- ※1～3層：SD19、4・5層：SD18



第62図 H27E区溝遺構図 5 (S=1/60)

第3節 遺構と遺物

第2表 遺構測量表1

地区	遺構名	主軸	間数	桁行		梁行		備考
				全長(m)	柱間寸法(m)	全長(m)	柱間寸法(m)	
D1	SB1	N32° E	1×2	2.7~	2.2	3.3	3.3	布掘り。野々市市教委2015bのSB5
B	SB2	N33° E	1×3	5.5	1.7~2.0	4.5	4.5	布掘り。建て替えか。
B	SB3	N55° W	(1×3)	1.0~	-	-	-	布掘り。野々市市教委2015bのSB3
D2	SB4	N31° E	1×2	2.9	1.8~2.1	3.0	2.9~3.0	側柱
D2	SB5	N42° E	2×3	3.4	1.4~1.5	5.3	2.2~3.1	側柱+独立棟持柱
D1・2	SB6	N33° E	1×5	11.5	1.8~2.6	5.0	5.0	側柱。法量は市教委調査分含む
D1	SB7	N36° E	1×5	11.4	1.9~2.5	4.7	4.7	側柱。法量は市教委調査分含む
A	SB8	N24° E	2×2	3.4~	1.6	3.4	3.4	側柱
B	SB9	N39° E	1×3	8.9	2.8~3.0	4.6	4.6	側柱
B	SB10	N39° E	1×4	9.5	2.2~2.4	4.2	4.2	側柱
B	SB11	N56° W	1×3	5.3	1.7~1.9	3.8	3.8	側柱
B	SB12	N5° E	2×4	8.0	1.3~2.5	3.7	1.9~2.0	総柱
B	SB13	N9° E	2×2	3.6~	1.3~2.3	3.5	1.75	総柱
B	SB14	N5° E	1×2	3.9	1.9~2.0	1.25	1.25	側柱
B	SB15	N33° E	2×3	5.2	1.7~2.0	3.5	1.5~1.9	四隅の柱穴なし
C	SB16	N16° E	1×2	6.9	2.5~4.3	4.0	1.6~2.4	庇あり
D	SB17	N25° E	2×2	4.0	1.9~2.1	3.7	1.8~1.9	庇あり
D	SB18	N23° E	2×2	3.7	1.8~1.9	2.5	0.8~1.7	庇あり
D	SB19	N71° W	2×3	5.6	1.8~2.0	3.7	1.6~2.1	
D	SB20	N70° W	2×5	9.2	1.5~2.1	4.1	2.0	
D	SB21	N22° E	2×3	4.8	1.1~1.8	3.4	1.5~1.9	
E	SB22	N35° E	1×3	6.3	2.0~2.2	3.2・3.6	3.2・3.6	布掘り。建て替え。
E	SB23	N10° E	2×2	4.6	2.2~2.3	4.3	1.4~2.9	
E	SB24	N9° E	1×2	3.5	1.5~2.0	3.0	3.0	
B	SA1	N32° E	4	9.0	2.0~2.5	-	-	
B	SA2	N32° E	5	10.5	1.7~2.4	-	-	
B	SA3	N32° E	8	17.3	1.9~2.5	-	-	
B	SA4	N32° E	8	16.9	2.1~3.6	-	-	
D1	SA5	N35° E	4	7.0	1.3~2.4	-	-	
D2	SA6	N3° W	3	8.0	2.7~2.8	-	-	
D	SA7	N90° E	4	3.7	0.9~1.0	-	-	
D	SA8	N90° E	3	2.5	0.7~0.9	-	-	
E	SA9	N7° E	3	5.9	1.6~2.2	-	-	

第3表 遺構測量表2

地区	遺構名	グリッド	形状	長軸長、	短軸長、	最深(cm)	最浅(cm)	備考
				長さ(cm)	幅(cm)			
D1	SI01	X92Y28	略方形	(359)	(337)	溝15・内19	溝3・内16	26ASD3より古
D1	SK01	X92Y29	不整形	172	96	10	5	
D1	SK02	X93Y29	不整形	183	157	16	6	
D1	SK03	X93Y28・29	不整形	120	111	10	3	
D1	SD01	X93Y28・29	-	(800)	120~158	23	7	SD2・6より新
D1	SD02	X91~93Y28	-	(2352)	30~72	29	5	SD4・SX1より新 A区に続く
D1	SD03	X92Y28・29	-	459	43~108	9	4	
D1	SD04	X92Y28・29	-	(1435)	41~84	15	7	SX1より新 SD2より古 A区に続く
D1	SX01	X91Y28	-					SD2・4より古 A区に続く
D2	SI02	X95・96Y29	円形	730	(422)	溝11・内5	溝4・内4	
D2	P46	X95Y29	円形	53	52	29	-	SI2の柱穴
D2	P47	X95Y29	略方形	52	44	31	-	
D2	P48	X95Y29	楕円形	58	45	24	-	SB5の柱穴
D2	P49	X95Y29	楕円形	70	41	22	-	
D2	P50	X95Y29	略円形	52	47	25	-	SB5の柱穴
D2	SK04	X94Y29	不整長方形	206	129	18	10	
D2	SK05	X95Y29	不整楕円形	107	87	30	5	SI2の屋内土坑
D2	SD05	X94~97Y29・30	-	(3803)	76~146	44	21	SD8・SB4・SD11より新 B区に続く
D2	SD06	X94・95Y29	-	(1025)	46	19	7	SD1より古
D2	SD07	X94Y29	-	(598)	32	12	1	
D2	SD08	X94・95Y30	-	(268)	38	21	13	SD5より古
D2	SD09	X94・95Y29	-	663	129	18	6	SI2の周溝 SD10より古
D2	SD10	X95Y29	-	174	34	26	4	SD9より新
D2	SD11	X95・96Y29~31	-	(3429)	32~93	34	6	SI2より新 SD5より古 B区に続く
D2	SD12	X95Y29	-	281	-	21	9	SI2の周溝 SD10より古
A	P04	X91Y28	不整形	66	41	97	51	SB8の柱穴
A	P05	X91Y28	略長方形	48	33.4	48	-	SB8の柱穴
A	P06	X90Y29	不整形	98	50	33	-	2基重複
A	SK01	X91Y28	隅丸長方形	122	56	31	27	
A	SK02	X91Y29	不整楕円形	204	136	13	9	
A	SK03	X91Y28	不整形	(164)	92	16	12	SD1・2に切られる
A	SD01	X91Y28	-	(347)	9~22	4	3	
A	SD02	X91~93Y28	-					D1区に続く
A	SD03	X91・92Y28	-	(1195)	80~165	40	19	D1区に続く
A	SD04	X92Y18・29	-					SD3より古 D1区に続く
A	SD05	X91Y29	-	197	38~45	28	(27)	
A	SX01	X91・92Y28	不整形	442	(277)	31	21	SD2・4より古 D1区に続く
A	SX02	X91Y28	楕円形	(130)	87	11	7	SD2より古
B	P04	X97Y30	不整円形	50	41	70	-	SB15の柱穴
B	P12	X97Y31	不整形	56	45	38	-	

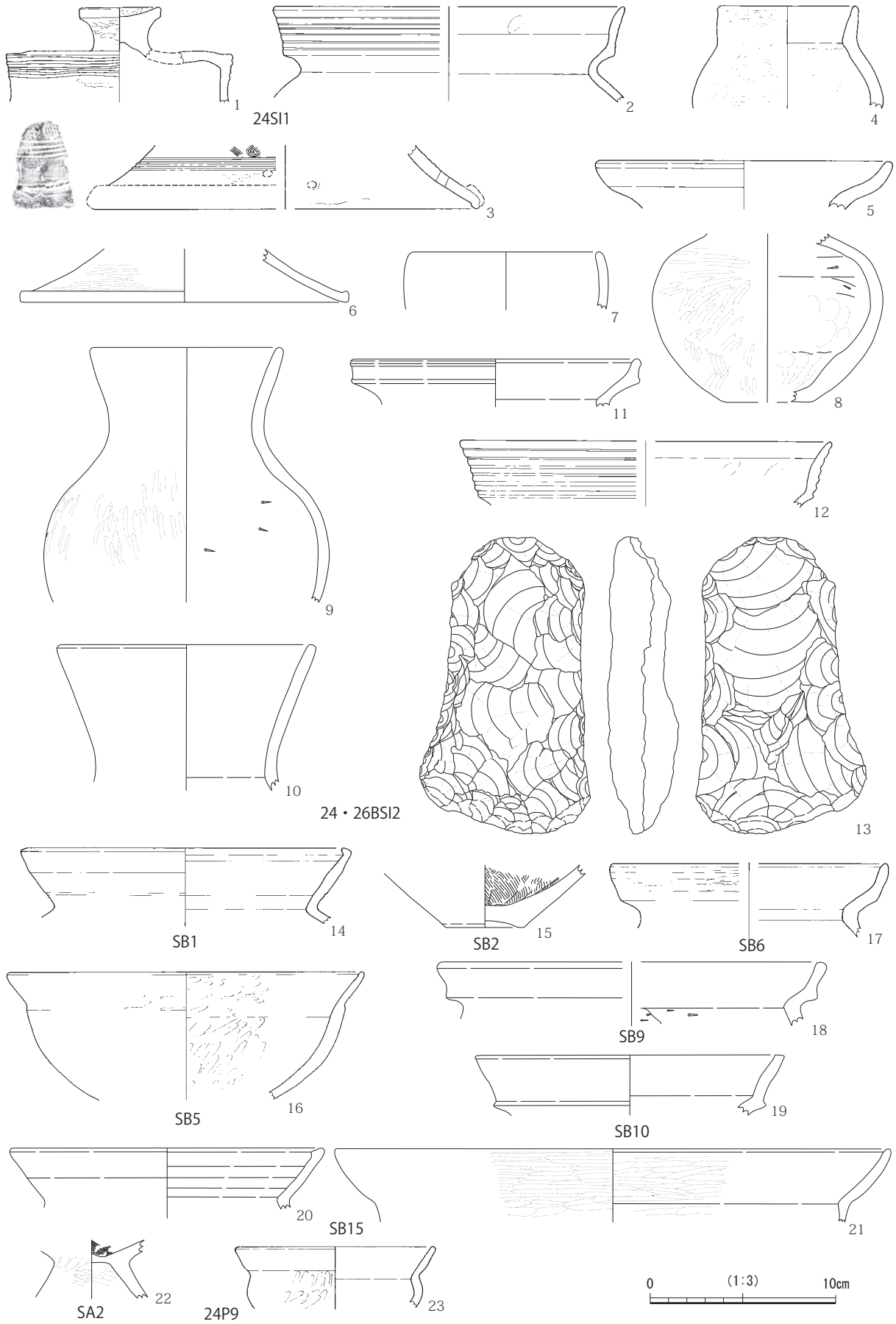
第4表 遺構流量表3

地区	遺構名	グリッド	形状	長軸長、長さ (cm)	短軸長、幅 (cm)	最深 (cm)	最浅 (cm)	備考
B	P17	X97Y29	不整形円形	48	46	57	—	
B	P23	X98Y29・30	略円形	59	57	93	—	SB17の柱穴
B	P25	X97Y29	不整形円形	41	46	47	—	
B	P26	X97Y29	略円形	45	(34)	50	—	SB11の柱穴
B	P27	X97Y30	略円形	39	39	64	—	SB15の柱穴
B	P30	X98Y30	略円形	48	39	86	—	SB9の柱穴
B	P32	X98Y29	略円形	53	43	57	—	SB11の柱穴
B	P33	X98Y30	楕円形	47	(36)	85	—	SB9の柱穴
B	P34	X98Y31	不整形楕円形	73	40	82	—	SB9の柱穴
B	P35	X98Y31	不整形	87	40	70	—	SB9の柱穴
B	P36	X98Y29	不整形楕円形	32	28	14	—	
B	P72	X99Y31	略楕円形	64	36	40	—	SA1の柱穴
B	P73	X98Y31	略円形	57	52	78	—	SB9の柱穴
B	P74	X99Y30	楕円形	65	36	75	—	SB9の柱穴
B	P75	X99Y31	円形	48	48	93	—	SB9の柱穴
B	P77	X98・99Y30	楕円形	54	37	65	—	SB9の柱穴
B	P91	X99Y30	不整形円形	66	73	95	—	SB10の柱穴
B	SK01	X98Y30	不整形	(342)	(118)	8	7	
B	SK02	X96Y30	不整形	177		43	9	
B	SK03	X97Y29	不整形	165	145	34	6	SK4より新
B	SK04	X97Y29	不整形楕円形	(105)	61	20	10	SD1より新 SK3より古
B	SK05	X96Y31	楕円形	323	259	16	2	風倒木
B	SK06	X96Y29	不整形	154	78	10	6	24SI2の周溝の一部か
B	SK07	X96Y31	不整形楕円形	(156)	(48)	62	12	SB3の布掘り
B	SK08	X98Y29・30	楕円形	181	93	13	2	
B	SK09	X97Y31	不整形	176	130	14	4	
B	SK10	X96Y31	略円形	(125)	87	52	36	
B	SK11	X98Y31	不整形	170	142	19	7	
B	SK12	X99・100Y29・30	不整形長方形	303	(162)	86	38	SD10より古
B	SK13	X100Y30	隅丸長方形	380	(185)	63	62	SD10より古
B	SK14	X99Y29	不整形	(138)	(91)	30	6	
B	SD01	X96・97Y29	—	(1126)	37~127	12	4	SK4・SD2・5より古
B	SD02	X96・97Y30・31	—	(3044)	24~86	13	7	SI2の周溝 SD2より古
B	SD03	X96Y30	—	670	75~108	(64)	(30)	SB2の布掘り SD2・5より古
B	SD04	X96Y30	—	673	48~65	37	28	SB2の布掘り
B	SD05	X94~97Y29・30	—					D2区に続く
B	SD06	X96Y31	—	(351)	50~74	(12)	(4)	SD11より新
B	SD07	X96Y30	—	175	24~(52)	6	3	
B	SD08	X98Y29~31	—	(1952)	15~50	6	(5)	
B	SD09	X100Y30・31	—	(210)	50~67	7	—	SD10より新
B	SD10	X100Y30	—	(965)	194~230	65	26	SK12・13より新 SD9より古
B	SD11	X95・96Y29~31	—					D2区に続く
B	SD12	X99・100Y31	—	(678)	53~152	38	1	
B	SD13	X96Y29	—	(660)	104~207	19	2	SD2の続きか
B	SX02	X99Y30	不整形	580	178	9	3	
B	SX03	X99Y29・30	不整形	235	60	10	2	
C	SI01	X3Y31・32	方形	554	(241)	24	22	
C	P01	X4Y30	不整形楕円形	68	46	31	—	SB16の柱穴
C	P02	X4Y30	円形	30	28	35	—	
C	SK01	X4Y31	不整形	175	133	12	6	
C	SK02	X4Y30	円形	166	156	170	154	未完掘
C	SK03	X4・5Y30	円形	300	166	(176)	(160)	未完掘
C	SD01	X3・4Y31	—	200	10~45	9	3	
D	P05	X9Y32	略方形	37	33	44	—	SB21の柱穴
D	P06	X9Y32	不整形楕円形	40	27	42	—	
D	P33	X10Y30	略方形	33	29	46	—	
D	P37	X10Y31	略方形	39	36	55	—	
D	P46	X14Y28	略円形	32	26	52	—	
D	P47	X14Y28	不整形楕円形	45	31	38	—	
D	P48	X14Y29	略円形	38	35	46	—	
D	P56	X13Y29	略長方形	38	27	48	—	
D	P58	X11Y30	略方形	30	28	45	—	
D	P61	X13Y29	略円形	42	38	45(54)	—	
D	P72	X10Y30	略円形	41	38	19	—	SD9より新
D	SK01	X9Y31・32	略方形	237	231	23	12	
D	SK02	X8Y30・31	不整形	(568)	476	101	(1)	SD2より古
D	SK03	X9Y31	略方形	302	269	20	1	SB17内
D	SK04	X8・9Y30・31	略方形	368	(364)	31	8	SD6より古
D	SK05	X9Y30	略円形	(251)	284	(155)	3	SD6より新 未完掘
D	SK06	X10Y30	略円形	300	249	(156)	42	未完掘
D	SK09	X12Y29	不整形長方形	461	341	48(59)	6	SB20内 河川跡より古
D	SK10	X14Y29	略円形	174	129	22	11	
D	SK11	X13・14Y28	不整形	166	(110)	9(9)	2	
D	SK12	X13Y29	略円形	330	259	(173)	73	未完掘
D	SK13	X11・12Y29	不整形	(260)	233	45(49)	4	河川跡より古
D	SK14	X12Y30	不整形長方形	284	196	6(25)	3	SB19内
D	SD01	X8・9Y31・32	—	(1014)	80~111	36	(3)	SD2より古
D	SD02	X8~10Y31	—	(2693)	11~51	22	16	SK2・3、SK3より新
D	SD03	X8Y31	—	(202)	24~49	7	2	
D	SD04	X9Y31	—	(149)	61~83	8(25)	5	SK3より古

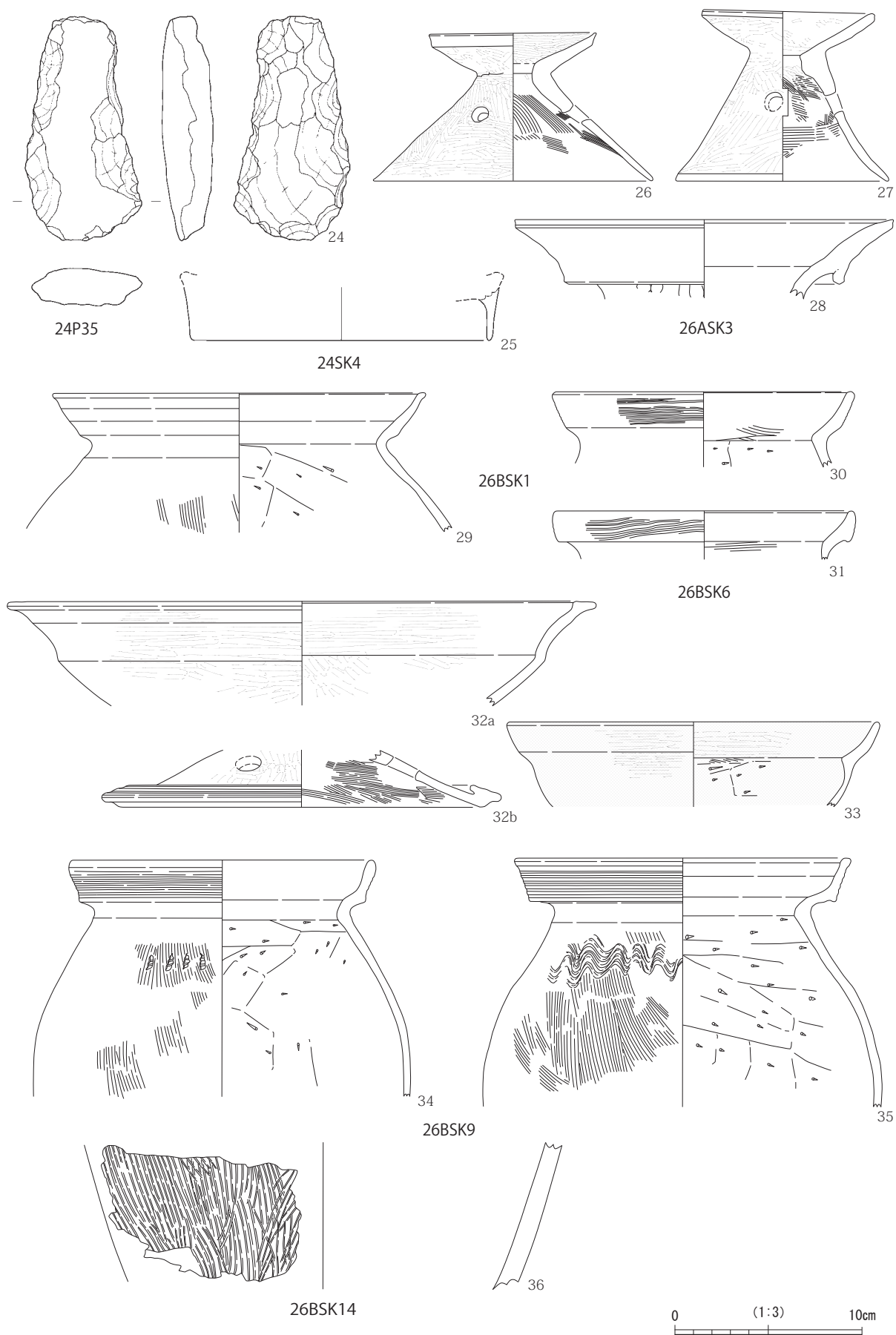
第5表 遺構測量表 4

地区	遺構名	グリッド	形状	長軸長、 長さ (cm)	短軸長、 幅 (cm)	最深 (cm)	最浅 (cm)	備考
D	SD05	X 9 Y31	—	(370)	15~46	10 (24)	7	SK 4 より古
D	SD06	X 8 ~10Y30	—	(1516)	22~65	31	6	SD 5 より新 SK 4 より古
D	SD07	X 9 Y31	—	235	37~51	34	—	SK 3 より古
D	SD08	X13・14Y28・29	—	1280	—	—	—	
D	SD08西端部	X14Y29	—	244	469~547	81	1	
D	SD08通路部	X14Y29	—	106	449~471	26	1	
D	SD08中央部	X13・14Y28・29	—	613	489~551	69	2	
D	SD08東端部	X13Y28	—	317	117~216	50	6	
D	SD09	X10・11Y29・30	—	(801)	(7~75)	11	10	
D	SD10	X11・12Y30	—	(577)	152~233	5	3	SD11より古
D	SD11	X11Y30・31	—	(1123)	79~128	5	3	SD10より新
D	SX02	X 9 Y31	不整形	136	74	9 (55)	4	
D	SX03	X14・15Y28	不整形	(464)	273	9	6	
D	SX04	X14Y29	不整形	262	188	3 (35)	1	
D	SX05	X14・15Y28	不整形	(416)	(106)	17	3	
E	P02	X87Y28	略円形	34	32	25		
E	P03	X86Y27	略方形	32	30	(40)		
E	P04	X86Y27	円形	29	27	(42)		
E	P05	X86Y28	略円形	26	25	33		
E	P06	X86Y28	略方形	28	24	(35)		
E	P07	X86Y28	略円形	40	32	33		
E	P11	X87Y27・28	略方形	30	28	31		
E	P12	X86Y28	不整形	35	25	30		
E	P13	X86Y27・28	不整形	146	80			
E	P14	X86Y27・28	略円形	36	28	(44)		
E	P16	X85Y27	略円形	31	25	(42)		
E	P17	X85Y27	円形	33	31	23		SA 9 の柱穴
E	P18	X85Y27	楕円形	33	26	(29)		SB24の柱穴
E	P19	X85Y27	略円形	49	42	29		
E	P20	X85Y27	略方形	26	26	(28)		
E	P21	X85Y27	略円形	33	27	(39)		SB24の柱穴
E	P22	X85Y27	不整形	78	48	69		
E	P23	X85Y27	不整形	29	25	27		
E	P24	X85Y28	略円形	46	38	(44)		SB23の柱穴
E	P25	X85Y27	円形	31	30	33		SB23の柱穴
E	P33	X85Y27	略円形	36	32	50		SB23の柱穴
E	P34	X85Y27	楕円形	40	30	(51)		
E	P35	X85Y28	円形	30	27	(37)		
E	P36	X86Y28	不整形	40	39	54		
E	P37	X84Y27	略方形	46	43	65		
E	P38	X85Y27	略円形	39	34	46		
E	P39	X84Y27	略楕円形	45	33	(49)		
E	P40	X84Y27	略円形	26	26	(41)		
E	P41	X84Y27	円形	33	32	57		
E	P43	X84Y28	不整形	52	30	66		
E	P53	X80Y26	円形	31	27	30		
E	P54	X79Y26	円形	40	38	34		
E	P56	X80Y26	円形	50	45	33		
E	P57	X81Y26	不整形	42	40	45		
E	SK01	X85Y27	不整形	164	95	30	10	SD 8 より古
E	SK02	X86・87Y27	方形	230	214	(19)	4	
E	SK04	X83Y28	不整形	(131)	108	21	9	
E	SK05	X79Y27	不整形	(162)	(137)	28	5	
E	SK06	X80Y27	不整形	243	75	23	9	
E	SK07	X80Y27	略方形	95	91	28	8	
E	SK08	X80Y27	楕円形	210	157	41	17	
E	SK09	X81Y27	不整形	(95)	110	47	12	
E	SD01	X86Y27・28	—	(1174)	166~245	(81)	60	SB22・SD 3 より新
E	SD03	X84~86Y27・28	—	(2326)	20~186	(25)	1	SD 1・8 より古
E	SD04	X85・86Y28	—	(637)	28~50	(7)	(5)	
E	SD05	X85Y27・28	—	(808)	19~45	(11)	(4)	SD 8 より古
E	SD06	X86・87Y28	—	(420)	45~66	58	40	SB22の布掘り SD 1 より古
E	SD07	X84・85Y27	—	(1614)	37~209	62	39	
E	SD08	X85Y27・28	—	(103)	75~154	(53)	(29)	SK 1・SD 3・5 より新
E	SD09	X86Y28	—	701	39~123	25	22	SB22の布掘り SD 1 より古
E	SD10	X78~84Y27・28	—	(5807)	55~214	61	19	SD 3・11より古
E	SD11	X83・84Y27・28	—	(115)	164~205	(46)	(5)	SD10より新
E	SD12	X84Y27	—	340	66~106	26	25	
E	SD13	X78・79Y27	—	(627)	23~34	8	3	
E	SD14	X79Y26	—	(811)	29~102	12	4	SD19より新
E	SD15	X79Y26	—	(275)	15~42	5	2	
E	SD16	X79Y27	—	(348)	30~44	18	4	
E	SD17	X79・80Y26	—	(1575)	12~101	23	3	SD14より新
E	SD18	X79Y26	—	(325)	28~42	16	6	SD17より古
E	SD19	X79Y26	—	(311)	32~44	13	6	SD14より古
E	SD20	X79Y26	—	88	30~33	6	3	
E	SD21	X81・82Y27	—	864	47~107	29	6	
E	SD22	X81Y26・27	—	457	58~101	36	29	
E	SD23	X80Y26	—	98	19~21	7		

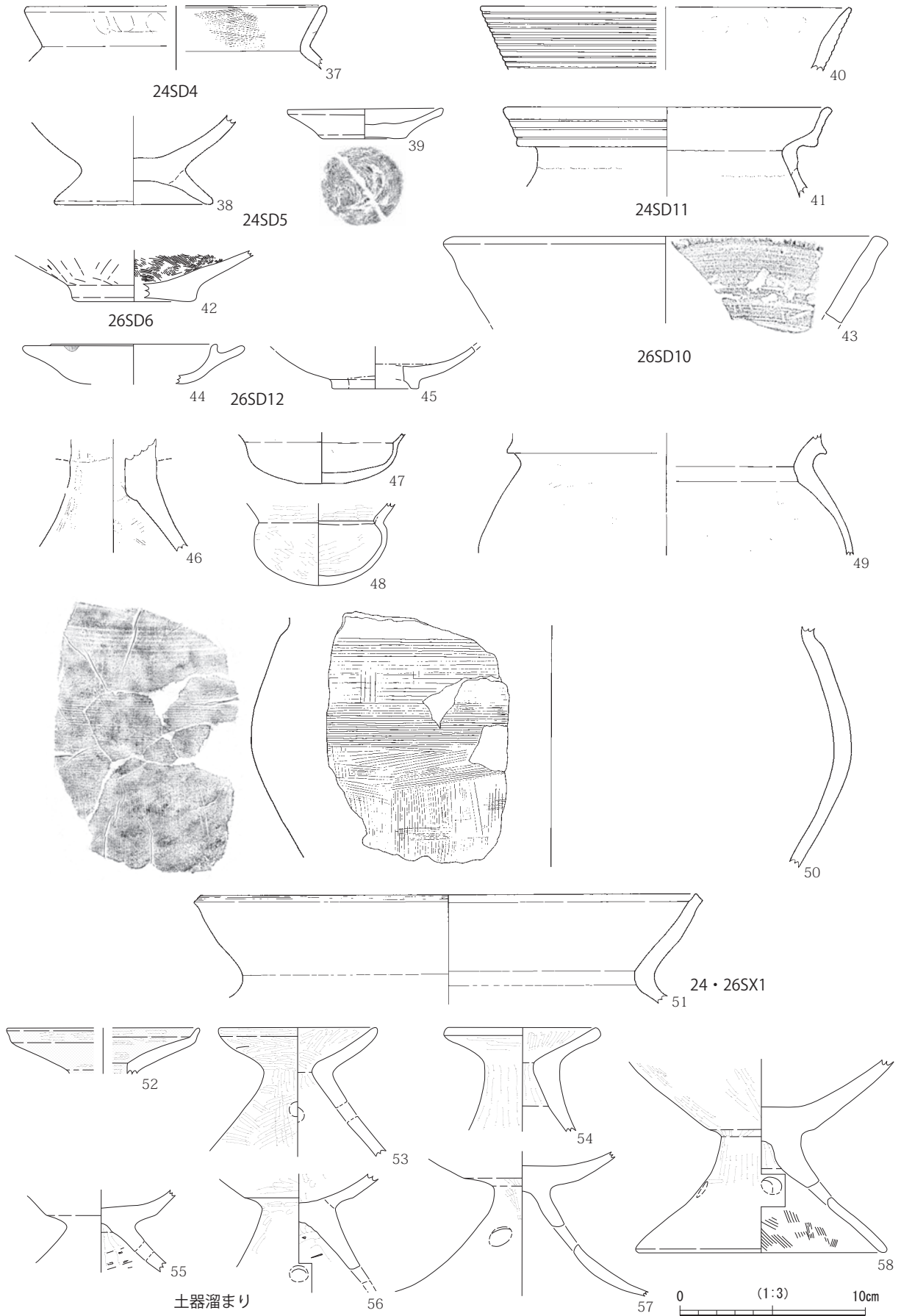
()内の数値は調査区内で完結していないもの



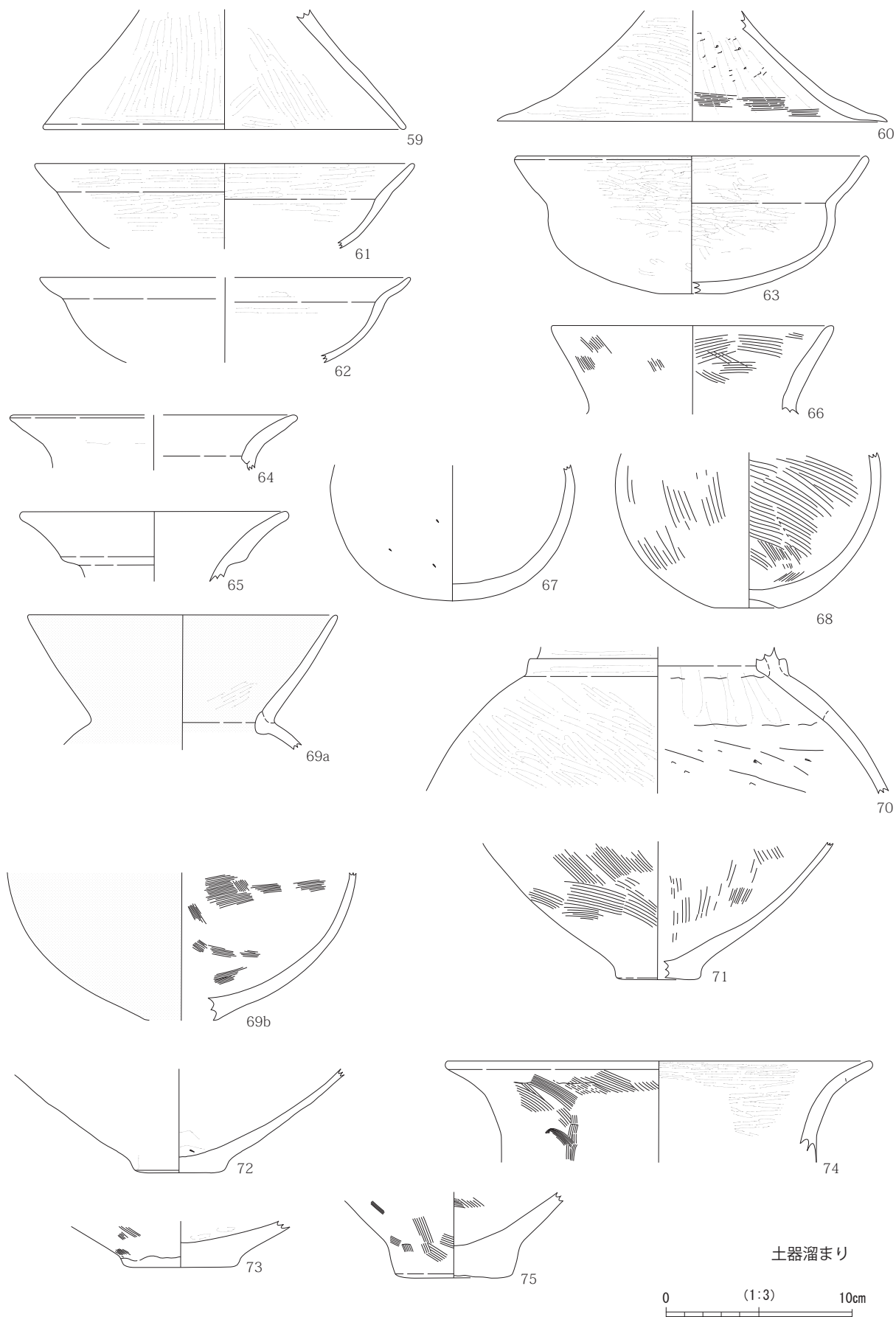
第63図 H24、H26A・B区遺物実測図1 (S=1/3)



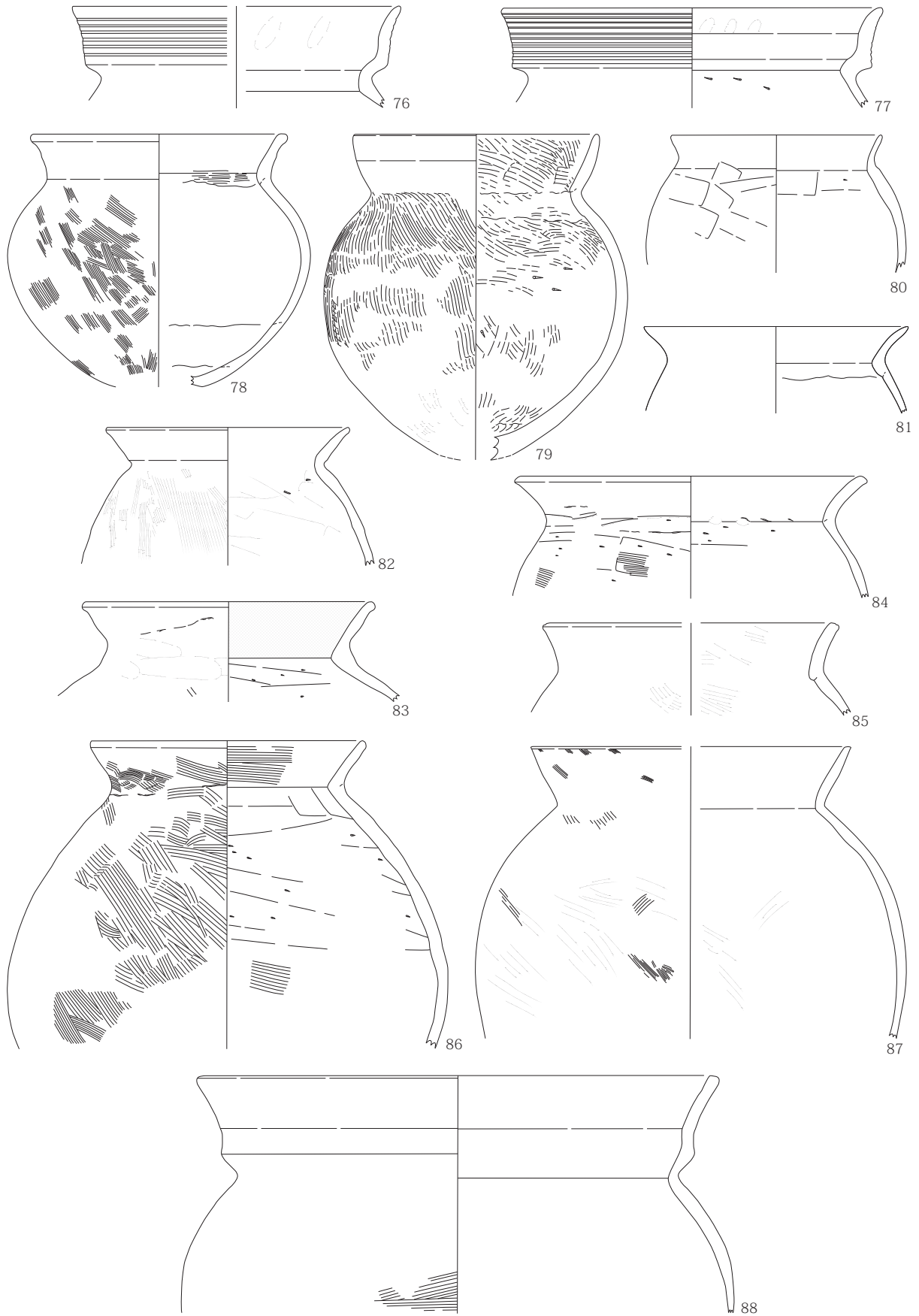
第64図 H24、H26A・B区遺物実測図2 (S=1/3)



第65図 H24、H26A・B区遺物実測図3 (S=1/3)



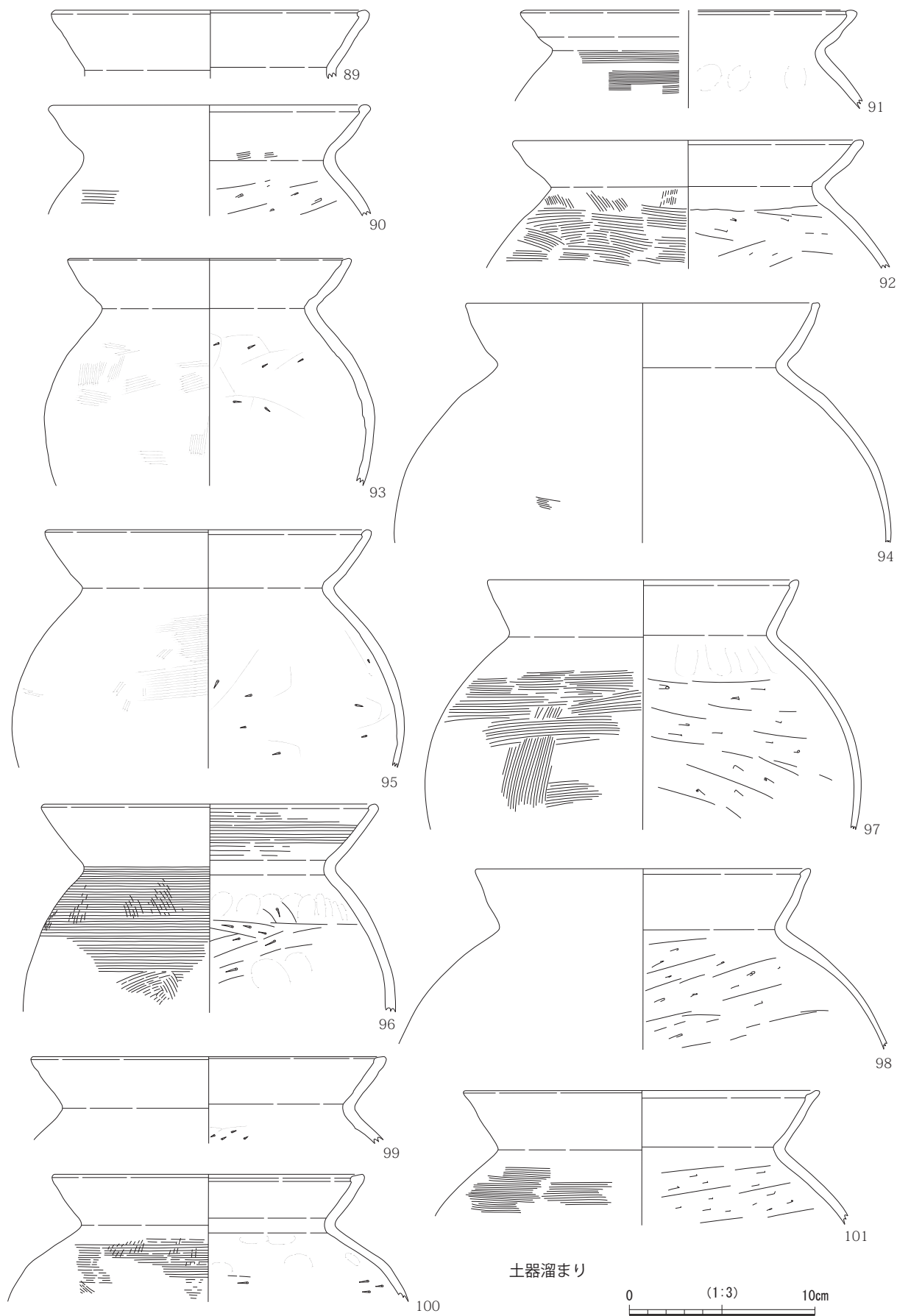
第66図 H24、H26A・B区遺物実測図4 (S=1/3)



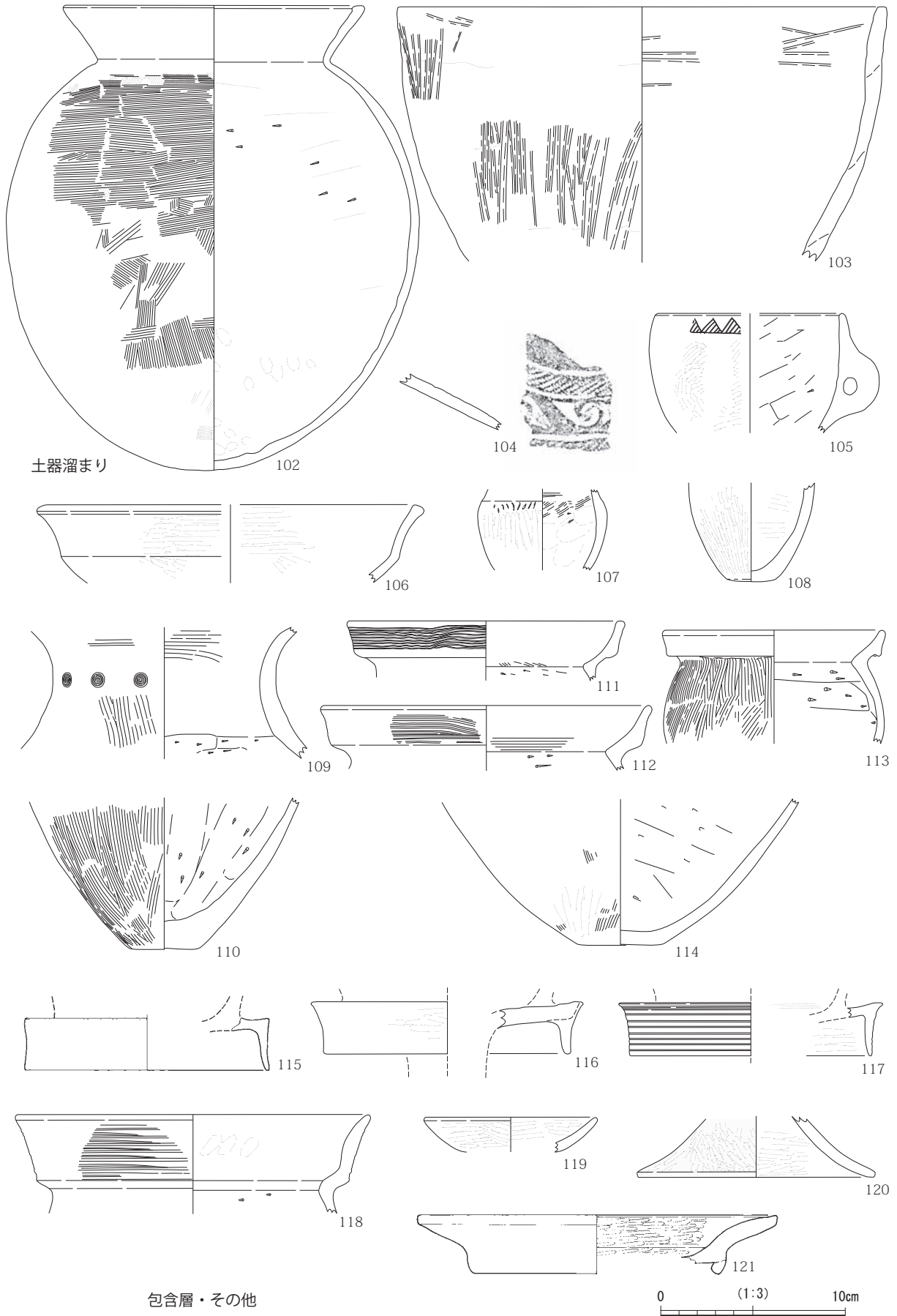
土器溜まり

第67図 H24、H26A・B区遺物実測図5 (S=1/3)

0 (1:3) 10cm



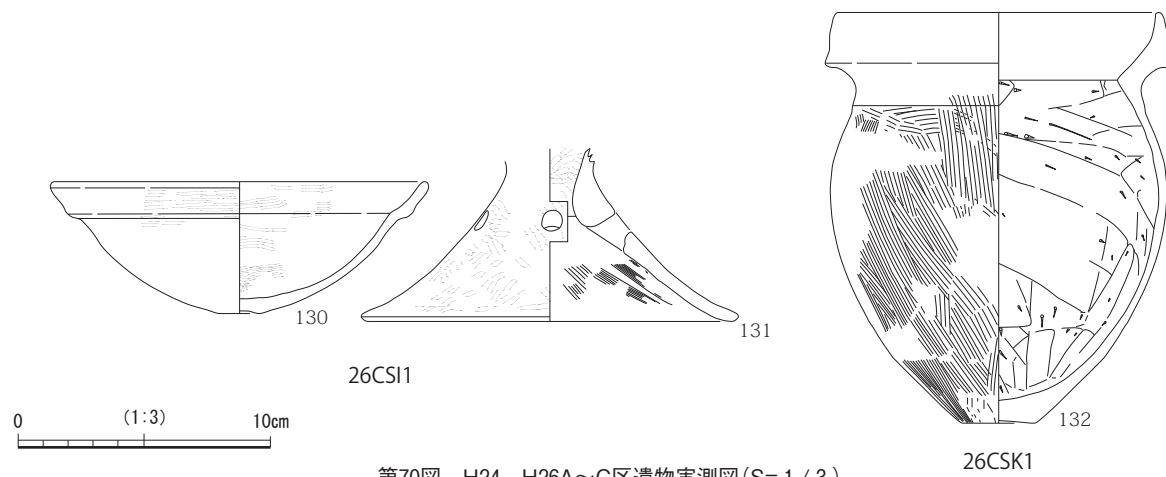
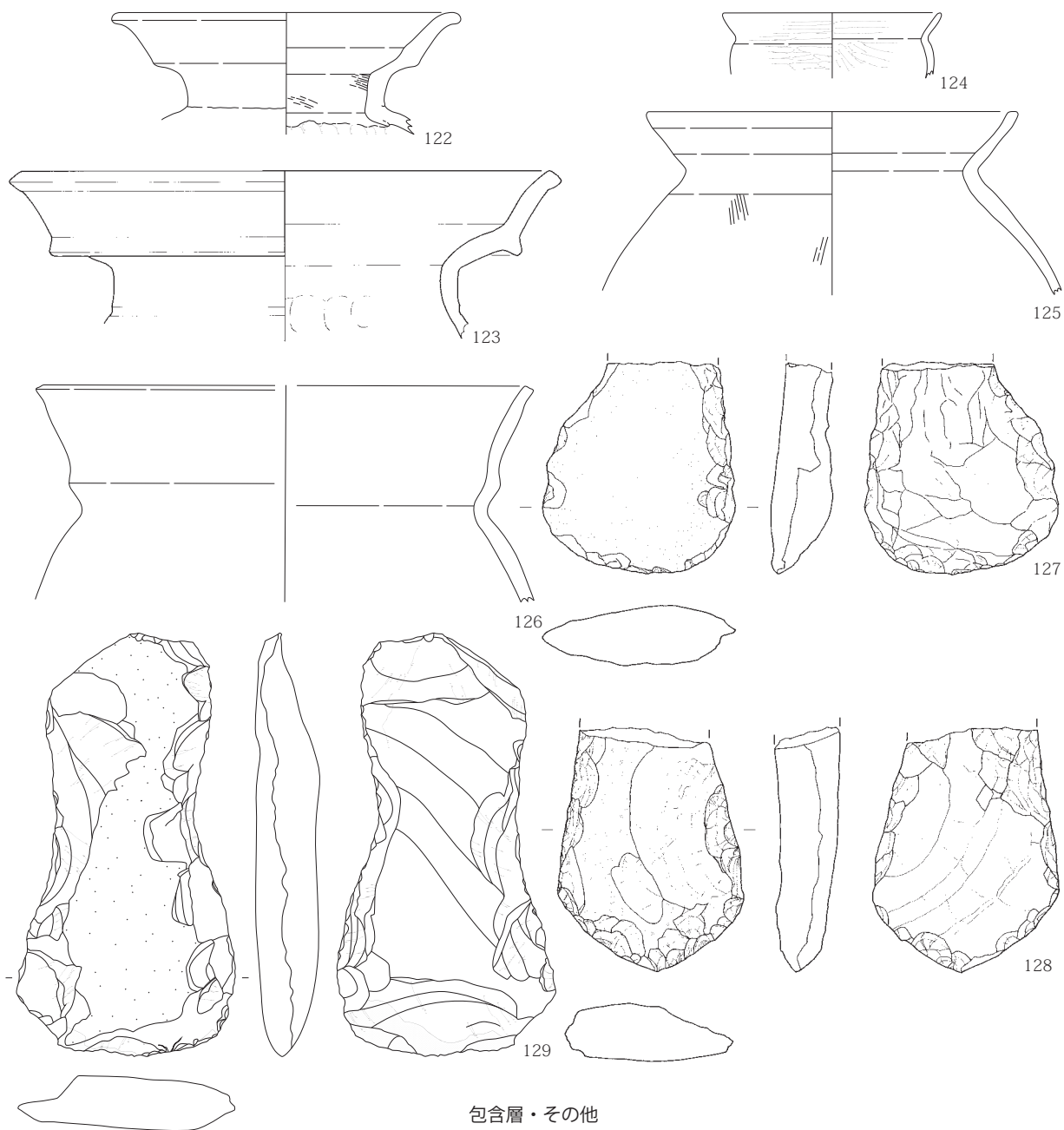
第68図 H24、H26A・B区遺物実測図6 (S=1/3)



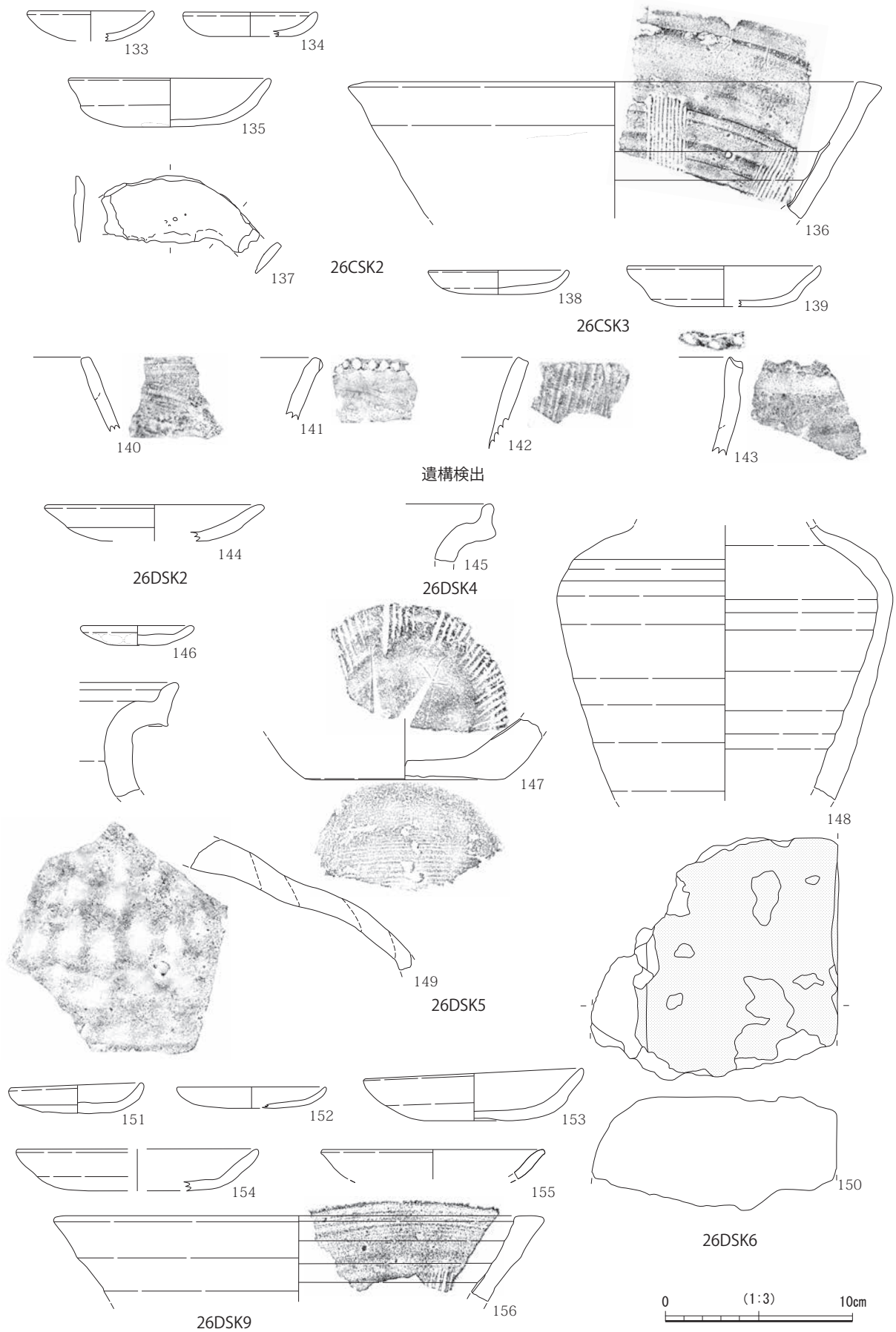
土器溜まり

包含層・その他

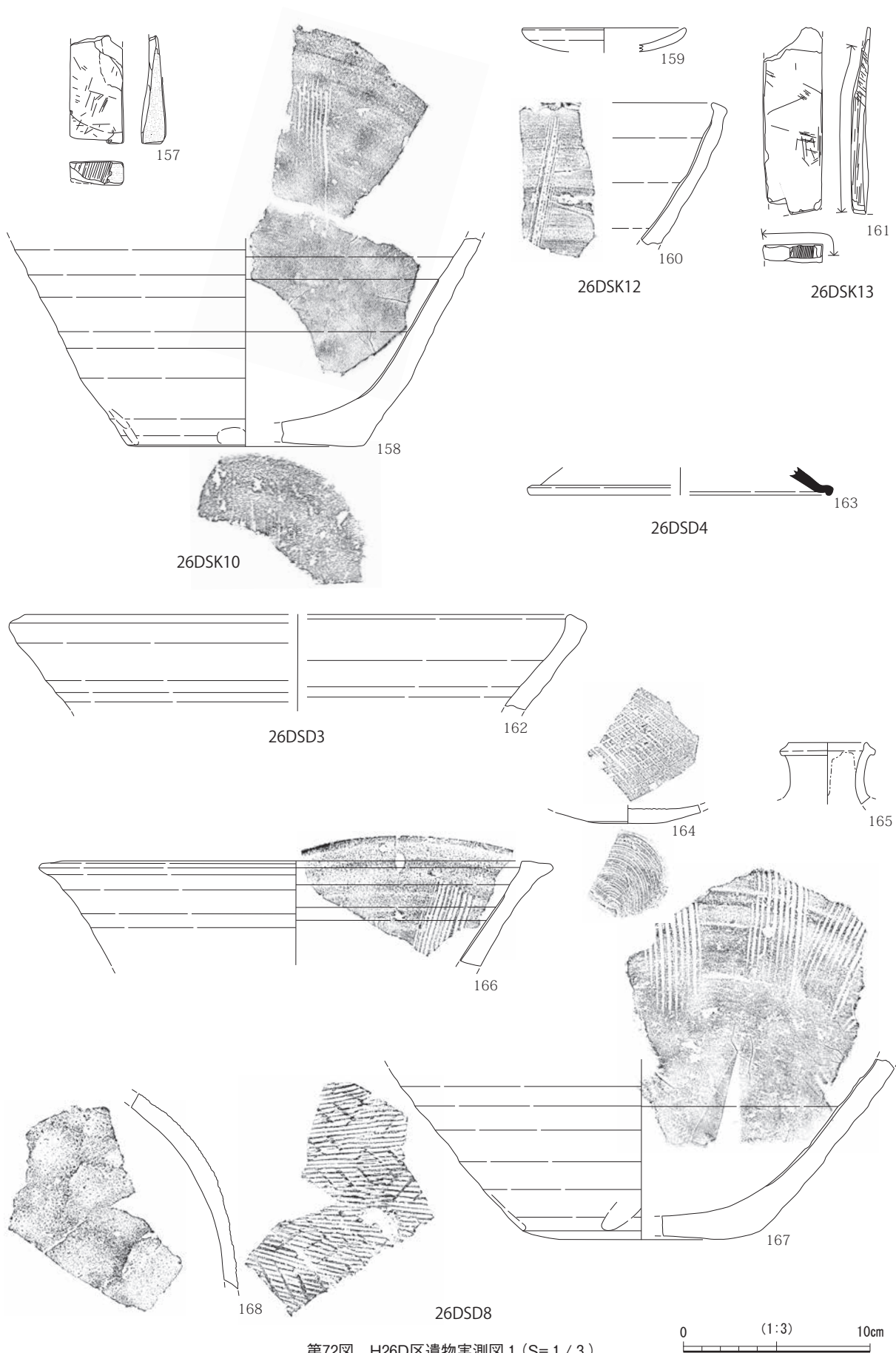
第69図 H24、H26A・B区遺物実測図7 (S=1/3)



第70図 H24、H26A～C区遺物実測図(S=1/3)



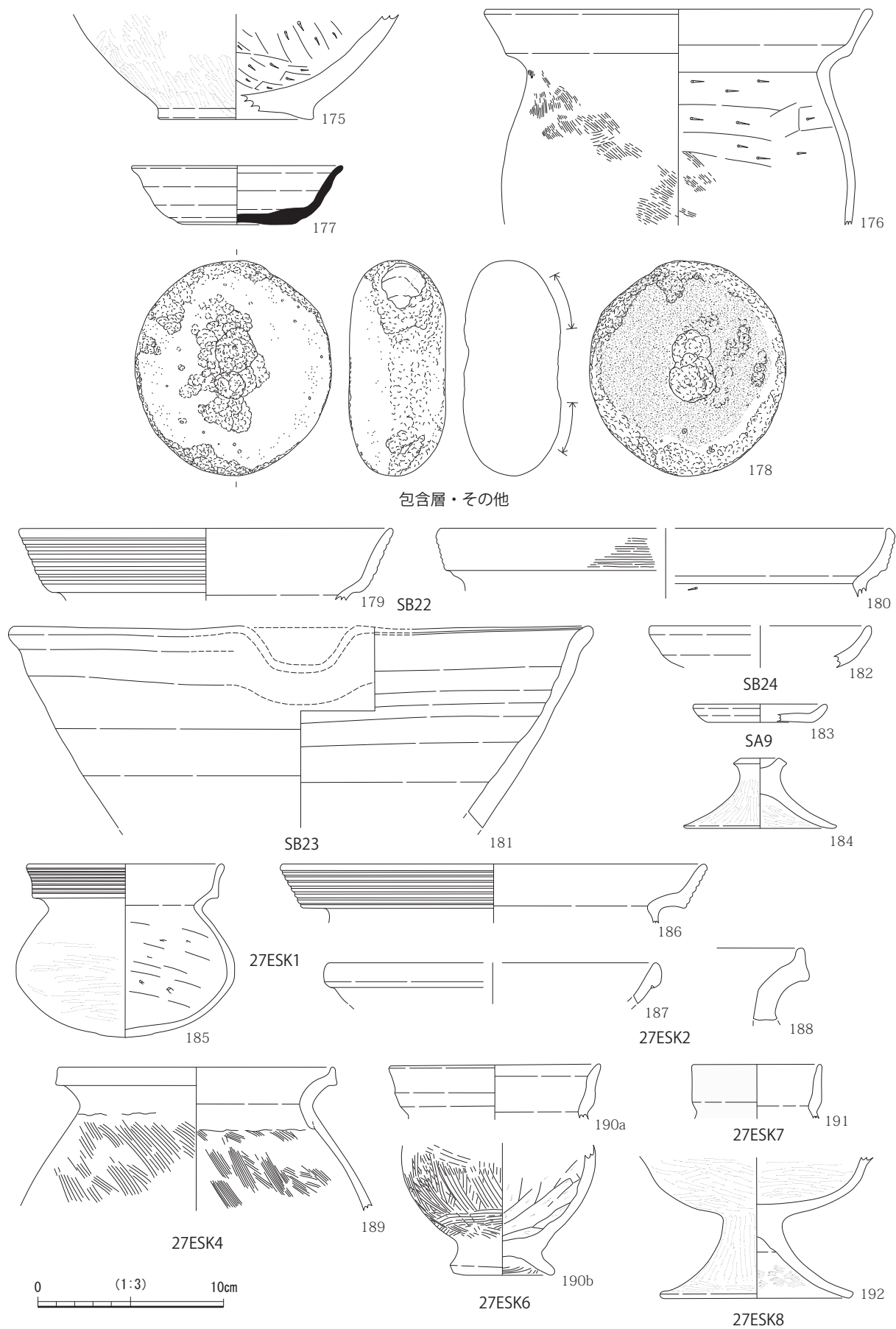
第71図 H26C・D区遺物実測図(S=1/3)



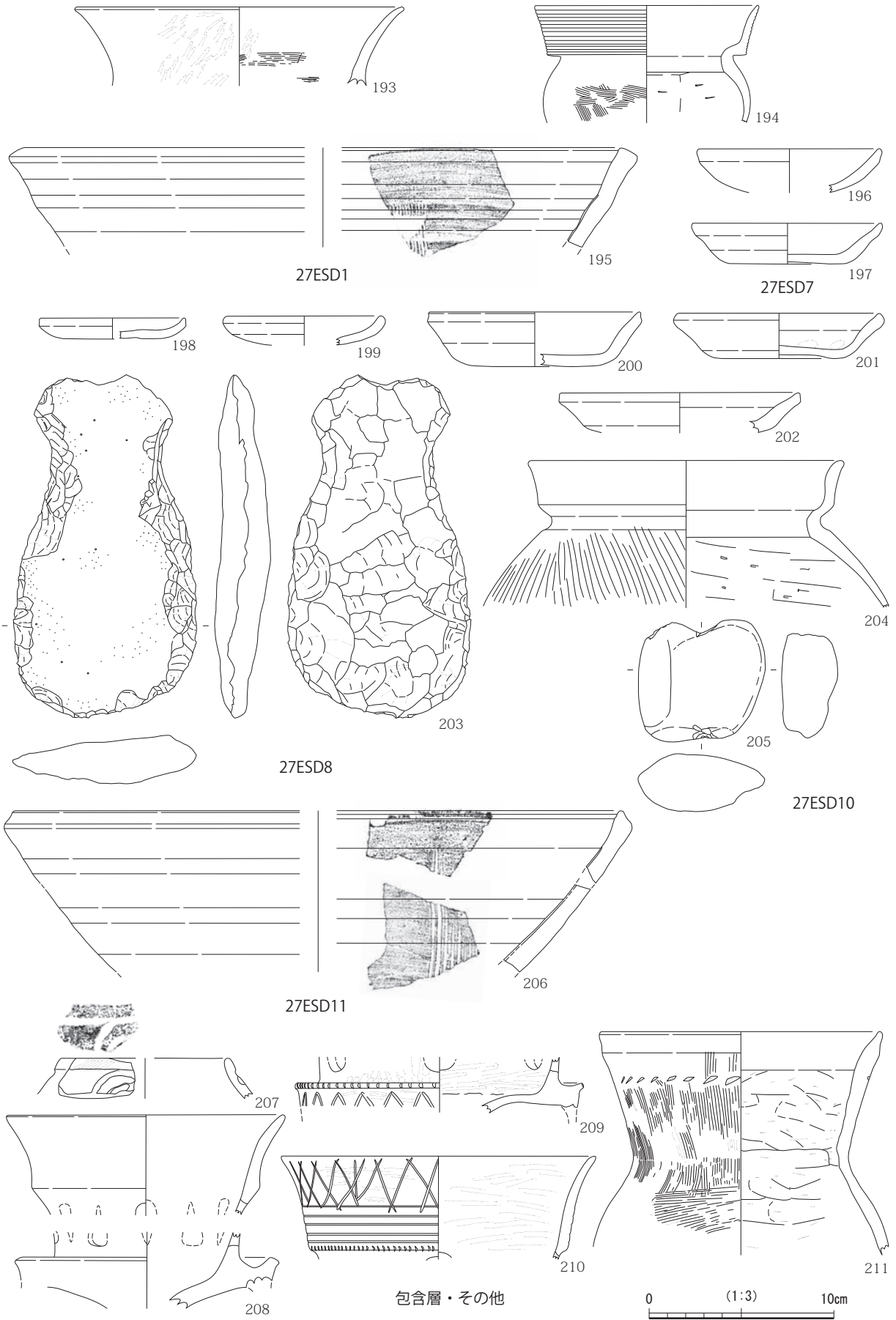
第72図 H26D区遺物実測図1 (S=1/3)



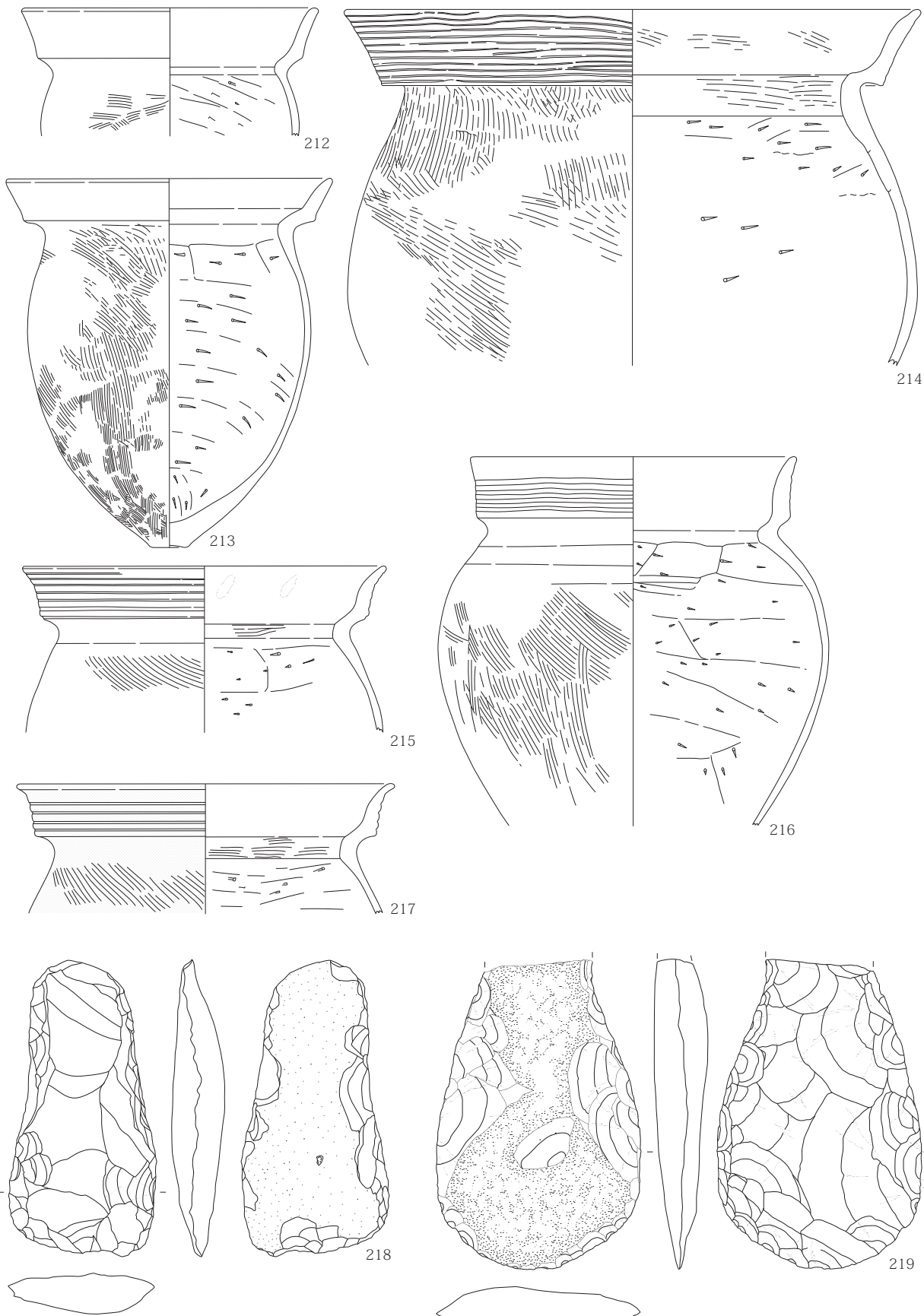
第73図 H26D区遺物実測図2 (S=1/2、1/3)



第74図 H26D・H27E区遺物実測図(S=1/3)



第75図 H27E区遺物実測図1 (S=1/3)



第76図 H27E区遺物実測図2 (S=1/3)

第6表 遺物観察表 1

報告 No.	実測 No.	調査区	調査年	出土地/グリッド	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	色調(内)	色調(外)	調整(内)	調整(外)	胎土	備考
1	C 1	D 1	2012	S101	弥生土器	蓋	つまみ径 42	-	(50)	にぶい橙	にぶい橙~灰黄褐	ケズリ後ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ後ミガキ、沈線(4条)	粗砂少、赤色粒少、礫少、海綿骨針少	内面ミガキが外面より難、つまみ部分に隙を張ったような感じの赤彩
2	C 3	D 1	2012	S101	弥生土器	甕	187	-	(51)	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、縦凹線(6条)	粗砂多、赤色粒含	内面の刺刺・磨耗顕著
3	C 6	D 2	2012	S102	弥生土器	器台・脚部	-	205	(35)	浅黄橙	浅黄橙	ハケ状具によるナデ	ミガキ、スタンプ文、沈線(4条)、穿孔(小片の爲全体的個数不明)	粗砂並、礫少(5mm大のもの含)	スタンプ文、沈線(4条)、穿孔(小片の爲全体的個数不明)
4	C 5	D 2	2012	S102	弥生土器	壺	72	-	(55)	にぶい黄橙	にぶい橙	ミガキ、ケズリ	ミガキ	粗砂多、赤色粒少	内面口縁部及び外面赤彩、口縁端部直下に巡る浅い沈線の痕跡あり、台付壺か
5	C 4	D 2	2012	S102	弥生土器	甕(口縁)	155	-	(26)	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、磨耗著しく調整不明	ヨコナデ、磨耗著しく調整不明	粗砂少、礫多、赤色粒少	
6	C 21	D 2	2012	V23遺構検出	弥生土器	高杯(脚部)	-	174	(29)	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、磨耗著しく調整不明	ミガキ、磨耗著しく調整不明	粗砂並、細砂、赤色粒少、雲母少	内面一部煤付着
7	C 103	B 南	2014	SD13	弥生土器	鉢	99	-	(31)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	磨耗著しく調整不明	ミガキ(磨耗)、ナデ	粗砂並、雲母含	
8	C 82	B 南	2014	SD13 No.1	弥生土器	壺	-	50	(91)	灰黄~黄灰	浅黄橙~にぶい黄橙	ケズリ後ナデ、ナデ	ミガキ	粗砂並、海綿骨針含	歪みあり
9	C 48	B 南	2014	SD13 No.3	弥生土器	壺	100	-	(138)	にぶい橙~灰褐	にぶい橙	ミガキ、ケズリ後ミガキ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ後ミガキ、ミガキ	粗砂多、雲母含	外面口辺部黒斑あり
10	C 47	B 南	2014	SD13 No.4	弥生土器	壺	136	-	(79)	にぶい橙~灰黄褐	にぶい橙	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂多、礫、赤色粒含	
11	C 110	B 南	2014	SD13 東壁	弥生土器	甕	152	-	(26)	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	粗砂多、赤色粒、雲母、海綿骨針含	
12	C 11	D 2	2012	SD09	弥生土器	甕	200	-	(35)	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、指頭圧痕	縦凹線(6条)	粗砂多、赤色粒並含	外面煤付着
14	C 15	D 1	2012	P19	土師器	甕(口縁)	170	-	(40)	橙	橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	粗砂並	一部黒斑あり
15	C 83	B 南	2014	SD3 SD3-P5	弥生土器	壺か	-	44	(34)	にぶい黄橙	にぶい黄橙~にぶい橙	ハケ	ナデ	粗砂並、雲母含	外底部圧痕あり
16	C 16	D 2	2012	P41	弥生土器	鉢	188	-	(68)	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ後ミガキ、磨耗著しく調整不明	粗砂並、赤色粒少	月影期の鉢、口縁部の器壁がうすくなる
17	C 22	D 2	2012	P26	弥生土器	甕(口縁)	147	-	(40)	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ハケ目、磨耗著しく調整不明	ヨコナデ	粗砂並、赤色粒多、礫少	歪みあり
18	C 78	B 南	2014	P33	土師器	甕	206	-	(34)	にぶい黄橙	灰黄	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	粗砂多、礫少、赤色粒、雲母含	外面煤付着
19	C 71	B 北	2014	P71	土師器	甕	164	-	(33)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂多	
20	C 80	B 南	2014	P17	土師器	甕	168	-	(33)	浅黄	浅黄	ヨコナデ、磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂多	
21	C 79	B 南	2014	P17	弥生土器	鉢	300	-	(40)	にぶい褐	浅黄	ミガキ	ミガキ	粗砂少、赤色粒多	内外面赤彩
22	C 112	B 南	2014	P29	土師器	高杯	-	(31)	橙	にぶい褐	ハケ、ミガキ(磨耗)	ミガキ	粗砂少、赤色粒多	内外面赤彩	
23	C 24	D 1	2012	P9	弥生土器	鉢	106	-	(32.5)	灰黄褐	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ(口縁部)、ミガキ	粗砂並、雲母多	口縁部黒斑あり
25	C 7	D 2	2012	SK04	弥生土器	裝飾器台	-	-	(29)	橙	橙	磨耗著しく調整不明	ミガキか、磨耗著しく調整不明	粗砂少、赤色粒少	外面赤彩、口縁端部に約3cm幅のペルト状を呈して周囲をめぐり、口縁部上方にハケかヨコナデが施されている
26	C 30	A	2014	SK3	土師器	器台	87	149	80	にぶい橙~橙	にぶい黄橙~橙	ミガキ、ハケ目、シボリ目、ナデ	ヨコナデ、ミガキ	粗砂多、海綿骨針少	脚部孔3箇所、頸部接合痕あり
27	C 31	A	2014	SK3	土師器	器台	90	113	92	にぶい橙~橙	にぶい橙~橙	ミガキ、ハケ目、シボリ目、ナデ	ヨコナデ、ミガキ	粗砂多、礫、海綿骨針含	脚部孔3箇所
28	C 32	A	2014	SK3	土師器	壺	202	-	(43)	にぶい黄橙~褐灰	にぶい黄橙~灰黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ、指頭圧痕	粗砂多、赤色粒少、雲母、海綿骨針少	接合痕あり
29	C 46	B 南	2014	SK1	土師器	甕	200	-	(75)	橙	橙	ケズリ、磨耗著しく調整不明	ヨコナデ、ハケ、磨耗著しく調整不明		
30	C 111	B 南	2014	SK1	弥生土器	甕	158	-	(40)	にぶい黄橙	灰黄褐	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	ヨコナデ、縦凹線(9条)	粗砂多、礫多、赤色粒含	口縁部磨耗著しく調整不明
31	C 81	B 南	2014	SK6	弥生土器	甕	158	-	(26)	にぶい黄橙	にぶい黄褐	ナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ、縦凹線(5条)	粗砂多	外面煤付着
32	C 45	B 南	2014	SK9、SK9 No.2	弥生土器	高杯	316	214	(46)(31)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ、ハケ	ヨコナデ、ミガキ、縦凹線(2条)	粗砂並、礫少、赤色粒含	孔3箇所

第7表 遺物観察表2

報告 No.	実測 No.	調査区	調査年	出土地/グリッド	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	色調(内)	色調(外)	調整(内)	調整(外)	胎土	備考
33	C43	B南	2014	SK9 包	弥生土器	鉢	198	-	(45)	赤	赤橙	ミガキ、ハケ、ケズリ、ナデ(磨耗)	ナデ、ミガキ(磨耗)、ハケ	粗砂多、礫少含	内外面赤彩
34	C42	B南	2014	SK9、SK9 No.2 表土剥ぎ	弥生土器	甕	160	-	(127)	浅黄	浅黄	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ、キサミ、縦凹線(7条)	粗砂多、礫多、赤色粒含	外面磨付滑
35	C44	B南	2014	SK9 表土剥ぎ、包No.1	弥生土器	甕	178	-	(133)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ、波状文、縦凹線(6条)、ナデ	粗砂多、礫多、赤色粒、金雲母含	
36	C129	B北	2014	SK14	縄文土器	漆鉢	-	-	(80)			ナデ	糸痕	粗砂多、礫少含	内面産化物付着
37	C8	D1	2012	SD04	弥生土器	甕(口縁)	160	-	(35)	にぶい黄橙	にぶい橙	ハケ、ナデ	ナデ、指頭圧痕	粗砂並、礫少含	口縁部磨耗、外面接合痕(指おさえにより強化あり)
38	C9	D2	2012	SD05	弥生土器	台付壺	-	85	(48)	にぶい橙	にぶい橙	ミガキ、磨耗著しく調整不明	ミガキ、磨耗著しく調整不明	粗砂多、礫多、赤色粒多含	
39	D32	B南	2014	SD5	土師器	皿	83	16~17	45	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ(磨耗)	ロクロナデ(磨耗)、回転糸切り(磨耗)	粗砂並、海綿骨針含	歪みあり
40	C10	D2	2012	SD05	弥生土器	甕	200	-	(34)	浅黄橙	浅黄橙~橙灰	ヨコナデ、指頭圧痕	縦凹線(11条)	粗砂多、礫少、赤色粒少含	
41	C23	D2	2012	SD11	弥生土器	甕	174	-	(48)	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、縦凹線(3条)	粗砂多、礫少含	
42	C50	B南	2014	SD6下 包南西端	土師器	壺	-	67	(28)	にぶい黄橙	灰黄褐~にぶい橙	ハケ	カズリ、ナデ	粗砂多、雲母、海綿骨針含	底部歪みあり、外面黒斑あり
43	D5	B北	2014	SD10	陶器	片口鉢	230	-	(47)	灰	灰	ロクロナデ、脚し目	ロクロナデ	粗砂多、海綿骨針含	珠洲焼
44	D39	B北	2014	SD12	土師器	灯明受皿	90	-	(22)	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ロクロケズリ	粗砂少	口縁部一部油煙あり
45	D38	B北	2014	SD12	陶器	皿	-	48	(23)	灰白	灰白			粗砂少	銅線釉、内底面肥の目粗ハキ取り、肥削
46	C14	D1	2012	SX01	土師質	器か高杯	-	-	(51)	浅黄橙	浅黄橙	ハケ後ナデ	ミガキ(磨耗)	粗砂微、赤色粒多、海綿骨針微含	
47	C13	D1	2012	SX01	土師器	小型壺	89	26	(28)	にぶい黄橙	橙	ミガキ、ナデ	ミガキ	粗砂並	
48	C33	A	2014	SX1	土師器	小型壺	-	-	(44)	にぶい黄橙	にぶい橙~橙	ヨコナデ、ミガキ後ナデ	ヨコナデ、ケズリ後ミガキ	粗砂多、赤色粒含	接合痕あり、外面黒斑あり、歪みあり
49	C2	D1	2012	SX01	土師器	甕	-	-	(66)	橙	橙~にぶい橙	ヨコナデ、ナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多	
50	C20	D1	2012	SX01	土師器	甕(体部)	-	-	(131)	浅黄橙	灰黄褐	ヨコナデ、ケズリ後ナデ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケ	粗砂多、赤色粒並含	外面煤が濃く付着、内面一部剥離箇所あり
51	C12	D1	2012	SX01	土師器	甕	267	-	(89)	にぶい黄橙~黒	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多、赤色粒少、礫、海綿骨針並含	内面全体に黒斑あり
52	C87	B南	2014	土器溜り1-9 土器溜り1下	土師器	器台	103	-	(25)	浅黄	浅黄	ミガキ	ミガキ	粗砂少、赤色粒少	内外面赤彩
53	C69	B南	2014	土器溜り1 ①-b	土師器	器台	85	-	(70)	にぶい橙	にぶい橙	ミガキ、ナデ	ミガキ	粗砂多	穿孔2箇所
54	C122	B南	2014	土器溜り1-4	土師器	器台	80	-	(56)	橙	橙	ミガキ、ナデ	ミガキ	粗砂少、赤色粒多含	
55	C121	B南	2014	土器溜り1-3	土師器	高杯	-	-	(45)	浅黄橙	浅黄橙	ミガキ、ナデ、ケズリ	ミガキ、磨耗著しく調整不明	粗砂多	穿孔3箇所
56	C85	B南	2014	土器溜り1-10	土師器	高杯	-	-	(53)	浅黄橙	にぶい橙	ケズリ後ミガキ	ケズリ後ミガキ	粗砂少、礫僅、赤色粒僅含	接合痕あり、穿孔1箇所
57	C62	B南	2014	土器溜り1-6 土器溜り1-6下層1	土師器	高杯	-	-	(79.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	磨耗著しく調整不明	ミガキ、磨耗著しく調整不明	粗砂並、礫僅、赤色粒含	孔3箇所
58	C61	B南	2014	土器溜り1-6 土器溜り1-6下層1	土師器	高杯	-	136	(104.5)	橙	橙	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂多	孔4箇所(均一ではない)
59	C95	B南	2014	土器溜り1 土器溜り1-2	土師器	高杯か器台	-	194	(65)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	粗砂多	
60	C66	B南	2014	土器溜り1-2	土師器	高杯か器台	-	210	(60)	にぶい橙	にぶい橙	ケズリ、ハケ、ミガキ	ミガキ	粗砂多	
61	C63	B南	2014	土器溜り1-5	土師器	鉢	202	-	(46)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	粗砂少、礫僅、赤色粒含	
62	C88	B南	2014	土器溜り1-5	土師器	鉢	198	-	(46)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ、ケズリ後ミガキ	ミガキ、ケズリ後ミガキ	粗砂少	磨耗の為ミガキの単位一部のみに残る
63	C53	B南	2014	土器溜り1-12 包南西端	土師器	鉢	188	31	74	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	粗砂少、礫僅、赤色粒含	外底部磨耗
64	C109	B南	2014	土器溜り1-13、土器溜り1、表土ハキ、包南西端	土師器	壺(口縁)	150	-	(30)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ケズリ後ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	粗砂少、雲母僅含	接合痕あり
65	C90	B南	2014	土器溜り1-3	土師器	壺	142	-	(38)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ハケ	ヨコナデ	粗砂多	
66	C123	B南	2014	土器溜り1-4・5	土師器	壺	150	-	(48)	にぶい橙	にぶい橙	ハケ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多	

第8表 遺物観察表3

報告 No.	実測 No.	調査区	調査年	出土地/グリップ	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	色調(内)	色調(外)	調整(内)	調整(外)	胎土	備考
67	C106	B南	2014	土器溜り1-5・10 包南西端	土師器	壺(底部)	-	-	(73)	にぶい黄橙	にぶい黄橙~にぶい黄褐	ナデ	ケズリ後ナデ	粗砂並、礫値、赤色粒含	外面黒斑あり
68	C68	B南	2014	土器溜り1-9	土師器	壺	-	35	(64)	褐灰	ハケ	ミガキ、磨耗著しく調整不明	ハケ、磨耗著しく調整不明	細砂並、赤色粒少含	内外面赤彩
69	C70	B南	2014	土器溜り1下、土器溜り1南 壁、包南西端	土師器	壺	166	(34)	218	にぶい褐	にぶい褐	調整不明	ミガキ、磨耗著しく調整不明	粗砂多	内外面赤彩
70	C75	B南	2014	土器溜り1-4、土器溜り1下、 包東側	土師器	壺	-	-	(79)	にぶい黄橙	ケズリ、指おさえ	ケズリ、指おさえ	ミガキ	粗砂少	外面煤付着
71	C101	B南	2014	土器溜り1-13	土師器	壺	-	45	(76)	にぶい黄橙	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ	粗砂少	外面煤付着
72	C102	B南	2014	土器溜り1-2・13	土師器	壺(底部)	-	48	(56)	灰黄褐	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	粗砂少、赤色粒僅含	
73	C125	B南	2014	土器溜り1-5	土師器	壺	-	63	25	橙	指頭圧痕、磨耗著しく調整不明	指頭圧痕、磨耗著しく調整不明	ミガキ、ハケ、磨耗著しく調整不明	粗砂多、赤色粒並、針多含	
74	C86	B南	2014	土器溜り1-8 包南西端	土師器	壺	228	-	(55)	にぶい黄橙~灰	にぶい黄橙	ミガキ	ヨコナデ、ハケ	粗砂並、赤色粒含	内面黒斑あり
75	C97	B南	2014	土器溜り1-5・7	弥生土器	壺(底部)	-	63	(47)	灰黄	脚灰黄~にぶい橙	ハケ(磨耗)	ナデ後ハケ	粗砂並、赤色粒含	外底部工具による圧痕あり、外面黒斑あり
76	C94	B南	2014	土器溜り1-9	弥生土器	壺	173	-	(54)	にぶい黄橙	清黄橙	ケズリ、指頭圧痕、磨耗著しく調整不明	羅凹線(6条)、磨耗著しく調整不明	粗砂並、礫値、赤色粒含	
77	C84	B南	2014	SD6下 土器溜り1	弥生土器	壺	200	-	(53)	にぶい褐~浅黄橙	にぶい褐	ヨコナデ、ケズリ、指おさえ	ヨコナデ、羅凹線(10条)	粗砂多、雲母含	外面煤付着
78	C39	B南	2014	土器溜り1-②、③、④ 包南西端	土師器	壺	136	48	134	橙~にぶい黄橙	にぶい橙	ヨコナデ、ハケ、ナデ	ヨコナデ、ハケ、ナデ	粗砂多	口縁部歪みあり
79	C40	B南	2014	土器溜り1、土器溜り1-12、 1下SD3	土師器	壺	126	-	(173)	にぶい橙	浅黄橙~にぶい橙	ハケ、ケズリ後ハケ	ヨコナデ、ハケ、ハケ後ナデ	粗砂多、礫含	外面底部黒斑あり
80	C64	B南	2014	土器溜り1-4・11 土器溜り1下	土師器	壺	110	-	(73)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ケズリ後ナデ	粗砂並、赤色粒含	
81	C124	B南	2014	土器溜り1-5	土師器	壺	139	-	(46)	橙	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂少	
82	C57	B南	2014	土器溜り1下、1-13 土器溜り1、包南西端	土師器	壺	127	-	(74)	にぶい黄橙	灰黄褐	ヨコナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ケズリ後ハケ目	粗砂少、2~7mm大礫少含	接合痕あり
83	C98	B南	2014	土器溜り1、土器溜り1-3・9・ 10・11、土器溜り1アゼ、包 南西端	土師器	壺	152	-	(53)	灰黄~にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ハケ、指	粗砂並	内面赤彩、接合痕あり
84	C58	B南	2014	土器溜り1-2・7 表土ハギ、包南西端	土師器	壺	180	-	(64.5)	にぶい黄橙	淡黄	ヨコナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ケズリ後ハケ目	粗砂多、礫少含	接合痕あり
85	C108	B南	2014	土器溜り1-12	土師器	壺(小片)	146	-	(49)	にぶい黄橙	灰黄	ハケ後ナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	粗砂少、赤色粒少含	
86	C67	B南	2014	土器溜り1-1・2・5・11・13、 土器溜り1下、土器溜り1	土師器	壺	143	-	(163)	浅黄~にぶい黄	浅黄~にぶい黄	ハケ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ	粗砂並、礫値少含	口縁部歪みあり、接合痕あり、外面黒斑あり
87	C52	B南	2014	土器溜り1-2 土器溜り1-3	土師器	壺	170	-	(155)	にぶい黄橙	灰黄	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	粗砂多	外面煤付着
88	C65	B南	2014	土器溜り1-2	土師器	壺	266	-	(125.5)	橙	にぶい褐~にぶい黄橙	磨耗著しく調整不明	ハケ、磨耗著しく調整不明	粗砂多、礫少、赤色粒含	外面脚部煤付着
89	C100	B南	2014	土器溜り1-6	土師器	壺(口縁)	168	-	(37.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂少、礫少、赤色粒僅含	
90	C96	B南	2014	土器溜り1-4・5 包南西端	土師器	壺	172	-	(60)	灰褐~にぶい橙	灰褐	ヨコナデ、ハケ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多	
91	C126	B南	2014	土器溜り1-8 包南西端	土師器	壺	182	-	(53)	灰黄	灰黄	ハケ、指頭圧痕	ハケ	粗砂多、礫値、赤色粒含	
92	C89	B南	2014	土器溜り1-4 包南西端	土師器	壺	188	-	(70)	灰黄褐	灰黄褐	ヨコナデ、ナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケ	粗砂少、細砂多含	
93	C99	B南	2014	土器溜り1-10・11 包南西端	土師器	壺	150	-	(123)	黄灰	にぶい黄	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ目	粗砂多、礫少	外面、剥離磨耗著しい
94	C56	B南	2014	土器溜り1-11 包南西端	土師器	壺	189	-	(130)	灰黄褐	褐灰	磨耗著しく調整不明	ハケ、磨耗著しく調整不明	粗砂多	
95	C59	B南	2014	土器溜り6 包南西端	土師器	壺	172	-	(129)	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ケズリ後ナデ、ケズリ	粗砂少、礫多、赤色粒少含	
96	C60	B南	2014	土器溜り1-5・6 包南西端	土師器	壺	178	-	(113)	にぶい橙	にぶい橙~にぶい褐	ヨコナデ、ハケ、ヨコナデ後指おさえ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多、雲母含	外面黒斑あり
97	C54	B南	2014	土器溜り1-11 包南西端	土師器	壺	168	-	(135)	にぶい黄橙	にぶい橙~にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ケズリ、指おさえ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多	

第9表 遺物観察表4

報告No.	実測No.	調査区	調査年	出土地/グリッド	種別	器種	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	色調(内)	色調(外)	調整(内)	調整(外)	胎土	備考
98	C55	B南	2014	土器溜り1-5 土器溜り1-5下層	土師器	甕	180	-	(98)	灰褐	灰褐	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケカ	粗砂多	
99	C07	B南	2014	土器溜り1-12	土師器	甕(口縁)	189	-	(47)	にぶい黄橙	黒褐～橙	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	粗砂多、雲母僅含	外面煤付着
100	C19	B南	2014	土器溜り1-2・4、土器溜り1 東アゼ、SD6下	土師器	甕	166	-	(69)	にぶい黄橙～灰褐	にぶい黄橙～灰褐	ヨコナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケ	粗砂並、雲母、海綿骨針含	
101	C127	B南	2014	土器溜り1-11	土師器	甕	192	-	(73)	褐灰	褐灰	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多	外面煤付着、外底面磨耗
102	C51	B南	2014	土器溜り1-13	土師器	甕	162	-	253	にぶい黄橙	にぶい黄橙～灰黄褐	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ目	粗砂少、赤色粒微含	一部煤付着、接合痕あり、内外面一部磨耗(剥離あり)
103	C38	B南	2014	X98Y31包	縄文土器	深鉢	200	-	(138)	にぶい黄橙	褐灰～にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、条痕か	ヨコナデ、条痕	粗砂少、礫多含	
104	D30	B南	2014	包 東側	縄文土器	蓋	-	-	-	灰黄	灰黄	磨耗著しく調整不明	ミガキ	粗砂多、礫多含	中層式
105	C34	A	2014	遺構検出	弥生土器	把手付鉢	100	-	(65)	橙	にぶい黄橙～橙	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ、縞刻文	粗砂多、赤色粒、雲母含	耳1個
106	C113	B南	2014	包 南西部	弥生土器	高杯	200	-	(43)	褐灰	黒褐	ミガキ	ミガキ	粗砂多、礫並含	
107	C77	B南	2014	包	弥生土器	小型土器	-	-	(45)	灰黄	灰黄	ケズリ後ハケ後ナデ、指頭庄痕	ミガキ、キサミ	粗砂多、礫並、赤色粒含	口縁部磨耗
108	C119	B南	2014	包 X99Y30遺構検出 包南西部	弥生土器	小型土器	-	26	(54)	黒褐	黒褐	磨耗著しく調整不明	ミガキ、ナデ	粗砂多、礫多、海面骨針含	
109	C41	B南	2014	包	弥生土器	壺	-	-	(72)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ、ケズリ、ハケ	ナデ、ハケ、スタンプ文	粗砂並、礫少、赤色粒含	
110	C118	B南	2014	包、表土ハキ	弥生土器	甕	-	38	(82)	にぶい黄橙	灰黄	ケズリ	ハケ、ナデ	粗砂多、礫並含	外口縁部面煤付着
111	C72	B北	2014	包 X99Y30遺構検出	弥生土器	甕	148	-	(33)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	ヨコナデ、縦凹線(10条)	粗砂多	
112	C117	B北	2014	包 X100Y300遺構検出	弥生土器	甕	176	-	残35	灰黄	にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	ヨコナデ、縦凹線(9条)	粗砂多、礫多含	
113	C76	B南	2014	包	弥生土器	甕	120	-	(62)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ハケ	粗砂多、礫多含	
114	C114	B北	2014	土器1	弥生土器	甕	-	46	(79)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ケズリ、ミガキ	ハケ後ミガキ	粗砂多、礫やや多含	
115	C19	D2	2012	そうじ	弥生土器	裝飾器台(器室部)	-	-	(28)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂少	
116	C92	B南	2014	包 南西端	弥生土器	裝飾器台	-	148	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ、磨耗著しく調整不明	ミガキ、磨耗著しく調整不明	粗砂多、赤色粒含	接合部工具痕あり
117	C115	B南北	2014	包	弥生土器	裝飾器台	-	130	(29)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ、ナデ	ナデ、縦凹線(9条)	粗砂多、赤色粒含	
118	C116	B南北	2014	包	弥生土器	甕	192	-	(54)	褐灰	灰黄	ナデ、ケズリ、指頭庄痕	ナデ、縦凹線(7条か)	粗砂多、赤色粒、海面骨針含	
119	C120	B南	2014	包	土師器	器台	92	-	(19)	にぶい黄橙	灰黄	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	粗砂多、礫並含	外面赤彩、一部磨耗
120	C93	D南	2014	包 南部	土師器	器台	-	128	(32)	にぶい黄橙	赤	ミガキ	ミガキ	粗砂多、礫並含	
121	C18	D1	2012	Y23遺構検出	土師器	壺	192	-	(32)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ	粗砂並、雲母多含	
122	C49	B南	2014	包 南西端、包 南部	土師器	壺	157	-	(56)	浅黄橙	浅黄橙	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂多	
123	C17	D1	2012	X23遺構検出	土師器	壺(口縁)	241	-	(76)	橙	橙	ヨコナデ、ナデ、指おさえ	ヨコナデ、沈線(1条)か、磨耗著しく調整不明	粗砂並、赤色粒少含	外面部分的に黒斑あり、沈線は工具で施したものか
124	C105	B南	2014	北部 包	土師器	甕	98	-	(30)	橙	にぶい黄橙	ミガキ、ミガキ後ナデ	ミガキ	粗砂並、礫少、赤色粒含	
125	C104	B南	2014	包 南西端	土師器	甕	170	-	(84)	にぶい黄橙	橙	磨耗著しく調整不明	ハケ、磨耗著しく調整不明	粗砂多、礫並、赤色粒含	
126	C128	B北	2014	X99Y30遺構検出	土師器	甕	220	-	(100)	灰褐	にぶい黄橙	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂多	
130	C36	C	2014	S11アゼNo.5層	土師器	鉢	148	16	52.5	明赤褐	橙～褐灰	ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	粗砂並、赤色粒含	
131	C35	C	2014	S11アゼNo.1層	土師器	器台	-	145	(69)	橙	橙	ミガキ(磨耗)、ナデ	ヨコナデ(磨耗)、ハケ目、ナデ	粗砂多、赤色粒含	附部孔4箇所
132	C37	C	2014	SK1	弥生土器	甕	127	29	163.5	にぶい黄橙～にぶい黄	にぶい黄橙～にぶい黄	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	粗砂多、礫少含	外面煤付着、外面底部赤化磨耗
133	D25	C	2014	SK2 4層より下層	土師器	皿	66	-	(16)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少、赤色粒含	口縁部面取
134	D4	C	2014	SK2-1、3、4層	土師器	皿	50	44	13	浅黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、磨耗著しく調整不明	粗砂多、礫僅、赤色粒含	
135	D2	C	2014	SK2 No.2	土師器	皿	106	50	26	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指頭庄痕	粗砂少、赤色粒含	内外面うすく赤変あり
136	D1	C	2014	SK2 4層最下	陶器	片口鉢	282	-	(73.5)	灰	灰	ヨコナデ、郵し目(10条)	ヨコナデ	粗砂少、7mm大礫1個、礫少、海面骨針僅含	接合痕あり、珠洲焼
138	D3	C	2014	SK3-1～5層	土師器	皿	73	40	13	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少、礫1個、赤色粒、雲母含	底部粘目状庄痕あり
139	D24	C	2014	SK3	土師器	皿	102	50	22	浅黄橙～淡赤橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂並、赤色粒、雲母含	胎土赤地(にぶい黄橙～橙)、赤変あり

第10表 遺物観察表 5

報告 No.	実測 No.	調査区	調査年	出土地/グリップ	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	色調(内)	色調(外)	調整(内)	調整(外)	胎土	備考
140	D29	C	2014	X03Y31、32 遺構検出	縄文土器	深鉢か	-	(42)	(42)	にぶい黄	にぶい褐	ナデ	ナデ、条痕	粗砂多	外面コゲ付着
141	D28	C	2014	遺構検出	縄文土器	深鉢か	-	(34)	(34)	にぶい黄	灰褐	ナデ	ミガキ	粗砂並	外口縁部キザミあり
142	D28	C	2014	X04Y32 遺構検出	縄文土器	深鉢か	-	(49)	(49)	灰黄褐	にぶい黄褐	ナデ	ナデ、条痕	粗砂多、赤色粒、海綿骨針	長竹式
143	D27	C	2014	X03Y31、32 遺構検出	縄文土器	深鉢	-	(51)	(51)	灰黄褐	黒褐	ナデ	ナデ、指頭状線文	粗砂多、海綿骨針	外口縁部キザミあり、外面煤付着
144	D36	D南	2014	SK 2	土師器	皿	115	(19.5)	(19.5)	にぶい黄	暗灰黄～灰オリーブ、灰色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少	
145	D35	D南	2014	SK 4	陶器	壺(口縁)	-	(31)	(31)	オリーブ褐	にぶい黄	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	堅い感じの硬少	内外面降灰付着、加質焼
146	D40	D南	2014	SK 5 アゼ6層以下	土師器	皿	59	32	11	灰	灰	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	粗砂並	内面及び割れ口一部に赤褐色の付着物あり、珠洲焼
147	D12	D南	2014	SK 5	陶器	片口鉢(底部)	-	99	(32.5)	灰	灰	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	粗砂少、赤少	内面及び割れ口一部に赤褐色の付着物あり、珠洲焼
148	D13	D南	2014	SK 5	陶器	壺	-	(148)	(148)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂並、海綿骨針	珠洲焼
149	D11	D南	2014	SK 5(口縁)、SK 5(肩部片)	陶器	壺	-	(61)	(61)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ヨコナデ、ナデ、ねじたて技法、ナデ(指頭庄痕)	ヨコナデ、ナデ	粗砂多、礫、海綿骨針	径20cm以上、内口縁部降灰付着、越前焼
151	D9	D北	2014	SK 9	土師器	皿	70	16	16.5	浅黄褐	浅黄褐	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少、赤色粒少	
152	D33	D北	2014	SK 9 下層	土師器	皿	79	-	11.5	橙～にぶい黄	にぶい黄	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂少、礫、赤色粒	
153	D17	D北	2014	SK 9	土師器	皿	115	44.5	28	浅黄褐～褐灰	にぶい黄褐～褐灰	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少	口縁部歪みあり、被熱か
154	D19	D北	2014	SK 9 下層	土師器	皿	128	-	(22.5)	にぶい黄	にぶい黄	ヨコナデ、磨耗著しく調整不明	ヨコナデ、磨耗著しく調整不明	粗砂少、赤色粒	
155	D18	D北	2014	SK 9	白磁	皿	118	-	(16)	灰白	灰白			粗砂少、赤色粒	内外面施釉(透明釉・浅黄色・気泡含む・ムラなく均一)
156	D21	D北	2014	SK 9 下層	陶器	片口鉢	280	-	(46)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂少、海綿骨針	珠洲焼
158	D20	D北	2014	SD8② アゼ14層	陶器	片口鉢	-	128	(112)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂少、赤少	外底部工具による圧痕あり、外面黒斑あり、珠洲焼
159	D31	D北	2014	SK10	土師器	皿	86	-	12.5	にぶい黄	にぶい黄	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少、赤色粒	
160	D34	D北	2014	SK12	陶器	片口鉢	-	(76)	(76)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂並、海綿骨針	口縁部所々剥離か、珠洲焼
162	D14	D南	2014	SD 3	陶器	片口鉢	282	-	(52)	灰白	灰白	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂並、海綿骨針	珠洲焼
163	D37	D南	2014	SD 4	須臾器	蓋	160	-	(15)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂並	蓋縁部分重ね焼き痕あり
164	D22	D北	2014	SD 8	陶器	卸し皿	-	43	(10)	淡黄	淡黄	卸し目	ナデ、回転糸切り	粗砂少、赤色粒	古瀬戸
165	D 6	D北	2014	SD 8	陶器	瓶子(口縁)	42	-	(33)	灰白	灰白	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂少、赤色粒	口縁部施釉(灰釉・オリーブ黄・内面露胎あり、貫入あり、古瀬戸)
166	D 7	D北	2014	SD 8 西端落ち込み最下層	陶器	片口鉢	273	-	(56)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂並、礫少、海綿骨針	口縁部降灰付着、珠洲焼
167	D23	D北	2014	SD 8 北西部	陶器	片口鉢	-	128	(97)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂並、礫少、海綿骨針	外底部使用のため磨耗、珠洲焼
168	D 8	D北	2014	SD8② アゼ14、16層	陶器	壺(肩部)	-	-	-	灰	灰	あて具痕	タタキ	粗砂並、礫、海綿骨針	珠洲焼
169	D10	D北	2014	SD8② 21層以下	陶器	壺	451	-	(65)	灰褐	にぶい赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂並、礫少	素地色調：灰白、口縁部降灰付着、越前焼
174	D16	D北	2014	河川跡 X12Y29	陶器	皿	-	49	(23)	-	にぶい黄	ヨコナデ	ヨコナデ	細砂少	内面施釉(灰釉・オリーブ灰)、外底所々に露胎あり、外面一部施釉(灰釉)、底目跡3箇所あり、えぐり高台、肥前
175	C74	D南	2014	X08Y31 包舎層	弥生土器	壺	-	81	(57)	にぶい黄	にぶい黄	ケズリ	ミガキ、ナデ	粗砂多、海綿骨針	底部歪みあり、外面黒斑あり
176	C73	D南	2014	X09Y31 下層包舎層	弥生土器	壺	208	-	(117)	にぶい黄	にぶい黄	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ(磨耗)	粗砂多、礫、雲母少	
177	D15	D北	2014	X11Y30 下層包	須臾器	無台杯	112	60	32	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂少	外面降灰付着、全体歪みあり
179	C138	E 1	2015	SD 6 北端部(P-1)	弥生土器	壺	200	-	(39)	にぶい黄	にぶい黄	磨耗著しく調整不明	羅巴線(7条)	粗砂多	
180	C140	E 1	2015	SD 9 (P1)	弥生土器	壺	247	-	(38)	にぶい黄	にぶい黄	ヨコナデ、ケズリ	磨耗著しく調整不明	粗砂並	外底部降灰付着
181	D42	E 1	2015	P24	陶器	片口鉢	310	-	(108)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂多、礫並	口縁部磨耗、内面脚部平滑、越前焼
182	D43	E 1	2015	P30	土師器	皿	約118	-	(23)	にぶい黄	にぶい黄	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂少、赤色粒	
183	D41	E 1	2015	P23 柱痕跡	土師器	皿	71	56	10	浅黄褐	にぶい黄	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂少、赤色粒	
184	C143	E 2	2015	P56 柱痕跡	弥生土器	蓋	29	82	38	にぶい黄	にぶい黄	ミガキ	ミガキ	粗砂多	

第11表 遺物観察表 6

報告 No.	実測 No.	調査区	調査年	出土地/グリッド	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	色調(内)	色調(外)	調整(内)	調整(外)	胎土	備考
185	C141	E1	2015	SK 1 1層(北半部遺構検出)	弥生土器	小型土器	104	30	(92)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ、ケズリ	ミガキ、縦凹線(8条)	粗砂多	内面口縁部から外面全体に赤彩あり
186	C149	E1	2015	SK 1 遺構検出(X85,Y27)	弥生土器	甕	228	-	(32)	橙	橙	磨耗著しく調整不明	縦凹線(7条)	粗砂多	釉面(透明)、全体施釉玉縁、気泡あり、ピンホールあり
187	D45	E1	2015	SK 2	白磁	碗	約175	-	(22)	灰白	灰白	口クロナデ	口クロナデ	粗砂多、素地/灰	全面隆灰、越前焼
188	D44	E1	2015	SK 2 草葎出土 北半部遺構検出	陶器	甕	-	-	(38)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多	
189	C148	E1	2015	SK 4 遺構検出(X83,Y28)	弥生土器	甕	148	-	(78)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多	
190	C144	E2	2015	SK 6 遺構検出(X80,Y27)	弥生土器	台付罐	112	52	口縁部(30) 胴部(70)	褐灰	褐灰	ヨコナデ、ナデ、ケズリ、ハケ	ヨコナデ、ナデ、ハケ	粗砂多	
191	C150	E2	2015	SK 7	弥生土器	壺	69	-	(29)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ、ナデ	ミガキ	粗砂多、海綿骨針含	器形歪みあり
192	C142	E2	2015	SK 8	土師器	高杯	-	104	(76)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ(ハケ、ヨコナデ)	ミガキ	粗砂多	胴部内面磨耗あり
193	C153	E1	2015	(X85,Y28)下層包 北半部遺構検出 SD 1 (X86,Y28)	弥生土器	壺(口縁)	176	-	(43)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	粗砂多、海綿骨針含	
194	C139	E1	2015	SD 1 (X86,Y27) SD 1 (X86,Y28)	弥生土器	壺	120	-	(64)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ケズリ	ナデ、ハケ、横凹線(13条)	粗砂多、細砂並含	
195	D46	E1	2015	SD 1 (X86,Y28)	陶器	片口鉢	324	-	(54)	灰	灰	口クロナデ	口クロナデ	粗砂並、海綿骨針含	片口近くの破片、珠洲焼
196	D53	E1	2015	SD 7	土師器	皿	98	-	(24)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多	
197	D47	E1	2015	SD 7	土師器	皿	102	64	22.5	橙	橙	ナデ	ナデ	粗砂並	歪みあり
198	D49	E1	2015	SD 8 (X85,Y28)	土師器	皿	77	54	11.5	浅黄橙	浅黄橙	ナデ	ナデ	粗砂並、細砂並含	歪みあり
199	D51	E1	2015	SD 8 最下層(X85,Y28)	土師器	皿	83	-	(16)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂並	
200	D48	E1	2015	SD 8	土師器	皿	113	69	30	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少、赤色粒多含	
201	D50	E1	2015	SD 8 最下層(X85,Y28) SD 8 アセ②	土師器	皿	109	71	25	にぶい黄橙	にぶい黄橙	指節圧痕 磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂並	
202	D54	E1	2015	SD 8 アセ②	土師器	皿	128	-	(22)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂並	
204	C151	E2	2015	SD10(X80,Y27)	弥生土器	甕	188	-	(80)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多	
206	D52	E1	2015	SD11上層	陶器	片口鉢	328	-	(39+47)	灰	灰	口クロナデ、即し目、流線	口クロナデ	粗砂並、礫少、赤色粒、 海綿骨針含	口縁部磨耗、珠洲焼
207	C147	E1	2015	X83,Y27下層包	縄文土器	壺	90	-	(22)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	粗砂多	
208	C131	E1	2015	北半部下層包①	弥生土器	裝飾器台	148	-	(55) (46)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	磨耗著しく調整不明	磨耗著しく調整不明	粗砂並、海綿骨針含	口縁(狭5箇所)及び胴(狭2箇所)部に透穴あり
209	C134	E1	2015	北半部下層包含層 下層包含層 北半部遺構検出	弥生土器	裝飾器台	-	-	(30)	浅黄橙	浅黄橙	ミガキ	ミガキ、キザミ	粗砂並、赤色粒含	山型か格子か文様あり、透し(6箇所)漢形か、内面磨耗及び接合痕あり
210	C133	E1	2015	北半部遺構検出 下層包含層(X85,Y28) 下層包含層(X85,Y27) 北半部遺構検出	弥生土器	裝飾器台	170	-	(56)	灰黄褐	灰黄褐	ミガキ	ミガキ、流線、キザミ	粗砂多	
211	C137	E1	2015	北半部遺構検出	弥生土器	壺	151	-	(121)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ、列点文	粗砂多、赤色粒、礫少含	
212	C146	E1	2015	北半部遺構検出	弥生土器	甕	152	-	(69)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ	粗砂多、礫含	外面胴部煤付着、口縁部歪みあり
213	C132	E1	2015	北半部遺構検出	弥生土器	甕	169	17	193	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ、ナデ	粗砂多、礫含	外面煤付着
214	C136	E1	2015	X85,Y27下層包土器⑤ 北半部遺構検出 北半部遺構検出	弥生土器	甕	298	-	(186)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ、 縦凹線(12条)	粗砂多、雲母含	内面胴部磨耗あり
215	C145	E1	2015	X85,Y27下層包③	弥生土器	甕	188	-	(87)	黄橙	黄橙	ハケ、ケズリ、キザミ磨耗 著しい	ハケ、縦凹線(7条)、 磨耗著しく調整不明	粗砂多、赤色粒、礫多含	
216	C152	E1	2015	北半部遺構検出	弥生土器	甕	194	-	(67)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ、 縦凹線(4条)	粗砂多	外面赤彩、外面口縁部煤付着
217	C135	E1	2015	北半部下層包含層②	弥生土器	甕	170	-	(192)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ケズリ	縦凹線(4~5条)	粗砂多、赤色粒、礫並含	外面胴部煤付着

()は残存値

第12表 遺物観察表7

報告 No.	実測 No.	調査区	調査年	出土地/出土区	種別	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重さ (g)	備考
13	石15	B南	2014	SD13 南東部	石製品	打製石斧	161	92	38	602.6	下面使用により磨耗
24	石1	D2	2012	P35	石製品	打製石斧	120	62	27	230.3	中粒砂岩
127	石3	D2	2012	V24:遺構検出	石製品	打製石斧	97	88	28	278.0	火山礫凝灰岩
128	石2	D1	2012	X23:遺構検出	石製品	打製石斧	(112)	85	30	303.5	頭頂部割れ口あり、安山岩
129	石14	B南	2014	包	石製品	打製石斧	194	100	29.5	613.0	
137	金-1	C	2014	SK2 4層より下層	鉄製品	鎌(農具)	(96)	(85)	5.5	19.96	所々欠損箇所あり
150	石18	D南	2014	SK6 アゼ下12層	石製品	炸裂石	(130)	(133)	(61)	694.8	凝灰岩、全体的に磨耗
157	石10	D北	2014	SK10	石製品	砥石	58.5	29	13	24.0	浅黄褐色、上面欠損箇所あり
161	石11	D北	2014	SK13	石製品	砥石	(100.5)	(32)	(10)	(99.99)	剥離あり、所々欠損箇所あり、下面工具痕あり
170	石12	D北	2014	SD8 SD8-③ アゼ7層	石製品	行火	(75)	(181.5)	(115)	586.6	凝灰岩
171	石16	D北	2014	SD8 西半棟中	石製品	行火	(76)	(96)	(57.5)	214.0	凝灰岩
172	石13	D北	2014	SD8 西端落ち込多層下層北東部	石製品	炸裂石	154	125	132	3460.0	所々欠損箇所あり、上面全部被熱
173	石19	D北	2014	SD8	石製品	火打ち石	36	28	18.5	20.39	自然面
178	石17	D南	2014	X09Y31	石製品	砥石	117	106.5	52	913.1	裏面全体に平滑
203	石21	E1	2015	SD8北壁(X85,Y28)	石製品	打製石斧	187	100	30	537.44	
205	石22	E2	2015	SD10下層(X80,Y27)	石製品	石錘	66	68.5	31	190.14	一部磨減あり
218	石23	E1	2015	X82Y27下層包	石製品	打製石斧	154.5	76.5	27.8	351.1	
219	石24	E1	2015	X85Y27下層包	石製品	打製石斧	(161.5)	106	28	489.1	

()は残存値

第4章 三日市A遺跡

第1節 調査の方法と層序(第6・82図)

三日市A遺跡は東西に分けて東半部、西半部として調査した。グリッドは二日市イシバチ遺跡を踏襲し、世界測地系に基づいた公共座標に則った10mグリッドを設定し、杭番号は座標の小数点以下2桁の数値で表した。グリッド名称は北東杭の番号を当てた。遺構番号は東半部と西半部に関係なく通し番号を付した。

調査区の基本土層は、区画整理に伴う盛土が70～80cmの厚さで堆積しており、それを取り除くと区画整理前の旧耕作土が確認された。その下に中世以降の包含層、オリーブ褐色シルトが、その下に古代以前の包含層、黒色～黒褐色系シルトが複数層堆積する。多くの遺構は古代以前の包含層を基盤として掘削されていた。

第2節 遺構と遺物(第77～93図)

ピット 柱穴の可能性のあるピットを図示した。X72Y21・22、X71・72Y19グリッドの2箇所にまともって検出したが、柱列として並ぶものは確認できなかった。

SK1～5 いずれも略円～長円径の遺構で点在している。性格は不明である。

SD1・2 東西にほぼ平行する浅い溝で、SD2からは弥生土器片が出土した。

SD3 南側は南北に走り、北側では東西に分かれる。東側に続く流路が調査区北東端で出土した区画整理前の橋に向かっている点、近代以降の遺物が主体である点から、区画整理まで機能していた水路と判断される。なお、土層断面図①24～33層から古代の遺物が出土しており、延長上の市教委調査区で古代の溝が検出されていることから、部分的に古代の溝が遺存していたとみられる。図示した1～8は近世～近代の製品で、最も古い遺物が18世紀代であることから18世紀以降の開削と推定される。

SD4 東西方向に走る。埋まった後、上面に細溝が掘削されており、それをSD4新として調査した。西部では南へ折れ曲がる形で方形の落ち込み状となるが、その部分はSD4より新しい別の遺構であることが後に判明した。9と10を図示したが、10は方形部からの出土である。

SD5 SD7上面で検出した同方向の短い溝である。別溝として調査したが、SD7新の流路の一部かもしれない。

SD6 南北方向の短い溝である。SD7、SX2より新しい。16世紀代の土師器皿が出土した。

SD7・14 3.5～4mの間隔を保って併走する東西溝である。これらは、同規模の溝が平行することから道路の両側側溝を構成するものと判断する。SD7は東側がSD4西方で止まっており、以東は追えない。土層断面の観察から3回の造り替えが想定されるが、調査は平面的に確認できた最終段階の溝SD7新とそれ以前の溝SD7古に分けて行った。SD7古底面では部分的に概ね等間隔に並ぶピットを検出したことから、波板状凹凸遺構と判断された。SD14にそのような痕跡は確認できなかった。SD14は2回の造り替えが確認された。両溝とも最終的にかなり縮小するが、路面幅が縮小したわけではない。路面部分は削平を受けているためか、硬化面等は確認できなかった。方位はN84°Eで東西に近い。SD7古底面のピット列はやや湾曲しており軸も東への振り幅が大きいことから、当初は単独で小規模な道として存在していたことが想定される。遺物はSD7から12、13が、SD14から16～19が出土し

た。12、19は混入である。16、17は珠洲焼鉢で16は13世紀前半、17は13世紀前葉～中葉の製品である。17は掘り直し後の覆土から出土した。出土遺物は非常に少なく、土師器皿の出土がないことから時期の決定に決め手を欠くが、13世紀中葉以降に機能していた道路とみておきたい。15世紀代の遺物が出土したSD4に切られていることからそれまでには廃絶したとみる。

SD8・13 南北に走る浅い溝である。北部に直交するSD13があり、板が出土したことからSD13はSD8の水量調節の施設と思われる。遺物は14の青磁碗が出土したが混入である。近代の遺物が出土していることからSD3と同じ時期に機能していた用水であろう。

SD9 重複する全ての遺構に切られる細溝である。他の遺構と異なる黒色系土を覆土に持つことから古代以前の遺構と推定される。市教委調査区でも続きが調査されている。

SD12 本遺構はSD14上面を同軸で走っていた細溝であり、平面図には記載がない。灰色土の単相で覆土中に葉や枝などを充填していたことから暗渠排水とみられる。15の肥前系陶器が出土しており、近世以降の遺構である。

SD16 南北方向に走る溝で、南側をSD14に切られて途切れる。延長上に溝状を呈するSK4が存在することから、そこまで延びる可能性もある。

SD18 非常に浅い南北溝である。16世紀代の青花皿片が出土した。

SD19 細い南北溝で、底面では半月状の落ち込みを検出した。形状は二日市イシバチ遺跡27ESD10で検出されたものに類似する。掘削時の工具痕であろう。20は口縁端部に波状文を施した珠洲焼鉢である。12世紀後半の製品である。

SD20 南北方向に走る区画溝である。21は珠洲焼鉢で、内面にかすかに卸目がみられる。13世紀前葉～中葉頃の製品であろう。

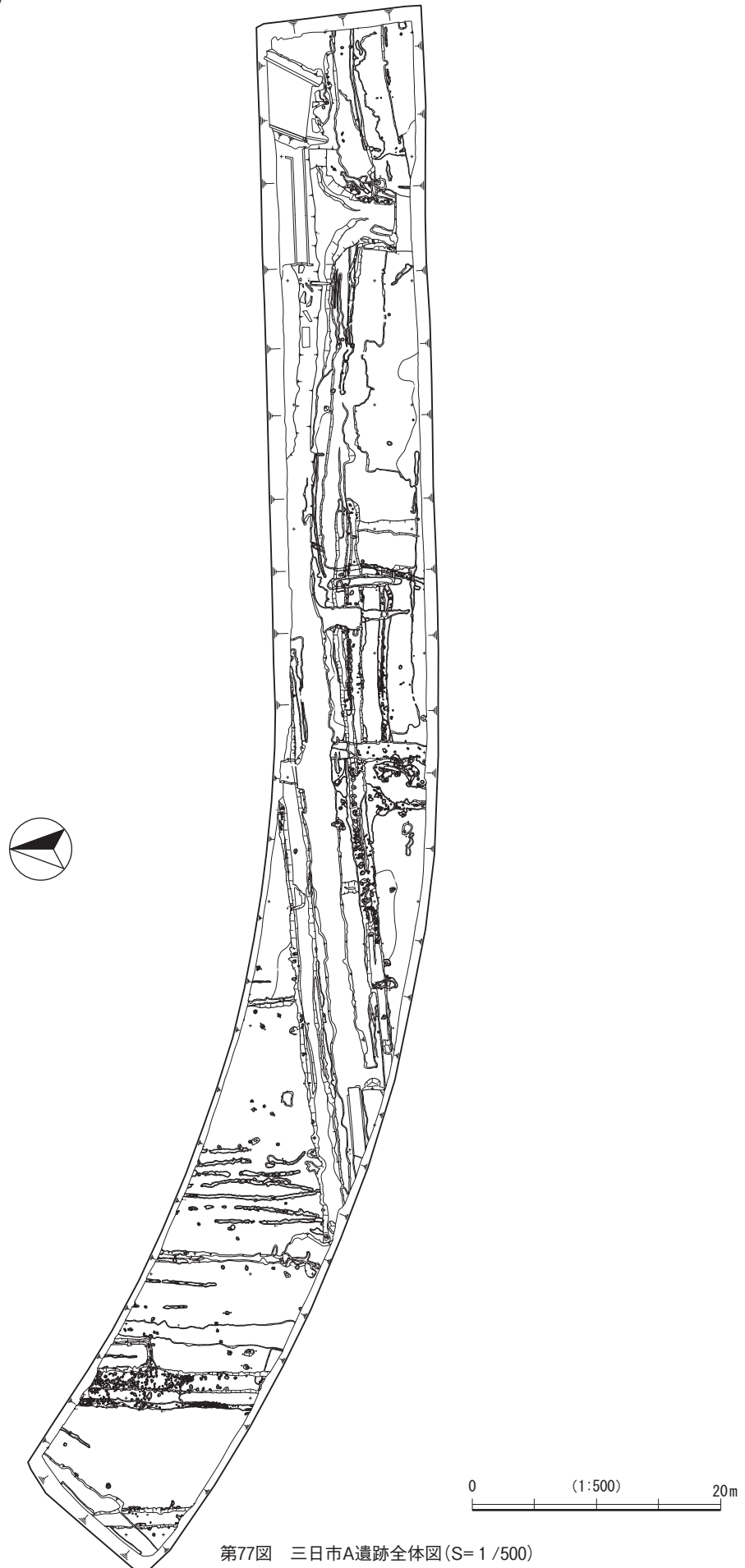
SD21・22 SD21は南北方向に走る溝で、SD22が北東部に直角に取り付きSD21から導水しているように見受けられる。SD21の底面には北部を中心に小ピットを多く検出し、その内部は砂や小礫で埋まっていた。それらには30cmを超える深さのものもある。その様はあたかもポットホールのようにであったが、このような溝に礫が回転するほどの水流があったとも考えられない。土層断面図からは底部に砂利層が堆積しており、水流があったことが窺われるのだが、調査区内、及び続きが検出された隣接の市教委調査区を見てもこの場所で長期間の水流の回転が生じる要素は見当たらない。だとすればもともと存在していたピットに砂礫が詰まったことになり、溝底にこのようなピットを人為的に掘っていたことになる。須恵器21や内黒土師器が出土したが、主軸から中世に帰属する遺構と推定する。

SD17・畝溝群 南北方向の細溝である。検出した7条はきれいな平行関係がなく、東側にやや湾曲するものとやや西側に湾曲するものの2グループに分かれるとみられる。また、西側に離れて存在する南北方向のSD17も畝溝の一つとみられる。

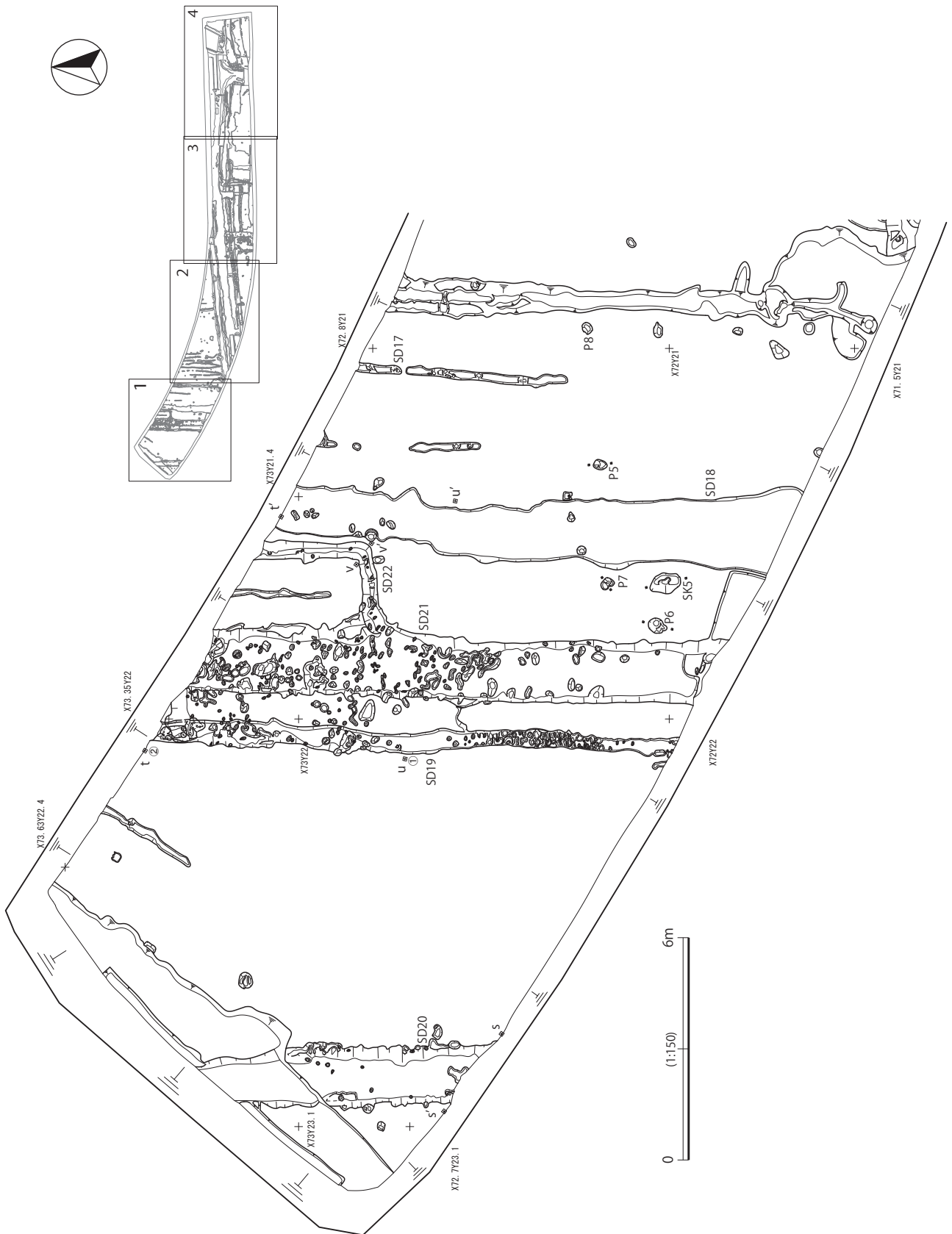
SX1 SD1の西側にある浅い落ち込みで、23の青磁線描き蓮弁文碗が出土した。

SX2 SD4の西端から続く浅い落ち込みをSX2として調査した。南辺がSD4と揃っていることから東西方向部分のSD4南側の浅い箇所はSX2に帰属するものかもしれない。

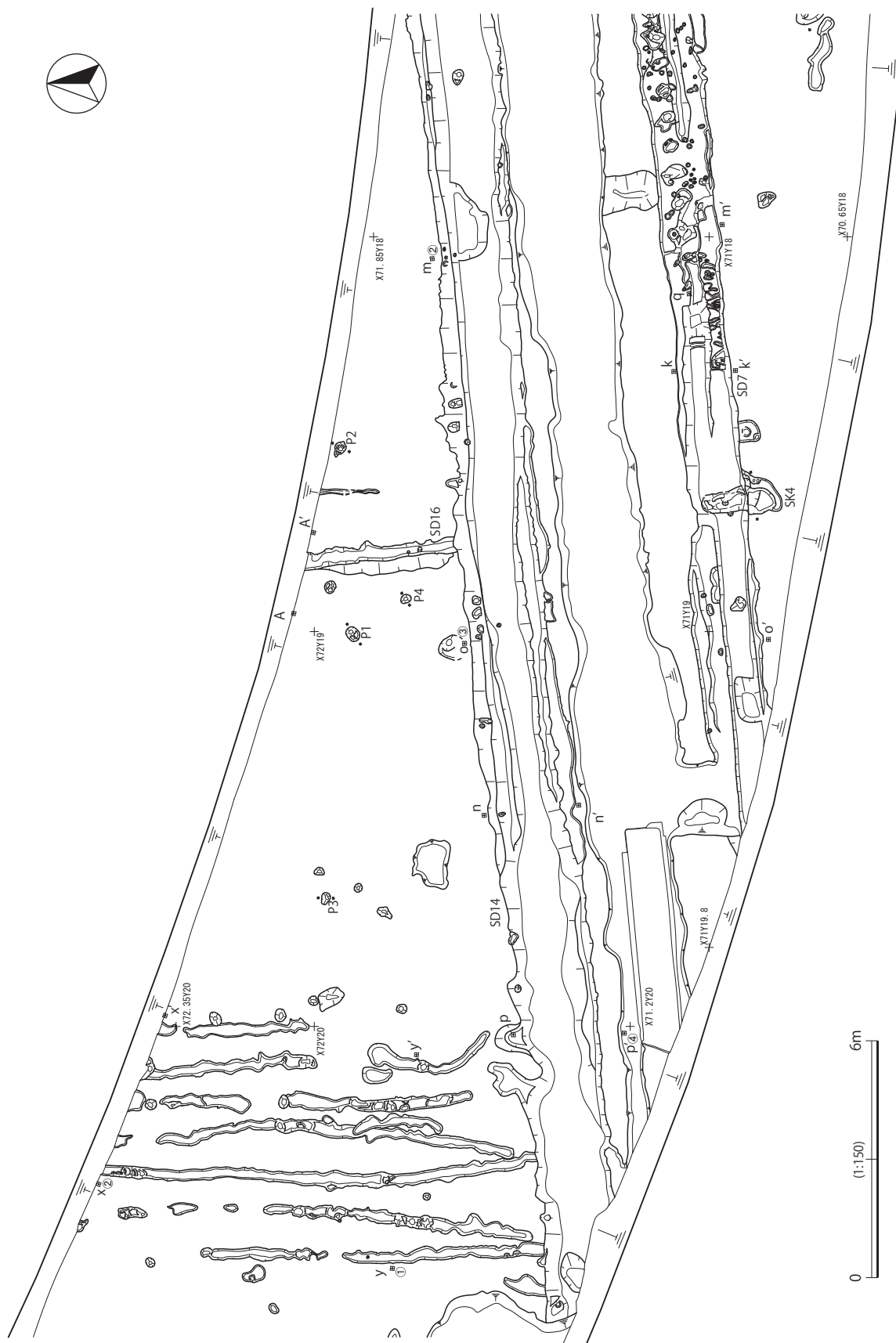
その他 表土除去等で出土した遺物24～27を図示した。



第77図 三日市A遺跡全体図(S=1/500)



第78図 三門市A遺跡遺構配置図1 (S= 1 / 150)



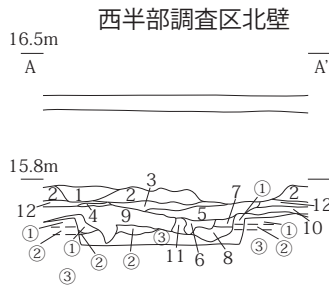
第79図 三日市A遺跡遺構配置図2 (S= 1 /150)



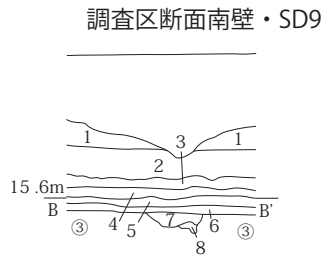
第80図 三日市A遺跡遺構配置図3 (S= 1 / 150)



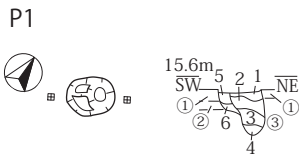
第81図 三日市A遺跡遺構配置図4 (S= 1 /150)



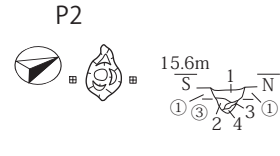
- 1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性中、締まり中
 - 2 灰色シルト (5Y5/1) 粘性中、締まり中、耕作土
 - 3 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり強、2層混、床土か
 - 4 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり強、3層に黒褐色土が混ざった土
 - 5 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、砂混、層上部に細砂、下部ほど粗い砂が混
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着
 - 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、炭粒 1~2mm(1% 未)
 - 8 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 3~5mm(2%)
 - 9 黒色シルト (10YR2/1) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1~10mm(2%)、
黄灰色シルト (2.5Y4/1) の幅 1~5mm・長さ 3~50mm 程の上下を長軸とするブロック (5%) 又、
9層落込み部には幅 30~40mm・長さ 200mm の大ブロックが入る
 - 10 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、灰色強め、黒褐色ブロック 1~5mm(3%)
 - 11 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、地山②の可能性有
 - 12 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 中世包含層
- ※3、5~8層：SD16
※9層：古代?包含層か



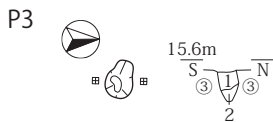
- 調査区断面南壁・SD9
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性中、締まり中、ゴミ混
 - 2 灰色シルト (5Y4/1) 粘性やや弱、締まり強
 - 3 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり強
 - 4 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり強 →田耕作土か?
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強 →田耕作土か?
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1~10mm(2%) →田耕作土か?
 - 7 黒色シルト (10YR2/1) 粘性やや強、締まり中、地山③ブロック 1~5mm(5%)
 - 8 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、地山③多く混、7層が 1~5mm ブロックで 2% 入る、
鉄分沈着
- ※1~3層：盛土
※7・8層：SD9



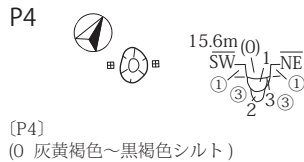
- [P1]
- 1 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒多
 - 2 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山①粒並
 - 3 黒褐色シルト (10YR 3/1) 地山①③粒少
 - 4 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3) 地山③に 3層が混ざった層
 - 5 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③ブロック多
 - 6 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒多、黒色粒少
- ※1~4層 柱根抜き取り痕か



- [P2]
- 1 黒褐色シルト (10YR 3/2) 鉄分沈着
 - 2 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒少
 - 3 褐色シルト (10YR 4/4) 地山③と 2層の混層
 - 4 褐色シルト (10YR 4/4) 地山③が汚れた土



- [P3]
- 1 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒：粗砂極少
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR 4/2) 地山③に 1層が少混ざった層



- [P4]
- (0 灰黄褐色~黒褐色シルト)
- 1 黒褐色シルト (10YR 2/2)
 - 2 黒褐色シルト (10YR 2/2) と褐色シルト (10YR 4/4) の混層
 - 3 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3)



- [P5]
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 黒色・灰色の 5mm ブロック混、粘性中、締まり強
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR4/1) 黒色ブロック 5mm(2%)、粘性中、締まり中
 - 3 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性中、締まり中、地山③と 2層が混ざったような土
 - 4 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性中、締まり中、地山③に黒褐色土少量混ざったような土
 - 5 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性強、締まり強、地山③に 9層が少量混

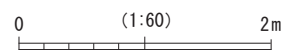


- [P6]
- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性やや強、締まり中、地山③ブロック 1~3mm(1%)
 - 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、炭化物 1~2mm(1% 未)、柱痕跡



- [P7]
- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性やや強、締まり中、地山③ブロック 1~5mm(2%)、P6の 1層とほぼ同質土
 - 2 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性強、締まり弱、地山③少量混、木柱の腐食土か、少し粘土質
 - 3 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり中、1層と地山③が混ざった層、地山③ブロック 1~3mm(2%)、2層と同色だが少し黒色弱く粘土質でもない、別層

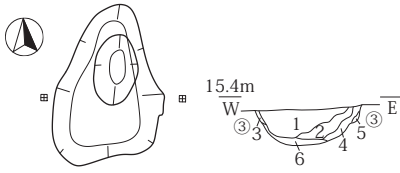
(基礎層は第 68~77 図すべて共通)
地山① 黒褐色シルト (10YR 2/2.5)
地山② 黒褐色シルト (10YR 2.5/2)
地山③ にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3)



第82図 三日市A遺跡遺構図 1 (S= 1/60)

第2節 遺構と遺物

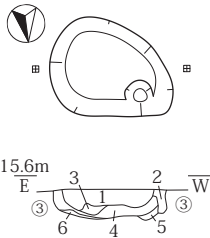
SK1



[SK1]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、縮まり強、地山③ブロック 1～30mm(5%)、鉄分沈着
- 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、縮まり強、地山③ブロック 1～3mm(1%)、鉄分 1層より多く沈着
- 3 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性やや強、縮まり中、鉄分沈着、地山③多
- 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、縮まり強、1、2層より黒色が強い、鉄分沈着 2層と同程度、地山③ブロック 5～10mm(2%)
- 5 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性やや強、縮まり中、鉄分少量沈着、地山③多く混、3層と同一層か
- 6 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、縮まり中、地山③と他層が混ざった層

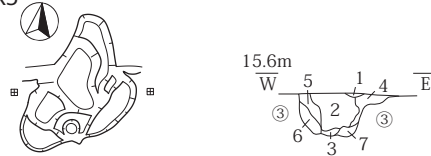
SK2



[SK2]

- 1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、縮まり中、鉄分沈着、極少の地山③ブロック 1～3mm(1% 未)
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、縮まり中、鉄分沈着、地山③が多く混、炭粒少 (1% 未)
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、縮まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(1%)、1層より少し黒色強い
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、縮まり中、地山③ブロック 1～10mm(3%)
 - 5 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性中、縮まりやや強、炭粒 1～2mm(1% 未)、地山③を主体として 4層ブロック 1～10mm(2%) 含む土
 - 6 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性やや弱、縮まり強、鉄分沈着、地山③を主体として 4層が混土
- ※2層：木根か
 ※5層：断面ラインより北にある Pit の覆土の可能性有
 ※6層：地山質で土坑機能時の堆積土

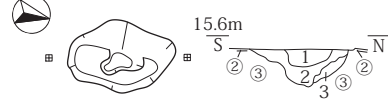
SK3



[SK3]

- 1 黒褐色シルト (10YR2/3)
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 炭粒極少混
 - 3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 地山③に 2層が混ざった層
 - 4 褐色シルト (10YR4/4) 2層に地山③が混ざった層
 - 5 褐色シルト (10YR4/4) 4層と似るが 4層より地山③が多い
 - 6 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3)
 - 7 褐色シルト (10YR4/4) ……地山が少し汚れた土
- ※地山：褐色シルト (10YR4/6) 地山③よりも細砂に近い

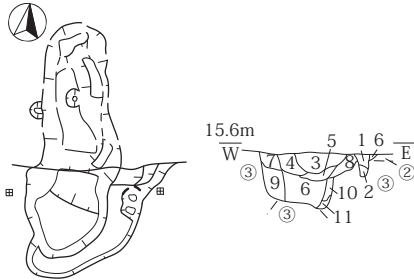
SK5



[SK5]

- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、縮まり中、灰色ブロック 5～10mm (2%)、黒色ブロック 5～10mm(2%)、地山③ブロック 2～10mm(1%)、上面では全て円形を呈する、植物痕跡か
- 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性やや強、縮まり中、灰色ブロック 10mm (1% 未)、炭化物 1mm 程度の小片 (3%)
- 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性やや強、縮まり中、2層よりやや明るい色調、地山③と 2層が混ざった層、1mm 程度の炭化物 (1%)

SK4



[SK4]

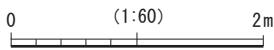
- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、縮まり強、地山③ブロック 1～5mm(7%)、鉄分沈着
 - 2 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、縮まりやや弱、地山③ブロック 1～3mm(10%)
 - 3 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、縮まりやや強、鉄分沈着、地山③ブロック 3mm(1%)
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、縮まり強、鉄分沈着、1mm 程度の細かな炭粒散在 (1% 未)
 - 5 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性強、縮まりやや弱、粘土混、鉄分沈着
 - 6 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、縮まり弱、層上部には少しシルト混、鉄分沈着
 - 7 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、縮まり中、鉄分沈着、炭粒 1～2mm(1%)、地山③に黒褐色土が混ざった土
 - 8 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、縮まり中、黒褐色土の割合 7層より少し減、黒色ブロック 1～5mm(1%)
 - 9 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性強、縮まり中、鉄分沈着、地山③が少し黒くずんだ土、粘土が少混ざるので 6層との混ざりか
 - 10 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性強、縮まり弱、9層よりは黒みが強い、6層の割合少し増
 - 11 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性強、縮まり弱、地山③ブロック 1～10mm(3%)
- ※1・2層：別遺構、3～11層：SK4

SD1・2-①



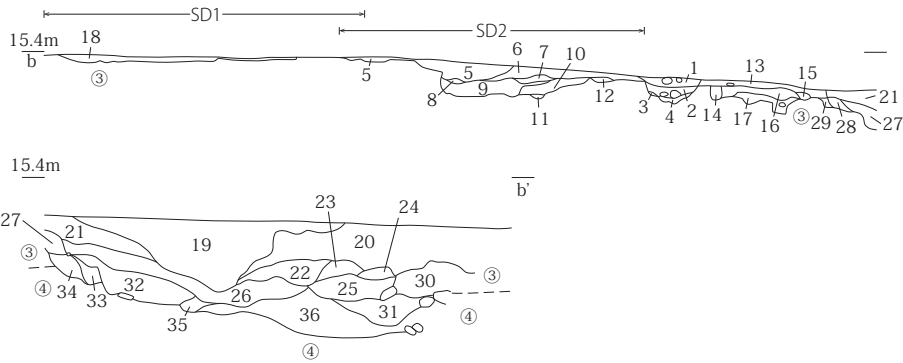
[SD1・2-①]

- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、縮まり強、炭化物 1～2mm(1% 未) 含
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、縮まり強、鉄分沈着、黒色シルト (10YR2/1) ブロック 1～30mm(10%)、地山③黄褐色シルト (2.5Y5/4) ブロック 1～40mm(5%)
 - 3 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性やや強、縮まり中、炭化物 1mm(1% 未)
 - 4 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性やや強、縮まり中、地山③が少量混、3層とほぼ同質土
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、縮まり強、地山③ブロック少、SD1の 2層より黒色が強い、鉄分沈着 ……別溝の可能性も
 - 6 褐灰～黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性中、縮まり強、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)、地山③ブロック 1～80mm(20%)
 - 7 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、縮まり弱、地山③ブロック 1～30mm(40%)
- ※1～4層：SD1
 ※5～7層：SD2



第83図 三日市A遺跡遺構図 2 (S= 1/60)

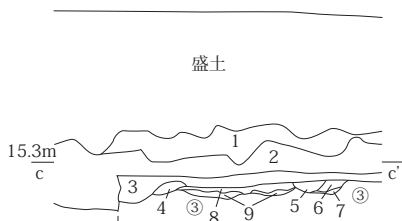
SD1・2-②



[SD1・2-②]

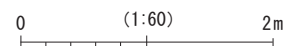
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、礫を含む
 - 2 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、礫を含む
 - 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、少量の細砂混
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性やや強、締まり中、地山③ブロック 1～10mm(1%)
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、炭化物 1～3mm(1% 未)、地山③ブロック 1～30mm(10%)、断面①の 5 層に対応
 - 6 黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(3%)、断面 1 の 6 層に対応
 - 7 灰黄褐色細砂 (10YR4/2) 10YR3/1.5 黒褐色ブロック 3～5mm(7%)、地山③の混じりがないので 6 か 9 層ブロック
 - 8 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、シルト主体だが 7 層の細砂が多く混
 - 9 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、上層に地山③ブロック 1～5mm(1%)
 - 10 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(15%)、10YR3/1.5 黒褐色シルトブロック 1～10mm(10%)、下層には地山③が多くみられる
 - 11 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性強、締まり弱
 - 12 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着
 - 13 6 層と同一層
 - 14 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、上層に地山③ブロック 1～5mm(2%)、鉄分少量沈着
 - 15 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着
 - 16 褐色シルト (10YR4/4) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、炭化物 1mm(1%)、地山③を主体として 10YR3/2 黒褐色シルトが多く混 (25%)
 - 17 黒褐～灰黄褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(5%)、礫を含む
 - 18 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(3%)、断面 1 の 2 層に対応 →SD1
 - 19 灰色シルト (5Y4/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、1～3cm 程の礫を 2% 含む、炭化物 1～2mm(1% 未)、地山③ブロック 1～2mm(1% 未) 極少量、断面①の 3 層に対応 →SD3
 - 20 黄灰～暗灰黄色シルト (2.5Y4/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着顕著、植物散在、礫少量入る →SD3
 - 21 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1～2mm 極少 (1% 未)、層上～中位にかけて 1～6cm 程の礫混、下層に植物が少量入る、断面①の 6 層に対応
 - 22 黄灰～黒褐色シルト (2.5Y3.5/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1～5mm(1%)、植物 (木・竹) が入る、砂が少量混、ラミナ複数層有
 - 23 灰色シルト (5Y4/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、植物極少量混、断面①の 7 層に対応
 - 24 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性やや強、締まり中、鉄分沈着顕著
 - 25 灰～オリブ黒色シルト (5Y3.5/1) 粘性やや強、締まりやや弱、ラミナ複数層有
 - 26 黄灰～黒褐色シルト (2.5Y3.5/1) 粘性中、締まりやや弱、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)、全体に礫 (1～10cm 程) 混、下層植物の混入多
 - 27 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～2mm(1%)、鉄分沈着、断面 1 の 9 層に対応
 - 28 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(1%)、断面①の 10 層と対応か、古代又は中世?
 - 29 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③と 10YR3/1.5(28 層) が混層
 - 30 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、層下位に礫を含む (1～10cm)
 - 31 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性強、締まりやや弱、層全体に 1～20cm の礫を多
 - 32 オリブ黒色砂 (5Y3/1) 層全体に植物 (ゴミのような木の枝など) を多、シルトも少量混
 - 33 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、断面 1 の 14 層に対応か
 - 34 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、シルト全体として砂少量、礫多量が入る (3～5cm)
 - 35 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強、締まり弱、砂混、ゴミの様な枝多量に入る、断面①の 17 層に対応
 - 36 黄灰～黒褐色砂礫 (2.5Y3.5/1) 粘性の強い粘土混、礫は 1～20cm 程が多く入る、植物少量混、断面①の 21 層に対応か
- ※1～4 層：SD2 より新しい別溝
 ※5～13 層：SD2、14～17 層：SD2 か

SD2-③



[SD2-③ 調査区東壁断面]

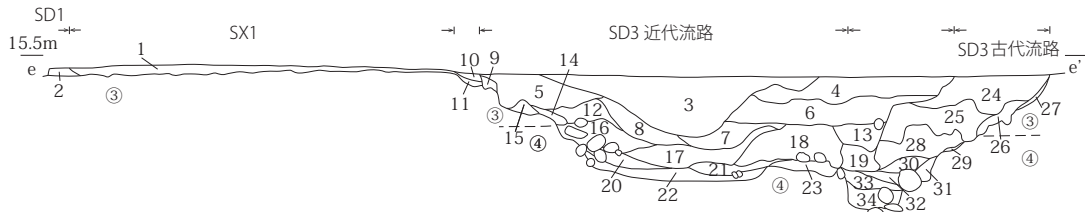
- 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、礫含 →盛土
 - 2 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着 →盛土
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～5mm(7%) →カクラン
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 3 層より少し黒味強い
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(2%)、SD1、2 断面 1 の 5 層に対応
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、炭化物 1～2mm(1% 未)、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(5%)、
 - 7 黒色シルト (10YR2/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着
 - 8 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～5mm(7%)
 - 9 褐灰～黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～20mm(15%)、炭化物 1～2mm 極少 (1% 未)、SD1、2 断面 1 の 6 層に対応
 - 10 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性強、締まり中、3 層と地山③が混ざった土
- ※5～7 層・・・SD2 別溝 (SD2 を切る)
 ※8、9 層・・・SD2
 ※盛土・・・礫、砂利含



第84図 三日市A遺跡遺構図 3 (S=1/60)

第2節 遺構と遺物

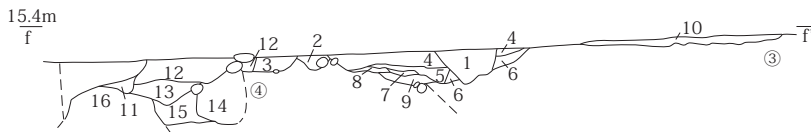
SD3-①



[SD3-①]

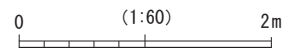
- 1 褐灰～黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(1%)、SD1 を切る →SX1
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着顕著、地山③ブロック 1～20mm(20%) →SD1
 - 3 灰色シルト (5Y4/1) 粘性中、締まり中、10YR3/1 黒褐色シルト、地山③が全体に混 (25%)、鉄分沈着、田んぼの土に似る
 - 4 灰色シルト (5Y4/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着顕著
 - 5 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1～2mm 極少 (1% 未)
 - 6 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着顕著、4層が混
 - 7 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、下層で小礫・植物小枝が少量混
 - 8 褐灰～黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着顕著、炭化物 3～20mm(7%)、礫 10～50mm 下層程多く、植物も下層に少
 - 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～3mm(1%)
 - 10 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～3mm(1%) →古代流路の埋土又は古代～中世包含層の崩落土
 - 11 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～10mm(10%) →古代流路の埋土又は古代～中世包含層の崩落土
 - 12 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着顕著、下層に礫が少し入る
 - 13 褐灰～灰黄褐色シルト (10YR4/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(1%)
 - 14 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③が全体に混
 - 15 褐灰～黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性中、締まり弱、地山③下層に多く混
 - 16 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強、締まり中、上層鉄分沈着顕著、下層鉄分少量、礫 (10～15cm 程) 含、3、4層より青みが少し強い
 - 17 黄灰～黒褐色砂礫 (2.5Y3.5/1) シルト混、植物が多く全体に含まれる、礫 (5cm 程) 下層に多く入る・・・木製品・陶磁器多、植物は流れてきたゴミのような枝など
 - 18 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着顕著、層中～下部にかけて植物がまばらに入る、下層に礫 (15cm 程) 含
 - 19 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着顕著、粗砂・礫・植物少
 - 20 暗灰黄色砂礫 (2.5Y4/2) シルト混、鉄分沈着、礫大～小まで多 →水がしみ出す層
 - 21 黄灰～黒褐色砂礫 (2.5Y3.5/1) シルト混、植物多く混 →水がしみ出す層
 - 22 黄灰～黒褐色粗砂礫 (2.5Y3.5/1) シルト少量混、21層より砂粒大、植物無し →水がしみ出す層
 - 23 黒褐色砂礫 (2.5Y3/2) シルト極少混、植物少量入る →水がしみ出す層
 - 24 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～10mm(5%)、鉄分少量沈着
 - 25 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～2mm 極少 (1% 未)、鉄分少量沈着
 - 26 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、25層と地山③が混ざった層か
 - 27 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 粘性弱、締まり中、地山③を全体として 10YR3/1.5 黒褐色シルトが混
 - 28 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、締まり中、2.5Y4/1 黄灰色シルト混、鉄分沈着
 - 29 黒褐色砂 (10YR3/2) 鉄分沈着、1cm 程の小さな礫を少
 - 30 黒褐色シルト (10YR2.5/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1% 未)
 - 31 黒褐色砂礫 (10YR3/2) 鉄分沈着、礫 (5～10cm) 多、シルト少量混
 - 32 黄灰～黒褐色シルト (2.5Y3.5/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、植物が少量入る
 - 33 黒褐色細砂 (10YR3/1) 鉄分少量沈着、植物茎が多く入る、シルト混
 - 34 黒色砂礫 (10YR2/1) 植物茎の小片多、礫 5～20cm が多く入る、シルト混、水がしみ出る層
- ※3～23層：近代流路、24～34層：古代又は中世流路
 ※32～34層 機能時の堆積土

SD4-①

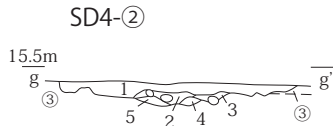


[SD4-①]

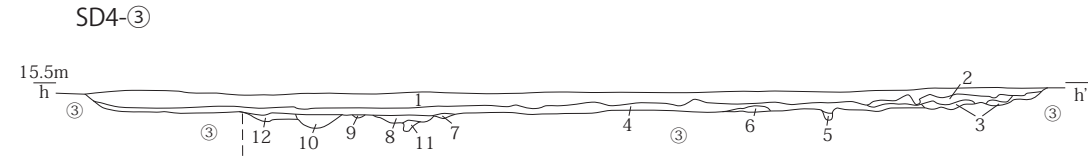
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性やや強、締まり中、炭化物 1～7mm(1% 未)、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(3%)・・・SD4 の最終形態 →SD4 新
 - 2 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～5mm(3%)、鉄分沈着、3、4層に切られる溝 →別溝
 - 3 灰黄褐～黒褐色シルト (10YR3.5/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～10mm(7%)、鉄分沈着 →別溝
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)、地山③ブロック 1～5mm(2%)
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、炭化物 1～3mm(1%)、地山③ブロック 1～10mm(15%)、鉄分沈着
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～20mm(20%)、鉄分沈着、5層より締まりが少し弱い
 - 7 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、炭化物 1～2mm(1% 未)、地山③ブロック 1～2mm(1% 未)
 - 8 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～5mm(5%)
 - 9 黒～黒褐色シルト (10YR2.5/1) 粘性やや強、締まり中、地山③ブロック 1～2mm(1%)
 - 10 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)、地山③ブロック 1～5mm(7%)・・・4層と同一層
 - 11 褐灰～黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着
 - 12 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着
 - 13 灰色シルト (5Y4/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、SD3 断面 1 の 3、4層に対応か →断面①の 3、4層か
 - 14 黒褐色砂礫 (2.5Y3/2) 下層程粗い砂が入る、粘土が混、礫 5～10cm 多
 - 15 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着 →断面①の 16層か
 - 16 黄灰～黒褐色シルト (2.5Y3.5/1) 粘性強、締まり中、鉄分少量沈着、5cm 程の礫を少
- ※4～10層：SD4、12～16層：SD3
 ※地山：褐色砂礫含 (10YR4/4) 上層はシルト質



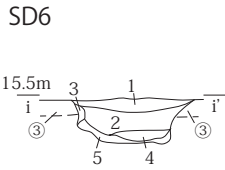
第85図 三日市A遺跡遺構図 4 (S= 1/60)



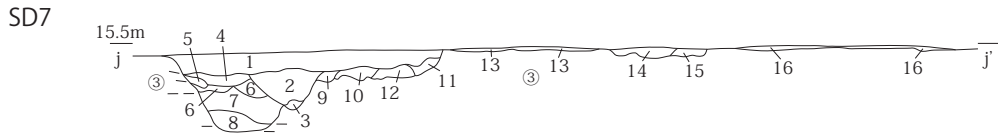
- [SD4-②]
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～10mm(2%)、鉄分沈着、炭化物 1～3mm(1% 未)
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～2mm(1%)、炭化物 1mm 極少(1% 未)、1層より少し黒味弱い、断面 1 の 1層に対応 →SD4 新
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～20mm(10%)、礫含、断面 1 の 7層に対応か
 - 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、シルトを主体として小礫(1cm 程度) 多
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～3mm(1%)、小礫(1～20mm) 多



- [SD4-③]
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、炭化物 1～5mm(1%)、地山③ブロック 1～5mm(2%)
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分少量沈着、地山③多く混(40%)・黒色シルト(10YR2/1) ブロック 1～2mm(15%) 混
 - 3 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性やや弱、締まり強、地山③を主体として 2層土、10YR2/1 が混
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～10mm(5%)、10YR2/1(3%) 混
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～3mm(1%)
 - 6 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着
 - 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③少量混
 - 8 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1～3mm(1%)、地山③ブロック 1～5mm(5%)
 - 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③混
 - 10 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(1%)
 - 11 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③多く混
 - 12 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(5%)、8層に似る
- ※1～4層は溝よりも新しい長方形の落ち込み覆土。
SD4 として取り上げた天目茶碗はこの層位出土。

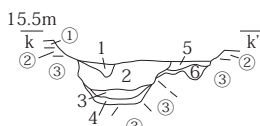


- [SD6]
- 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(1%)
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(1%)、炭化物 1～5mm 極少(1% 未)、壁際に地山粒入る
 - 3 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性中、締まりやや強、地山③を主体として黒褐色シルトが少量混、鉄分沈着、地山崩壊土
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 1～2mm(1% 未)、2.5Y2/1(黒色シルト) ブロック 1～10mm(5%)、鉄分沈着
 - 5 褐灰～黒褐色シルト (10YR3.5/1) 粘性強、締まりやや強、鉄分沈着、オリブ褐色シルト (2.5Y4/3) ブロック 5～20mm(5%) 下層に多い、地山③ブロック 3～10mm(2%) 上層に多い、炭化物 1～2mm 極少(1% 未)

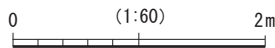


- [SD7]
- 1 黒褐色シルト (10YR 2/3) 白色砂粒少混、南北両壁近くは地山③粒入る、鉄分沈着
 - 2 黒褐色粘土 (10YR 3/2) 締まり強い、4・6・7層境に鉄分沈着 →最終流路
 - 3 黒褐色粘土 (10YR 3/2) 地山③ブロック多 →最終流路
 - 4 黒褐色シルト (10YR 3/2) 鉄分沈着
 - 5 暗灰黄色シルト (2.5Y 4/2) 粘土に近い…植物痕跡
 - 6 黒褐色シルト (10YR 3/2) シルト混、鉄分沈着
 - 7 黒褐色シルト (10YR 3/1) 植物茎並混、締まり強い →滞水状態だったか
 - 8 黒褐色シルト (2.5Y 3/1) 植物茎混 →滞水状態だったか
 - 9 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒下層に混、SD4 断面の 9層に対応か
 - 10 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山③粒並
 - 11 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒下層に混、SD4 断面③の 7層に対応か
 - 12 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒やや多、11層に地山が多く混ざった層、SD4 断面の 11層に対応か
 - 13 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山質土に黒褐色シルトがブロック状に混ざった層
 - 14 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒、ブロック並
 - 15 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒、ブロック並
 - 16 暗褐色シルト (10YR 3/3)
- ※2～8層 SD7(新)として調査 →SD7(新)粘土主体
※9～12層 SD(古)として調査 →SD(古)シルト主体
※14、15層 溝覆土
※16層 SX2 覆土

SD7 西半部



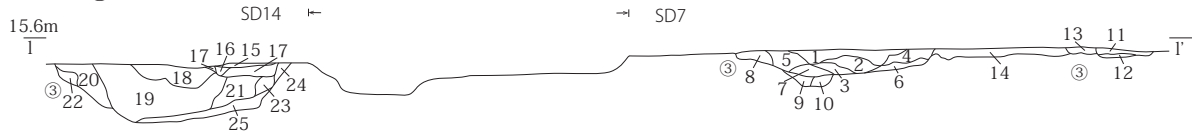
- [SD7 西半部断面]
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着
 - 2 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、シルト極少量混
 - 4 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まり弱、鉄分極少量沈着、シルト少量混
 - 5 黒褐色粘土 (10YR3/1.5) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(7%)、シルト混
 - 6 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③を主体として 5層が混
- ※SD7・14-③の 5～14層に対応
※SD7、14 断面①、②には対応する層無し
※断面③の SD7 新 2とは別物だが、5～7層に規模は似る



第86図 三日市A遺跡遺構図 5 (S= 1 / 60)

第2節 遺構と遺物

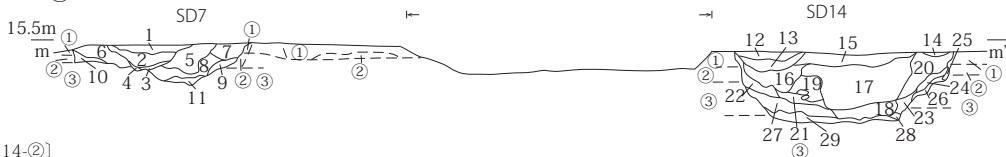
SD7・14-①



(SD7・14-①)

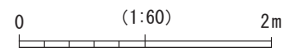
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1% 未)
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まりやや強、鉄分沈着、地山③ブロック 3～10mm(10%)、極少の炭粒含
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、少量の鉄分沈着、地山③ブロック 5～10mm(2%)、灰色シルト 2% 程度混
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(2%)、炭粒少
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(2%)、4層とよく似る同質土か
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～20mm(5%)
 - 7 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(2%)
 - 8 褐灰～灰黄褐色シルト (10YR4/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(10%)
 - 9 褐灰～灰黄褐色シルト (10YR4/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、黒褐色土と地山③が混ざり合った層、炭粒 1% 含、固く締まる
 - 10 にぶい黄色シルト (2.5Y6/4) 粘性弱、締まり強、鉄分沈着、炭粒 1%、9層と同様に混ざり合った層だが地山③の割合増加、カチカチに固く締まる、9層より固い
 - 11 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中
 - 12 黒～黒褐色シルト (10YR2.5/1) 粘性中、締まり中、砂・小礫多
 - 13 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり中、鉄分少量沈着、層下部では地山③少量混
 - 14 黒褐色シルト (2.5Y3/1.5) 粘性やや強、締まり中、炭化物 1～2mm 極少 (1% 未)、地山③ブロック 1～5mm(5%)
 - 15 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり強、層下部に鉄分含、白色の砂粒が全体に少量混
 - 16 褐灰～灰黄褐色シルト (10YR4/1.5) 粘性やや強、締まり中、炭化物 1mm(1% 未)、白色砂ラミナ状に含
 - 17 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、細かな植物片混、白色砂極少量散在
 - 18 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)、シルト混
 - 19 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)・・・こぶし大～赤子頭大の礫混
 - 20 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性やや強、締まり中、鉄分沈着、層南側では 19層の粘土が少量混
 - 21 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1mm 極少 (1% 未) 混、粘土に近いシルト
 - 22 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、20層と地山③の混じり合った層、17層より明るい色
 - 23 黒褐色粘土 (10YR3/1.5) 粘性強、締まり弱、鉄分少量沈着、地山③ブロック 3mm(1%)
 - 24 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性やや強、締まり中、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～5mm(1%)
 - 25 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、地山③10～50mm 大ブロック (10%)・・・19、21層と地山③が混ざった層
- ※1～3層：SD7 新、4～8層：SD7
 ※9、10層・・・波板状凹凸遺構覆土、11～13層：SD15
 ※18、19層を完掘したところで一度写真撮影をした。掘り直し後の覆土の可能性
 ※底面の地山は図化ラインから約 1m 西側へ行くと、シルトが鉄分でカチカチに固まった岩盤状になる

SD7・14-②



(SD7・14-②)

- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm 極少 (1% 未)
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、灰色シルト 20% 程度混、断面①の 3層より灰色シルトの混ざり増
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、鉄分少量沈着、灰色シルト無
 - 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性やや強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1%)
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1%)
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(10%)、黒色ブロック 1～5mm(2%)
 - 7 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(2%)、黒色ブロック 1～2mm(3%)
 - 8 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(3%)
 - 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(3%)、7層より少し黒味強い
 - 10 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(1%)
 - 11 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、黒色ブロック 3～5mm(2%)、地山③10% 程度混→波板状凹凸遺構 断面 6層に対応
 - 12 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、白色砂粒全体に少量混
 - 13 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、細かい植物片混
 - 14 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性やや弱、締まり強、10YR7/1(灰白色シルト) ブロック 1～10mm(10%) →SD12
 - 15 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1～3mm 極少 (1% 未) 含、シルト混
 - 16 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、シルト少量混
 - 17 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、炭化物 1～5mm(1% 未)、5cm 程度の礫少量混
 - 18 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、地山③ブロック 30～50mm 大ブロック (10%)、17、21と地山③の混ざった土
 - 19 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり弱、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)、こぶし程の礫含、粘土に近いシルト
 - 20 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性やや強、締まり中、鉄分沈着、17層に近い程粘土混
 - 21 黒褐色粘土 (10YR3/1.5) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(1%)
 - 22 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まり弱、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～3mm(2%)
 - 23 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、シルト少量混
 - 24 黒褐色シルト (10Y3/1.5) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1% 未)、地山③ブロック 1～3mm(1%) 黒色ブロック 1～2mm(1%)、粘土混
 - 25 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着
 - 26 黒褐色粘土 (10YR3/1.5) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、炭化物 1～2mm(1%)、地山③10% 程度混、シルト少量混
 - 27 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、地山③ブロック 1～30mm(20%)
 - 28 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、地山③ブロック 5～10mm(2%)、18層より黒味弱
 - 29 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) 粘性やや強、締まりやや弱、オリーブ灰色シルト (10Y6/2) の混、地山③を主体として 18層 27層の黒褐色粘土が 5% 程度混
- ※1～4層：SD7 新、5～10層：SD7、12・13・15～29層：SD14



第87図 三日市A遺跡遺構図 6 (S= 1/60)

SD7・14-③



[SD7・14-③]

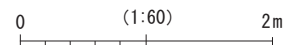
- 1 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③ブロック 1～2mm 極少 (1% 未)、炭化物 1～5mm(2%) 含
 - 2 黒色シルト (10YR2/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、にぶい黄褐色細砂ラミナ状に混
 - 3 黒色シルト (10YR2/1) 粘性強、締まり弱、2 層より黒み弱、鉄分沈着、層全体ににぶい黄褐色細砂ラミナ状に混ざり下半は黒色シルトの薄層が無数に重なる
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着
 - 6 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着
 - 7 黒褐色粘土 (10YR3/1.5) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着顕著、地山③少量混
 - 8 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着
 - 9 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性やや強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(1% 未)、粘土混
 - 10 褐灰～灰黄褐色シルト (10YR 4/1.5) 粘性やや強、締まり中、鉄分沈着、粘土少量混
 - 11 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、灰色が強め、シルト混
 - 12 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まり弱、シルト少量混、2.5Y6/2(灰黄色シルト)、地山③ブロック 10～50mm(2%)、シルトに近い
 - 13 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性中、締まり中、地山③を主体として 12 層が混ざった層
 - 14 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性中、締まり中、地山③を主体として 12 層が少量混ざった層
 - 15 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③と黒褐色シルトが混ざり合った層
 - 16 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(2%)、黒色ブロック 1mm 極少 (1% 未)
 - 17 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(3%)、黒色ブロック 1～2mm(2%)
 - 18 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性やや強、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 3～20mm(10%)、粘土混
 - 19 白灰色シルト (7.5Y7/1) 粘性中、締まり強、20 層黒褐色シルト (2.5Y3/1) ブロック 5～30mm(7%)、鉄分沈着、植物片少量混 →SD12
 - 20 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性やや弱、締まり強、植物片多く混、19 層白灰色シルトが層下部に混 →SD12
 - 21 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性やや強、締まり中、鉄分沈着、植物片少量混、極少量粗砂含 →SD14
 - 22 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、炭化物 1～3mm(1% 未)、地山③ブロック 1～5mm(7%) →SD14
 - 23 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着 (部分的に一部顕著) →SD14
 - 24 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、締まりやや弱、地山③ブロック 1～3mm 少量混 (1% 未) →SD14
 - 25 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強、締まり中、鉄分少量沈着、白色砂粒全体に混 →SD14
 - 26 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、植物片少量、炭化物 3mm 極少 (1% 未) 混 →SD14
 - 27 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まり中、粘土が多く混 →SD14、掘り直し埋土か
 - 28 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まり中、シルト極少量混、層下部に細砂が多く混、水流の痕跡か→SD14、掘り直し埋土か
 - 29 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、層下部に地山③2～10mm ブロック (2%) →SD14、掘り直し埋土か
 - 30 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まり弱、29 層より黒が強い、地山③混 →SD14、掘り直し埋土か
 - 31 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分少量沈着 →SD14
 - 32 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、31 層より灰色弱、小礫を極少、鉄分少量沈着 →SD14
 - 33 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まりやや弱、シルト少量混、鉄分少量沈着、灰色強め →SD14
 - 34 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり中、シルト混、炭化物 3mm(1% 未)、鉄分少量沈着、小礫含 →SD14
 - 35 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まり弱、層下部では 40 層が混 →SD14
 - 36 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり中、シルト少量混、鉄分沈着、炭化物 1～5mm(1% 未) →SD14
 - 37 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強、締まり弱、灰色強め →SD14
 - 38 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、地山③ブロック 5～10mm(10%)、鉄分沈着 →SD14
 - 39 灰オリーブ細砂 (5Y4/2) 粘性強、締まり弱、2.5Y3/1 粘土が 5cm 大ブロックで多く混 →SD14
 - 40 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まり弱、細砂混、39 層の細砂と粘土が混じり合った層 →SD14
 - 41 灰色細砂 (7.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、2.5Y3/1 粘土全体に混 →SD14
- ※1～4 層：SD7 新
 ※5～14 層：SD7 新以前に掘り直された溝埋土か
 ※5～7 層：SD7 新 2 で写真
 ※8～14 層はそれより古い
 ※16～18 層：SD7 古、アゼのすぐ西に波板状凹凸遺構あり、SD7 古より古い
 ※21～41 層：SD14

SD7・14-④



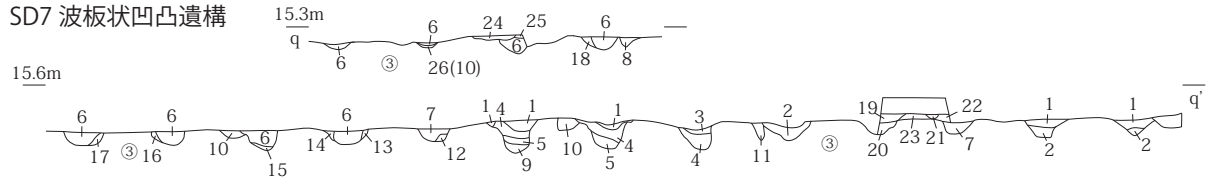
[SD7・14-④]

- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性やや強、締まり強、鉄分沈着、7.5Y7/1(白灰色シルト) 混、木材が溝の方向に沿って並ぶ・SD12 埋土
 - 2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、炭化物 2mm(1% 未)、層下部でこぶし程の礫並ぶ (2.6.9.10 層) シルト混
 - 3 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり強、1 層より黒み強、灰色細砂少量混、鉄分沈着、層下部に 5cm 程の礫含
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、粘土混、鉄分沈着、層下部に 2cm 程の小礫含
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、層下部に 1cm 程の小礫含、地山③ブロック 1～5mm(3%)、粘土混
 - 6 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、層下部に 1～15cm 程の礫含、断面③の同色粘土層より鉄分が多い→(右上図)SD14 断面①の 12 層に似るが、シルトを含まないので違う
 - 7 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1%)、灰色細砂ブロック 1cm(1% 未)
 - 8 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、粘土混、鉄分沈着、1～3cm 程の小礫含
 - 9 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まり弱、小礫含、鉄分沈着、シルト少量混
 - 10 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～5mm(3%)、鉄分沈着
 - 11 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性強、締まり中、鉄分少量沈着
- ※SD7 は調査区外へ外れた。
 ※2 層は SD14 掘り直し後の埋土か。



第88図 三日市A遺跡遺構7 (S= 1 /60)

SD7 波板状凹凸遺構



〔SD7(古) 底部 波板状凹凸遺構断面〕

- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 3～15mm(3～5%)
- 2 黒褐色シルト (2.5Y3/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着顕著、1層の黒褐色土と地山③が混じり合った層
- 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性やや弱、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(5%)、黒色ブロック 1～10mm(5%) がブツブツと入る土
- 4 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり強、3層と同じく地山③1～5mm(5%)、黒色ブロック 1～10mm(5%) 入るブツブツした土、鉄分の沈着 3層より多
- 5 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 1～2mm(1% 未)、黒色ブロック 1～3mm(10%)、3、4層より地山③減り黒色土が増えて目立つ層
- 6 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、黒色ブロック 3～10mm(3%)、地山③が 7% 程度混、締まりが非常に固い土
- 7 褐灰～灰黄褐色シルト (10YR4/1.5) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③が 25% 程度混
- 8 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性やや強、締まりやや弱、鉄分沈着、地山③ブロック 1～10mm(10%)、黒色ブロック 1～5mm(3%)、6層と似るが粘性、締まりが全く異なる土
- 9 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分少量沈着、5層より黒色ブロック 1～3mm 減 (1%)、地山③10% 程度混
- 10 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性中、締まり強、鉄分少量沈着、地山③を主体に黒褐色土混
- 11 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性やや強、締まり中、鉄分少量沈着、地山③を主体に黒褐色土が少混ざった層
- 12 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、黒色ブロック 1～2mm(1%)、地山③10% 程度混
- 13 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、黒色ブロック 1～3mm(1%)
- 14 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③20% 程度混
- 15 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③と 10YR3/1 でラミナ状を呈する
- 16 黄灰色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③を主体として黒褐色土 10% 程度混
- 17 黄灰色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり中、鉄分少量沈着、地山③に似るが少し黒色強め、他層が少量混
- 18 黒褐色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③を主体として黒褐色土 30% 程度混
- 19 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(2%)→SD7、14 断面 1、7 層
- 20 にぶい黄色シルト (10YR6/4) 粘性弱、締まり強、鉄分沈着、炭化物 1%、地山③を主体として黒褐色土が混ざり合った層→SD7、14 断面 10 層
- 21 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着
- 22 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、地山③ブロック 3～5mm(2%)
- 23 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性中、締まり中、地山③を主体として黒褐色シルト (10YR3/2) が 30% 程度混
- 24 黒褐色シルト (10YR3/1.5) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～3mm(5%)、SD7・14 断面 2 の 5 層
- 25 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③ブロック 1～5mm(3%)、SD7・14 断面 2 の 8 層
- 26 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性中、締まり強、鉄分少し沈着、地山③を主体として黒褐色土混 (10層と同質土か)
- 27 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり弱、波板状遺構ではなく植物痕跡と思われる

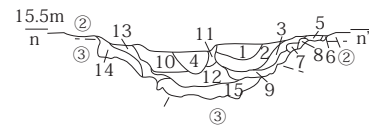
※地山面には顕著な硬化は観察されない

※1層は SD7 底面の堆積土、SD7 アゼには対応層なし

※2、6、7層はカクハンされたような堆積土、基本的には同一層、非常に締まった土

※4層は 6、7層同様に非常に締まりが強いが、攪拌されたような堆積状況にない

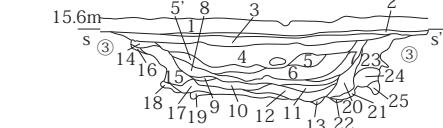
SD14



〔SD14 断面〕

- 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、粘土混、炭化物 1～2mm(1%)、白色砂粒全体に混
 - 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、シルト混
 - 3 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中、鉄分沈着、粘土少量混
 - 4 黄灰色シルト (5Y4/1) 粘性中、締まり強、鉄分沈着、粘土混
 - 5 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、鉄分沈着、地山③混
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まり中
 - 7 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性中、締まり弱、細砂含、地山③ブロック 1～3mm(3%)、灰色強め
 - 8 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性中、締まり中、地山③を主体として黒褐色土混
 - 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、地山③ブロック 5～10mm(2%)、灰色強め、粘土少量混
 - 10 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、1～3mm 程の砂粒少量混、鉄分沈着
 - 11 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり中、シルト少混、鉄分沈着、層下部に 2cm 大の礫含
 - 12 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、層下部に 1～2cm 程の小礫少、シルト少混
 - 13 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、鉄分沈着、シルト砂粒少量混
 - 14 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり中、地山③ブロック 5～10mm(7%)
 - 15 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、地山③ブロック 5～50mm(25%)、鉄分沈着
- ※1～9層：SD14 掘り直し後の埋土か。断面③の 27～30層に対応する溝

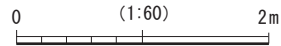
SD20



〔SD20 南壁〕

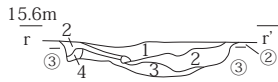
- 1 灰黄褐色シルト (10YR 4/2) 上面鉄分沈着、床土か
- 2 暗褐色シルト (10YR 3/3)
- 3 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒、黒褐色土粒極少、鉄分沈着
- 4 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒極少
- 5 黒褐色シルト (10YR 3/2) 4層より粘土に近い、褐灰色粘土粒少
- 5' 黒褐色シルト (10YR 3/2) 5層と同じ層だが 6層が少混
- 6 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒、褐灰色粘土粒極少
- 7 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒少
- 8 黒褐色シルト (10YR 2/2) 褐灰色粘土土並、中粒砂少
- 9 黒褐色シルト (10YR 2/2) 粘土に近い
- 10 灰黄褐色細粒シルト (10YR 4/2) 細砂ラミナ状に混

- 11 灰黄褐色シルト (10YR 4/2) 細砂、中粒砂混
 - 12 灰黄褐色細砂 (10YR 4/2) 炭粒少
 - 13 黒褐色シルト (10YR 3/2)
 - 14 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒少
 - 15 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③ブロック状に入る
 - 16 黒褐色シルト (10YR 3/2) 粘土に近い
 - 17 黒褐色細砂 (10YR 3/2) 地山③粒極少、シルト混
 - 18 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3) 地山③多、壁崩落土
 - 19 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3)
 - 20 黒褐色シルト (10YR 3/2) 黒色粒、褐灰色粒土粒極少
 - 21 暗褐色シルト (10YR 3/3)
 - 22 にぶい黄褐色細砂 (10YR 4/3)
 - 23 黒褐色シルト (10YR 2/3) 地山③粒多、黒色粒少
 - 24 暗褐色細砂 (10YR 3/3) 地山③粒並、暗褐色シルトやや多
 - 25 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山③粒並
- ※3～25層：SD20
4～12層：掘り直し後の溝か
10～12、17層：水流痕
※写真に撮った珠洲鉢は 4層あたりの出土



第89図 三日市A遺跡遺構図 8 (S=1/60)

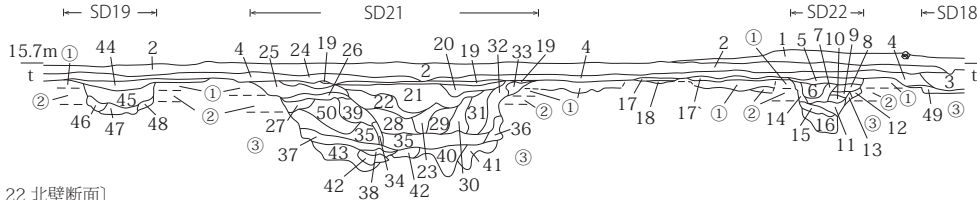
SD8



[SD8]

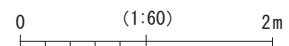
- 1 暗灰黄色細砂 (2.5Y5/2) 層上部砂粒小さく下層粗い砂、炭化物 1～2mm(1%)、少量の礫や植物入る・遺物多
- 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性中、締まり中、炭化物 1～3mm(1%)、礫・植物少
- 3 黄灰～黒褐色シルト (2.5Y3.5/1) 粘性強、締まりやや弱、鉄分沈着、植物少
- 4 暗灰黄色粗砂 (2.5Y4/2) 0.5～10mm 程度の砂、シルト極少量混

SD19・21・22 北壁



[SD19・21・22 北壁断面]

- 1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性中、締まり中、耕作土
 - 2 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり強、床土か
 - 3 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性強、締まりやや弱、SD18 埋土
 - 4 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり強、近世以降の堆積土か
 - 5 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性中、締まり強、層中部に 5～10mm 程の厚みで砂含層有
 - 6 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック 1～5mm(10%)
 - 7 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、黒色ブロック 3mm(2%)
 - 8 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、層下部にうすく砂の堆積有
 - 9 黒褐色砂礫 (10YR 3/2) 細砂と小礫 (直径 2～5mm) の混ざった層
 - 10 暗灰黄色細砂 (2.5Y4/2) 粘性弱、締まりやや弱
 - 11 暗灰黄色細砂 (2.5Y4/2) 粘性中、締まり中、黒褐色シルト混
 - 12 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性強、締まりやや弱、地山③・黒褐色ブロック 3～5mm(共に 2%)
 - 13 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性強、締まり中、地山③を主体として黒褐色シルトが少混じった層
 - 14 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、地山③・黒色ブロック 3mm(共に 1%)
 - 15 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、層上部にうすい砂の堆積有、黒色ブロック 1～5mm(5%)、地山③ブロック 1～5mm(1%) 混
 - 16 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性やや強、締まり中、黒色ブロック 1～10mm(10%)、地山③ブロック 1～5mm(5%)、黒色強め
 - 17 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性中、締まり強、黒色強め、鉄分沈着顕著
 - 17 黒褐色シルト (10YR3/1) 17 層より鉄分沈着少ない
 - 18 黒色シルト (2.5Y2/1) 粘性強、締まり中、地山③混、17 層が少量混
 - 19 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり強、地山③と黒褐色シルト混ざり合った層
 - 20 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性やや強、締まり中、層右側に地山③少量混
 - 21 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり中、白色砂粒全体に少量混、地山③ブロック 5mm(1% 未)
 - 22 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性中、締まり強、白色砂粒全体に少量混、炭化物 2mm 極少量 (1% 未)
 - 23 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③3～10mm(2%)、層下部に灰色粘土がブロック (1×5cm) で混
 - 24 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり強、炭粒 1mm(1% 未)
 - 25 褐色シルト (10YR4/4) 粘性弱、締まり強、地山③を主体として 26 層の灰黄褐色シルトが全体に混
 - 26 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、地山③全体に混、1mm 程の小さな黒粒が 2% 程混 (炭?)
 - 27 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、地山③の割合少、1mm の黒い粒 5% に増
 - 28 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり強、層中程～下部にかけて細砂・砂が混、上層には 1mm 黒粒少量混
 - 29 暗オリーブ褐色シルト (2.5Y3/3) 粘性やや弱、締まり強、細砂に近いシルト、地山③ブロック 3～10mm(10%) →基本は (28.29) 同一層
 - 30 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性強、締まりやや弱、粘土に近いシルト、層下部に地山③多く混
 - 31 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～10mm(3%)、その他にも地山③全体に混
 - 32 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まりやや弱、地山③全体に少量混、黒褐色ブロック 1～3mm(5%)、断面 1 の 9 層に似る
 - 33 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) →粘性やや強、締まり中、地山③を主体として地山①多く混
 - 34 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まりやや弱、粗砂・細砂混、植物痕跡か
 - 35 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強、締まりやや弱、地山③・白色細砂下層にラミナ状に混、炭粒 1～5mm(1% 未)、1mm 黒粒 (5%)、粘土混
 - 36 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性強、締まり弱、層下部に地山③ブロック 5～10mm(7%)、粘土混
 - 37 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性強、締まりやや弱、層中央下部に砂のうすい堆積有、粘土を少
 - 38 褐色シルト (10YR4/6) 粘性中、締まり強、黒褐色粗砂ブロック 4cm 大含 (39 又は 42 層)、基本は地山③
 - 39 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり強
 - 40 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まり弱、地山③ブロック 5～30mm(10%) 主に層上部、粘土・粗砂・小礫が混
 - 41 暗灰黄色細砂 (2.5Y4/2) 地山③ブロック 5～50mm(3%)、1mm 黒粒 (1%)
 - 42 黒褐色砂礫 (10YR3/1) 層中央に小礫・粗砂が多く入る、地山③ブロック 5～10mm(2%)
 - 43 褐色シルト (10YR4/6) 粘性中、締まり強、地山③を主体として所々に 2.5Y4/2 シルト・小礫が混
 - 44 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック 1～10mm(1%)
 - 45 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、45 層より黒色強、地山③ブロック 1～5mm(3%)
 - 46 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性強、締まりやや弱、一部地山③が混、黒色ブロック 1～5mm(2%)
 - 47 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性やや弱、締まり強、黒色ブロック 5～15mm(3%)、地山③が少し黒ずんだ土
 - 48 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性強、締まり中、黒色ブロック 5mm(1%)、47 層より黒ずんだ地山③
 - 49 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 暗灰黄色シルトブロック含、断面 1 の 20 層に対応か・・・SD18
 - 50 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) 下層に中粒砂層有、灰白色細砂、地山③粒並
- ※5～16 層：SD22、19～43 層：SD21、44～48 層：SD19
 ※17 層は浅い溝として調査したが、溝というよりは浅い凹み
 ※5、17 層 同一層
 ※19～23、28～31 若しくは 32 層が SD21(新)、それ以外は SD21(古) か
 ※40～42 層は、SD18、19、21 断面 1 以上の底部に見られる穴と同一。粗砂・小礫からこぼし大程の礫などが入っており、激しい水流の結果に生じたものと見受けられる。ちょうどその断面 1 あたりから SD22 は導水したと見られ、SD21(古) からの導水と推定される。
 ※SD18 は、にぶい黄褐色 (10YR4/3) と 3 層の溝と 49 層の別の時代の溝が重なっている可能性もある。若しくは、4 層の落込みが始まる辺りから始まる溝だったか。



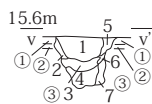
第90図 三日市A遺跡遺構図 9 (S= 1 / 60)



〔SD18・19・21 断面1〕

- 1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり中、1～3cm程の小礫少量混
 - 2 オリーブ褐色細砂 (2.5Y4/3) 非常に小粒にシルトに近い細砂、下層では少し粒が大きくなった細砂混、上層に1層が少混、中層中央には灰色細砂とのラミナを形成している箇所有
 - 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まりやや強、地山②と③が全体に混
 - 4 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性やや弱、締まり強、地山③に3層が少混ざった土
 - 5 灰黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まり中、地山②は混ざらず地山③が混、3層より少し明るい色調
 - 6 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まりやや弱、2層の細砂5～10mm(7%)
 - 7 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり強、2層の細砂6層寄りに多く混、下層には砂が混
 - 8 黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まりやや弱、3・5層と比べて少し赤黒く、地山②③の混ざりほぼ無
 - 9 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まりやや弱、層全体に地山③(2%)、黒色ブロック2～10mm(2%)点々と混
 - 10 暗灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性強、締まり弱、地山③ブロック10mm(1%)、灰色強め
 - 11 黄褐色シルト (10YR4/2) 粘性中、締まりやや弱、地山③ブロック20～50mm大ブロック(2%)
 - 12 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性やや弱、締まり強、黒褐色ブロック1～3mm(2%)、13層に地山③が少混ざった土
 - 13 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まり強、12層より黒み強い、極少地山③が混
 - 14 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性中、締まり強、黒色ブロック1～10mm(2%)、細砂に近いシルト
 - 15 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性やや弱、締まり強、黒色ブロック1～30mm(30%)
 - 16 黒褐色シルト (2.5Y3/1) 粘性やや弱、締まり中、褐灰色細砂とラミナ形成有
 - 17 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性中、締まり中、地山③ブロック10mm(1%未)
 - 18 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり中、下層に地山③ブロック5～10mm(7%)、黒褐色ブロック10mm(1%)
 - 19 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まりやや弱、18層より黒色強、黒色ブロック1～5mm(5%)、最下部に黒色の堆積有
 - 20 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性強、締まりやや弱、黒色シルト全体に混ざり、一部黒色シルト10cm程の大ブロック有
- ※1～3、5～8、10、11層…SD21(新)、12～17層…SD21(古)
 ※18、19層…SD19、20層…SD18、4・9層…SD22(又はSD21古かも)
 ※検出時、SD21(新)のラインがぼんやり見えたため、当初は(新)のみを掘ったが、北側の上がりをはっきり確認できなかったため、SD21(新)の掘削ラインとはばした

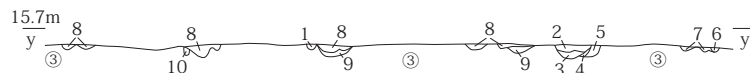
SD22 アゼ



〔SD22〕

- 1 褐色シルト (10YR 4/4) 細砂に近い、黒褐色シルトブロック多
- 2 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3)
- 3 灰黄褐色シルト (10YR 4/2) 地山③粒少
- 4 にぶい黄褐色シルト (10YR 4/3) 細砂多、黒色粒、地山③粒少
- 5 黒褐色細粒シルト (10YR 3/1) 粘土に近い
- 6 黒褐色シルト (10YR 2/2)
- 7 黒褐色シルト (10YR 3/2) 黒色粒、地山③粒極少

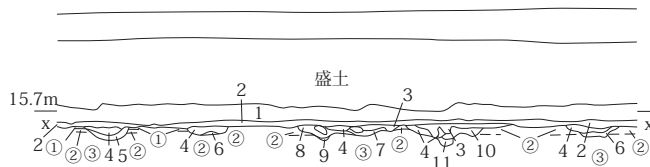
飲溝群土層断面①X72Y20



〔飲溝群 土層断面①〕

- 1 黒褐色シルト (10YR 2/2)
 - 2 黒褐色シルト (10YR 2/2) 地山③粒、灰白色シルト粒少
 - 3 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山③粒少
 - 4 にぶい黄褐色シルト (10YR 5/4) 地山③が汚れた層
 - 5 暗褐色シルト (10YR 3/3)
 - 6 黒褐色シルト (10YR 3/2) 7層に入ったブロックか
 - 7 暗褐色シルト (10YR 3/3) 地山③粒、灰白色シルト粒やや多
 - 8 黒褐色シルト (10YR 3/2) 地山③粒並入
 - 9 褐色シルト (10YR 4/4) 地山③に8層が少混ざった土
 - 10 暗褐色シルト (10YR 3/3) 木根か
- ※飲溝の覆土は大きくは2層の入る黒覆土と7、8層の入るやや明るめの覆土をもつものに分けられる。

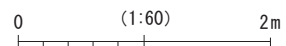
飲溝群北壁土層断面②



〔飲溝群北壁 土層断面②〕

- 1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性中、締まり中、耕作土
- 2 オリーブ褐色シルト (2.5Y4/3) 粘性中、締まり強、中世包含層
- 3 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性中、締まりやや強、地山③ブロック3～5mm(2%)、黒褐色ブロック1～3mm(3%)
- 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性中、締まり強、地山③ブロック1～5mm(3%)
- 5 褐色シルト (10YR4/4) 粘性中、締まり中、地山③に4層混
- 6 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり中、地山③ブロック1～3mm(1%)、地山③に黒褐色土が混ざった土
- 7 黒褐色シルト (10YR2/2) 粘性やや弱、締まり強、地山③ブロック1～10mm(3%)、3層の灰色シルト混
- 8 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり中、4～10cmの礫含、6層と似る
- 9 黒褐色シルト (2.5Y3/2) 粘性中、締まり8層より少し弱、8層より灰色が強い
- 10 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性中、締まり強、黒褐色シルトに3層が混土、地山③ブロック3～5mm(7%)、黒褐色ブロック1～5mm(5%)、炭化物少量入る
- 11 暗褐色シルト (10YR3/3) 粘性中、締まり中、10層と同程度の地山③黒褐色ブロック混、10層より黒色強め

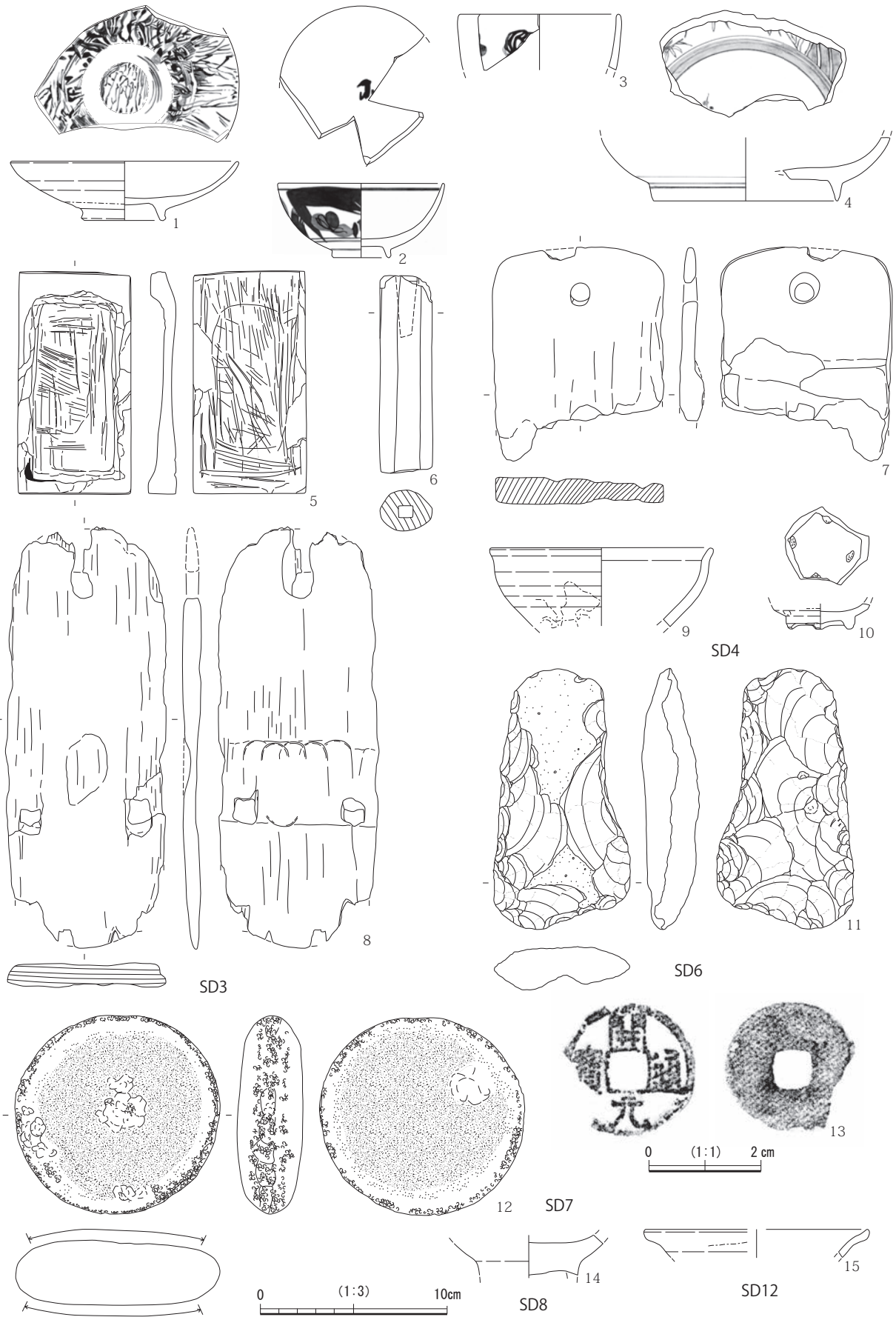
第91図 三日市A遺跡遺構図10(S=1/60)



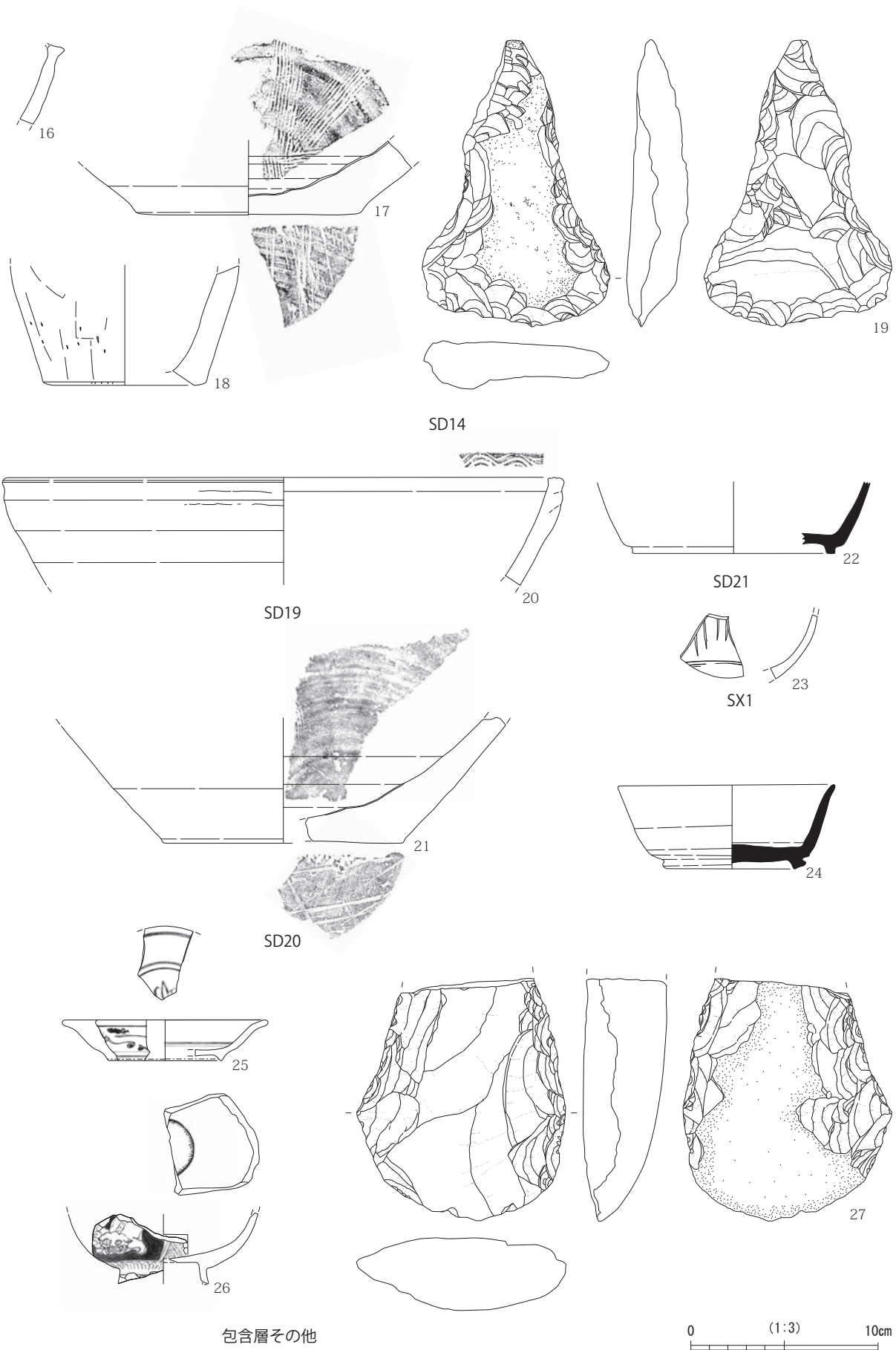
第13表 三日市A遺跡遺構法量表

遺構名	グリッド	形状	長軸長、長さ(cm)	短軸長、幅(cm)	最深(cm)	最浅(cm)	備考
P01	X72Y18・19	楕円形	40	32	(44)	—	
P02	X72Y18	不整形	46	30	(27)	—	
P03	X72Y19	不整円形	32	24	26	—	
P04	X72Y18	略円形	30	23	(32)	—	
P05	X73Y21	不整形	39	30	27	—	
P06	X73Y21	不整円形	54	42	34	—	
P07	X73Y21	不整円形	38	24	44	—	
SK01	X71・72Y12	不整形	122	89	36	30	SD 2 より新
SK02	X71Y17	不整楕円形	106	79	27	26	
SK03	X72Y17	不整形	104	86	39	2	
SK04	X71・72Y18	不整形	198	101	65	12	
SK05	X72・73Y21	不整形	86	60	29	10	
SD01	X71・72Y10~12	—	(981)	121~270	10	1	
SD02	X72Y10~12	—	(1352)	162~266	53	2	SK 1・SD 2 より古
SD03	X71・72Y11~14	—	(2418)	(22)~425	108	37	SD 4 より新
SD04	X71・72Y12~15	—	(2562)	194~824	18	1	
SD04(新)	X72Y12・13	—	(1198)	30~67	24	4	SD 7 より新
SD05	X72Y14~16	—	1745	111	59	6	
SD06	X71・72Y15	—	602	53~112	30	2	SD 7 より新
SD07	X71・72Y14~19	—	(4639)	121~150	50	17	SD15より新 SD 4・6・8より古
SD08	X71・72Y16	—	(759)	110~161	31	7	SD 7 より新
SD09	X71・72Y15	—	(954)	28~64	23	4	SD 4 より古
SD10	X71Y16・17	—	(235)	26~94	36	7	風倒木か
SD11	X72Y15・16	—	(720)	27~67	10	2	
SD13	X72Y16	—	(179)	29~52	12	7	
SD14	X72Y16~20	—	(3698)	150~292	61	32	SD16より新
SD15	X71Y17	—	(336)	46~483	8	4	SD 7 より古
SD16	X72・73Y18	—	(372)	39~89	23	19	SD14より古
SD17	X73Y21	—	(563)	20~29	6	2	
SD18	X72~74Y21	—	(1343)	103~225	9	1	
SD19	X73・74Y22	—	(1392)	28~82	7	3	
SD20	X73Y22・23	—	421	145~172	52	40	
SD21	X72~74Y21	—	(1334)	158~218	52	35	
SD22	X73・74Y21	—	(493)	41~62	(43)	(40)	
SX01	X71・72Y11・12	不整形	277	275	(5)	(2)	
SX02	X71Y15・16	不整形	(1326)	198	4	1	

()内の数値は調査区内で完結していないもの



第92図 三日市A遺跡遺物実測図1 (S=1/1、1/3)



第93図 三日市A遺跡遺物実測図2 (S=1/3)

第14表 三日市A遺跡 遺物観察表1

報告 No.	実測 No.	出土地/グリッド	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	色調(内)	色調(外)	調整(内)	調整(外)	胎土	焼成	釉調	備考
1	0027	SD 3 近代流路 (X72,Y12)	陶器	皿	120	42	32	にぶい褐	にぶい褐			砂粒極少、灰黄	良	透明、灰褐か	内外面施釉、内底部蛇ノ目釉はぎ、高台付近粘土付着、高台に砂付着、外底面露胎
2	0014	SD 3 近代流路 (X72,Y12)	磁器	碗(色絵)	88	30	40					灰色がかった白色	良	透明	内外面施釉、高台部露胎、気泡少、色絵(朱、黒、淡緑、青、黄)、胎前
3	0012	SD 3 近代流路下層	磁器	染付碗	84	-	35(30)	灰白	灰白			蒸地、灰白	良	透明	染付、施釉透明感有、内外面染付、肥前コンニャク印判、団輪
4	0011	SD 3 近代流路最下層	磁器	皿	-	100	95(42)					粗砂微量、ざっくりしている	良	染付、蛇ノ目凹型高台	
9	0016	SD 4 (X71,Y14)	陶器	天目茶碗	116	-	殊42	黒褐	黒褐				良	鉄釉	内外面施釉兼鉄釉透明感有、ムラ有、外胴部に錆び釉、古瀬戸
10	0015	SD 4 (X72,Y14)	磁器	角坏	-	34	(19)					灰白、粗砂少			内底部目跡 4ヶ所あり、高台 4足、内外面施釉、外底露胎、貫入あり、中国白磁
14	0026	SD 8	磁器	青磁碗	-	-	(22)								内外面施釉、釉(オリーブ褐、発色が悪い)、外底部蛇ノ目釉はぎ、内底部刻割が不明、貫入あり、外底部一部施釉と思われるが割れが
15	0024	SD12(X72,Y20)	陶器	皿	(119)	-	(15)		灰	ロクロナデ	ロクロナデ	粗砂少、灰黄	良	灰釉	珠洲焼
16	0023	SD14上層(X72,Y19)	陶器	片口鉢	-	-	(42)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	粗砂少	良		珠洲焼
17	0022	SD14(X72,Y17)	陶器	片口鉢	-	120	灰	灰	灰	ロクロナデ、オロシ目(5mm幅)10条	ロクロナデ	粗砂多、礫並、海綿骨針	良		珠洲焼
18	0021	SD14(X72,Y17)	陶器	小壺	-	87	64	灰黄	灰黄褐	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	粗砂並、礫並合	良		内面漆付着、越前焼
20	0020	SD19	陶器	片口鉢	294	-	(57)	灰	灰	ロクロナデ、波状紋	ロクロナデ	粗砂少	良		珠洲焼
21	0019	SD20(上層)	陶器	片口鉢	-	127	(67)	灰	灰	ロクロナデ、オロシ目	ロクロナデ、静止糸切り	粗砂並、礫、海綿骨針	良		珠洲焼
22	0025	SD21底面	須恵器	有台坏	-	108	(40)	灰	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	粗砂少	良		青磁(線描き連弁文)中国、釉(オリーブかかった透明、ガラス質、乳泡あり)、内外面施釉、貫入あり
23	0017	SX 1	陶器	碗	-	-	(34)	暗オリーブ灰	暗オリーブ灰			灰白、やや粗		青磁釉	
24	0018	表土ハネ	須恵器	有台坏	115	76	46	灰	灰	ロクロナデ	ロクロナデ	粗灰多			染付、中国青花
25	0010	壁立て東壁	磁器	皿	108	41	22					素地、灰白	良	透明	染付、施釉透明感有、高台部欠損あり
26	0013	SD19,21,22北壁断面1層(耕作土)	磁器	染付有台碗	-	-	殊(37)					堅緻、灰白	良		

第15表 三日市A遺跡 遺物観察表2

報告 No.	実測 No.	出土地/グリッド	種別	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
5	0004	SD 3 近代流路 (X72,Y12)	石製品	硯	119.5	60.5	15	178.18	外面上部割断痕、全体使用平滑、内面一部黒痕あり
6	0009	SD 3 近代流路下層	木製品	刀物の柄	106	28	22		
7	0008	SD 3 近代流路下層	木製品	下駄	(114.5)	92	14.5		所々に欠損箇所あり
8	0007	SD 3 近代流路下層	木製品	下駄	226	86	13		一部欠損箇所あり、底部加工痕
11	0003	SD 6	石製品	打製石斧	140	73	31	349.7	
12	0001	SD 7 (古)	石製品	磨石	106	110	35	597.54	
13	0006	SD 7 上面	銅、銅合金	銅銭	24	(23)	1	1.8	[開元通寶]
19	0002	SD14上層(X72,Y19)	石製品	打製石斧	153.5	100	30.5	383.69	
27	0005	東半部	石製品	打製石斧	130	112	43	734.13	

第16表 二日市イシバチ遺跡・三日市A遺跡 骨同定表

番号	遺跡	区名	遺構	種別	部位	種類	左右	場所	備考
①	二日市イシバチ遺跡	E1	SD10(第61区)	ウマ	下顎	白歯	右	P ₂ 、P ₃ 、P ₄ 、M ₁ 、M ₂ 、M ₃	6本全部揃って並んでいる。下顎骨に入ったままの状態でエナメル質の部分だけが残り下顎骨もなくなっていました。
②		E1	SD10その2	ウマ	上顎	白歯			元の位置関係ではなくずれて動いている。
③		E1	SD10その3(その2のすぐ北の下層)	ウマ	上顎	白歯	左		周囲にあったものもはらげてわかりにくいウマ上顎(左)の歯の可能性が高い。
④		E2・X82Y27	SD10(写真のみ)	ウマ	下顎	白歯	左	iP ₂ 、iP ₃ 、iM	iMは上部がかなり壊れている。
⑤	三日市A遺跡	東半部・X72Y16	SD7 上層	ウマ	上顎	切歯	左	iC	
⑥				ウマ	下顎	大白歯	右	M ₃	
⑦		西半部・X71,Y17	SD14中層粘土層						残存状態がよくないため分らない。大きさをみてウマカウシとみられる。 *①~④については同一遺構出土で、部位の重複がないため、同一個体の歯の可能性もある。 ※同定は山川史子氏による。

第5章 総括

本書で報告する二日市イシバチ遺跡、及び三日市A遺跡は野々市市北西部土地区画整理事業、北陸新幹線建設事業、二級河川安原川広域河川改修事業などに伴って広範囲の調査が行われてきた。既刊の報告書を元に遺跡の様相を概観し、本調査区の位置付けについて考察を進めたい。

[二日市イシバチ遺跡]

縄文時代

縄文時代の遺物はC区～E区で散発的に晩期の遺物が出土したが、遺構は確定できなかった。周辺調査区でも後期～晩期にかけての土器が少量出土しているものの、同様に遺構は未確認である。一帯が生活域であったと思われるが、居住域の様相は不明である。

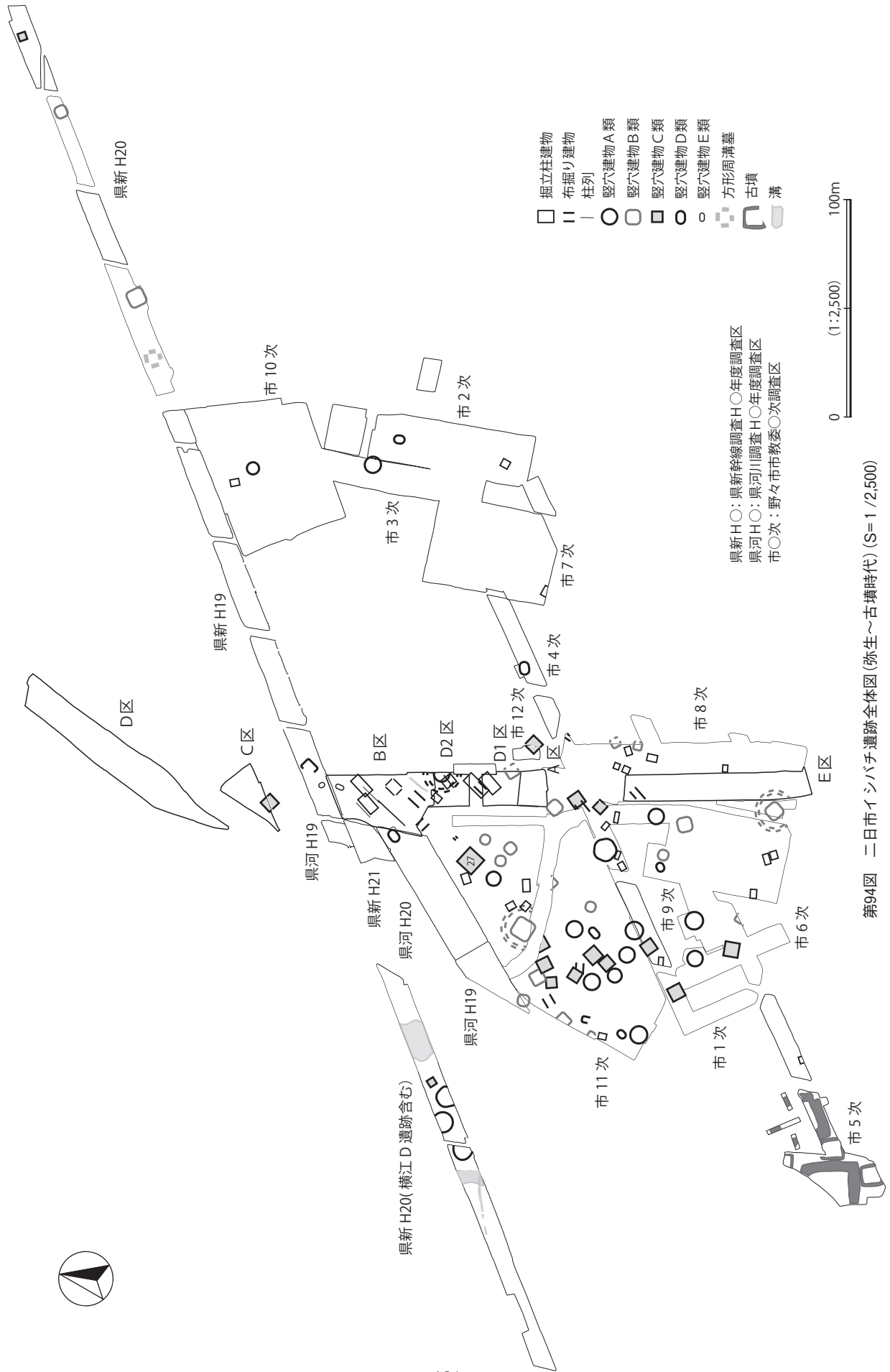
弥生時代後期～古墳時代前期

本遺跡で最も遺物の出土量が多い時代である。弥生時代後期後半は北部のC区で土坑が1基、D区では包含層から遺物が出土したのみであるのに対し、南部のB区からE区にかけては建物を確認した。周溝を持つ竪穴建物24・26BSI2、布掘り建物SB22がそれに当たる。また27ESK5～8もその時期の竪穴建物の周溝となる可能性がある。SB22は古墳時代前期の建物の方位軸に似るが、E区では古墳時代に降る遺構が確認されないことから柱穴出土遺物で時期を押さえておきたい。

終末期も似た様相を呈す。確実なのは24SI1が確認される程度であるが、小型の竪穴建物26BSK13なども弥生時代後期後半～終末期に帰属する遺構である。その他に土坑などが数基あるものの、調査区内ではこの時期さほど遺構密度は高くない。

古墳時代前期になるとA区～C区の範囲で遺物が出土すると共に、建物を確認した。26CSI1、竪穴建物の可能性のある24・26ASX1、B・D2区の布掘り建物SB1・2が帰属する。その他にSB1と重複して類似の軸を持つSB6と隣接する同規模のSB7、同じく軸が類似しSB6・7と同規模のSB9・10、独立棟持ち柱を持つSB5、隅柱のない特殊な構造のSB15、小型のSB4がこの時期に帰属する遺構と推定する。方位軸はN31～33°Eが多く、SB5がN42°Eと最も東への振れ幅が大きい。SB6・7、SB9・10はそれぞれ隣接して同規模の建物が存在することから建て替えとみる。また、SA1～4は全て主軸がN32°Eと掘立柱建物に近いことから、この時期に帰属する可能性がある。これらは遺構出土の遺物が少なく詳細時期は不確定ながら、覆土から判断して下層遺構の可能性が高く、B区土器溜まりや包含層出土遺物が古墳時代前期前半を主体とすることから、その頃の遺構と推定している。第3章で述べたように、SB6については中世の総柱建物との報告もあるが(田村2015b-SB23)、梁間の柱間寸法が5mと広すぎる上、柱穴も足りない。中世建物の方位軸は近接する区画溝に沿うことが多く、SB6と同軸の区画溝は確認できないことから中世に帰属する可能性は低いと考える。なお、A区の南に接する野々市市教委(以下、市教委)第8次調査区SI1は古墳時代前期後半の竪穴建物と報告されていることから(田村2012)、前期後半に降る建物も含まれている可能性もあろう。方位軸が他とややずれるSB5がそれに該当するかもしれない。

第94図に既刊の調査成果から弥生時代後期～古墳時代前期の建物及び埋葬施設を抽出して示した。竪穴建物は、平面形が多角形または円形で5本或いは6本主柱を持ち、屋内土坑が中心にあるもの(A類)、隅丸方形を呈し、4本主柱で屋内土坑が柱穴列の一辺あたりにあるもの(B類)、方形を呈し、4本主柱で屋内土坑が柱穴列より壁側にある、または壁際に設置されているもの(C類)、長方形を呈し、



第94図 二日市イシハチ遺跡全体図(弥生～古墳時代)(S=1/2,500)

2本主柱で屋内土坑が壁よりにあるもの(D類)、小型の長方形又は楕円形を呈し2本主柱で主柱穴が短辺壁溝内にあり、屋内土坑を持たないもの(E類)の大まかに5類型に分けられる。A・B類には周溝を有するものを含み、各類型の中にはやや細部の異なるものも含む。

各類型の竪穴建物、及び掘立柱建物の分布状況を見ると、A類はA区南西部の市教委第1・6・9・11次調査区から県新幹線H20調査区(横江D遺跡含む)にかけて濃密に分布するエリアがあると共に、それより北東部の市教委第3・10次調査区にも点在する。B類は市教委第8次調査区から第11次調査区にかけたエリアにほぼ収まる。C類はより狭い市教委第1・6・11・12次調査区にほぼまとまるが、C区や県新幹線H20調査区にも点在する。D類は市教委第11次調査区に比較的まとまるが他にも点在する。E類はB区と県河川H19調査区にのみ見られる。

弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴建物は、A→B→C類の順に変遷をたどることが知られ、A類が弥生時代後期後半、B類が弥生時代終末期、C類が古墳時代前期に大まかに当てられる。過渡期となる弥生時代終末期は市教委調査区でA類もC類も報告されているが、C類についてはおそらく古い混入遺物を時期比定に用いているのではないと思われる。D類は弥生時代後期～終末期と報告されており、同時期のA・B類に近接して築かれているものが多いことから独立した建物ではなく付属的な位置付けであろう。E類も同時期であるが、調査区の制約もあるのか主屋となる竪穴建物は近辺には見られない。

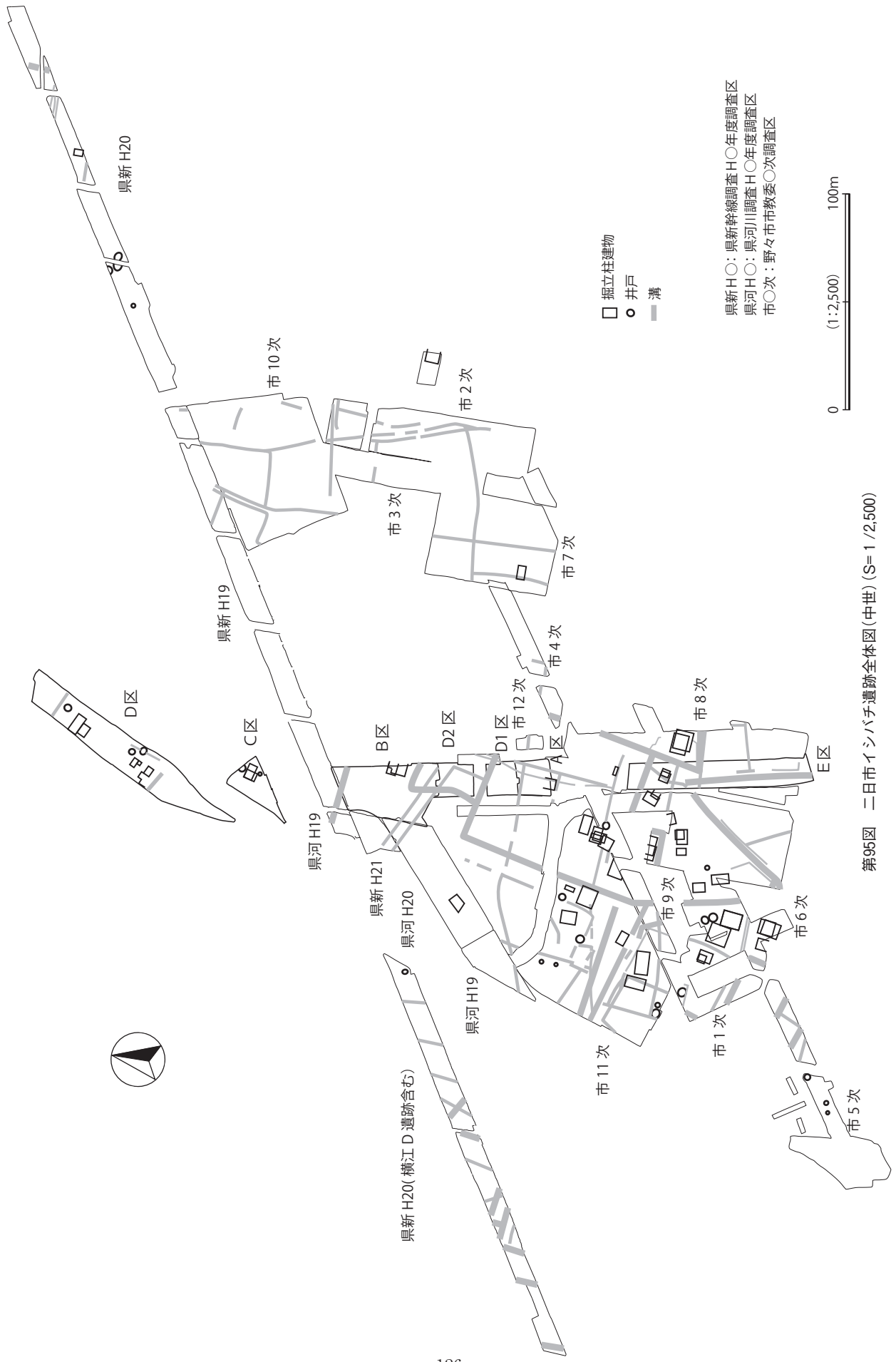
布掘り建物はB区南部からE区北部と市教委第8・11次調査区にまとまりを見せる。9棟が確認でき、出土遺物や重複関係からみると弥生時代後期後半及び終末期、古墳時代前期の各時期があり、同時に存在するのは1、2棟であろう。時期が判明するものについては竪穴建物が密集するエリアで弥生時代後期後半～終末期の、北西部の中・大型掘立柱建物エリアで古墳時代前期前半のものが確認されていることから、時期不明のものについてもエリアで帰属が分かれるかもしれない。1間×2間の小型掘立柱建物は県新幹線調査区以南には広範囲で点在するのに対し、以北には分布しない。この小型建物は他の建物と重複しない。桁行が3間以上の掘立柱建物はB区からD1区の狭い範囲に集中する。

古墳時代前期には遺跡南西部の市教委第5次調査区に墳丘部で15.5m～18.5mの方墳2基、8m前後の方墳3基が築造されている。鞍部を挟んでその北東側にC類を中心とした竪穴建物が集中し、更にその北東部に大型掘立柱建物、特殊な掘立柱建物が立ち並ぶ様相が復元される。C類の竪穴建物は一辺5～6.5mの小・中型が殆どであるが、掘立柱建物エリアに近い位置に存在する市教委第11次SI27が一辺9.2mと群を抜いて大きく、主軸がN33°Eと中・大型の掘立柱建物群に類似することから、B～D1区を含むこのエリアに、方墳を造営した集落の中核を担う居住者の存在が想定されよう。

中世

調査区によって粗密はあるが、ほぼ全域で遺構を確認した。最も北側のD区は約半町の区画溝に囲まれた内部に掘立柱建物や井戸、竪穴状遺構を検出した。掘立柱建物は他にB・C・E区でも検出したが、そのうち井戸はC区のみ、竪穴状遺構はE区のみで検出したに留まる。溝は各調査区で多く検出した。D区で検出した掘立柱建物の多くが屋内に竪穴状遺構を設置する。この様相は市教委調査区にも共通する点であり、概ね建物の東、或いは南東部に配置されている。建物内で作業場として使用された土間などが想定される遺構であるが、26DSK9のように排水溝が屋外に延びているものが市教委調査区でも2基確認されており、それらは何か共通した利用法があったとみられる。

時期は13世紀後半から14世紀前半頃が中心である。また、明確な遺構は抽出できないが、12世紀前後の遺物が出土していることから、その頃に集落形成の始期を求めることができよう。手取川扇状地の再開発が始まった時期に合致する。



第95図 二日市イシバチ遺跡全体図(中世)(S=1/2,500)

第95図には既刊の調査成果から当該期に帰属する掘立柱建物、井戸、溝を抽出して示した。大小の溝が無数に走り、溝の方位に沿う掘立柱建物が確認される。掘立柱建物が多く検出されたのは、古墳時代以前の竪穴建物が密集するエリアにほぼ重複する。この箇所が微高地で居住に適していたためであろう。明瞭な区画割りは提示し得ないが、遺構のまとまりから各区画は主屋1棟に付属屋1、2棟、井戸1基程度の規模が窺われる。24SD1や27ESD1などで構成される約70m四方以上の大きな区画がみられるものの内部の建物は少ない。東方の市教委第2・3・7・10次調査区には殆ど建物が確認されず、耕作域の可能性が高い。溝にはいくつか異なる方位軸があることから、広範囲を規制する屋敷割の指標が存在しなかったか、再編が複数回行われたものとみられる。本遺跡から北東約400mの位置に所在する長池キタノハシ遺跡が、14世紀後半の集落形成当初から計画的な宅地割りによって溝や建物を整然と整備しているのとは対照的である。

集落の時期は、市教委調査区でも13～14世紀が中心との報告があるが、県新幹線H20調査区(第95図北東部)では14～15世紀中心で、近世の集落も検出していること、市教委第2次調査区の南東部に当たる三日市A遺跡市教委第12・20次調査区(二日市町地内)で14世紀後半～15世紀の居住域が確認されていることから、14世紀後半以降に現在の二日市町集落と重なるエリアに集落が東遷したことが窺える。市教委三日市A遺跡の調査では建物や井戸が密集して検出されたエリアがあることから、14世紀前半までは散居村的景観だった集落が、14世紀後半以降に集落を再編して集村化していく様子が見て取れる。市教委三日市A遺跡では現在の二日市町集落付近でも同様の遺構集中エリアが確認されており⁽¹⁾、散在していた居住域が14世紀後半以降に、区画整理前の現代の景観に近い集落様相になっていったことが推測される。

三日市A遺跡を始めとして、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡など周辺には存続時期はやや異なるものの中世集落が調査されており、それら遺跡の建物規模や出土遺物の質・量に比して本遺跡は貧弱である。大型の掘立柱建物が見られない点、出土遺物が供膳具と調理具を主体とし、嗜好用具・宗教用具が殆ど出土しない点などから、小百姓クラスの住人を想定しておきたい。

[三日市A遺跡]

本遺跡は既調査成果によると弥生時代後期後半の集落と墓域、古代の北陸道とそれに軸を揃えた掘立柱建物群、畝溝群、中世の集落と墓域などが検出されている。本調査区を含めて県調査では出土遺物が僅少で、古代とみられる溝の一部や畝溝群、中世溝などを確認した程度であり、各期において居住域から外れている。平成18年度県調査区中世溝SD05は二日市イシバチ遺跡27ESD10に繋がること想定され、異なる遺跡名称が付されているものの、平成18年度調査区の地籍が二日市町であることからわかるように、時代によっては一体的な集落であったことが窺われる。

本調査区ではSD7・14が併走して東西に調査区を貫く。それぞれ延長約46m、37mを測り、SD7が東部でやや湾曲するものの概ね主軸はN84° Eを示す。SD7は3度、SD14は2度の造り替えが観察され、SD7最古段階ではピットが等間隔で並ぶいわゆる波板状凹凸遺構が確認された。覆土が他に比して締まっており、細いながら通路として使用されていた可能性がある。その後、規模のより大きい溝に掘り直され、SD14と合わせて両側側溝をもつ道路として整備されたと推定する。造り替えは、法量が両溝とも大→中→小の順で共通していることから同時期に行われたものであろう。造り替えによって、路面幅はやや大きくなっている。路面と想定する箇所は後世の攪乱により遺構面が残っておらず、道路と裏付ける硬化面などは確認できなかった。

隣接する市教委の調査区でも溝の延長が断片的に検出されており、更に東西の延長方向には市教委



泉新H0: 泉新幹線調査H0年度調査区
 泉河H0: 泉河川調査H0年度調査区

泉新 H22 (横江 D 遺跡・郷クボタ遺跡)

各遺跡の道路状遺構法量

遺跡名	遺構	幅(m)	深さ(m)	芯々間(m)	主軸	時代	備考
三門市 A 遺跡 (県調査)	SD14(古)	1.5~2.9	0.32~0.61	5.0~5.5	N84° E	13~15世紀か	古代の歌溝より新
	SD7(古)	1.2~1.5	0.17~0.5				
	SD14(最新)	0.55~0.8	0.15~0.25				
	SD7(最新)	0.65~0.9	0.15~0.2				
三門市 A 遺跡 (市教委31次)	SD40	0.8~	0.5~0.9	—	ほぼ真東	15世紀	15世紀以降の溝より古 北御溝の一部か
三門市ヒガシタンボ遺跡 (市教委)	SD26	0.7~1.0	0.2~0.6	5.0~6.5	N80° E	古代	真跡で湾曲
	SD25	1.3~1.5	—	—	N81° E	14世紀代か	同じ遺の測溝が不明。9世 紀中華の建物より新
郷クボタ遺跡	SD1	1.1~1.6	0.25~0.55	3.0	N80° E	12~14世紀	SD79・76の方が古いと推定。 SD76・77がセットならならぬ間は 4m、主軸はN82° E
	SD79	0.3~0.5	0.12	7.0	N83.5° E		
横江 D 遺跡・郷クボタ遺跡	SD76	1.4~2.0	0.48	—			
	SD78	0.2~0.3	0.12	2.5	N81° E		
	SD77	1.8	0.52	—			

上段が北側の溝

第96図 三門市 A 遺跡全体図 (S=1 / 1,000・S=1 / 3,000)

調査の三日市ヒガシタンボ遺跡、郷クボタ遺跡で検出された両側側溝を持つ道路遺構が存在する。この2遺跡の道路遺構は延長上にあるとされる(吉岡2012)。郷クボタ遺跡の西側隣接部を県新幹線調査で横江D遺跡・郷クボタ遺跡として調査しており、その延長とみられる溝を検出していることから座標を合わせて合成したのが第96図下である⁽²⁾。やや主軸が異なるためSD7・14の主軸に合わせて真っ直ぐ伸ばした実線からはずれるが、両遺跡の遺構を破線のように真っ直ぐ結んでも違和感はない。各調査地は間が空いているため三日市ヒガシタンボ遺跡から横江D遺跡・郷クボタ遺跡まで繋がっていると断定できないが、三日市ヒガシタンボ遺跡SD25・26や本遺跡SD7東部がやや湾曲しているように、一直線に、というよりもやや揺らぎを持って繋がっている可能性はあろう。ただし、これらの溝は併走することで共通するものの、各遺跡によって溝幅や深さ、芯々間の距離が異なることから同一の道路遺構と断定するには更なる考証が必要である。

また、時期比定にもずれがあり、その点も検討の余地がある。三日市ヒガシタンボ遺跡が古代と報告されていることを除けば中世前半頃で共通し、15世紀以降に埋まったと判断される。なお、三日市ヒガシタンボ遺跡の報告書を見る限り、古代とする根拠に欠けており、鞍部寄りの箇所では中世遺物が出土したとの記述があることから(横山2011)、他と同じ中世以降の可能性も残っている。平成18年県調査区SD01、本調査区SD20は南側に隣接する市教委調査区でも続きが検出されており、そこでは本調査区SD14の延長とみられる溝に連結する。調査では平面的な切り合いが確認されておらず⁽³⁾、その所見に間違いなければ同時期に開口していた溝と理解できる。SD20の底部付近から12世紀後葉～13世紀前半頃の珠洲焼片口鉢が出土していることから、13世紀以降に機能していたとみられる。このことからすると、道路側溝も13世紀代に開削されていた可能性が高い。

両側側溝の芯々距離は各遺跡にばらつきがあるが、溝の組み合わせ次第であり、調査区の制約による結果でもある。溝の南北を広く調査した本調査区や三日市ヒガシタンボ遺跡で4.8～6.5m、路面幅は3.5～6mと幅を持った状況である。これらの溝が三日市ヒガシタンボ遺跡から横江D遺跡・郷クボタ遺跡まで繋がっていたとすると直線で約1.1kmを測る。集落間をつなぐ道であり、その間に広がる耕地にもつながる道である。それだけの距離をほぼ直線的に繋がっていたとすれば当時の幹線道であった可能性が高い。三日市A遺跡の市教委調査では、二日市町地内の調査区で13～14世紀を中心とした中世集落を確認し、道路側溝の可能性のある南北溝に沿って掘立柱建物が建ち並ぶ遺構の配置などから市庭的な集落と想定されている(田村2016)。市庭とすれば物資の流通に便利な交通至便箇所であったことが推認されるため、幹線道が至近に存在したとすれば理に適う。13世紀代に既存の道路を造り替えるなどして流通のための交通網を整備し、集住が始まる14世紀後半以降に道路の廃絶とともに市庭が廃止され、道路側溝も15世紀代には埋まっていったのではないだろうか。

記録に残る幹線道で遺跡の近くを通るのは、『為広卿越後下向日記』に記された延徳3(1491)年の白山市徳丸、中奥、野々市市稲荷を経て野々市中心部へ向かう道である(石川県教育委員会1994)。内陸部の北陸道とされるその経路は、本遺跡から約1.5km南寄りであり、検出された道路とは一致しない。ただし、15世紀末という年代は、道路遺構の廃絶後の記録であり、それ以前の内陸を通る北陸道の経路は不明である⁽⁴⁾。

本調査区のSD7・14の間に存在したはずの路面は、前述のように区画整理前の旧用水によって攪乱を受けているため遺存しない。この用水は周辺を流れる手取川七ヶ用水の郷用水系に繋がるもので、明治42(1909)年の地図でも確認でき、区画整理前まで野々市市二日市町と三日市町との地境であった。同じく、道の延長部分にあたる横江D遺跡・郷クボタ遺跡、郷クボタ遺跡で確認された溝は白山市横江町と野々市市郷町との地境にほぼ一致する。単なる偶然かもしれないが、示唆的な事実である。道

路も水路も往々にして境界線となる構造物であり、中世から境界として認識されていた箇所が踏襲されていたとも想定しうる。二日市イシバチ遺跡、三日市A遺跡で確認された中世前半の集落は14世紀後半以降に現在の二日市町、三日市町の集落近辺に集住が進むことが調査成果から判明しており、現代の景観形成の萌芽は中世後半に求めることができる。このことからすれば、現在の地境のアウトラインが中世まで遡るとしても不思議はないだろう。

[註]

- (1) 田村昌宏氏にご教示いただいた。
- (2) 横江D遺跡・郷クボタ遺跡は震災前、H27年度調査は震災後の調査であるため厳密には座標を補正して合成すべきであるが、県内での水平方向の最大のずれは0.58mであることから(国土地理院発表数値)3千分の1図では問題ないずれと判断する。
- (3) 註1に同じ
- (4) 近年小松市大領遺跡で確認された、幅40～80cm、深さ25～40cmの溝を両側に有する中世道路は路面幅が約7m、溝芯々距離7.5mを測り、その規模等から中世北陸道の可能性が指摘されている(安中2019)。中世北陸道は県内での調査事例がなく規模等が不明のため、その妥当性は判断しかねるが、大領遺跡の道路遺構に比して、三日市A遺跡周辺で確認された道路遺構の路面幅は小さい。

[引用・参考文献]

- 石川県教育委員会 1994 『歴史の道調査報告書 第1集 北陸道(北国街道)』
- 白田義彦^{ほか} 2012 『野々市市 二日市イシバチ遺跡』 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 田村昌宏 2011 『三日市A遺跡1』 野々市町教育委員会
- 田村昌宏 2012 『二日市イシバチ遺跡2』 野々市市教育委員会
- 田村昌宏 2013a 『二日市イシバチ遺跡3』 野々市市教育委員会
- 田村昌宏 2013b 『三日市A遺跡6』 野々市市教育委員会
- 田村昌宏 2015a 『二日市イシバチ遺跡4』 野々市市教育委員会
- 田村昌宏 2015b 『二日市イシバチ遺跡5』 野々市市教育委員会
- 田村昌宏 2016 『三日市A遺跡8』 野々市市教育委員会
- 徳野裕子 2011 『二日市イシバチ遺跡』 野々市町教育委員会
- 浜崎悟司 2016 『金沢市 二ツ寺遺跡』 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター
- 安中哲徳^{ほか} 2014 『白山市・野々市市 横江D遺跡・二日市イシバチ遺跡 横江D遺跡・郷クボタ遺跡』 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター
- 安中哲徳 2019 「能登・加賀の古代道路遺構」第7回石川考古学研究会・富山考古学会合同例会発表資料
- 横山貴広 2011 『三日市ヒガシタンボ遺跡』 野々市町教育委員会
- 横山貴弘 2006 「第1章第4節3 古代の道路とその背景」『野々市町史 通史編』 石川県野々市町
- 吉岡康暢 2012 総括「加茂遺跡をめぐる諸問題」『加茂遺跡 詳細分布調査(第1～21調査区)発掘調査報告書』 津幡町教育委員会
- 米澤義光 2012 『野々市市 二日市イシバチ遺跡』 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター



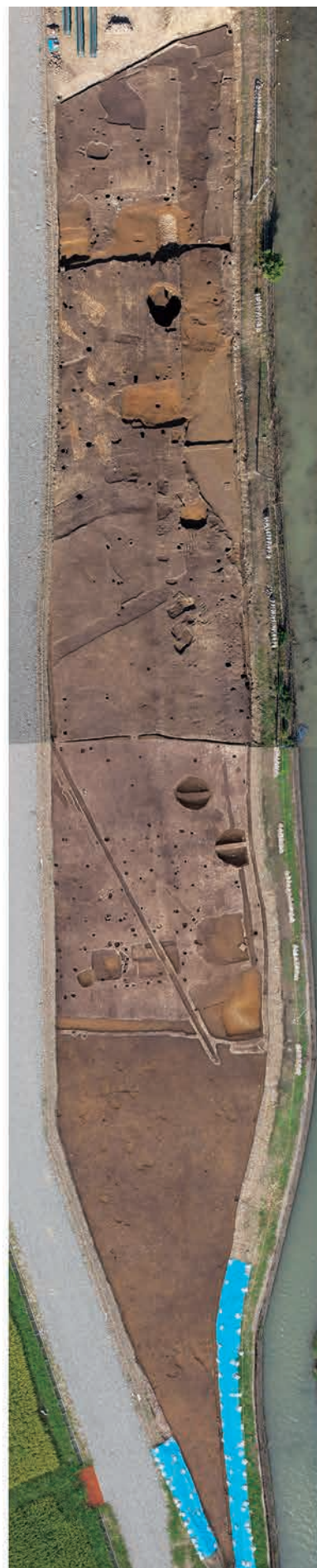
遺跡遠景(H26年度 南から)



遺跡遠景(H27年度 北から)



遺跡俯瞰(H24、H26A・B区)



遺跡俯瞰(H26D区)



着手前(南西から)



D1区遺構検出状況(南から)



遺構掘削作業(東から)



S11完掘状況(南西から)



S12完掘状況(西から)



SB4検出状況(南西から)



SB4完掘状況(南西から)



SB6完掘状況(南西から)

図版 4 (二日市イシバチ遺跡 H24年度遺構 2)



SK1完掘状況(東から)



SK2完掘状況(東から)



SK3完掘状況(東から)



SX1完掘状況(北から)



SD1完掘状況(東から)



SD2完掘状況(南から)



SD3完掘状況(東から)



SD11完掘状況(西から)



A区俯瞰



B区南完掘状況(東から)

図版6 (二日市イシバチ遺跡 H26年度A区遺構)



着手前(東から)



遺構検出状況(南から)



SK1完掘状況(東から)



SK2完掘状況(北東から)



SK3完掘状況(南東から)



SX1完掘状況(南西から)



SD3完掘状況(南から)



SD2完掘状況(北から)



着手前(南東から)



遺構検出作業(南東から)



遺構検出状況(南から)



SI2周溝(SD13)完掘状況(南西から)



SB2完掘状況1(南西から)



SB2完掘状況2(南西から)



SB12完掘状況(南から)



SB12・13完掘状況(北から)



SK1完掘状況(北から)



SK3完掘状況(北東から)



SK8完掘状況(南西から)



SK9完掘状況(西から)



SK10完掘状況(北西から)



SK11完掘状況(東から)



SK13・SD10土層断面(西から)



SK13完掘状況(南から)



SK12完掘状況(西から)



SD2・11完掘状況(北西から)



SD5完掘状況(北西から)



SD5完掘状況(北から)



SD12北壁土層断面(南東から)



土器溜まり掘削作業(南西から)



土器溜まり実測作業(南から)



土器溜まり遺物出土状況(北から)

図版10(二日市イシバチ遺跡 H26年度C区遺構)



着手前(東から)



表土掘削作業(南西から)



遺構検出状況(北東から)



SI1完掘状況(北東から)



SI1床面掘り下げ作業(北東から)



SK2土層断面(北東から)



空中写真測量作業(北から)



完掘状況(北から)



北半完掘状況(西から)



南半完掘状況(俯瞰)



着手前(南から)



遺構検出状況(南から)



SK1・3完掘状況(北西から)



SK2完掘状況(西から)



SK4完掘状況(北から)



SK5・6完掘状況(西から)



SK7完掘状況(南から)



SK9完掘状況(北から)



SK10完掘状況(東から)



SK13完掘状況(東から)



SK14完掘状況(北西から)



SD2完掘状況(北から)



SD8中央部完掘状況(北東から)



SD8完掘状況(北西から)



南半下層完掘状況(北から)



北半下層トレンチ完掘状況(北東から)

図版14(二日市イシバチ遺跡 H27年度遺構1)



北半俯瞰



南半完掘状況(北から)



着手前(南から)



北半遺構検出状況(北東から)



南半遺構検出状況(南から)



SB22掘削作業(南西から)



SB22完掘状況(北東から)



SB22柱穴(SD9-P2)完掘状況(北東から)



SB22柱穴(SD9-P3)完掘状況(北東から)



SK1完掘状況(北から)



SK2完掘状況(南から)



SK4完掘状況(北から)



SK8完掘状況(北から)



SD1完掘状況(西から)



SD3完掘状況(南西から)



SD7完掘状況(南から)



SD7完掘状況(北から)



SD8完掘状況(東から)



SD8完掘状況(西から)



SD10遺物出土状況



SD10底部工具痕検出状況(南から)



SD10底部工具痕完掘状況(南から)



SD10完掘状況(南から)



SD10完掘状況(北から)



SD11下層礫出土状況(東から)



SD21完掘状況(南から)

図版18(二日市イシバチ遺跡 遺物1)





図版20(二日市イシバチ遺跡 遺物3)





図版22(二日市イシバチ遺跡 遺物 5)





調査区俯瞰



着手前(北西から)



表土除去状況(北西から)



東半部遺構検出状況(東から)



西半部遺構検出状況(東から)



遺跡遠景(東から)



SK1完掘状況(南から)



SK2完掘状況(北から)



SK5完掘状況(東から)



SD3完掘状況(南から)



SD6完掘状況(南から)



SD7新完掘状況(西から)



SD7完掘状況(東から)



SD7古完掘状況(西から)



SD14完掘状況(東から)



SD21土層断面(南から)



SD19・21・22完掘状況(北から)



畝溝群完掘状況(北から)

図版26(三日市A遺跡 遺物)



報告書抄録

ふりがな	はくさんし・ののいちし ふつかいちいしばちいせき2 みっかいちAいせき2							
書名	白山市・野々市市 二日市イシバチ遺跡2 三日市A遺跡2							
副書名	二級河川安原川 広域河川改修事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	北川晴夫、水田勝、岩瀬由美							
編集機関	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2020年3月19日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふつかいち 二日市イシバチ 遺跡	いしかわけん ののいちし ののいちし ふつかいち まにちし まにちし まにちし まにちし まにちし まにちし	17344 17210	935300	36度 32分 20秒	136度 35分 38秒	20121101～ 20121214	620㎡	記録保存 調査
						20140423～ 20141118	3,620㎡	
						20150421～ 20151109	1,270㎡	
みっかいち 三日市A遺跡	いしかわけん ののいちし ののいちし ふつかいち まにちし まにちし まにちし	17210	935370	36度 32分 13秒	136度 35分 43秒	20150421～ 20151109	1,800㎡	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
ふつかいち 二日市イシバチ 遺跡	集落跡	弥生時代後期後半 ～古墳時代前期	竪穴建物、掘立柱 建物、土坑	弥生土器、土師器				
		鎌倉～室町時代	掘立柱建物、井戸、 土坑、溝	中世土師器、 陶器、石製品				
みっかいち 三日市A遺跡	集落跡	鎌倉～江戸時代	溝、道路状遺構	中世土師器、陶磁器、 木製品				
要約	(二日市イシバチ遺跡) 部分的に2面の遺構面を確認し、下層では弥生時代後期後半～古墳時代前期前半を中心とした竪穴建物や掘立柱建物などを検出した。掘立柱建物は平成24年度調査区と平成26年度調査B区に集中する。上層では鎌倉～室町時代の遺構を確認し、掘立柱建物、井戸、竪穴状遺構、それらを囲う区画溝などを確認した。溝の底部には掘削時の工具痕を留めるものがあった。							
	(三日市A遺跡) 検出した遺構は溝を中心とし、建物や井戸は確認されなかったことから、居住域の縁辺部とみられる。調査区を東西に貫く並行する2条の溝は、両側側溝を持つ道路と推定された。埋没時期は14世紀以降である。							

白山市・野々市市
二日市イシバチ遺跡 2
三日市 A 遺跡 2

発行日 令和 2 (2020) 年 3 月 19 日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地
電話 076-225-1842(文化財課)

公益財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町 18 番地 1
電話 076-229-4477

E-mail daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社 橋本確文堂